

# 西原大塚遺跡第 174 ①地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 3

埼玉県志木市教育委員会





遺跡全景（南東より）



調査区全景



# はじめに

志木市教育委員会  
教育長 尾崎 健市

ここに刊行する『西原大塚遺跡第174 ①地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、平成23年度に受託事業として、教育委員会が発掘調査を実施した成果をまとめたものです。

西原大塚遺跡については、今までの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時代にわたる複合遺跡であることが判明しています。

特に、縄文時代中期の住居跡が180軒以上、また弥生時代後期から古墳時代の住居跡が590軒以上も見つかっており、それぞれの時代の拠点集落であったことがわかっています。

さて、今回報告する第174 ①地点の調査内容ですが、縄文時代中期の住居跡10軒、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡4軒などが見つかりました。

特に、縄文時代の第174号住居跡は、その構造もさることながら、遺物出土状態や土層堆積状況と相俟って、住居の建替や拡張など、当時の人々の具体的な活動を知るための良好な資料を呈示しています。また、今回の調査範囲は縄文時代に営まれた集落の居住域と墓域の境目に位置していたことが判明し、当時のムラの様子を知る上で重要な手掛かりを得ることができました。

このような貴重な成果が得られ、志木市の歴史にまた新たな1ページを追加することができました。今後もこうした新発見が、郷土の歴史研究に、ひいては幅広い学術研究に役立てられることを切に願うものです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた土木工事主体者並びに土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げます。

# 例 言

1. 本書は、平成23年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する西原大塚遺跡第174①地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宅地造成工事に伴う記録保存のための発掘調査として、工事主体者である個人から委託を受け、志木市教育委員会が調査主体者として実施した。
3. 発掘作業・整理事業・報告書刊行作業について、有限会社アルケリーサーチ（取締役 藤波 啓容）に支援業務を委託した。
4. 本書の作成にあたり、尾形則敏・徳留彰紀が監修し、編集は藤波啓容・中村真理・松木綾子（有限会社アルケリーサーチ）が行った。執筆は下記のとおりに行った。

尾形則敏 第1章第1節

徳留彰紀 第1章第2節、第2章第1節、第4章第1節

松原賢治・伊庭彰一 第2章第2節

松木綾子 第3章、第4章第2節

5. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。

## 6. 調査組織

調査主体者	志木市教育委員会
教 育 長	白砂正明（平成20年4月～平成24年6月） 尾崎健市（平成24年7月～）
教育政策部長	丸山秀幸（平成24年4月～平成24年6月）
教育政策部次長	丸山秀幸（平成23年4月～平成24年3月） 菊原龍治（平成24年6月～）
生涯学習課長	土岐隆一（平成21年4月～平成24年3月） 谷口 敬（平成24年4月～）
生涯学習課副課長	松井俊之（平成24年4月～）
生涯学習課主幹	松井俊之（平成23年1月～平成24年3月）
生涯学習課主査	尾形則敏（平成21年4月～） 武井香代子（平成24年4月～）
生涯学習課主任	松永真知子（平成18年4月～） 武井香代子（平成22年4月～平成24年3月）
生涯学習課主事	徳留彰紀（平成22年4月～）
生涯学習課主事補	大久保聡（平成24年4月～）
志木市文化財保護審議会	神山健吉・井上國夫・高橋長次・高橋 豊・ 内田正子・深瀬 克・上野守嘉

## 7. 発掘作業及び整理事業・報告書刊行作業参加者

### ○発掘作業

調査担当者 尾形則敏・徳留彰紀

調査員 藤波啓容・伊庭彰一・松原賢治

作 業 員 本山直子・松本雄三・中島良太・本山真一・須賀きみ子・細田昭彦・中山弘人・野村雅美・結城 真・宮本和野・清水広幸・藤代聖一・富沢 由・内木小夜子・松澤 匡・万場 博・高森裕一・岩下啓祐・柏原康晴・酒井真之

○整理作業・報告書刊行作業

監 修 尾形則敏・徳留彰紀

編 集 藤波啓容・中村真理・松木綾子

作 業 員 岩澤朋子・大賀秀実・加藤夏姫・小林佐恵子・田中 歩・田村久美子・中村いわね・中村智美・沼田厚子・長谷川大輔・本望礼子・松本和延・三上加奈子

8. 発掘作業及び整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立埋蔵文化財センター・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

赤塚次郎・五十嵐睦・石川日出志・今福利恵・江原 順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・齊藤 純・齋藤欣延・佐野 隆・斯波 治・渋谷寛子・鈴木 一郎・照林敏郎・時枝 努・野沢 均・橋本真紀夫・早坂廣人・堀 善之・前田秀則・松本富雄・柳井章宏・山本典幸・山本 龍・和田晋治・綿田弘実・渡辺邦仁

9. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種通知については下記のとおりである。

○埋蔵文化財発掘調査の通知について／平成23年9月30日付 教生学第325号

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）／平成23年11月8日付け 教生文第5－810号

○埋蔵物の文化財認定について／平成24年2月27日付け 教生文第7－290号

## 凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第2図 1：2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成15年8月発行株式会社ゼンリン

2. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

3. 遺構挿図版中の水系レベルは、海抜標高を示す。

4. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。遺物番号に不連続部分があるが、添付ディスク内のデータベースにのみ掲載している遺物に割り振られている。

5. 遺構の略記号は、以下のとおりである。

J＝縄文時代住居跡 Y＝弥生時代後期末葉～古墳時代前期の住居跡 D＝土坑 P＝ピット

6. 本文中の記述「打製石斧系」や「剥片石器系」といった記載は、大まかな石材を表している。これによって「剥片」などの器種がどの種類の石器生産に関わるものであるかを区別する役割をもたせている。これらの細かな石材に関しては表「出土石器一覧」を参照されたい。

# 目 次

はじめに	
例 言	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
表 目 次	
第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
(1) 地理的環境と遺跡分布	1
(2) 歴史的環境	3
第2節 遺跡の概要	8
第2章 発掘調査の概要	12
第1節 調査に至る経緯	12
第2節 調査の方法と経過	13
第3章 検出された遺構と遺物	16
第1節 縄文時代	16
(1) 概 要	17
(2) 住居跡	17
(3) 土 坑	118
(4) 炉 跡	141
(5) ビット	143
第2節 弥生時代後期から古墳時代前期	184
(1) 概 要	184
(2) 住居跡	185
第3節 遺構外出土遺物	204
(1) 縄文時代遺物	204
(2) 弥生時代後期から古墳時代前期遺物	204
(3) 時期不明遺物	204
第4章 調査のまとめ	213
第1節 縄文時代中期の住居跡について	213
第2節 174号住居跡の遺物出土状態について	215
参考文献	217
付編 西原大塚遺跡 174 ①地点 174号住居跡出土骨の同定	221
報告書抄録	



## 挿図目次

第 1 図	市域の地形と遺跡分布 (1/20,000) .....	2
第 2 図	西原大塚遺跡の調査地点 (1/5,000) .....	9
第 3 図	確認調査時の遺構分布 (1/500) .....	12
第 4 図	調査区位置図 (1/500) .....	12
第 5 図	遺構分布図 (1/300) .....	15
第 6 図	縄文時代遺構分布図 (1/300) .....	16
第 7 図	90 号住居跡 (1/60) .....	18
第 8 図	90 号住居跡遺物出土状態 (1/60) .....	18
第 9 図	90 号住居跡土器出土状態 (1/60) .....	18
第 10 図	90 号住居跡石器出土状態 (1/60) .....	18
第 11 図	90 号住居跡出土遺物 1 (1/3) .....	19
第 12 図	90 号住居跡出土遺物 2 (1/3) .....	20
第 13 図	174 号住居跡 1 (1/60) .....	21
第 14 図	174 号住居跡 2 (1/60) .....	22
第 15 図	174 号住居跡 3 (1/60) .....	23
第 16 図	174 号住居跡 4 (1/60) .....	24
第 17 図	174 号住居跡竪 (1/30) .....	25
第 18 図	174 号住居跡埋裏 (1/30) .....	27
第 19 図	174 号住居跡遺物出土状態 (1/60) .....	28
第 20 図	174 号住居跡土器出土状態 1 (1/60) .....	29
第 21 図	174 号住居跡土器出土状態 2 (1/60) .....	30
第 22 図	174 号住居跡土器出土状態 3 (1/60) .....	31
第 23 図	174 号住居跡土器出土状態 4 (1/60) .....	32
第 24 図	174 号住居跡土器出土状態 5 (1/60) .....	33
第 25 図	174 号住居跡土製品出土状態 (1/60) .....	34
第 26 図	174 号住居跡石器出土状態 1 (1/60) .....	35
第 27 図	174 号住居跡石器出土状態 2 (1/60) .....	36
第 28 図	174 号住居跡変遷図 1 (1/120・1/60) .....	37
第 29 図	174 号住居跡変遷図 2 (1/120・1/60) .....	38
第 30 図	174 号住居跡出土土器 1 (1/3) .....	39
第 31 図	174 号住居跡出土土器 2 (1/3) .....	40
第 32 図	174 号住居跡出土土器 3 (1/3) .....	41
第 33 図	174 号住居跡出土土器 4 (1/4・1/3) .....	42
第 34 図	174 号住居跡出土土器 5 (1/4・1/3) .....	43
第 35 図	174 号住居跡出土土器 6 (1/4・1/3) .....	44
第 36 図	174 号住居跡出土土器 7 (1/3) .....	45
第 37 図	174 号住居跡出土土器 8 (1/3) .....	46
第 38 図	174 号住居跡出土土器 9 (1/4・1/3) .....	47
第 39 図	174 号住居跡出土土器 10 (1/4・1/3) .....	48
第 40 図	174 号住居跡出土土器 11 (1/3) .....	49

第 41 图	174 号住居跡出土土器 12 (1/4 · 1/3)	50
第 42 图	174 号住居跡出土土器 13 (1/3)	51
第 43 图	174 号住居跡出土土器 14 (1/4 · 1/3)	52
第 44 图	174 号住居跡出土土器 15 (1/4 · 1/3)	53
第 45 图	174 号住居跡出土土器 16 (1/3)	54
第 46 图	174 号住居跡出土土器 17 (1/4 · 1/3)	55
第 47 图	174 号住居跡出土土器 18 (1/4 · 1/3)	56
第 48 图	174 号住居跡出土土器 19 (1/3)	57
第 49 图	174 号住居跡出土土器 20 (1/4 · 1/3)	58
第 50 图	174 号住居跡出土土器 21 (1/4 · 1/3)	59
第 51 图	174 号住居跡出土土器 22 (1/4)	60
第 52 图	174 号住居跡出土土器 23 (1/4 · 1/3)	61
第 53 图	174 号住居跡出土土器 24 (1/4 · 1/3)	62
第 54 图	174 号住居跡出土土器 25 (1/3)	63
第 55 图	174 号住居跡出土土製品 (1/3)	64
第 56 图	174 号住居跡出土石器 1 (1/3 · 2/3)	65
第 57 图	174 号住居跡出土石器 2 (1/3)	66
第 58 图	174 号住居跡出土石器 3 (1/3)	67
第 59 图	174 号住居跡出土石器 4 (1/3)	68
第 60 图	174 号住居跡出土石器 5 (1/3)	69
第 61 图	175 号住居跡 (1/60)	70
第 62 图	176 号住居跡 1 (1/60)	71
第 63 图	176 号住居跡 2 (1/60)	72
第 64 图	176 号住居跡 3 (1/60)	73
第 65 图	176 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	74
第 66 图	176 号住居跡土器出土状態 (1/60)	74
第 67 图	176 号住居跡石器出土状態 (1/60)	75
第 68 图	176 号住居跡変遷図 (1/120 · 1/60)	75
第 69 图	176 号住居跡出土遺物 (1/3 · 2/3)	76
第 70 图	177 号住居跡 1 (1/60)	78
第 71 图	177 号住居跡 2 (1/60)	79
第 72 图	177 号住居跡炉 (1/30)	81
第 73 图	177 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	81
第 74 图	177 号住居跡土器出土状態 (1/60)	83
第 75 图	177 号住居跡石器出土状態 (1/60)	84
第 76 图	177 号住居跡出土遺物 1 (1/4 · 1/3)	85
第 77 图	177 号住居跡出土遺物 2 (1/4 · 1/3)	86
第 78 图	177 号住居跡出土遺物 3 (1/3 · 2/3)	87
第 79 图	178 号住居跡 1 (1/60)	88
第 80 图	178 号住居跡 2 (1/60)	89
第 81 图	178 号住居跡炉 · P9 (埋葬?) (1/30)	91
第 82 图	178 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	92
第 83 图	178 号住居跡土器出土状態 (1/60)	93

第 84 图	178 号住居跡石器出土状態 (1/60)	93
第 85 图	178 号住居跡変遷図 (1/60)	94
第 86 图	178 号住居跡出土遺物 1 (1/3)	94
第 87 图	178 号住居跡出土遺物 2 (1/4)	95
第 88 图	178 号住居跡出土遺物 3 (1/4 · 1/3)	96
第 89 图	178 号住居跡出土遺物 4 (1/4 · 1/3)	97
第 90 图	178 号住居跡出土遺物 5 (1/4 · 1/3 · 2/3)	98
第 91 图	179 号住居跡 1 (1/60)	99
第 92 图	179 号住居跡 2 (1/60)	100
第 93 图	179 号住居跡炉 (1/30)	101
第 94 图	179 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	102
第 95 图	179 号住居跡土器出土状態 (1/60)	103
第 96 图	179 号住居跡石器出土状態 (1/60)	104
第 97 图	179 号住居跡出土遺物 1 (1/3)	104
第 98 图	179 号住居跡出土遺物 2 (1/3 · 2/3)	105
第 99 图	180 号住居跡 (1/60)	106
第 100 图	180 号住居跡炉 (P 4) (1/30)	107
第 101 图	180 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	108
第 102 图	180 号住居跡土器出土状態 (1/60)	108
第 103 图	180 号住居跡石器出土状態 (1/60)	109
第 104 图	180 号住居跡出土遺物 1 (1/4 · 1/3)	109
第 105 图	180 号住居跡出土遺物 2 (1/4 · 1/3)	110
第 106 图	181 号住居跡 1 (1/60)	111
第 107 图	181 号住居跡 2 (1/60)	112
第 108 图	181 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	113
第 109 图	181 号住居跡土器出土状態 (1/60)	113
第 110 图	181 号住居跡石器出土状態 (1/60)	114
第 111 图	181 号住居跡出土遺物 1 (1/3)	114
第 112 图	181 号住居跡出土遺物 2 (2/3 · 1/3)	115
第 113 图	182 号住居跡 1 (1/60)	116
第 114 图	182 号住居跡 2 (1/60)	117
第 115 图	182 号住居跡土器出土状態 (1/60)	118
第 116 图	182 号住居跡出土遺物 (1/3)	118
第 117 图	650 号土坑 (1/60)	119
第 118 图	650 号土坑出土遺物 (1/3)	119
第 119 图	651 号土坑 (1/60)	120
第 120 图	651 号土坑出土遺物 (1/3)	120
第 121 图	652 号土坑 (1/60)	120
第 122 图	652 号土坑出土遺物 (1/3)	120
第 123 图	654 号土坑 (1/60)	121
第 124 图	654 号土坑出土遺物 (1/3)	121
第 125 图	655 号土坑 (1/60)	122
第 126 图	655 号土坑出土遺物 (1/3)	122

第127 图	656 号土坑 (1/60) .....	122
第128 图	656 号土坑出土遺物 (1/3) .....	122
第129 图	657 号土坑 (1/60) .....	123
第130 图	657 号土坑出土遺物 (1/3) .....	123
第131 图	659 号土坑 (1/60) .....	124
第132 图	659 号土坑出土遺物 (1/3 · 2/3) .....	124
第133 图	660 · 669 号土坑 (1/60) .....	125
第134 图	660 号土坑出土遺物 (1/3) .....	125
第135 图	669 号土坑出土遺物 (1/3) .....	125
第136 图	665 号土坑 (1/60) .....	126
第137 图	665 号土坑出土遺物 (1/3) .....	126
第138 图	667 号土坑 (1/60) .....	127
第139 图	667 号土坑出土遺物 (1/3) .....	127
第140 图	668 号土坑 (1/60) .....	128
第141 图	668 号土坑出土遺物 (1/3) .....	128
第142 图	670 · 671 号土坑 (1/60) .....	129
第143 图	670 号土坑出土遺物 (1/3) .....	129
第144 图	671 号土坑出土遺物 (1/3) .....	129
第145 图	672 号土坑 (1/60) .....	130
第146 图	672 号土坑出土遺物 (1/3) .....	130
第147 图	673 号土坑 (1/60) .....	131
第148 图	673 号土坑出土遺物 (1/3) .....	131
第149 图	674 · 693 号土坑 (1/60) .....	132
第150 图	674 号土坑出土遺物 (1/3) .....	132
第151 图	693 号土坑出土遺物 1 (1/3) .....	132
第152 图	693 号土坑出土遺物 2 (1/3) .....	133
第153 图	675 号土坑 (1/60) .....	133
第154 图	675 号土坑出土遺物 (1/3) .....	133
第155 图	676 号土坑 (1/60) .....	134
第156 图	676 号土坑出土遺物 (1/3) .....	134
第157 图	678 号土坑 (1/60) .....	135
第158 图	678 号土坑出土遺物 (1/3) .....	135
第159 图	680 · 681 号土坑 (1/60) .....	135
第160 图	680 号土坑出土遺物 (1/3) .....	136
第161 图	681 号土坑出土遺物 (1/3) .....	136
第162 图	682 号土坑 (1/60) .....	137
第163 图	682 号土坑出土遺物 (1/3) .....	137
第164 图	684 号土坑 (1/60) .....	138
第165 图	684 号土坑出土遺物 (1/3) .....	138
第166 图	686 号土坑 (1/60) .....	138
第167 图	686 号土坑出土遺物 (1/3) .....	138
第168 图	687 号土坑 (1/60) .....	139
第169 图	687 号土坑出土遺物 (1/3) .....	139

第170 図	690 号土坑 (1/60) .....	140
第171 図	690 号土坑出土遺物 (1/3) .....	140
第172 図	691 号土坑 (1/60) .....	141
第173 図	691 号土坑出土遺物 (1/3) .....	141
第174 図	1 号炉跡 (1/30) .....	141
第175 図	2 号炉跡 (1/30) .....	142
第176 図	43 号ピット (1/60) .....	143
第177 図	43 号ピット出土遺物 (1/3) .....	143
第178 図	55 号ピット (1/60) .....	143
第179 図	55 号ピット出土遺物 (1/3) .....	143
第180 図	56・57 号ピット (1/60) .....	144
第181 図	56・57 号ピット出土遺物 (1/3) .....	144
第182 図	69 号ピット (1/60) .....	145
第183 図	69 号ピット出土遺物 (1/3) .....	145
第184 図	71 号ピット (1/60) .....	145
第185 図	71 号ピット出土遺物 (1/3) .....	145
第186 図	87 号ピット (1/60) .....	146
第187 図	87 号ピット出土遺物 (2/3) .....	146
第188 図	89 号ピット (1/60) .....	146
第189 図	89 号ピット出土遺物 (1/3) .....	146
第190 図	98 号ピット (1/60) .....	147
第191 図	98 号ピット出土遺物 (1/3) .....	147
第192 図	99 号ピット (1/60) .....	147
第193 図	99 号ピット出土遺物 (1/3) .....	148
第194 図	102 号ピット (1/60) .....	148
第195 図	102 号ピット出土遺物 (1/3) .....	148
第196 図	104・105 号ピット (1/60) .....	149
第197 図	104 号ピット出土遺物 (1/3) .....	149
第198 図	105 号ピット出土遺物 (1/3) .....	149
第199 図	106 号ピット (1/60) .....	149
第200 図	106 号ピット出土遺物 (1/3) .....	150
第201 図	109 号ピット (1/60) .....	150
第202 図	109 号ピット出土遺物 (1/3) .....	150
第203 図	弥生時代後期から古墳時代前期遺構分布図 (1/300) .....	184
第204 図	566 号住居跡 1 (1/60) .....	185
第205 図	566 号住居跡 2 (1/60) .....	186
第206 図	566 号住居跡炉・貯蔵穴 (1/30) .....	186
第207 図	566 号住居跡遺物出土状態 (1/60) .....	187
第208 図	566 号住居跡出土土器 1 (1/4・1/3) .....	191
第209 図	566 号住居跡出土土器 2 (1/4・1/3) .....	192
第210 図	567 号住居跡 1・遺物出土状態 (1/60) .....	193
第211 図	567 号住居跡 2 (1/60) .....	194
第212 図	567 号住居跡炉・貯蔵穴 (1/30) .....	194

第213 図	567 号住居跡出土土器 (1/3).....	196
第214 図	568・569 号住居跡 (1/60) .....	197
第215 図	568・569 号住居跡炉・遺物出土状態 (1/60) .....	198
第216 図	568 号住居跡出土土器 (1/4・1/3).....	201
第217 図	569 号住居跡出土土器 (1/3).....	201
第218 図	遺構外出土遺物 1 (1/3).....	204
第219 図	遺構外出土遺物 2 (1/3).....	205
第220 図	遺構外出土遺物 3 (1/1・1/3).....	206
第221 図	遺構外出土遺物 4 (1/2・1/3).....	207
第222 図	遺構外出土遺物 5 (1/1・1/3).....	208
第223 図	住居跡の層位的関係 .....	214
第224 図	時期別住居跡・土器一覧 .....	214
第225 図	174 号住居跡セクション模式図 .....	216

## 表 目 次

第 1 表	志本市埋蔵文化財包蔵地一覧 .....	1
第 2 表	西原大塚遺跡発掘調査一覧 .....	10
第 3 表	西原大塚遺跡発掘調査報告書一覧 .....	11
第 4 表	西原大塚遺跡第 174 ①地点発掘調査工程表 .....	14
第 5 表	土坑一覧表 .....	151
第 6 表	ピット一覧表 (1).....	151
第 7 表	ピット一覧表 (2).....	152
第 8 表	ピット一覧表 (3).....	153
第 9 表	90 号住居跡出土土器一覧.....	153
第 10 表	174 号住居跡出土土器一覧 (1).....	153
第 11 表	174 号住居跡出土土器一覧 (2).....	154
第 12 表	174 号住居跡出土土器一覧 (3).....	155
第 13 表	174 号住居跡出土土器一覧 (4).....	156
第 14 表	174 号住居跡出土土器一覧 (5).....	157
第 15 表	174 号住居跡出土土器一覧 (6).....	158
第 16 表	174 号住居跡出土土器一覧 (7).....	159
第 17 表	174 号住居跡出土土器一覧 (8).....	160
第 18 表	174 号住居跡出土土器一覧 (9).....	161
第 19 表	174 号住居跡出土土器一覧 (10) .....	162
第 20 表	174 号住居跡出土土器一覧 (11) .....	163
第 21 表	174 号住居跡出土土器一覧 (12) .....	164
第 22 表	174 号住居跡出土土器一覧 (13) .....	165
第 23 表	174 号住居跡出土土器一覧 (14) .....	166
第 24 表	174 号住居跡出土土器一覧 (15) .....	167
第 25 表	174 号住居跡出土土器一覧 (16) .....	168

第 26 表	176 号住居跡出土土器一覽	168
第 27 表	177 号住居跡出土土器一覽 (1)	169
第 28 表	177 号住居跡出土土器一覽 (2)	170
第 29 表	178 号住居跡出土土器一覽 (1)	170
第 30 表	178 号住居跡出土土器一覽 (2)	171
第 31 表	179 号住居跡出土土器一覽 (1)	171
第 32 表	179 号住居跡出土土器一覽 (2)	172
第 33 表	180 号住居跡出土土器一覽 (1)	172
第 34 表	180 号住居跡出土土器一覽 (2)	173
第 35 表	181 号住居跡出土土器一覽 (1)	173
第 36 表	181 号住居跡出土土器一覽 (2)	174
第 37 表	182 号住居跡出土土器一覽	174
第 38 表	土坑・ピット出土土器一覽 (1)	174
第 39 表	土坑・ピット出土土器一覽 (2)	175
第 40 表	土坑・ピット出土土器一覽 (3)	176
第 41 表	土坑・ピット出土土器一覽 (4)	177
第 42 表	出土土製品一覽 (1)	177
第 43 表	出土土製品一覽 (2)	178
第 44 表	出土石器一覽 (1)	178
第 45 表	出土石器一覽 (2)	179
第 46 表	出土石器一覽 (3)	180
第 47 表	出土石器一覽 (4)	181
第 48 表	出土石器一覽 (5)	182
第 49 表	出土石器一覽 (6)	183
第 50 表	566 号住居跡出土遺物一覽	202
第 51 表	567 号住居跡出土遺物一覽	202
第 52 表	568 号住居跡出土遺物一覽	203
第 53 表	569 号住居跡出土遺物一覽	203
第 54 表	遺構外出土縄文土器一覽 (1)	209
第 55 表	遺構外出土縄文土器一覽 (2)	210
第 56 表	遺構外出土土製品一覽	211
第 57 表	遺構外出土弥生時代後期から古墳時代前期遺物一覽	211
第 58 表	遺構外出土石器一覽 (1)	211
第 59 表	遺構外出土石器一覽 (2)	212
第 60 表	遺構外出土不明金属製品一覽	212





## 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 市域の地形と遺跡

## (1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりを持ち、面積は9.06㎢、人口約7万2千人の自然と文化の調和する都市である。

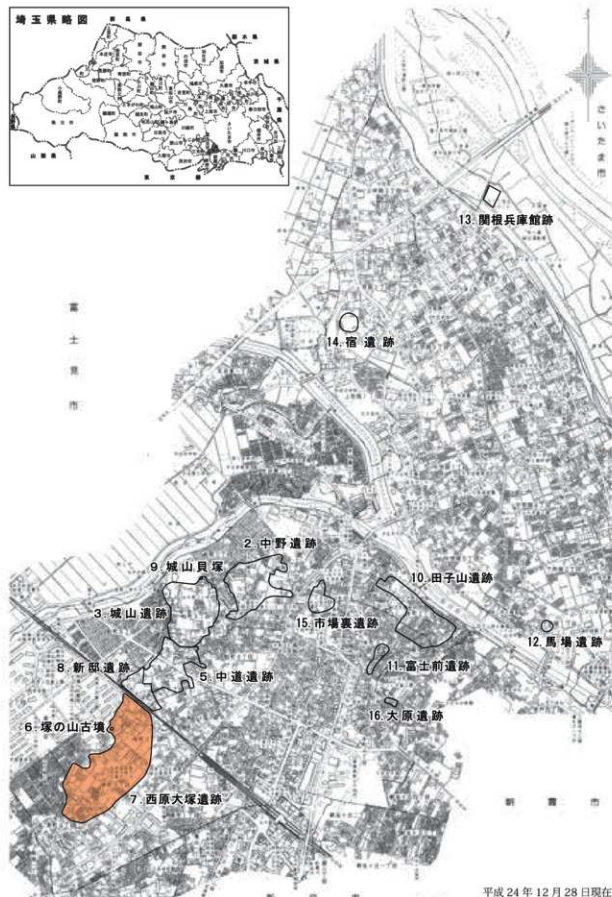
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	63,370 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	79,280 m <sup>2</sup>	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）弥（後）、古（前～後）、奈、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、溝造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中道	50,500 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～晩）弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式溝跡、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800 m <sup>2</sup>	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	163,930 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）弥（後）、古（前～後）、奈、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080 m <sup>2</sup>	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前～後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 m <sup>2</sup>	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	65,000 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）弥（後）、古（後）、奈、平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器等
11	富士前	7,100 m <sup>2</sup>	宅地	集落跡	弥（後）～古（前）	住居跡	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800 m <sup>2</sup>	畑	集落跡	古（前）	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 m <sup>2</sup>	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 m <sup>2</sup>	田	館跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800 m <sup>2</sup>	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡・方形周溝墓、土坑	縄文土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700 m <sup>2</sup>	宅地	不明	近世以降?	溝跡	なし
合計		481,860 m <sup>2</sup>					

平成24年12月28日 現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)

平成24年12月28日現在

せきねのようごやかたあと

関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した12遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた14遺跡である（第1図）。

## （2）歴史的環境

### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6（1994）年度には2ヶ所、平成7（1995）年度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からも立川ローム層のⅣ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。

平成13（2001）年に発掘調査が実施された城山遺跡第42地点では、立川ローム層のⅣ層上部とⅦ層の2ヶ所で石器集中地点が確認され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの挟入石器・剥片など32点が出土している。

平成20・21（2009・2010）年度にかけては、城山遺跡第62地点の発掘調査が実施され、1ヶ所の石器ブロックが検出されている。

平成22（2010）年3月～5月にかけて発掘調査が実施された城山遺跡第63地点では、5ヶ所の試掘坑を設定し調査を実施したところ、立川ローム層のⅥ層を中心とする3ヶ所の石器集中地点が確認され、黒曜石の二次加工剥片・石核などが20点ほど出土している。

### 2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期中葉から後葉の遺構が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

草創期では、平成4（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6（1994）年に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、平成18（2007）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡1軒があげられる。土器としては、田子山遺跡で燃糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。また、富士前・新邸・城山遺跡からは、燃糸文系土器が数点出土し、条痕文系土器は、中野・田子山遺跡では伊穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で黒浜式期、城山遺跡では諸磯式期の住居跡が検出されている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡や土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点（平成24年1月）で170軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が1軒確認されるのみである。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1ヶ所が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で検出された土坑1基があげられる。下層から称名寺I式期の土器、上層からII式の特徴をもつ土器が出土している。西原大塚遺跡第54地点でも2基の土坑が検出されている。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行3C式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

### 3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、現時点において、前・中期の遺跡は検出されていないが、後期末葉から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が550軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単一的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高環が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見されている。この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土器をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

#### 4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15(2003)年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7(1995)年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に7世紀前半から中葉にかけては、縄文中期を超えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、7世紀前半以降、周辺地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期(7世紀中葉)の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3.0×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で200軒を越え、次いで中野遺跡で約50軒、中道遺跡で約15軒、田子山遺跡で約10軒、新邸遺跡で1軒を数える。

住居跡以外では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形円で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。

また、平成14(2002)年に発掘調査された田子山遺跡第81地点の調査を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられている。

#### 5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8(1996)年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例で貴重な資料である。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。最新では、平成20～21(2008～2009)年の城山遺跡第62地点の調査により、平安時代の住居跡から皇朝十二銭の一つである「富壽神寶」が2枚出土しており、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された第24地点から、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6(1994)年に発掘調査が実施

された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群の前内出製品と鳩山製品の須恵器環が1点ずつ出土し、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

## 6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。

城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『たてむらまき館村旧記』(註1)にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。最新では、『かいくくごき廻国雑記』(註2)に登場する「おおいしなののかみのやわた大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「お塚つかじまうきよくぼ大塚十五坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう(神山 1988・2002)。

また、平成7(1995)年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子(イネ・オオムギ・コムギなど)も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8(1996)年度に発掘調査が実施された第35地点では、鋳造関連の遺構も検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓(スラッグ)、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。また平成13(2001)年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状態で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。戦国期の資料としては、平成6(1994)年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧の札である鉄製品1点と鉄鎌1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑が検出されている。その他、ピット列・土坑・溝跡などが検出されていることから、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する施設ではないかと考えられる。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7(1995)年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60(1985)年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15(2003)年の新邸遺跡第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「しょうりんざんかんのんじないじせんと松林山観音寺大受院」関連遺構として、今後は体系的な究明が必要とされるであろう。

## 7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム探掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、探掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの錆着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土している。

### 〔註〕

註1 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館<sup>きやうしんみやうらゆうけんもんちゆうぐわ</sup>）の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註2 『廻国雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）6月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのぼし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

### 〔引用文献〕

- 神山健吉 1988 「廻国雑記」に現れる 大石信濃守の館と十五坊の所在についての一考察『郷土志木』第7号  
2002 「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号

## 第2節 遺跡の概要

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町二〜四丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西約1kmに位置している。北東―南西方向に約700m、北西―南東方向に約150mの広がりを持ち、遺跡面積163,930㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で8mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、概ね平坦である。遺跡西側中央、台地から低地へうつる斜面に湧水点が確認されており、そこを中心に括れている。

昭和48年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されてきた。平成元年から平成19年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。また、近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。平成25年1月現在で、調査地点189、面積約53,000㎡（遺跡全体の約3割）に対して確認調査・発掘調査を実施している（第2図）。本遺跡で実施された調査地点のうち、発掘調査報告書が刊行された調査地点の概要を第2表に、本遺跡の発掘調査に係る文献については、第3表に示した。以下に平成25年1月現在の検出された遺構・遺物の概要について示す。

旧石器時代では、石器集中地点が14カ所確認されている。これまでにナイフ形石器12点、尖頭器3点、錘状石器1点、搔器1点、石核8点、剥片149点、砕片349点、礫306点が出土している。第5号石器集中地点で安山岩製のナイフ形石器が立川ロームⅧ層上部から出土している他は、Ⅲ層～Ⅴ層上部からの出土が大半を占める。また、第8・10・11A・12号石器集中地点では礫群が検出されている。

縄文時代草創期では、表面採集で長さ11.9cmの両面調整石器1点が確認されている。早期では、条痕文系土器を伴う炉穴15基が遺跡北西隅を中心に検出されている。前期では、黒浜式期の住居跡2軒、諸磯c式期の土坑1基が遺跡南西隅に分布している。中期では、遺構数が増大し、勝飯式期から加曾利E式期の住居跡181軒が環状集落を形成している。後期では、堀之内式期の住居跡1軒、加曾利B式期の住居跡1軒が遺跡南西隅に検出されている。晩期では、遺構外遺物として安行3式土器が遺跡北西隅で出土しているが、遺構は検出されていない。遺物では、50号住居跡出土の硬玉製大珠（文献No.23）、108号住居跡出土の顔面把手付土器（未報告）などが特筆される。

弥生時代では、前期から中期が空白期となり、後期から古墳時代前期では住居跡568軒、掘立柱建築遺構3棟、方形周溝墓34基が検出されており、大規模集落の様相を呈している。遺物では、122号住居跡出土のイヌ形土製品（文献No.23）、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓出土の鳥形土製品（文献No.15）などが注目される。

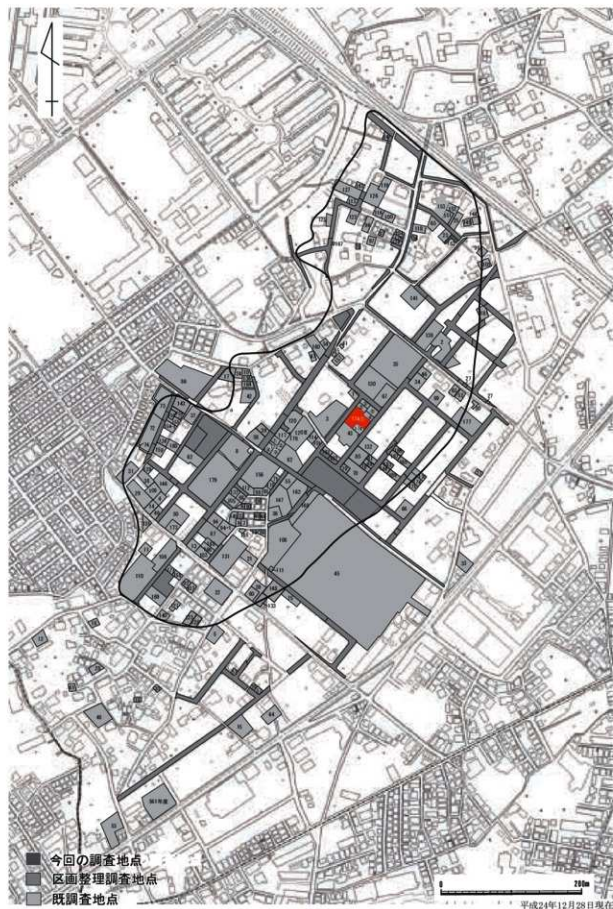
古墳時代では、中期が空白期となり、後期で住居跡10軒が検出されている。また、本遺跡内北東に塚の山古墳が所在するが、近接する道路部分の調査でも周溝が不検出であるため、詳細は不明である。

奈良・平安時代では、住居跡13軒が検出されている。本遺跡では、8世紀前葉に比定される154地点19号住居跡が最古の資料となる。

中近世では、地下式坑を含む土坑155基、井戸跡7基、配石遺構1基が検出されている（文献No.23）。

以上、本遺跡は旧石器時代から近世に至るまでの複合遺跡であることが判明している。





第2図 西原大塚遺跡の調査地点 (1 / 5,000)

調査地点	面積 (㎡)	発掘調査期間	調査理由	遺 跡 の 概 要	文献名 第3表文獻表
第1地点	112.50	昭和48年8月3日 ～12日	学術調査	縄文中期(住居跡5軒、土坑8基)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	No.1
第2地点	940.00	昭和55年7月20日 ～8月21日	学術調査	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	No.2
第3地点	439.00	昭和58年8月23日 ～9月8日	共同住宅	縄文中期(住居跡5軒、土坑2基)	No.3
第4地点	105.00	昭和62年1月5日 ～11日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	No.4
第6地点	64.32	昭和62年11月18日 ～20日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	No.5
第7地点	77.44	昭和63年1月20日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(小形穴式遺構1基、時期不詳(土坑1基、溝跡1本))	No.7
第8地点	1,227.00	昭和63年3月16日 ～8月6日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡1軒、土坑24基)、弥生後期～古墳前期(住居跡13軒、方形周溝墓1基、竪柱式建築遺構1棟)	No.8
第9地点	75.86	昭和63年8月18日 ～9月10日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	No.6
第10地点	80.54	昭和63年8月27日 ～10月4日	個人住宅建設	縄文中期(土坑4基、遺物倉庫跡)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	No.9
第11地点	220.84	平成元年5月16日 ～25日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)	No.8
第14地点	129.00	平成2年5月26日 ～6月11日	共同住宅	弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	No.10
第21地点	265.73	平成3年5月28日 ～29日	事務所併用住宅	弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)	No.10
第32地点	60.11	平成6年4月7日 ～14日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)	No.9
第34地点	317.00	平成7年8月4日 ～9月1日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡3軒、土坑6基)、弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)、奈良～平安(住居跡1軒)	No.11
第36地点	248.05	平成8年10月15日 ～26日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	No.13
第37地点	220.00	平成9年4月8日 ～6月5日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡7軒)、時期不詳(土坑4基)	No.14
第39地点	63.76	平成9年8月5日 ～3月24日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡3軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、方形周溝墓1基)	No.14
第43地点	779.60	平成12年1月11日 ～3月24日	農地転用	縄文中期(住居跡10軒、土坑22基)、弥生後期～古墳前期(住居跡9軒)、古墳(1軒)	No.16
第45地点	5,642.42	平成11年8月3日 ～12月24日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡72軒、方形周溝墓1基)、古墳後期(住居跡2軒)	No.15
第47地点	86.12	平成12年4月3日 ～4日	個人住宅建設	縄文中期(土坑1基)、弥生後期～古墳前期(溝跡1本)	No.17
第54地点	90.74	平成13年9月13日 ～14日	物置建設	縄文中期～後期(土坑7基)、弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)	No.18
第65地点	115.93	平成14年7月25日 ～8月9日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	No.19
第67地点	456.20	平成14年9月9日 ～11月29日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡8軒、土坑8基)、弥生後期～古墳前期(住居跡8軒、竪柱式建築遺構1棟、土坑1基)	No.22
第108地点	684.60	平成21年2月23日 ～4月14日	北口(機能未定)ついで施設建設	縄文中期(住居跡1軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡15軒)	No.28
第110地点	500.00	平成17年2月7日 ～3月10日	集合住宅建設	旧石器(石器集中2ヶ所)、縄文中期(土坑1基、集石1基)、弥生後期～古墳前期(住居跡7軒)	No.21
第111地点	80.00	平成17年1月17日 ～1月21日	消防車庫建設	古墳前期(住居跡1軒)	No.20
第113地点	119.75	平成17年2月4日 ～15日	個人住宅建設	縄文早期(伊7C1基)、近世以降(土坑16基)	No.26
第120-1地点	460.56	平成17年6月27日 ～7月7日	保育園建設	縄文中期(住居跡1軒、土坑62基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒、方形周溝墓1基)	No.25
第120-2地点	566.55	平成18年5月30日 ～6月28日	保育園建設	縄文中期(住居跡1軒、土坑62基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒、方形周溝墓1基)	No.25
第124地点	150.02	平成17年12月19日 ～平成18年1月13日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	No.26
第131地点	472.21	平成18年8月30日 ～9月29日	集合住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡2軒、方形周溝墓5基)	No.25
第137地点	100.00	平成18年11月9日 ～15日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、時期不詳(ピット5本)	No.27
第138地点	20.00	平成19年2月5日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(溝跡1本)	No.24
第154地点	120.02	平成20年3月17 ～19日	分譲住宅軒建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、奈良～平安(住居跡1軒、ピット1本)、中世以降(土坑1基)	No.24
第155地点	120.00	平成19年3月18日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	No.27
区画整理	38,242.39	平成20年12月20日 ～平成19年1月12日	区画整理事業	旧石器(石器集中12ヶ所)、縄文早期(伊7C13基)、縄文中期(住居跡101軒、土坑233基、集石13基)、縄文後期(住居跡2軒、土坑9基)、弥生後期～古墳前期(住居跡362軒、方形周溝墓22基)、古墳後期(住居跡6軒)、奈良～平安(住居跡7軒)、中近世(土坑155基、井戸跡6基)	No.12 No.23
第169地点	90.00	平成22年10月4日 ～13日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、竪柱式建築遺構1棟)	No.29
第174①地点	627.54	平成23年10月19日 ～平成24年1月13日	宅地造成	縄文中期(住居跡10軒、伊跡2基、土坑44基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	本報告

第2表 西原大塚遺跡発掘調査一覧

№	書名	刊行年	シリーズ名	発行 者	編 著 者
1	西原大塚遺跡 発掘調査報告書	1975	志本市の文化財第4集	志本市教育委員会	井上高夫・浜合静男・ 松村 豊・西野和昭 宮野和明・保土国夫・ 小久保 隆
2	志本市史 原始・古代資料編	1984	志本市史	志本市	
3	西原大塚遺跡第3地点 中野遺跡第2地点 発掘調査報告書	1985	志本市遺跡調査会調査報告第1集	志本市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形明敏
4	新市遺跡第2地点 西原大塚遺跡第4地点 発掘調査報告書	1987	志本市遺跡調査会調査報告第3集	志本市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形明敏
5	志本市遺跡第1	1989	志本市の文化財第13集	志本市教育委員会	佐々木保俊・尾形明敏
6	志本市遺跡第2	1990	志本市の文化財第14集	志本市教育委員会	佐々木保俊・尾形明敏
7	西原大塚遺跡第7地点 新部遺跡第3地点 中野遺跡第7地点 中野遺跡第8地点 城山遺跡第6地点 発掘調査報告書	1991	志本市の文化財第15集	志本市教育委員会	佐々木保俊・尾形明敏
8	志本市遺跡第3	1991	志本市の文化財第16集	志本市教育委員会	佐々木保俊・尾形明敏
9	志本市遺跡第4	1996	志本市の文化財第23集	志本市教育委員会	佐々木保俊・尾形明敏・ 沼井恵子
10	城山遺跡第12地点 城山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第14地点 中野遺跡第11地点 中野遺跡第16地点 市場裏遺跡第1地点 田子山遺跡第10地点 中遺跡第21地点 田子山遺跡第13 地点 西原大塚遺跡第21地点 市場裏遺跡第2地点 中遺跡第 26地点 発掘調査報告書	1996	志本市の文化財第24集	志本市教育委員会	佐々木保俊・尾形明敏
11	志本市遺跡第5	1997	志本市の文化財第25集	志本市教育委員会	佐々木保俊・尾形明敏
12	西原大塚の遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査 概報	1998	-	志本市遺跡調査会 西原特定土地区画整理組合	佐々木保俊
13	志本市遺跡第9	1999	志本市の文化財第27集	志本市教育委員会	尾形明敏・沼井恵子
14	志本市遺跡第10	2000	志本市の文化財第28集	志本市教育委員会	尾形明敏・沼井恵子
15	西原大塚遺跡第45地点 発掘調査報告書	2000	志本市遺跡調査会調査報告第6集	志本市遺跡調査会 小松7+9刃物株式会社	佐々木保俊・内野美津江・ 宮川幸佳・上田 寛
16	志本市遺跡第11	2001	志本市の文化財第30集	志本市教育委員会	尾形明敏・佐々木保俊・ 内野美津江
17	志本市遺跡第12	2002	志本市の文化財第32集	志本市教育委員会	尾形明敏・佐々木保俊・ 沼井恵子
18	志本市遺跡第13	2003	志本市の文化財第35集	志本市教育委員会	尾形明敏・沼井恵子
19	志本市遺跡第14	2004	志本市の文化財第36集	志本市教育委員会	尾形明敏・沼井恵子・ 青木 健
20	西原大塚遺跡第111地点	2005	志本市遺跡調査会調査報告第8集	志本市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・ 宮川幸佳
21	西原大塚遺跡第110地点	2005	志本市遺跡調査会調査報告第9集	志本市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・ 宮川幸佳
22	志本市遺跡第15	2006	志本市の文化財第37集	志本市教育委員会	尾形明敏・沼井恵子
23	西原大塚遺跡1～11 西原特定土地区画整理事業に伴う 発掘調査報告書	2009	志本市遺跡調査会調査報告第13集	志本市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・ 宮川幸佳
24	西原大塚遺跡第138地点 西原大塚遺跡第154地点 埋蔵文化 財 発掘調査報告書	2008	志本市遺跡調査会調査報告第14集	志本市遺跡調査会	尾形明敏・沼井恵子・ 青木 健
25	西原大塚遺跡第120地点 西原大塚遺跡第131地点 田子山遺 跡第97地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志本市遺跡調査会調査報告第15集	志本市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・ 宮川幸佳
26	志本市遺跡第17	2008	志本市の文化財第39集	志本市教育委員会	尾形明敏・沼井恵子・ 青木 健
27	志本市遺跡第18	2009	志本市の文化財第41集	志本市教育委員会	尾形明敏・沼井恵子・ 青木 健
28	西原大塚遺跡第108地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志本市の文化財第42集	志本市教育委員会	佐々木保俊・尾形明敏・ 飯上武嗣・青池紀子他
29	西原大塚遺跡第169地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志本市の文化財第47集	志本市教育委員会	尾形明敏・徳田彰紀
30	西原大塚遺跡第174①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志本市の文化財第55集	志本市教育委員会	尾形明敏・徳田彰紀 藤沢啓吾・松本綾子

第3表 西原大塚遺跡発掘調査報告書一覧

## 第2章 発掘調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

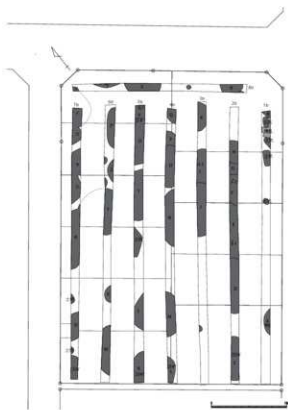
平成23年4月、土木工事主体者より志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ土木工事計画地内における埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。工事計画は志木市幸町3丁目7204-3の一部（面積627.54㎡）に宅地造成工事を行うものである。

教育委員会は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード11228-09-007）に該当するため、概ね下記のとおりに回答した。

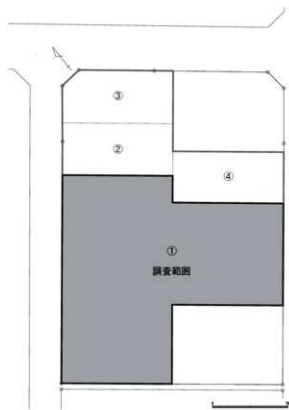
1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施した上で、当該地における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

2. 確認調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、保存措置を講ずること。また、現状保存及び盛土保存が不可能である場合については、記録保存（発掘調査）を実施する必要があること。

平成23年6月、教育委員会は、工事主体者である個人から確認調査依頼書を受理し、6月13日から15日にかけて確認調査を実施した。長軸7本、短軸1本、計8本のトレンチを設定し、バックホーで表土を剥ぎ、遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代中期の住居跡10軒、土坑3基を確認した。（第3図）。教育委員会は、直ちに土木工事主体者に確認調査の結果を報告し、同時に埋蔵文化財の保存措置を要請した。保存措置に関する協議を行った結果、敷地全域において十分な保護層が確保できないため、記録保存（発掘調査）として取り扱うこととした。これを受けて教育委員会は、平成23年9月29日付で関係書類を埼玉県教育委員会に提出した。



第3図 確認調査時の遺構分布（1/500）



第4図 調査区位置図（1/500）

平成23年10月12日、志木市埋蔵文化財保存事業取扱要綱に基づき、志木市（市長 長沼 明）と工事主体者との間で協議書を取り交わし、委託契約を締結した。調査主体者となる教育委員会は、発掘調査の実施にあたり、有限会社アルケーリサーチ（取締役 藤波 啓容）と委託契約を締結し、支援業務を委託した。

以上、教育委員会を調査主体に、平成23年10月19日より発掘調査を実施した。

## 第2節 調査の方法と経過

発掘調査は平成23年10月19日より開始し、平成24年1月13日を以って終了した。調査経過については、第4表にまとめ、以下に日付順に説明する。

平成23年

- 10月19日 砕石除去を開始し、防護ネットを設置する。
- 10月20日 調査区西側から表土の掘削を開始する。
- 10月21日 GPS測量による基準点移動を行う。
- 10月24日 表土掘削と並行して遺構検出作業に入る。
- 10月25日 174J周囲の畝を掘削し、プランを確認する。
- 10月26日 174Jの掘り下げ、遺物の取り上げを開始する。
- 10月27日 南側残土置き場予定範囲の37P～39P、650D～652Dの調査を行う。
- 10月28日 566Yの調査を開始する。
- 11月4日 567Yの調査を開始する。566Yの断面写真撮影と実測を行う。
- 11月7日 566Yのベルトの掘削を行う。また、床面上から炭化材が検出され、焼失住居の可能性をうかがわせた。
- 11月9日 566Yの炭化材の取り上げを開始する。
- 11月16日 90Jの調査を開始する。今回の調査で検出された部分は平成13年度に一部調査された住居の残りの部分である。また、566Yの遺構測量を行う。
- 11月17日 174Jの壁出しを行う。
- 11月18日 174Jの断面写真撮影、実測を行う。174Jに接している176J・178J・179Jに関しても174Jの断面を延長して実測をする。また、567Yの全景写真撮影、90Jの断面実測、完掘全景写真撮影を行う。
- 11月21日 177Jの調査を開始する。また、567Y・90Jの遺構測量を行う。
- 12月2日 174Jの遺構測量と176Jの調査を開始する。
- 12月5日 179Jの調査を開始する。引き続き、174Jの遺構測量、176J・177Jの調査を行う。
- 12月6日 179J・180Jの掘り下げを開始する。並行して177Jの炉2の調査と全景写真撮影を行う。
- 12月7日 178Jの調査と175Jの精査を開始する。176Jの調査、177Jの断面実測、179J・180J・181Jの掘り下げを行う。

12月9日 土坑、ピットの調査を開始する。178J・179・180J・181Jの掘り下げ、176J・182Jのピットの調査を行う。

12月10日 176Jピットの調査・実測、179J・181J・182Jのピット調査、178J断面実測を行う。

12月13日 178J・179J・180J・181Jのピット調査、178J炉の調査を行う。

12月21日 前日に調査区の全面清掃をし、調査区航空写真撮影を行う。また、174J炉・566Y掘り方の調査を行う。

12月27日 568Yの調査を開始する。

	10月	11月	12月	1月
90J		11.16		
174J	10.25			
175J			12.5	
176J			12.2	
177J		11.25		
178J			12.7	
179J			12.5	
180J			12.5	
181J			12.5	
182J			12.8	
566Y	10.28			
567Y	11.4			
568Y			12.27	
569Y				1.5
650D	10.27			
651D	10.27			
652D			12.27	
653D			12.4	
654D			12.7	
655D			12.7	
656D			12.7	
657D			12.7	
658D			12.7	
659D			12.7	
660D			12.7	
661D			12.7	
662D			12.9	
663D			12.8	
664D			12.9	
665D			12.8	
666D			12.9	
667D			12.14	
668D			12.14	
669D			12.14	
670D			12.14	
671D			12.14	
672D			12.15	
673D			12.15	
674D			12.15	
675D			12.15	
676D			12.15	
677D			12.15	
678D			12.15	
679D			12.15	
680D			12.16	
681D			12.17	
682D			12.17	
683D			12.17	
684D			12.17	
685D			12.17	
686D			12.17	
687D			12.17	
688D			12.17	
689D			12.17	
690D			12.19	
691D			12.26	
692D				1.5
693D			12.15	
1号998			12.13	
2号998			12.19	

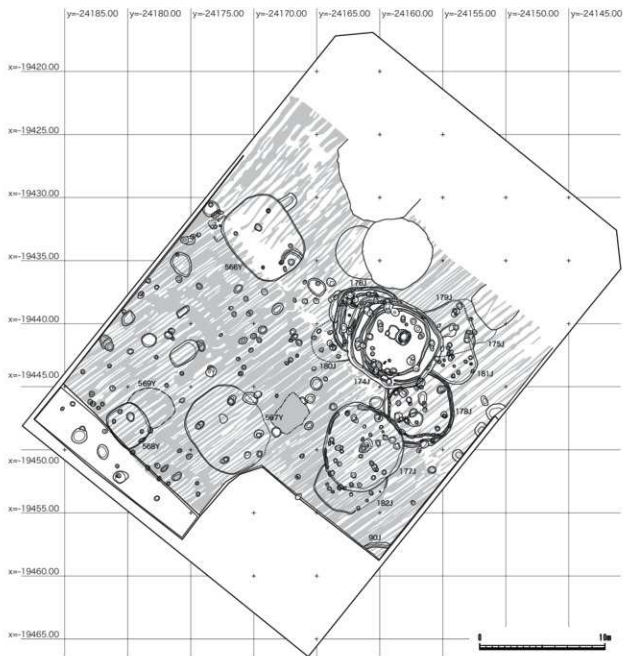
第4表 西原大塚遺跡第174①地点発掘調査工程表

平成24年

1月5日 568Y・569Yの完掘全景写真撮影を行う。また、引き続き土坑、ピットの調査を行う。

1月10日 568、569Y掘り方調査と並行しながら調査区資材の撤去を開始する。

1月13日 調査区の埋戻し、防護ネット・調査区資材の撤去を行う。現場調査が完了する。



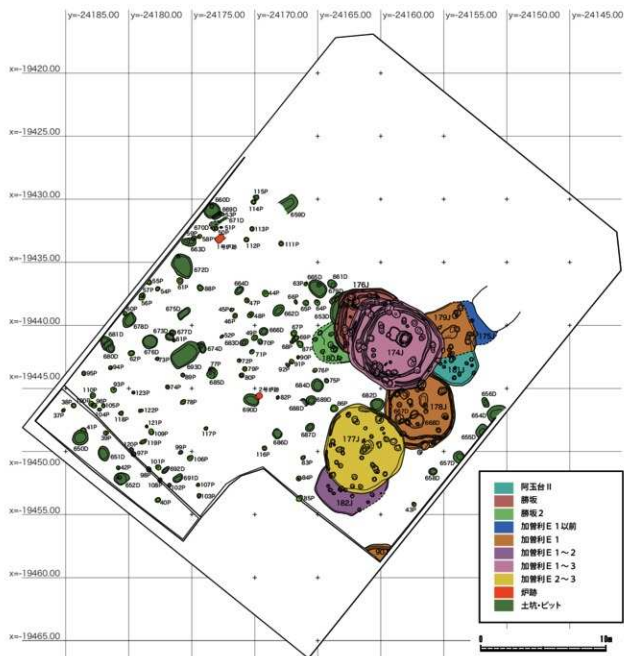
第5図 遺構分布図(1/300)

## 第3章 検出された遺構と遺物

今回の調査地点は本遺跡のほぼ中央に所在するが、調査地点の現況は畑地として利用されており、度重なる耕作痕（トレンチャー）によって遺構の大部分は攪乱されていた。

検出された遺構は住居跡 14 軒、土坑 44 基、ピット 87 基、炉跡 2 基であり、縄文時代中期もしくは弥生時代後期から古墳時代前期に帰属する。出土遺物は縄文中期の勝坂式～加曾利 E 3 式土器が主体となり、縄文時代後期の称名寺式、堀之内式が僅かに数点確認されたほか、弥生土器、石器、土製品、礫がある。

### 第1節 縄文時代



第6図 縄文時代遺構分布図（1/300）



## (1) 概要

縄文時代の遺構は住居跡10軒、土坑44基、ピット87基、炉跡2基が検出された。174号住居跡、176号住居跡、178号住居跡に関しては拡張された可能性が高い。縄文時代の住居跡は環状集落を形成するもので、出土遺物から縄文時代中期の勝坂式後半期から加曾利E2式期がピークと思われる。

住居の西側では土坑・ピットが多く検出された。遺物を伴わないものが多く時期決定は困難であったが、堆積覆土は縄文時代の住居に近似する。炉跡とした遺構は硬質面や関係するピットが確認されなかったため、単独の遺構として判断している。

出土位置が判明している土器・土製品は5,903点であり、うち五領ケ台式1点、阿玉台式252点、勝坂式525点、曾利式263点、加曾利E式2,554点、連弧文306点、土製円盤14点、土器片鍾10点、不明土製品2点、粘土塊2点である。石器総点数は721点、56,385.8gで、うち出土位置が判明している石器は456点・38,696.0g、判明していない石器は265点・17,689.8gである。器種の内訳は、石鏃7点、石鏃未製品1点、楔形石器20点、両極剥片4点、石錐1点、二次的剥離のある剥片19点（剥片石器系石材6点、打製石斧系石材13点）、不規則剥離のある剥片15点（剥片石器系石材13点、打製石斧系石材2点）、剥片102点（剥片石器系石材66点、打製石斧系石材34点、磨製石斧系石材1点、礫石器系石材1点）、調整剥片99点（剥片石器系石材76点、打製石斧系21点、磨製石斧系1点）、砕片66点（剥片石器系石材24点、打製石斧系石材28点、磨製石斧系石材3点、礫石器系石材11点）、石核3点（剥片石器系石材）、（ナイフ形石器1点：177J・旧石器時代遺物の混入）、打製石斧147点、横刃形石器4点、磨製石斧8点、磨石14点、敲石119点、砥石3点、石皿12点、軽石3点、凹石4点、線刻礫1点、片岩製石器68点である。石材の内訳は、黒曜石196点、チャート26点、頁岩3点、硬質頁岩1点、ガラス質黒色安山岩2点、ホルンフェルス129点、砂岩221点、片状砂岩3点、細粒凝灰岩1点、凝灰岩25点、緑色岩2点、安山岩15点、閃緑岩16点、ハンレイ岩1点、砂質片岩16点、緑泥片岩43点、結晶片岩18点である。

## (2) 住居跡

### 90号住居跡

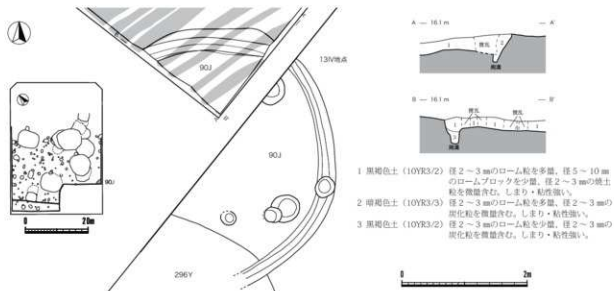
**遺構** (第7～10図)

**[位置]** X=19458, Y=24160。

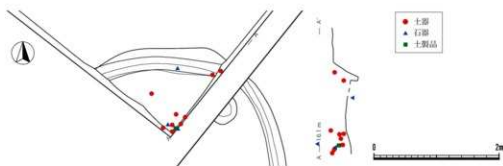
**[住居構造]** 今回の調査区では住居の一部が僅かに検出されるのみで明確な住居の構造は不明である。平面形：円形か？規模：不明。主軸方位：不明。壁高：27.6～42.5cmを測り、70°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：耕作による攪乱が著しい。炉：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。

**[覆土]** 3層。

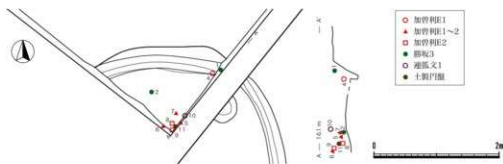
**[遺物]** 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器・土製品は21点であり、うち勝坂式2点、加曾利E式14点、連弧文1点、土製円盤1点である。出土した石器の総点数は4点、1,215.3gで、器種の内訳は、調整剥片1点（剥片石器系石材）、打製石斧2点、石皿1点、石材の内訳は、黒曜石1点、ホルンフェルス1点、凝灰岩1点、安山岩1点である。



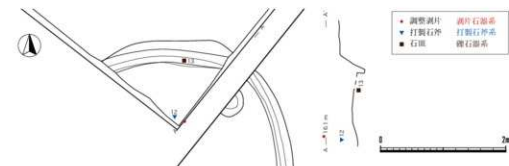
第7図 90号住居跡 (1/60)



第8図 90号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第9図 90号住居跡土器出土状態 (1/60)



第10図 90号住居跡石器出土状態 (1/60)



90号住居跡全景（南より）



90号住居跡セクション（北西より）



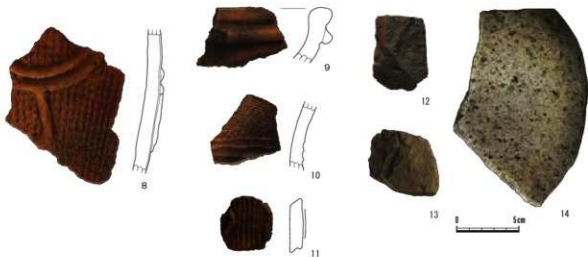
90号住居跡遺物出土状態（西より）



90号住居跡遺物出土状態（南より）



第11図 90号住居跡出土遺物1（1／3）



第12図 90号住居跡出土遺物2 (1/3)

【時期】加曾利E1式期。

【遺物】(第11・12図、第9・42・44表)

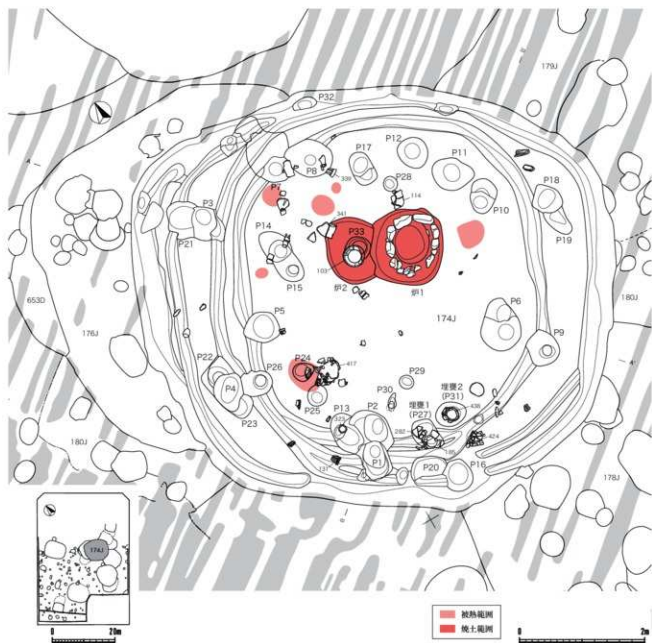
勝坂式(1~2)、加曾利E式(3~9)、連弧文(10)、土製円盤(11)、打製石斧(12・13)、石皿(14)を図示した。

#### 174号住居跡

【遺構】(第13~29図)

【位置】X=-19441,Y=-24158。

【住居構造】176J・178J・179J・180J・181Jを切る。柱の移動を伴う縮小が1度行われた後、3回の拡張が行われた可能性がある。床面に焼土範囲が点在することから1度火災により焼失している。焼失後、柱の立て替えが1回確認できる。平面形:不整形円形。規模:縮小前は5.64×4.69m、縮小時は5.26×4.69mを測る。その後拡張に転じ、1回目拡張で6.49×6.01m、2回目拡張で7.11×6.01m、3回目拡張で8.02×6.65mを測る。主軸方位:N-30°-E。壁高:46.2~64.3cmを測り、70°前後の角度で立ち上がる。壁溝:住居を建てた後、1度縮小が行われる。その後拡張を繰り返しているため、最大で5重の壁溝が確認できる。縮小は元の住居の主軸に対し一部壁溝が北方向に移動しているが、住居の主軸に対し東西方へ拡張して行く。特に西側への拡張が多く4本の壁溝が確認できる。元の住居の壁溝は上幅15.6~32.1cm・下幅1.7~19.3cm・深さ11.0~21.3cm、縮小部分上幅13.5~30.3cm・下幅3.2~16.7cm・深さ5.4~12.9cm、1回目拡張部分上幅14.0~25.1cm・下幅5.6~13.1cm・深さ5.8cm~20.7cm、2回目拡張部分上幅16.3~22.8cm・下幅6.3~11.3cm・深さ10.9~17.6cm、3回目拡張部分上幅10.9~48.9cm・下幅4.7~26.0cm・深さ6.0~26.0cmを測る。床面:一部焼土範囲が確認できる。炉:石囲い炉の炉1と埋裏炉の炉2が隣接して検出された。炉1は炉2を切っている。それぞれがどの縮小・拡張段階に伴うかは断定できない。炉2は住居のやや北寄りに位置し、炉1は住居中央のやや東よりに位置することになる。炉1は周囲に礫が配された不整形の石囲い炉である。57.3×51.4cmの焼土範囲が確認でき、125.8×116.8cm、深さ11.2cmを測る。炉2は炉1に先行する不整形の埋裏炉である。28.6×22.5cmの焼土範囲が確認できる。炉2には深鉢形土器の上半



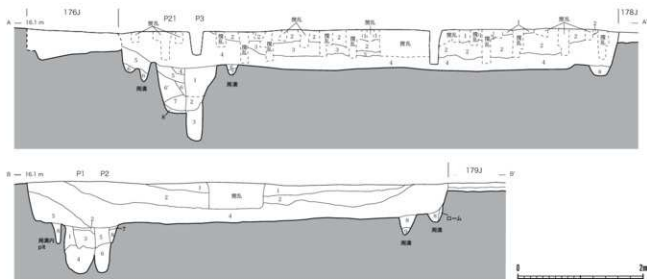
第13図 174号住居跡1 (1/60)



174号住居跡全景 (東より)



174号住居跡全景 (南より)



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～2mmの焼土粒を微量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～2mmの焼土粒を少量、径1～2mmの炭化粒を多量含む。しまり強く、粘性弱い。1層よりやや明るい。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～3mmの焼土粒を少量、径1mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径1～3mmの焼土粒を少量、径1～3mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～2mmの焼土粒を少量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。4層よりやや暗い。
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～2mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。両層覆土。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。両層覆土。
- 8 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量、径5～10mmのロームブロックを微量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。両層覆土。
- 9 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を微量、径5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。両層覆土。

## P1・P2

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量、径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。上部はやや暗く両層か？覆土に粘土を含む。P9と同層。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～20mmのロームブロックを少量、径1mmの焼土粒を微量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。粘土。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～20mmのロームブロックを少量、径1mmの焼土粒を微量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。

## P3・P21

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) P3覆土、径1～3mmのローム粒を少量、径10～15mmのロームブロックを微量、径1mmの焼土粒を微量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

- 2 暗褐色土 (10YR3/3) P3覆土。径1～3mmのローム粒を多量、径1～2mmの焼土粒を微量、径1～3mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) P3覆土。径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) P21覆土。径1～3mmのローム粒を多量、径1～2mmの焼土粒を微量、径1～3mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) P21覆土。径1～3mmのローム粒を多量、径10～20mmのロームブロックを少量、径1mmの焼土粒を微量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) P21覆土。径1～3mmのローム粒を少量、径5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- 7 暗褐色土 (10YR3/6) P21覆土。径1～3mmのローム粒を多量、径10～50mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 8 暗褐色土 (10YR3/4) P21覆土。径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 9 褐色土 (10YR4/4) P21覆土。径1～3mmのローム粒を多量、径10～20mmのロームブロックを多量含む。柱穴あたり弱み。

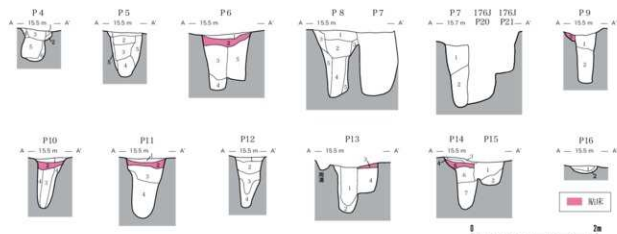
第14図 174号住居跡2 (1/60)



174号住居跡Aセクション (南より)

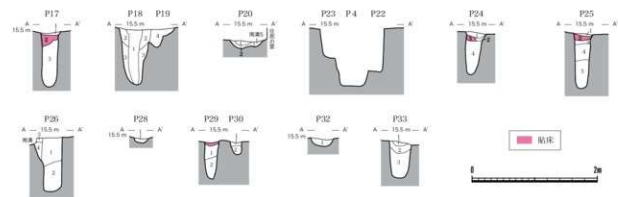


174号住居跡Bセクション (東より)



- P4  
 1 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを散見。径1~2mmの焼土粒を散見含む。しまり強く、粘性あり。両隣2層土。  
 2 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少量。径10~20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。両隣2層土。  
 3 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを散見。径1~2mmの焼土粒を散見。径1~2mmの炭化粒を散見含む。しまり強く、粘性あり。  
 4 黄褐色土 (10YR5/6) 径1~3mmのローム粒を多量。径10~30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。  
 5 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。  
 6 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。
- P5  
 1 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径1~2mmの焼土粒を散見。径1~2mmの炭化粒を散見含む。しまり強く、粘性あり。緊く纏まっているが暗褐色ロームブロックはない。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを散見。径1~2mmの炭化粒を散見含む。しまり・粘性あり。  
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を散見。径5~10mmのロームブロックを散見含む。しまり弱く、粘性あり。  
 4 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を散見含む。しまり弱く、粘性あり。  
 5 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~30mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P6  
 1 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~10mmのロームブロックを散見。径1~3mmの焼土粒を散見。径1~2mmの炭化粒を散見含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 黄褐色土 (10YR5/6) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~30mmのロームブロックを多量含む。粘土。  
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~30mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。  
 4 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 5 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~20mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
- P7  
 1 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量。径1~2mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量。径5~10mmのロームブロックを少量。径1~2mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- P8  
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量。径10~20mmのロームブロックを散見。径1~2mmの焼土粒を散見。径1~3mmの炭化粒を散見含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量。径5~20mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。  
 3 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径10~20mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。  
 4 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。  
 5 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径10~30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
- P9  
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。6層よりロームブロック粗い。
- P10  
 1 褐色土 (10YR4/4) 176JP19の1層と同等。  
 2 黄褐色土 (10YR5/6) 粘土。176JP19の2層と同等。  
 3 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~20mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。  
 4 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。筋状に黄褐色土が混入。
- P11  
 1 褐色土 (10YR4/4) PGの1層と同等。  
 2 黄褐色土 (10YR5/6) 粘土。PGの2層と同等。  
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量。径1~2mmの炭化粒を散見。径1~2mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 4 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~30mmのロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性あり。
- P12  
 1 褐色土 (10YR4/4) PGの1層と同等。  
 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量。径1~2mmの炭化粒を散見含む。しまり弱く、粘性あり。PGの2層に似る。  
 3 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。PGの3層に似る。  
 4 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量。径5~10mmのロームブロックを散見含む。しまり弱く、粘性あり。PGの4層に似る。
- P13  
 1 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量。径1~2mmの炭化粒を散見。径1~3mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。  
 3 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。  
 4 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P14・P15  
 P14層上、径1~3mmのローム粒を多量。径5~10mmのロームブロックを少量。径1~2mmの炭化粒を散見。径1~2mmの炭化粒を散見含む。しまり強く、粘性あり。  
 P15層上、径1~3mmのローム粒を少量。径1~2mmの炭化粒を散見含む。しまり・粘性あり。  
 P14層上、径1~3mmのローム粒を多量。径5~10mmのロームブロックを少量。径1~2mmの炭化粒を少量。径1~2mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 P14層上、径1~3mmのローム粒を多量。径5~20mmのロームブロックを少量。径1~2mmの炭化粒を散見含む。しまり弱く、粘性あり。  
 P14層上、径1~3mmのローム粒を多量。径5~15mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。  
 P14層上、粘土。176JP19の2層と同等。  
 P14層上、径1~3mmのローム粒を多量。径5~40mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。  
 P14層上、径1~3mmのローム粒を多量。径10~50mmのロームブロックを多量含む。しまり弱く、粘性あり。6層よりロームブロック粗い。
- P16  
 1 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量。径1~2mmの炭化粒を散見。径1~3mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量。径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

第15図 174号住居跡3(1/60)



- P17**  
 1 暗褐色土 (10YR4/4) 176P19の1層と同等。  
 2 黄褐色土 (10YR5/6) 粘床。P6の2層と同等。  
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。P14の4層に似る。
- P18・P19**  
 1 暗褐色土 (10YR3/3) P18層上、径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを微量。径1～2mmの焼土粒を微量。径1～3mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 2 褐色土 (10YR4/4) P18層上、径1～3mmのローム粒を多量、径5～30mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 3 暗褐色土 (10YR3/4) P18層上、径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 4 褐色土 (10YR4/4) P19層上、径1～3mmのローム粒を多量、径5～40mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P20**  
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性強い。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量。径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性強い。
- P24**  
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmの焼土粒を少量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
 2 黄褐色土 (10YR4/3) 径1～3mmのローム粒を少量。径1～3mmの焼土粒を多量。径5～10mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性なし。  
 3 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量。径10～30mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性弱い。ロームブロックは焼熱している。粘床。  
 4 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量。径5～15mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
- P25**  
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量。径1～2mmの焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量。径10～100mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。粘床。  
 3 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量。径5～20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3)** 径1～3mmのローム粒を少量。径5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
**5 暗褐色土 (10YR3/3)** 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P26**  
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量。径1～3mmの焼土粒を微量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 3 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を少量。径10～30mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。  
 4 黄褐色土 (10YR5/6) 径1～3mmのローム粒を多量。径5～20mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
- P28**  
 1 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を多量。径1～3mmの焼土粒を少量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- P29**  
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量。径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P30**  
 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量。径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- P32**  
 1 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- P33**  
 1 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を微量。径1～3mmの焼土粒を微量。径5～10mmの焼土ブロックを微量含む。粘性あり。粘性弱い。ロームは焼熱している。  
 2 赤褐色土 (10YR4/6) 径1～3mmのローム粒を多量。径5～10mmのロームブロックを多量。径1～3mmの焼土粒を多量。径5～10mmの焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性弱い。ローム粒・ロームブロックは焼熱している。  
 3 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量。径5～50mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性なし。ボソボソしている。

第16図 174号住居跡4 (1/60)



174号住居跡P6粘床下セクション(東より)



174号住居跡P10粘床下セクション(南より)

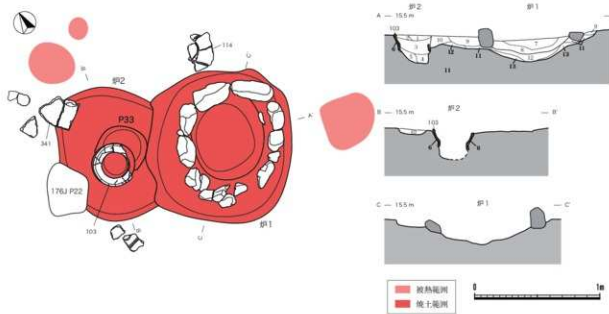


部が埋設されている。炉土器（103）は176Jのピットを利用し、埋設したものである。107.9×不明cm、深さ14.0cmを測る。柱穴：縮小、拡張に伴い2回の柱の立て替えが考えられる。立て替え前の主柱穴はP6南側・10・14・17・25・27、縮小による立て替え後の主柱穴はP6北側、10・14・17・24・29、拡張による立て替え後の主柱穴はP1・2・3・4・8・9・12・13・18・21と思われる。

〔埋 裏〕住居南壁周溝付近のP27・31から出土した。東側に位置するP31は49.8×38.9cm、深さ35.2cmの楕円形の掘り込みを持ち、深鉢形土器の上半部（438）が埋設している。住居が建てられた当初から3回目の柱の建て替えが行われるまでの時期に帰属すると思われる。西側に位置するP27は、住居が建てられた際柱穴として使用されたものの南側を若干掘り直し、深鉢形土器の上半部（282）を埋設したものである。56.9×38.4cm、深さ36cmを測る。一番内側の周溝に切られているため、住居が建てられた当初から縮小されるまでの時期に帰属すると思われる。覆土からは土器片が複数出土し、うち16点は同一個体（282）として接合している。

〔覆 土〕9層。

〔遺 物〕2点の埋裏、炉2に埋設されていた埋裏のほか、覆土中から非常に多量に出土した。また、炉2の炉土器の覆土中からは獣骨と思われる骨片が検出されている。出土位置が判明している土器は4,732点であり、うち五領ヶ台式1点、阿玉台式161点、勝坂式358点、曾利式228点、加曾利



炉1・2

- 1 暗赤褐色土 (10YR3/4) 径1～2mmのローム粒を少量、径1～2mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～3mmの焼土粒を少量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗赤褐色土 (2.5YR3/2) 径1～3mmのローム粒を少量、径10～20mmのロームブロックを少量、径1～2mmの焼土粒を多量含む。しまり・粘性あり。上層にロームブロック筋状の一部が見られる。骨片散見。
- 4 暗赤褐色土 (2.5YR3/2) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを少量、径1～2mmの焼土粒を多量含む。しまり・粘性弱い。
- 5 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を少量、径10～50mmのロームブロックを少量、径1～3mmの焼土粒を少量含む。しまり強く、粘性弱い。
- 6 明赤褐色土 (10YR5/5) 径1～3mmの焼土粒を多量含む。しまりあり、粘性強い。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～3mmの焼土粒を少量、径1～2mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 8 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～3mmの焼土粒を多量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 9 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を微量、径1～3mmの焼土粒を多量、径10mmの焼土ブロックを微量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。振り方。
- 10 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径10～20mmのロームブロックを多量、径1～2mmの焼土粒を微量、径5～10mmの焼土ブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 11 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を少量、径5～10mmのロームブロックを微量、径1～3mmの焼土粒を少量含む。しまりあり、粘性弱い。振り方。
- 12 明赤褐色土 (5YR5/5) 径1～3mmの焼土粒を多量、径10～30mmの焼土ブロックを多量含む。しまり強く、粘性なし。振り方。
- 13 明赤褐色土 (10YR6/6) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～20mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性なし。焼熱ロームブロック。

第17図 174号住居跡炉(1/30)



174号住居跡が1・2検出状況(南より)



174号住居跡が1・2全景(南より)



174号住居跡が1セクション(南より)



174号住居跡が2セクション下部(南より)

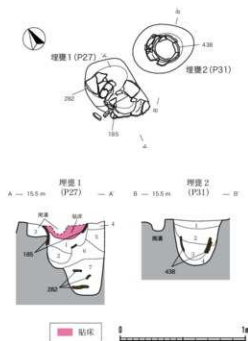


174号住居跡が周辺遺物出土状態(西より)



174号住居跡が2骨片出土状態(南より)

E式 2,066点、連弧文 277点、土器片鉢 10点、土製円盤 11点、不明土製品 2点である。出土した石器の総点数は 471点、31,275.0gで、器種の内訳は、石鏃 2点、石鏃未製品 1点、楔形石器 12点、両極剥片 4点、石錐 1点、二次的剥離のある剥片 16点(剥片石器系石材 4点、打製石斧系石材 12点)、不規則剥離のある剥片 7点(剥片石器系石材 5点、打製石斧系石材 2点)、剥片 69点(剥片石器系石材 40点、打製石斧系石材 27点、磨製石斧系石材 1点、礫石器系石材 1点)、調整剥片 70点(剥片石器系石材 52点、打製石斧系石材 16点、磨製石斧系石材 2点)、碎片 55点(剥片石器系石材 18点、打製石斧系石材 24点、磨製石斧系石材 3点、礫石器系石材 10点)、石核 3点(剥片石器系石材)、打製石斧 84点、横刃形石器 3点、磨製石斧 3点、磨石 8点、敲石 79点、砥石 2点、石皿 4点、軽石 2点、凹石 2点、線刻礫 1点、片岩製石器 43点、石材の内訳は、黒曜石 126点、チャート 17点、真岩 1点、



第18図 174号住居跡埋裏(1/30)

## 埋裏1 (P27)

- 1 暗褐色土 (10YR3/2) 径1~3mmのローム粒を少量、径10~15mmのロームブロックを少量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。河溝層土。
- 4 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径10~20mmのロームブロックを少量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。裏り方粘土。
- 5 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径1~3mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。裏り方。
- 6 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~20mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性強い。裏り方。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまりあり、粘性強い。裏り方。土器片含む。

## 埋裏2 (P31)

- 1 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~20mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性強い。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~20mmのロームブロックを少量、しまり強く、粘性あり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~20mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性強い。裏り方。



174号住居跡埋裏1・2 (P27・31) 全景(東より)



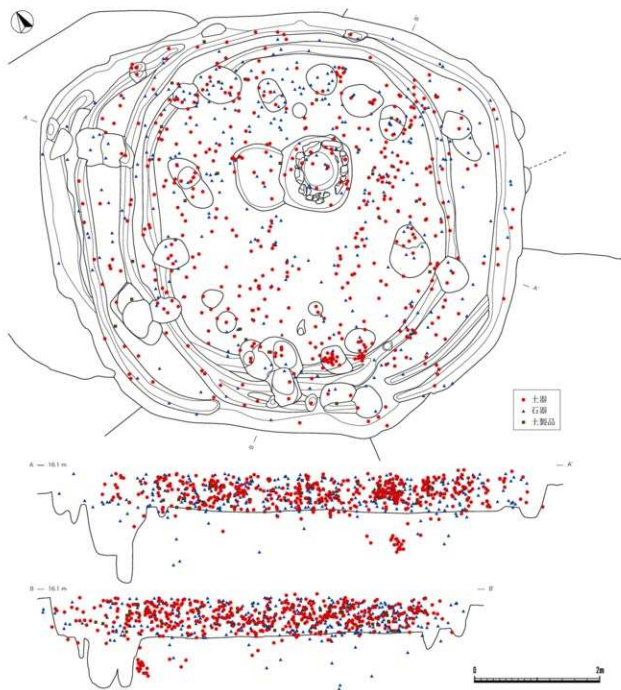
174号住居跡埋裏1 (P27) Aセクション(東より)



174号住居跡埋裏2 (P31) Bセクション(東より)



174号住居跡被熱範囲



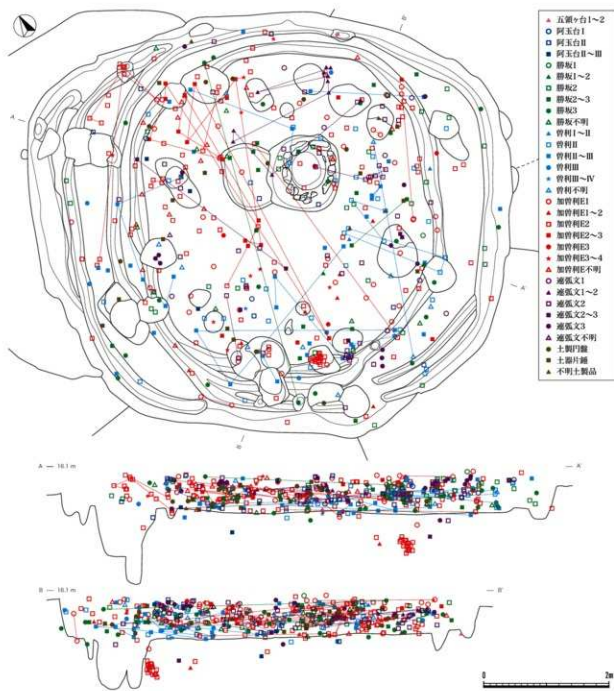
第19図 174号住居跡遺物出土状態 (1/60)



174号住居跡遺物出土全景 (東より)



174号住居跡遺物出土全景 (北より)



第20図 174号住居跡土器出土状態(1/60)



174号住居跡遺物出土状態(西より)



174号住居跡土製品出土状態(東より)



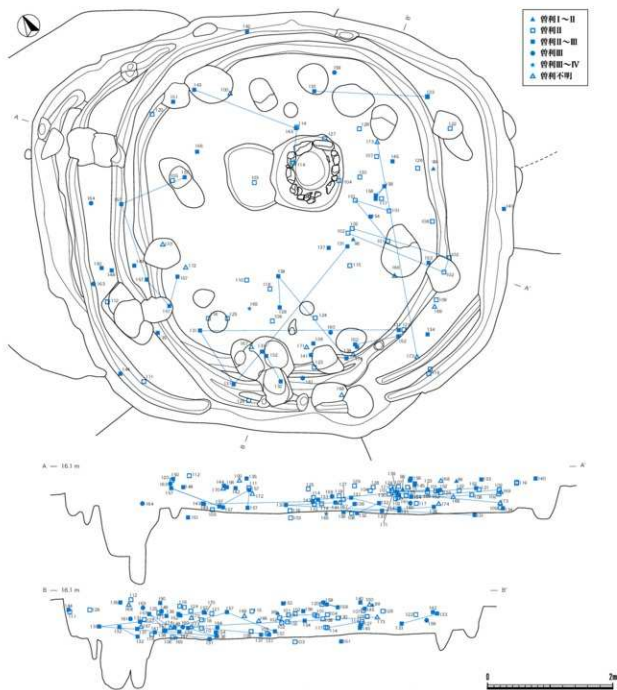
第21図 174号住居跡土器出土状態2 (1/60)



174号住居跡遺物出土状態



174号住居跡遺物出土状態(西より)



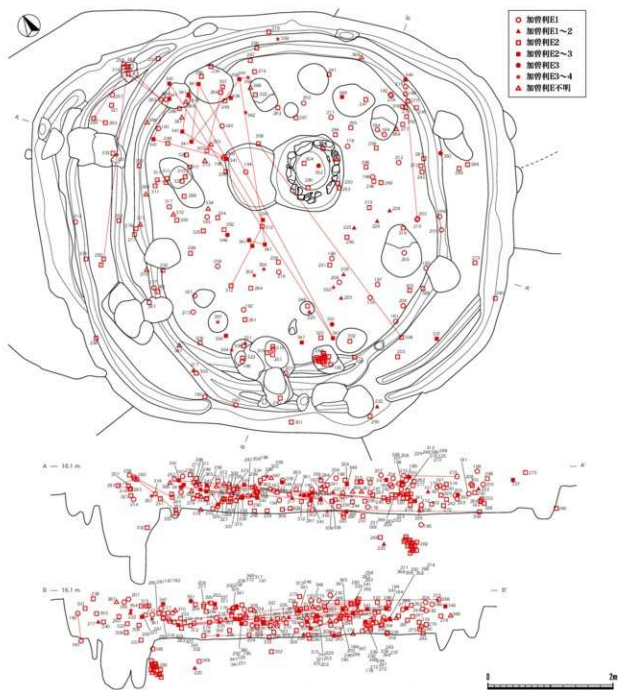
第22図 174号住居跡土器出土状態 3 (1/60)



174号住居跡遺物出土状態(西より)



174号住居跡遺物出土状態



第23図 174号住居跡土器出土状態 4 (1/60)



174号住居跡遺物出土状態



174号住居跡遺物出土状態





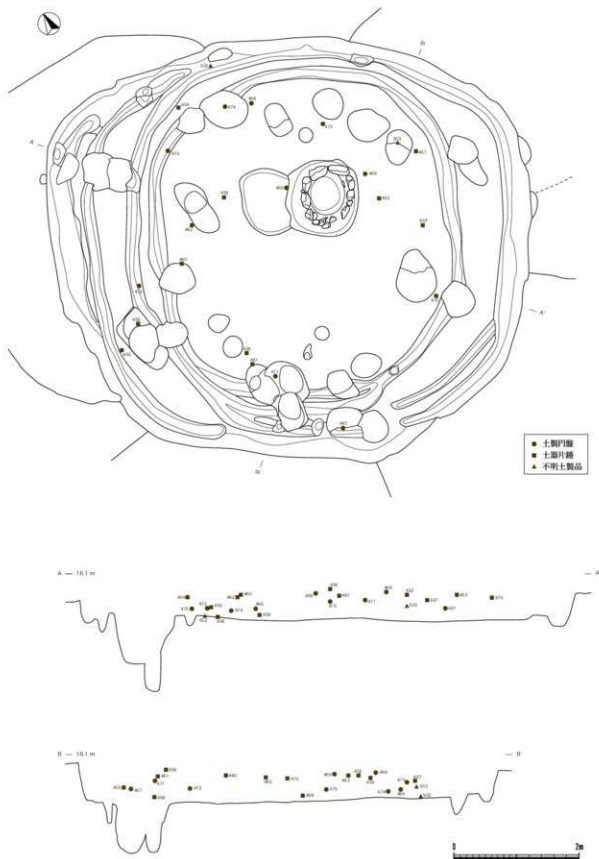
第24图 174号住居跡土器出土状態(1/60)



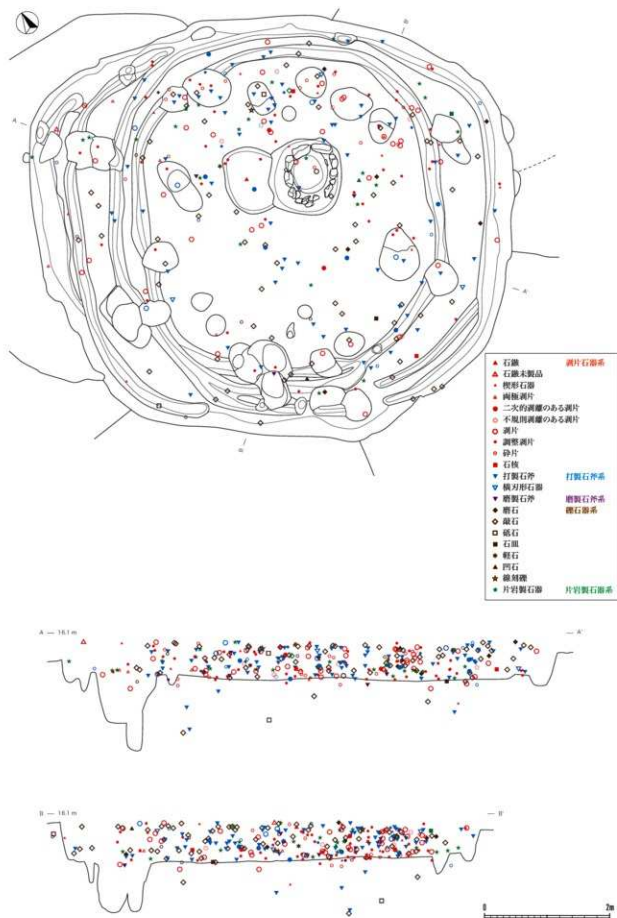
174号住居跡遺物出土状態



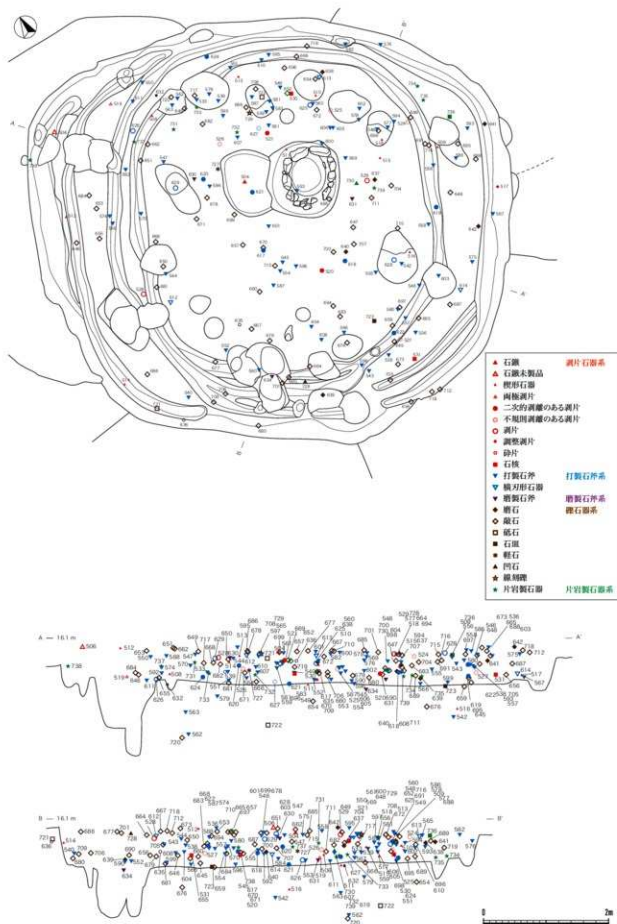
174号住居跡遺物出土状態

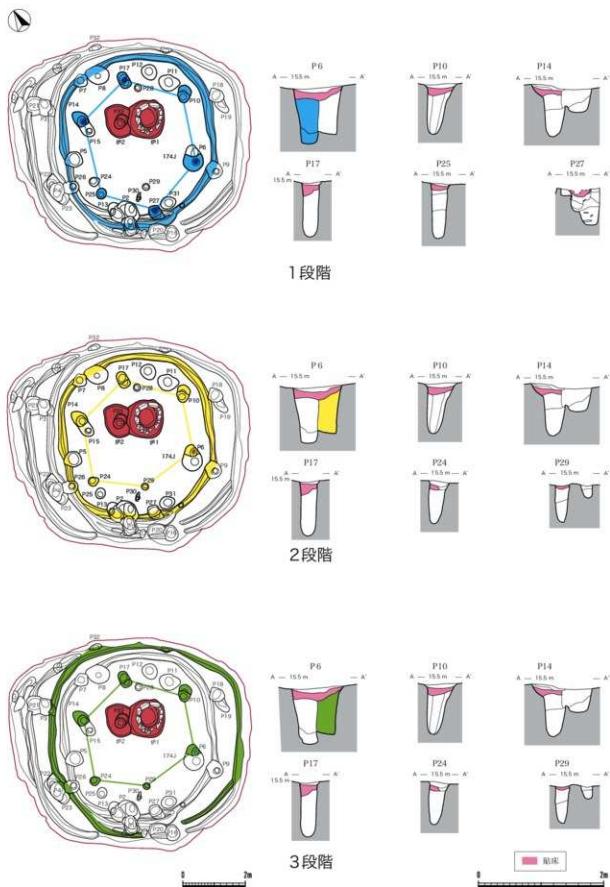


第25図 174号住居跡土製品出土状態(1/60)

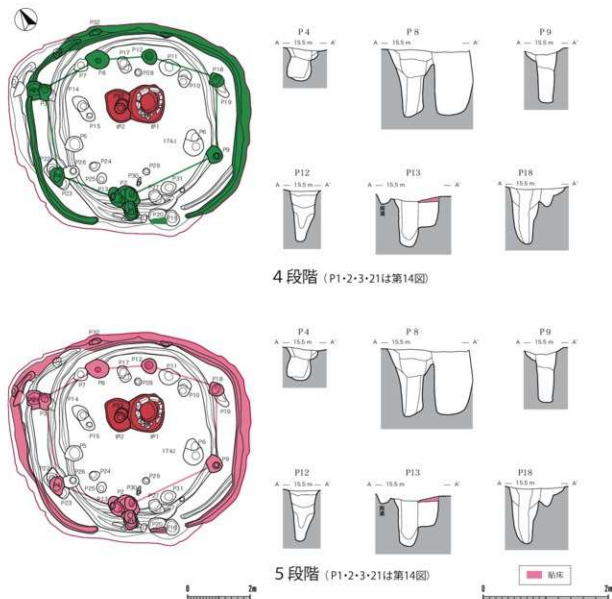


第26図 174号住居跡石器出土状態1 (1/60)





第28圖 174号住居跡変遷図1 (1/120・1/60)



第29図 174号住居跡変遷図2 (1/120・1/60)

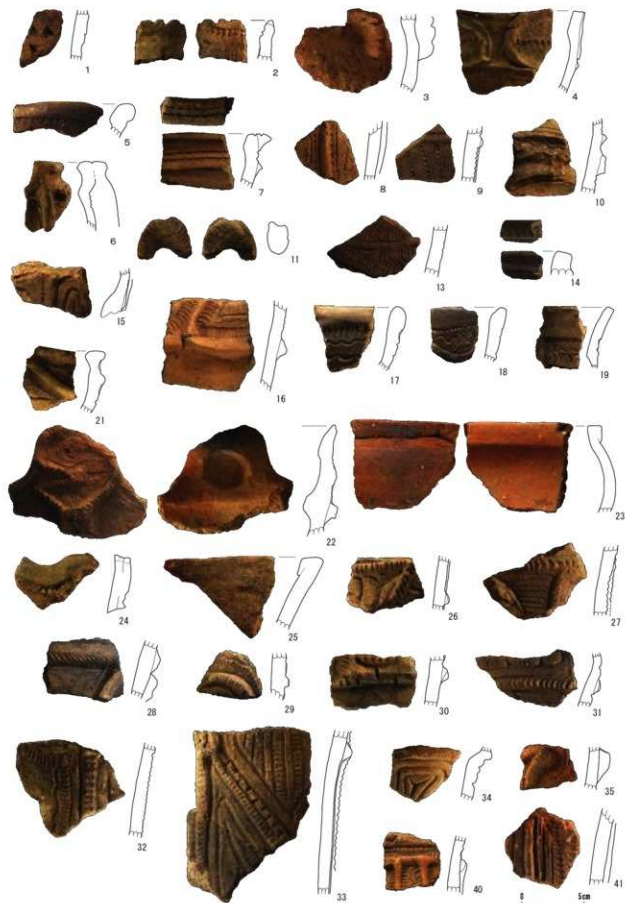
硬質頁岩1点、ガラス質黒色安山岩1点、ホルンフェルス86点、砂岩151点、片状砂岩1点、細粒凝灰岩1点、凝灰岩16点、緑色岩2点、安山岩9点、閃緑岩9点、ハンレイ岩1点、砂質片岩10点、緑泥片岩24点、結晶片岩13点、安山岩質火山弾2点である。

【時期】加曾利E1～E3式期。

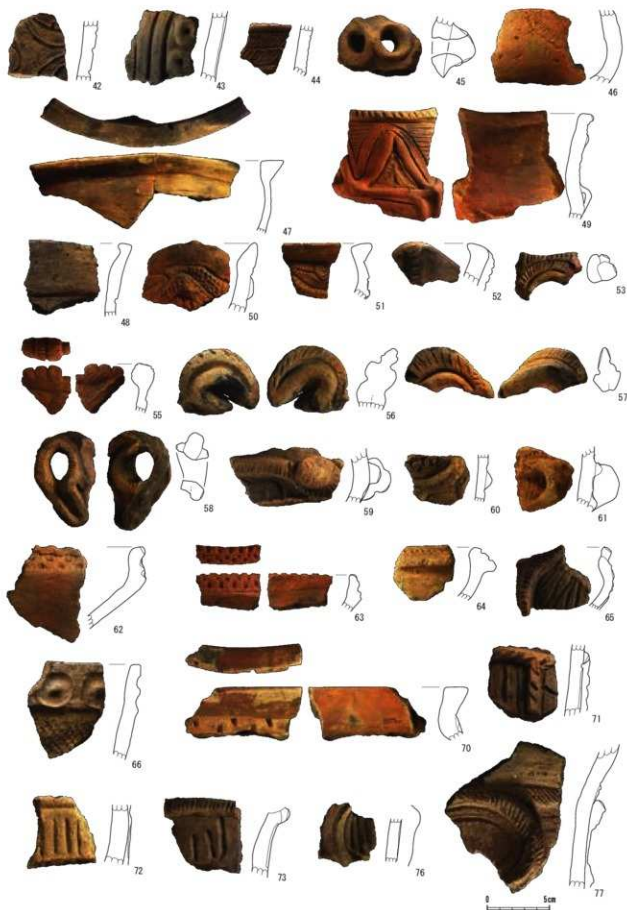
【備考】3回目の柱の建て替えより前のピットは貼床により閉塞されており、検出時には僅かに窪んでいたことが確認されている。そのことから、3回目の柱の建て替え後の貼床の厚さは6cm前後と推測される。

遺物 (第30～60図、第10～25・42～48表)

五領ヶ台式(1)、阿玉台式(2～15)、勝坂式(16～97)、曾利式(98～175)、加曾利E式

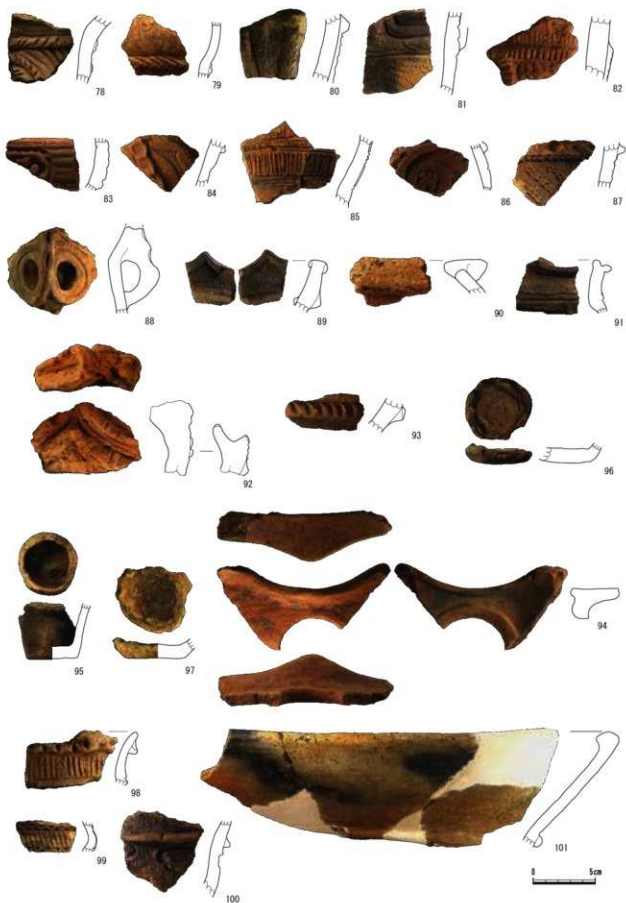


第30图 174号住居跡出土土器1(1/3)

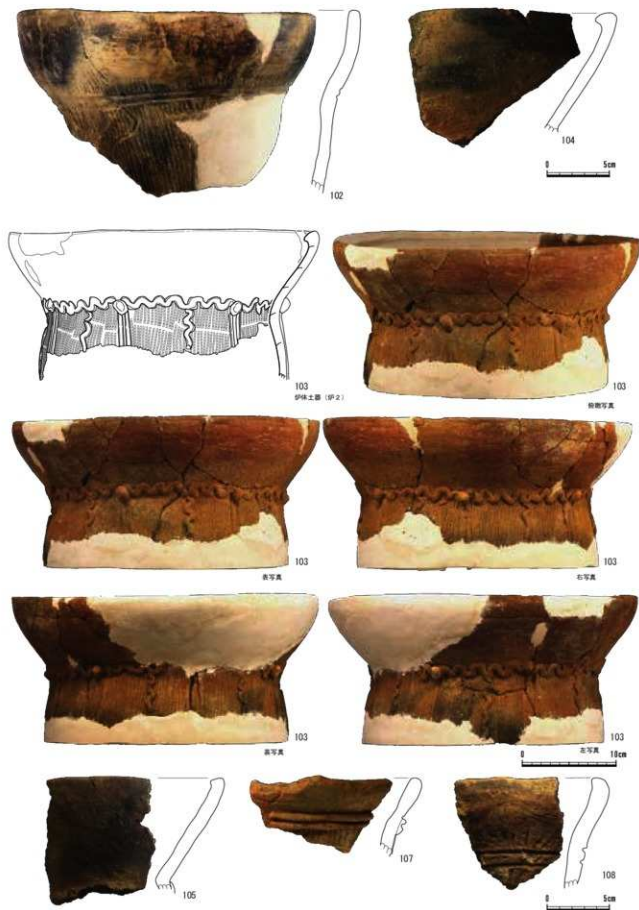


第31图 174号住居跡出土土器2(1/3)

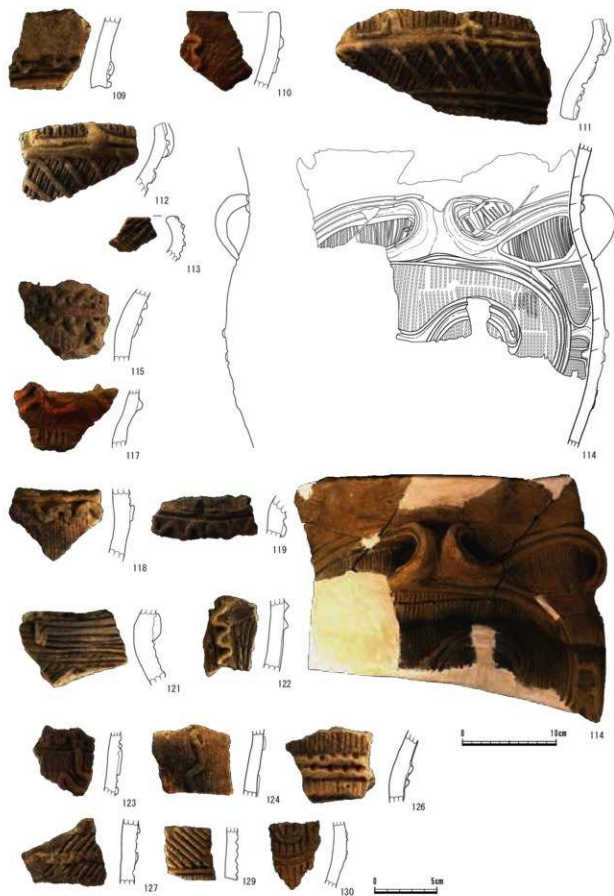




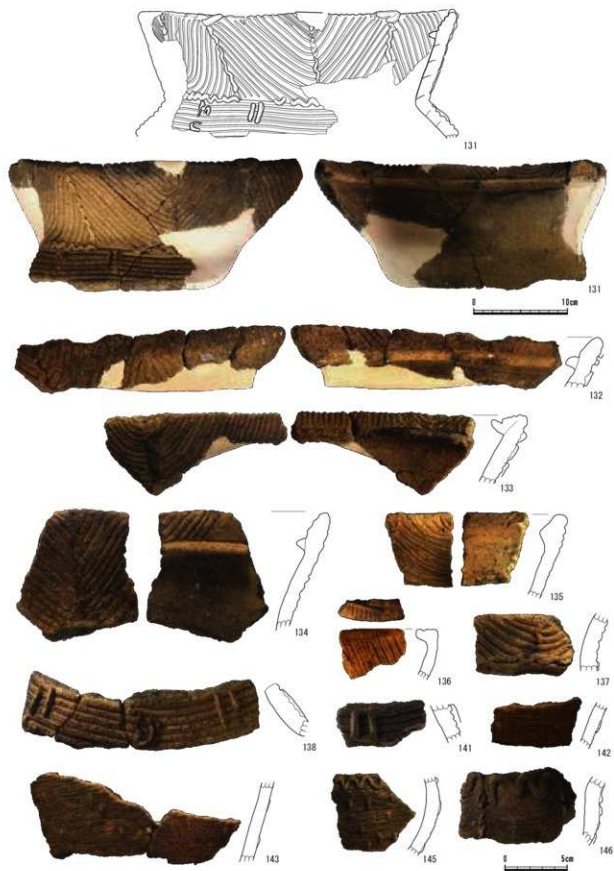
第32图 174号住居跡出土土器3(1/3)



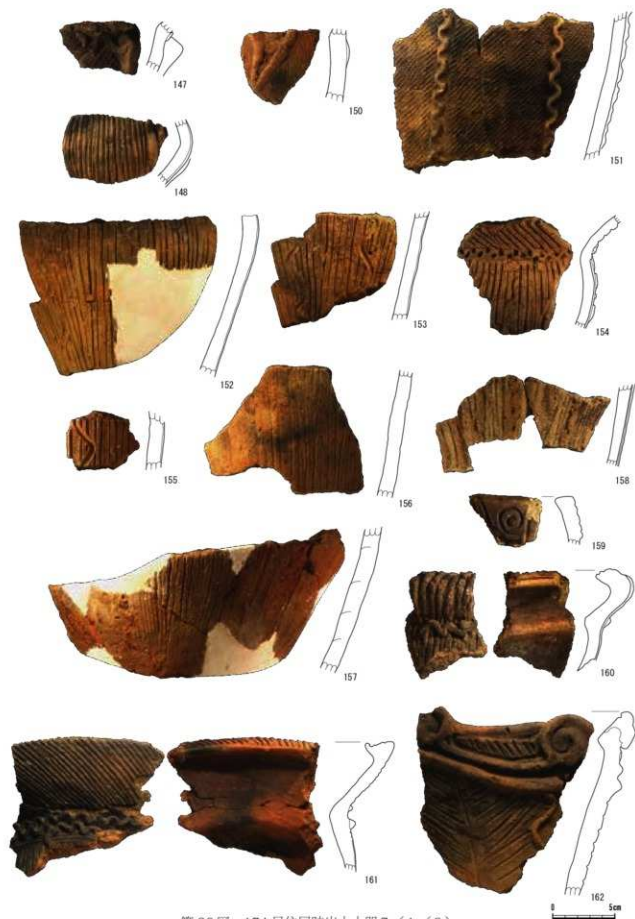
第33图 174号住居跡出土土器4 (1/4・1/3)



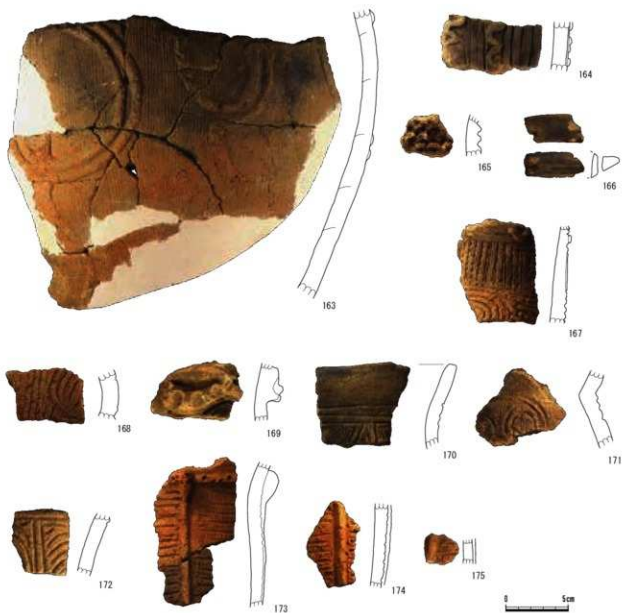
第34图 174号住居跡出土土器5 (1/4・1/3)



第35图 174号住居跡出土土器6 (1/4・1/3)

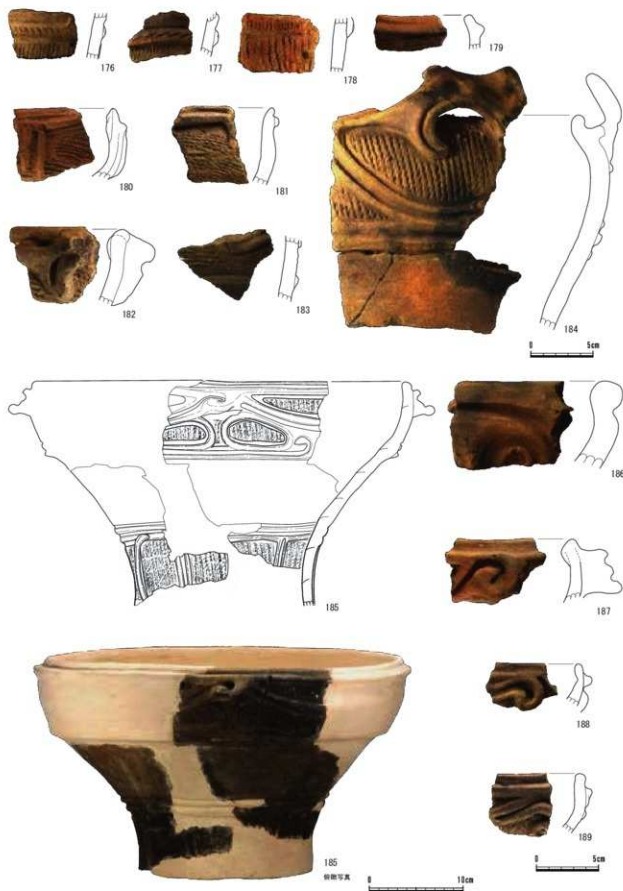


第36图 174号住居跡出土土器7(1/3)

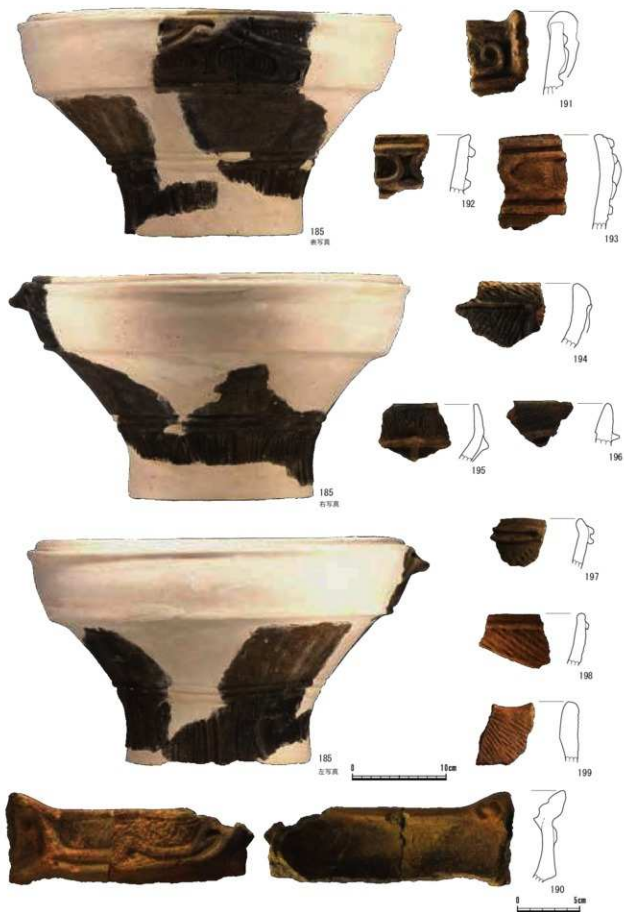


第37図 174号住居跡出土土器8 (1/3)

(176～393)、連弧文(394～450)、称名寺式(451)、土器片錘(452～465)、土製円盤(466～501)、不明土製品(502～503)、石鏃(504～505)、石鏃未製品(506)、石錐(507)、楔形石器(508～518)、両極剥片(519)、二次的剥離のある剥片(520～523)、不規則剥離のある剥片(524～527)、剥片(剥片石器系:528～529)、石核(530～532)、打製石斧(533～611)、横刃形石器(612～614)、二次的剥離のある剥片(打製石斧系:615～622、624)、不規則剥離のある剥片(打製石斧系:623、627)、剥片(打製石斧系:625～626、628～629)、磨製石斧(630～631、634)、剥片(磨製石斧系:633)、砕片(磨製石斧系:635～636)、磨石(637～644)、敲石(645～720)、砥石(721～722)、石皿(723～725、736)、軽石(726～727)、凹石(728、730)、線刻礫(729)、片岩製石器(731～735、737～739)を図示した。103は炉2の炉体土器で口縁部径32.9cm、残存高15.9cm、185はP27の埋裏で残存部口縁部径38.2cm、残存高23.7cm、438はP31の埋裏で残存高19.7cm、胴部最大径30.1cmを測る。

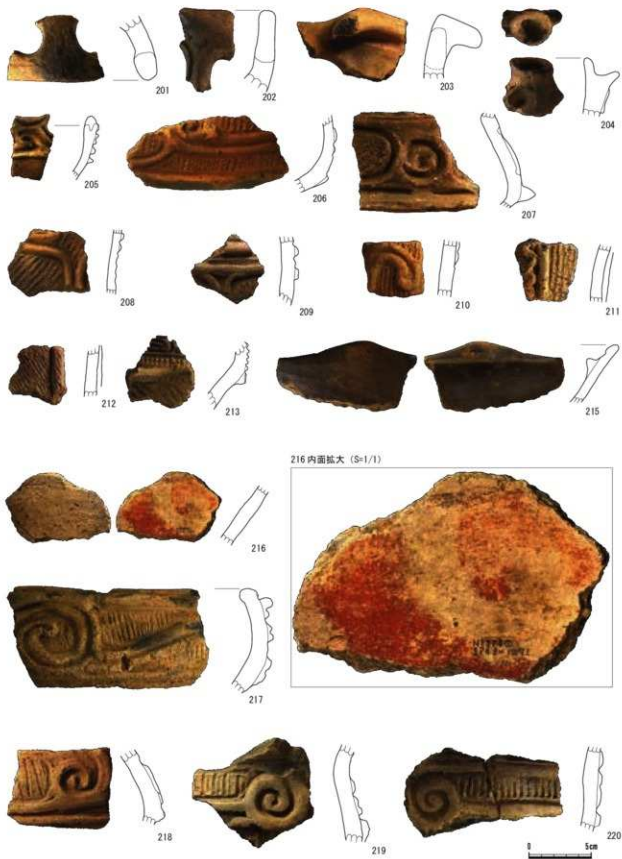


第38圖 174号住居跡出土土器9 (1/4・1/3)

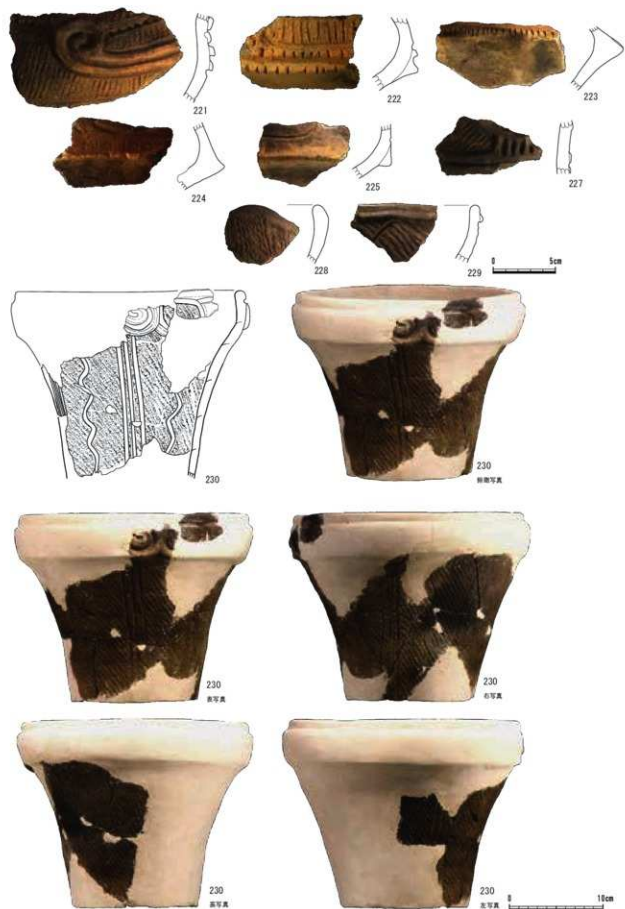


第39図 174号住居跡出土土器 10 (1/4・1/3)





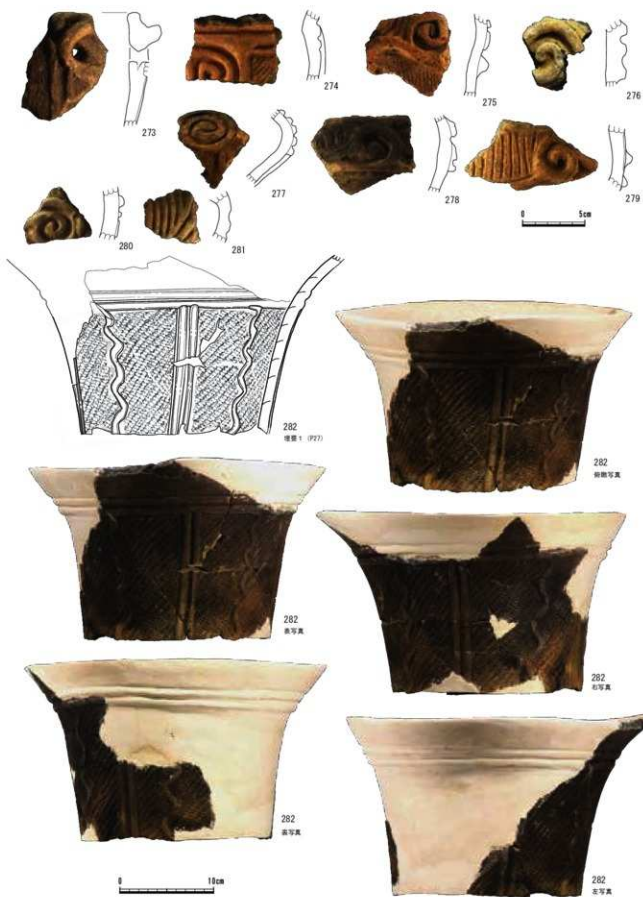
第40圖 174号住居跡出土土器11(1/3)



第41图 174号住居跡出土土器 12 (1/4・1/3)



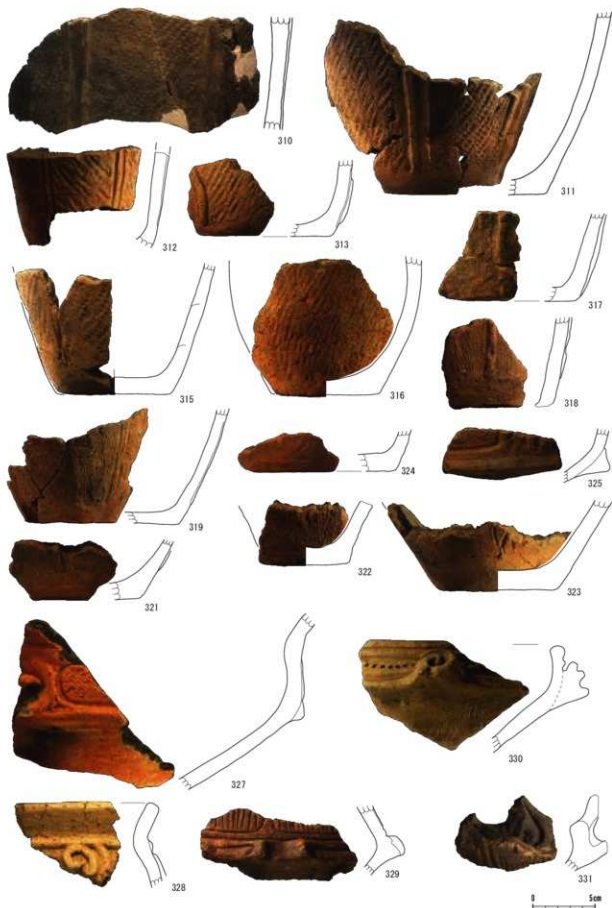
第42圖 174号住居跡出土土器13(1/3)



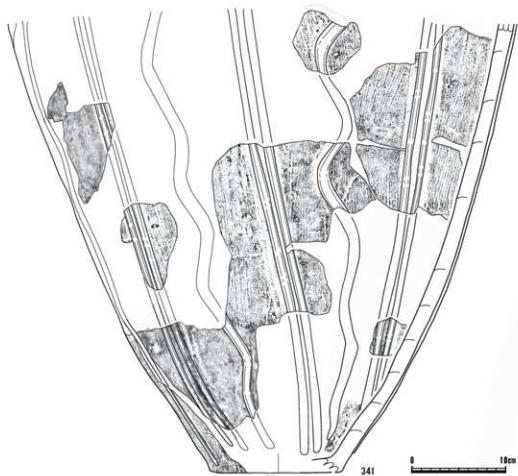
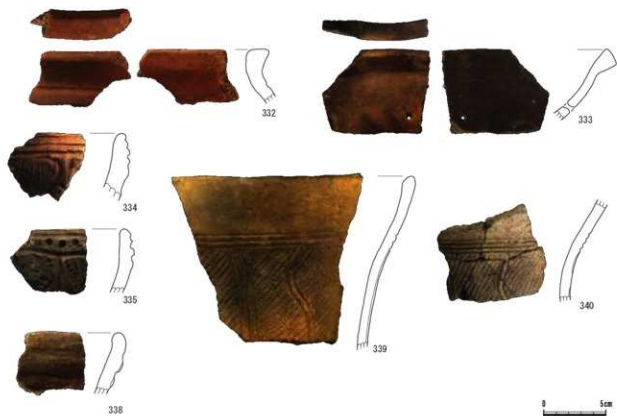
第43図 174号住居跡出土土器 14 (1/4・1/3)



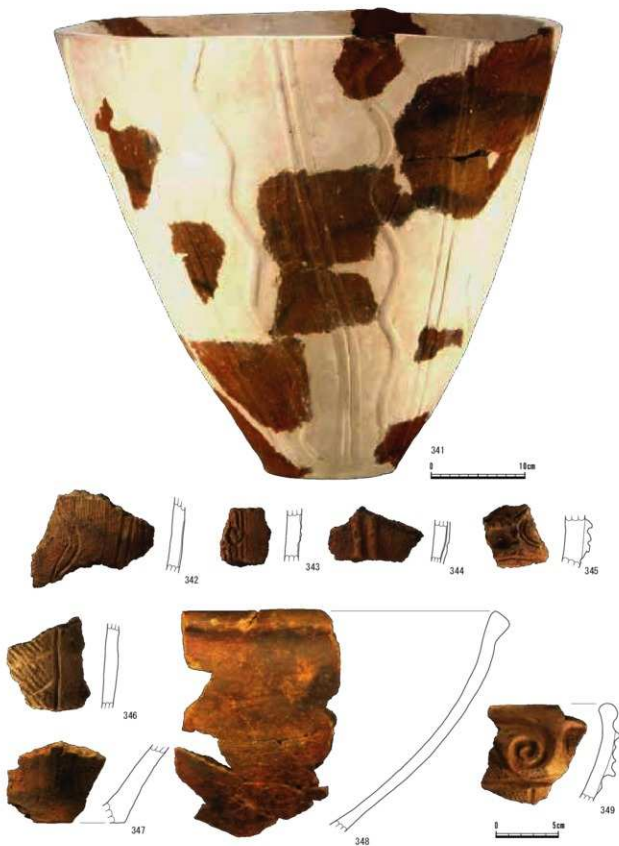
第44圖 174号住居跡出土土器 15 (1/4・1/3)



第45図 174号住居跡出土土器16(1/3)

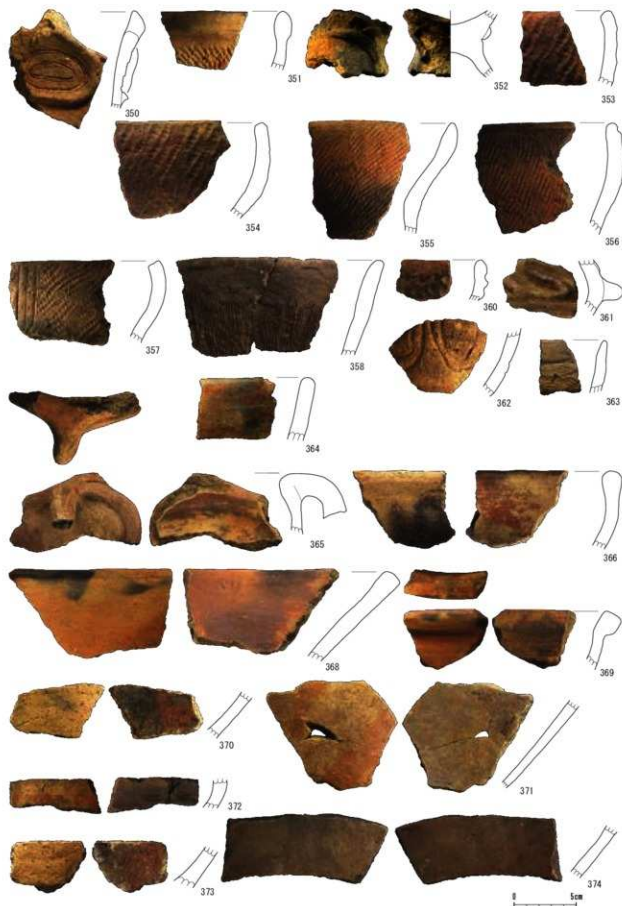


第46圖 174号住居跡出土土器 17 (1/4・1/3)

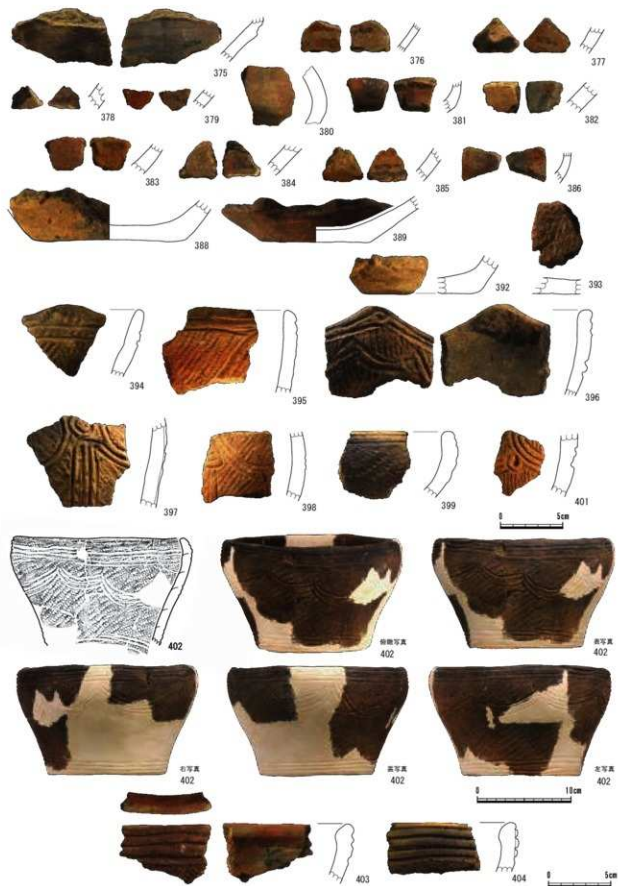


第47図 174号住居跡出土土器18(1/4・1/3)

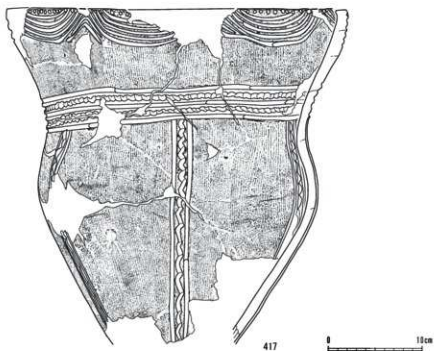
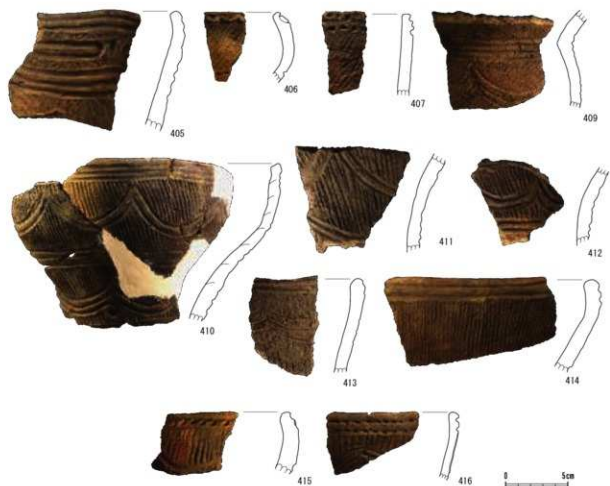




第48圖 174号住居跡出土土器19(1/3)



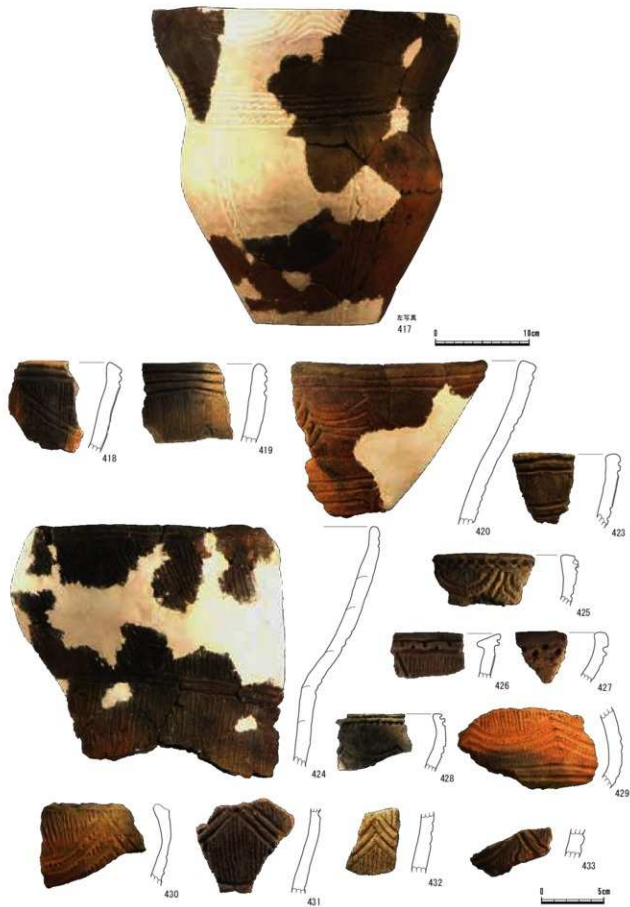
第49図 174号住居跡出土土器 20 (1/4・1/3)



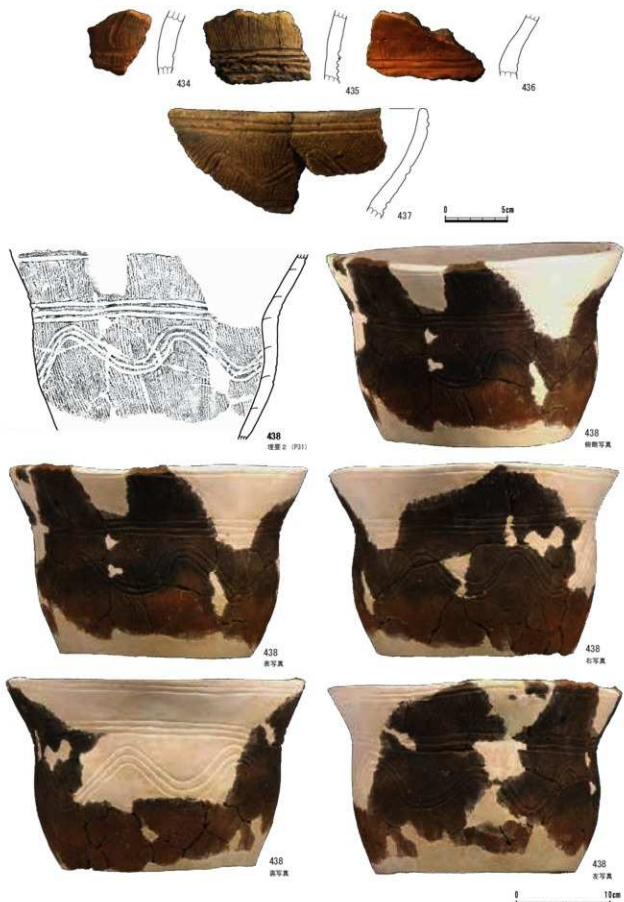
第50圖 174号住居跡出土土器 21 (1/4・1/3)



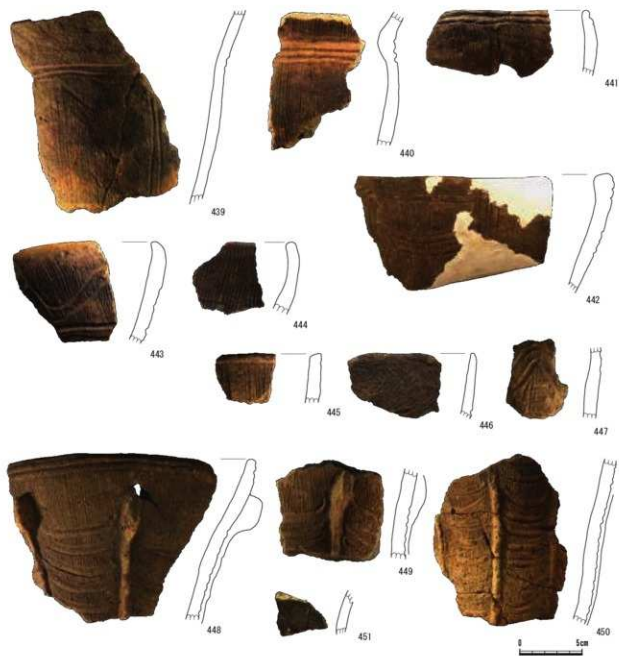
第51图 174号住居跡出土土器22(1/4)



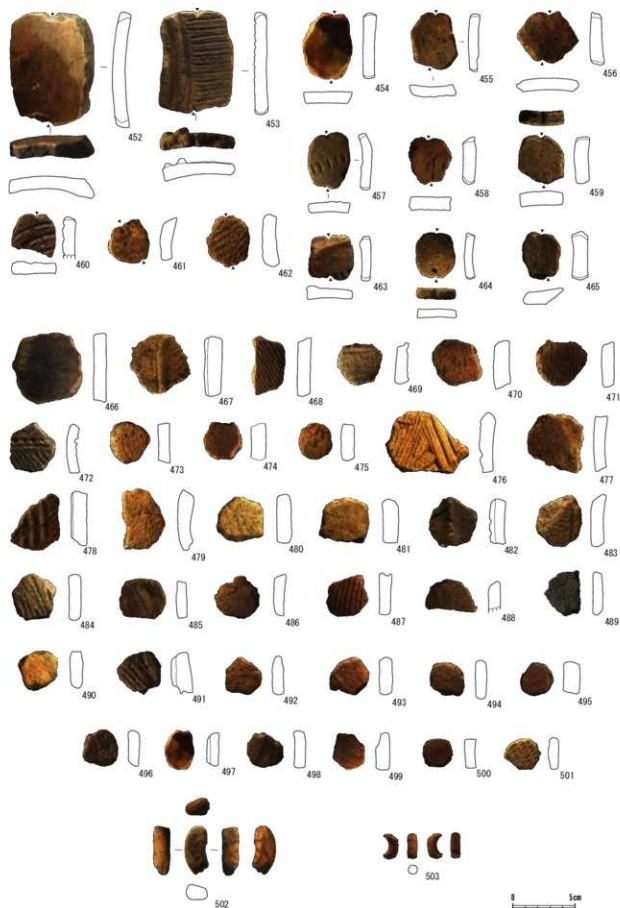
第52圖 174号住居跡出土土器 23 (1/4・1/3)



第53図 174号住居跡出土土器 24 (1/4・1/3)



第54圖 174号住居跡出土土器25(1/3)



第55図 174号住居跡出土土製品(1/3)





第56圖 174号住居跡出土石器1 (1/3・2/3)



第57図 174号住居跡出土石器2(1/3)



第58図 174号住居跡出土石器3(1/3)



第59図 174号住居跡出土石器4(1/3)



第60図 174号住居跡出土石器5(1/3)

## 175号住居跡

## 遺 構 (第61図)

[位 置] X=19440,Y=24152。

[住居構造] 耕作による攪乱が著しく、ピットが1基確認できるのみである。179J・565Yに切られる。

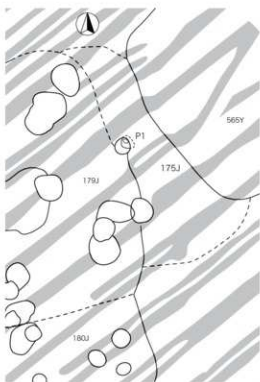
平面形:不明。規模:不明。主軸方位:不明。壁高・壁溝・床面:攪乱が著しいが一部硬質面が認められる。

炉:検出されなかった。柱穴:検出されなかった。

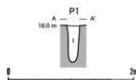
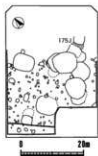
[覆 土] 削平により検出されなかった。

[遺 物] 検出されなかった。

[時 期] 179Jに切られるため、加曾利E1式以前と思われる。



第61図 175号住居跡 (1/60)



P1  
1 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量。  
径1mmの焼土粒を微量。径1mm  
の炭化粒を微量含む。しまり強  
く、粘性あり。



175号住居跡硬質面検出及び全景 (東から)

## 176号住居跡

## 遺 構 (第62~68図)

[位 置] X=19438,Y=24162。

[住居構造] 180J・653D・679Dを切り、174Jに切られる。壁溝が二重に巡り、一度拡張された可能性が高い。平面形:楕円形か?規模:不明。主軸方位:N-5°-E。拡張後も主軸方向に変更は見られない。壁高:13.1~25.3cmを測り、90°前後の角度で立ち上がる。壁溝:174Jに切られ西側半

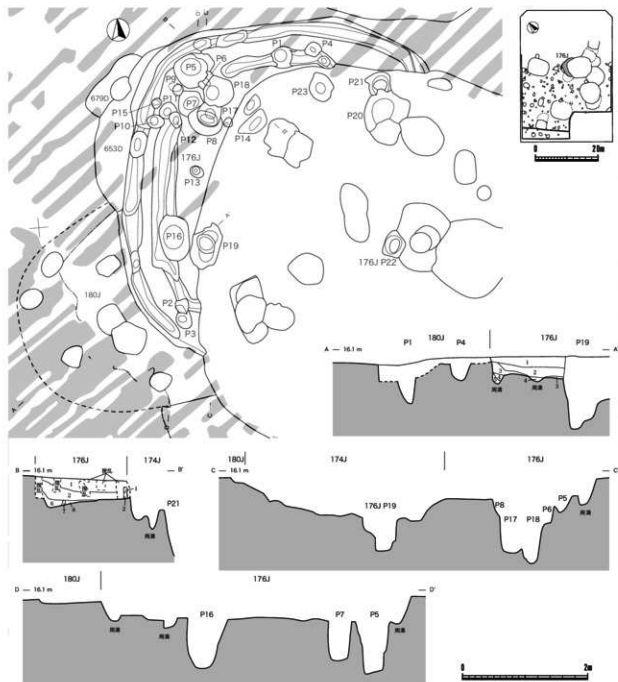
周のみ残存するが、二重の壁溝が確認される。拡張後壁溝は北西側上幅14.4~25.9cm・下幅5.0~

14.2cm・深さ11.4~12.9cm、南西側上幅19.0~32.1cm・下幅8.0~19.6cm・深さ7.7~15.2cm

を測る。拡張前壁溝は北西側上幅16.3~22.7cm・下幅6.0~11.7cm・深さ16.7~23.1cm、南西部

上幅19.4~27.8cm・下幅8.1~13.9cm・深さ23.1~28.4cmを測る。床面:耕作による攪乱が著

しい。炉:検出されなかった。柱穴:拡張前の主柱穴はP8・P9・23拡張後の主柱穴はP1・5・16・



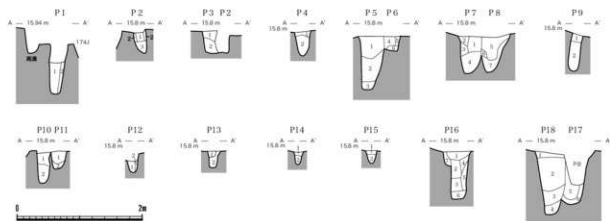
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~2mmのローム粒を多量、径1~2mmの焼土粒を微量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しり強く、粘性あり。  
 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~2mmのローム粒を多量、径1~2mmの焼土粒を微量、径1mmの炭化粒を微量含む。しり強く、粘性あり。  
 3 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~15mmのロームブロックを少量、径1~2mmの焼土粒を微量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しり強く、粘性あり。  
 4 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しり強く、粘性あり。  
 5 暗褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径10~30mmのロームブロックを多量含む。しり強く、粘性あり。  
 6 暗褐色土 (10YR4/4) 暗褐色土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~20mmのロームブロックを少量含む。しり強く、粘性あり。  
 7 黄褐色土 (10YR5/6) 灰ロームブロック。径10~30mmのロームブロックを多量含む。しり・粘性強い。  
 8 暗褐色土 (10YR3/4) P5層。径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しり強く、粘性あり。

第62図 176号住居跡1 (1/60)

20・21と思われる。また、174JP33も176Jの拡張後のピットである可能性が高い。

〔覆土〕8層。

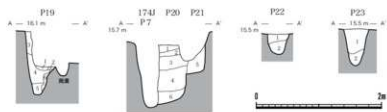
〔遺物〕覆土中から比較的多量に出土した。出土位置が判明している土器は125点であり、うち阿玉台式9点、勝坂式21点、曾利式1点、加曾利E式42点である。出土した石器の総点数は22点、2,496.2g



- P1**
- 1 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~20mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- P2**
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
  - 3 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- P3・P4**
- 1 褐色土 (10YR4/4) 粘土。径1~3mmのローム粒を多量、径10~15mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
  - 2 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- P5・P6**
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) P5層土。径1~3mmのローム粒を少量、径5mmの粘土ブロックを微量。径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/3) P5層土。径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 3 暗褐色土 (10YR3/4) P5層土。径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 4 黄~黄褐色土 (10YR4/3) P6層土。径1~3mmのローム粒を多量、径20mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 5 暗褐色土 (10YR3/3) P6層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 6 褐色土 (10YR4/6) P6層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性強い。
- P7・P8**
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) P7層土。径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量。径1mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR4/4) P7層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~30mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 3 褐色土 (10YR4/4) P7層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
  - 4 褐色土 (10YR3/3) P7層土。径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
  - 5 褐色土 (10YR3/4) P8層土。径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
  - 6 褐色土 (10YR4/4) P8層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
  - 7 褐色土 (10YR4/4) P8層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
- P9**
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量。径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- P10**
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P11**
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P12**
- 1 褐色土 (10YR4/6) P3の2層と同等。
  - 2 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
- P13**
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR4/6) P3の2層と同等。
- P14**
- 1 褐色土 (10YR4/4) 粘土。P3の1層と同等。
  - 2 褐色土 (10YR4/6) P3の2層と同等。
- P15**
- 1 褐色土 (10YR4/4) 粘土。P3の1層と同等。
  - 2 褐色土 (10YR4/6) P3の2層と同等。
- P16**
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径1mmの粘土を微量。径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量。径1~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 3 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 4 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
  - 5 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
  - 6 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
  - 7 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量。径10~20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P17・P18**
- 1 暗褐色土 (10YR4/4) P18層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~30mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR4/4) P18層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~50mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
  - 3 暗褐色土 (10YR3/3) P18層土。径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 4 暗褐色土 (10YR3/4) P18層土。径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
  - 5 暗褐色土 (10YR3/3) P17層土。径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 6 褐色土 (10YR4/4) P17層土。径1~3mmのローム粒を多量、径10~20mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

第63図 176号住居跡2 (1/60)





## P19

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 174B層と同等、潤滑1層土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径1~2mmの焼土粒を微量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり粘性あり、潤滑1層土。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~2mmのローム粒を少量、径1mmの焼土粒を微量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。176(旧5)層土の可能性あり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径1mmの焼土粒を微量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

## P20・P21

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) P20層土。径1~3mmのローム粒を多量、径1~2mmの焼土粒を微量、径1~2mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) P20層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~30mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) P20層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのローム

- 4 暗褐色土 (10YR3/4) P20層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。5層より明るい。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) P21層土。径1~3mmのローム粒を多量、径5~15mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。P18-19に似る。
- 6 褐色土 (10YR4/6) P20層土。径10~20mmのロームブロックを多量含む。

## P22

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量、径1mmの焼土粒を微量、径1~3mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

## P23

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量、径1~2mmの焼土粒を微量、径1~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり弱く、粘性あり。

第64図 176号住居跡3 (1/60)



176号住居跡・180号住居跡全景(南より)



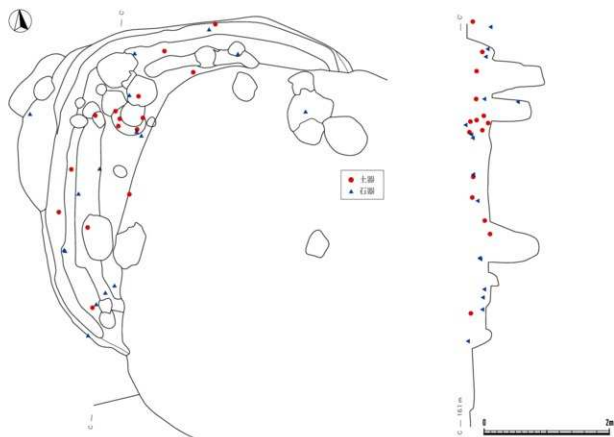
176号住居跡全景(東より)



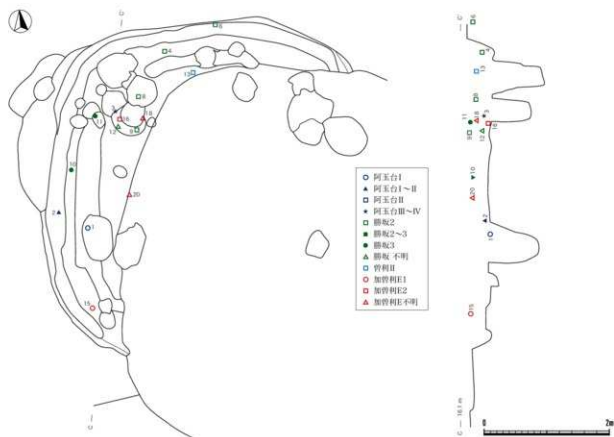
176号住居跡・180号住居跡Aセクション(東より)



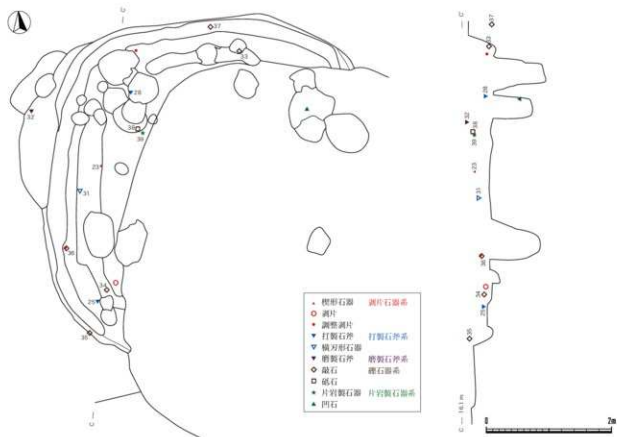
176号住居跡Bセクション周溝部分(南より)



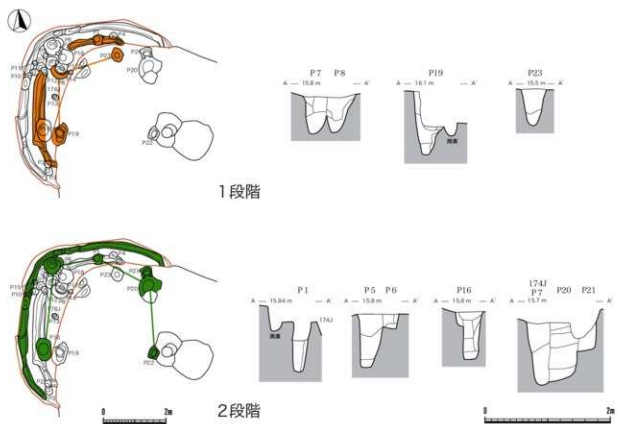
第65図 176号住居跡遺物出土状態(1/60)



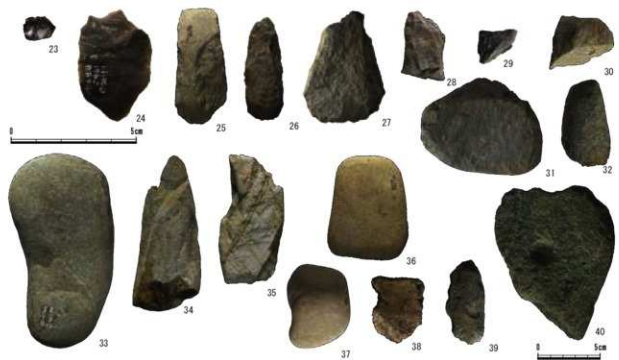
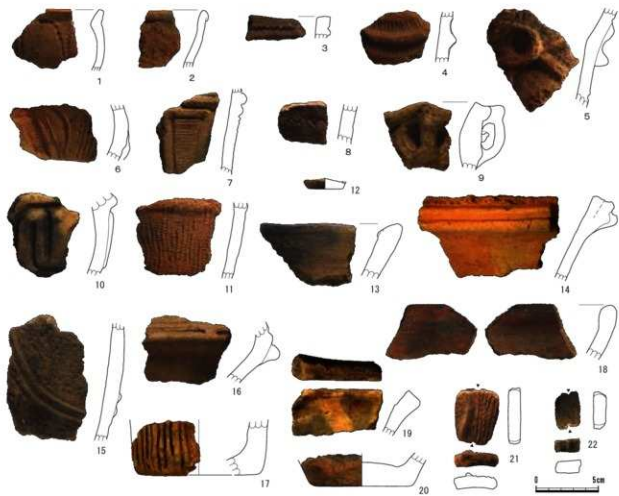
第66図 176号住居跡土器出土状態(1/60)



第67圖 176号住居跡石器出土状態(1/60)



第68圖 176号住居跡変遷図(1/120・1/60)



第69図 176号住居跡出土遺物(1/3・2/3)

で、器種の内訳は、楔形石器1点、不規則剥離のある剥片1点（剥片石器系石材）、剥片1点（剥片石器系石材）、調整剥片3点（剥片石器系石材2点、打製石斧系石材1点）、打製石斧6点、横刃形石器1点、磨製石斧1点、敲石5点、砥石1点、凹石1点、片岩製石器1点、石材の内訳は、黒曜石4点、チャート1点、ホルンフェルス3点、砂岩10点、凝灰岩1点、砂質片岩1点、緑泥片岩2点である。

〔時期〕 勝坂式期。

〔備考〕 174JP33は、本住居跡の拡張後のピットである可能性がある。

〔遺物〕 (第69図、第26・43・48表)

阿玉台式(1~3)、勝坂式(4~12)、曾利式(13)、加曾利E式(14~20)、土器片錘(21~22)、楔形石器(23)、不規則剥離のある剥片(剥片石器系:24)、打製石斧(25~30)、横刃形石器(31)、磨製石斧(32)、敲石(33~37)、砥石(38)、片岩製石器(39)、凹石(40)を図示した。

### 177号住居跡

〔遺構〕 (第70~75図)

〔位置〕 X=19450, Y=24161。

〔住居構造〕 耕作による攪乱が著しい。178J・182J・682Dを切る。平面形:不整形。規模:7.10×6.40m。主軸方位: N-25°-E。壁高: 12.6~33.4cmを測り、70°前後の角度で立ち上がる。壁溝: 一部途切れるものの、東コーナーから西コーナーまで半周程認められる。東コーナー上幅 14.52~38.9cm・下幅 1.6~13.4cm・深さ 1.6~5.8cm、北西コーナー上幅 14.6~25.5cm・下幅 3.8~12.3cm・深さ 3.1~11.9cm、西コーナー上幅 8.9~20.8cm・下幅 1.9~8.0cm・深さ 11.8cmを測る。床面: 耕作による攪乱が著しい。炉: 住居のほぼ中央に炉2、その東側に隣接して炉1が位置している。炉1は不明×42.2cmの地床炉で深さ0.6cm前後の楕円形の掘り込みを持つ。同じく炉2も129.4×不明cmの地床炉で、深さ14.9cm前後の円形の掘り込みを持つ。炉2には深鉢形土器の上半部(5)に別個体の深鉢形土器の上半部(23)が入られる形で2個体の土器が埋設されている。また、炉1周辺には43.4×不明cmの火床範囲が、炉2周辺には167.5×123.6cmの焼土範囲が確認できる。柱穴:P1~3・6・8・13・17・18が主柱穴と思われる。

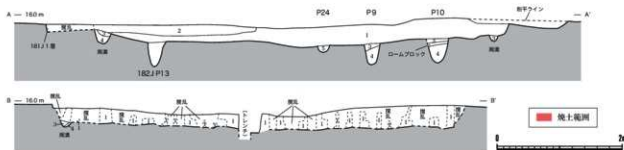
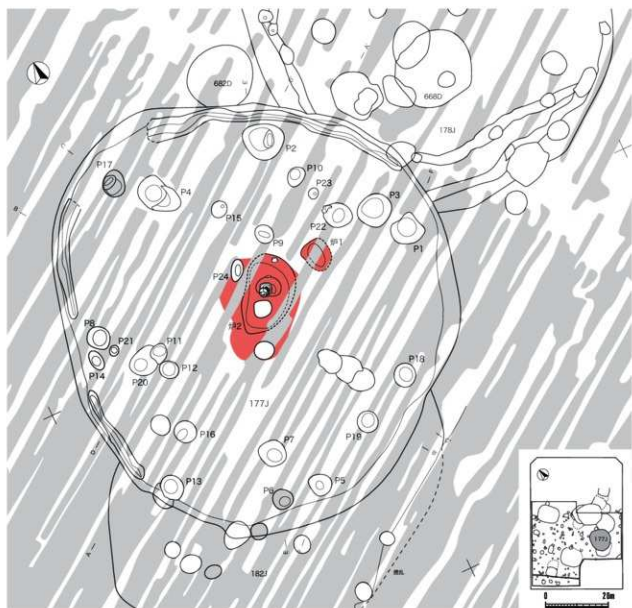
〔覆土〕 5層。

〔遺物〕 炉2に土器が埋設されていたほか、覆土中から多量に出土した。出土位置が判明している土器は341点であり、うち阿玉台式9点、勝坂式18点、曾利式10点、加曾利E式180点、連弧文15点である。出土した石器の総点数は30点、2,567.4gで、器種の内訳は、楔形石器1点、剥片6点（剥片石器系・石材5点、打製石斧系石材1点）、調整剥片5点（剥片石器系石材2点、打製石斧系石材3点）、打製石斧8点、磨製石斧1点、敲石5点、石皿2点で、石材の内訳は、黒曜石6点、チャート1点、頁岩1点、ホルンフェルス7点、砂岩11点、凝灰岩1点、緑泥片岩1点である。

〔時期〕 加曾利E 2~3式期。

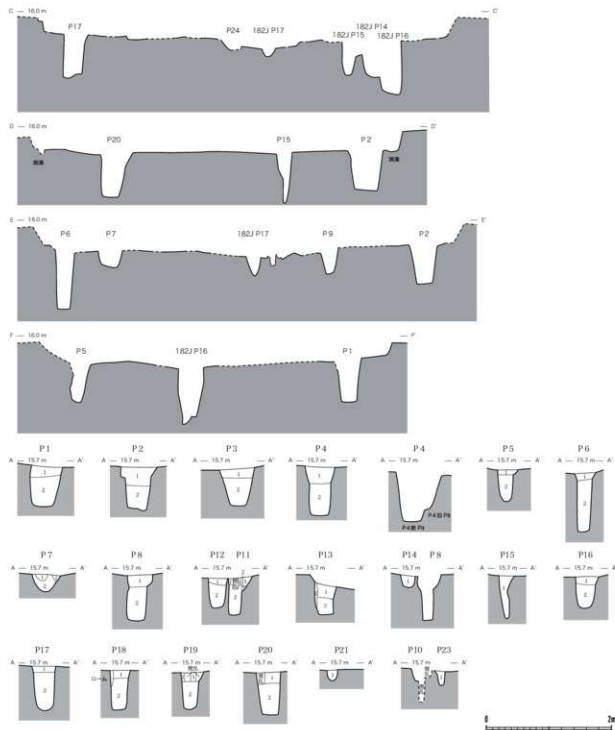
〔遺物〕 (第76~78図、第27・29・43・48表)

阿玉台式(1)、勝坂式(2~5)、曾利式(6~14)、加曾利E式(15~32)、連弧文式(33~42)、土器片錘(43)、楔形石器(44)、打製石斧(45~52)、調整剥片(打製石斧系:53~55)、磨製石斧(57)、敲石(56、58~61)、石皿(62~63)を図示した。5は炉2の炉体土器で残存高12.3cm、口縁部径20.6cm、23も炉2の炉体土器で残存高11.8cm、口縁部径14.3cmを測る。



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を多量、径3~5mmの焼土粒を少量、径3~5mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 径2~3mmのローム粒を多量、径2~4mmの焼土粒を少量、径3~5mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多量、径1mmの焼土粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径1mmの焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を多量、径3~5mmの焼土粒を少量、径7~10mmの焼土ブロックを少量、径2~3mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。

第70図 177号住居跡1 (1/60)



P1～P6・P8・P11・P12・P16～P20・P22

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～7mmのロームブロックを少量、径2～5mmの焼土粒を少量、径2～5mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
2 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を多量、径2～3mmの焼土粒を少量、径2～5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。

P7

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径2～3mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを少量、径2～5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
2 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を多量、径2～3mmの焼土粒を少量、径2～5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

P13

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～7mmのロームブロックを少量、径2～5mmの焼土粒を少量、径2～5mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
2 暗褐色土 (10YR3/3) 径2～3mmのローム粒を多量、径2～3mmの焼土粒を少量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
3 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を多量、径2～3mmの焼土粒を少量、径2～5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。

P14・P15・P21・P23

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径2～3mmのローム粒を多量、径3～5mmの焼土粒を少量、径2～3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第71図 177号住居跡2 (1/60)



177号住居跡全景(東より)



177号住居跡全景(南より)



177号住居跡Bセクション(南より)



177号住居跡Aセクション(東より)



177号住居跡焼土分布状況(西より)



177号住居跡炉1検出状況(南より)

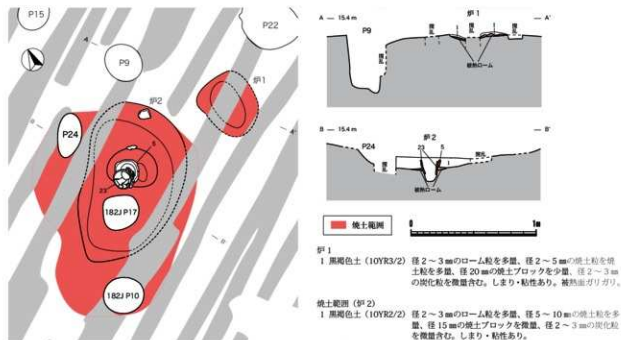


177号住居跡炉1Aセクション(南より)

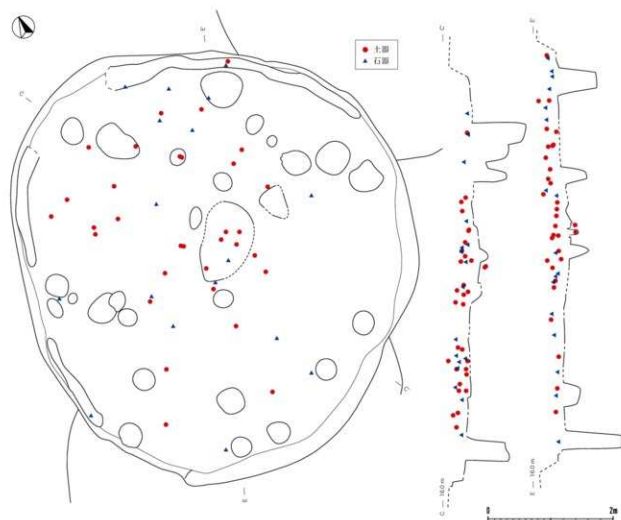


177号住居跡炉1全景(南より)





第72図 177号住居跡炉(1/30)



第73図 177号住居跡遺物出土状態(1/60)



177号住居跡跡1 全景（東より）



177号住居跡焼土範囲Bセクション（南より）



177号住居跡跡2 検出状況（南より）



177号住居跡跡2 炉体土器（5・23）Aセクション（南より）



177号住居跡跡2 全景（南より）



177号住居跡跡炉体土器（5・23）出土状態（東より）



177号住居跡跡炉体土器（5・23）出土状態（北より）



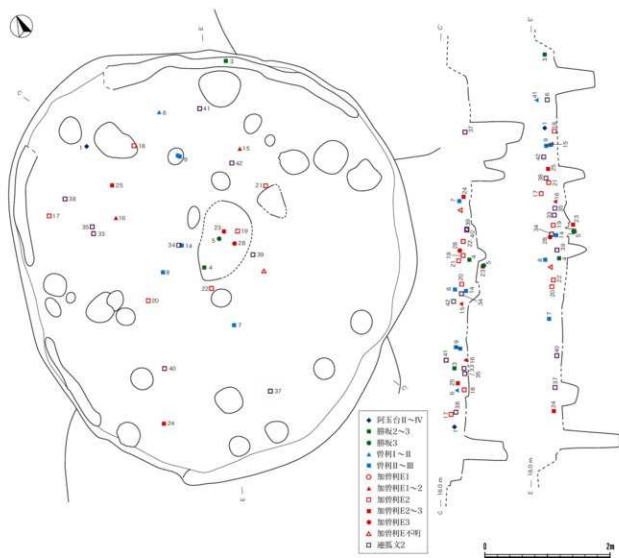
177号住居跡跡炉体土器（5・23）出土状態（南より）



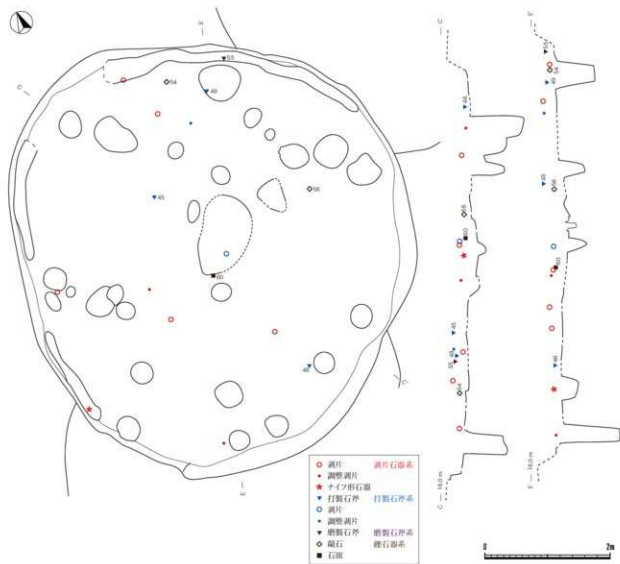
177号住居跡炉体土器(5・23)出土状態(西より)



177号住居跡炉2掘り方全景(南より)



第74図 177号住居跡土器出土状態(1/60)



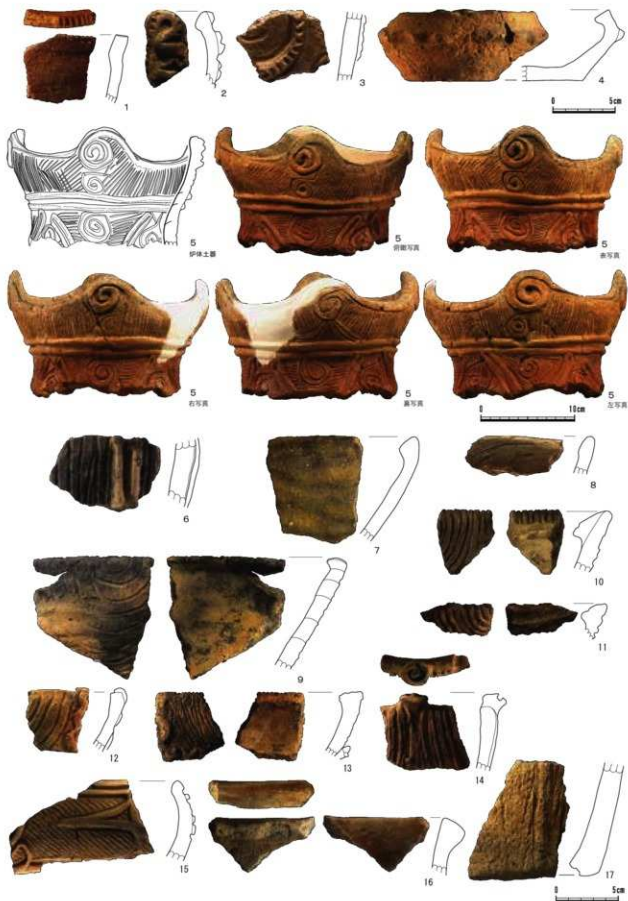
第75図 177号住居跡石器出土状態（1/60）

## 178号住居跡

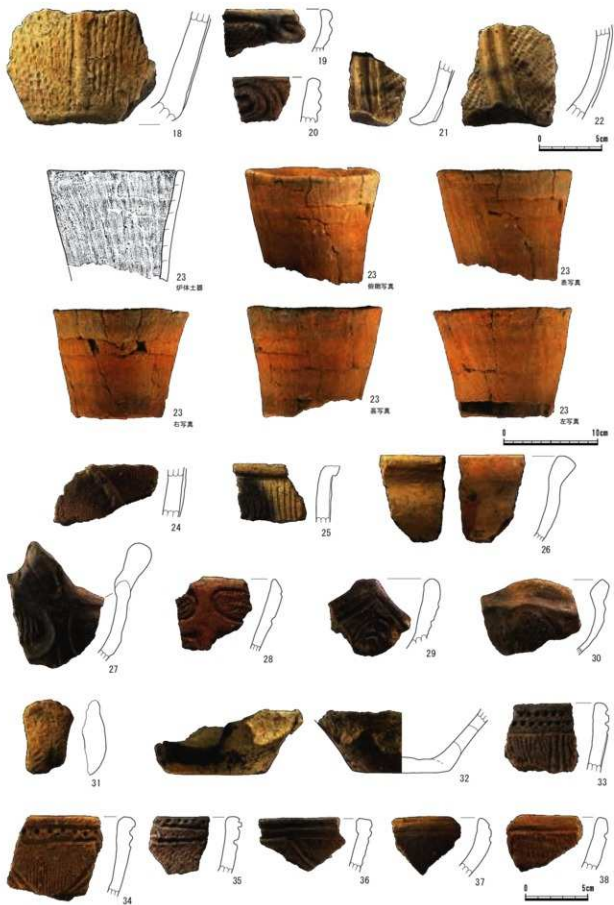
## 遺 構（第79～85図）

[位 置] X=19447,Y=24157。

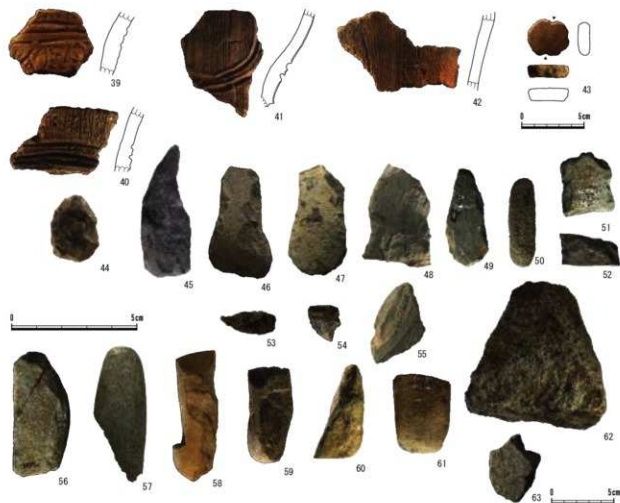
[住居構造] 181Jを切り、174J・177Jに切られる。住居内に667D・668Dが位置する。壁溝が二重に巡り、拡張された可能性が高い。平面形：楕円形。規模：不明×5.50m。北側が174Jに切られているため長軸は不明だが、南側は43.2～76.2cm程度拡張されている。主軸方位：N-0°。拡張後も主軸方向の変更は見られない。壁高：0.9～14.1cmを測り、60°前後の角度で立ち上がる。壁溝：拡張前の壁溝は北西側と南側の一部のみの検出であるが、拡張後は北西コーナー、南西コーナーを欠くが、全周すると思われる。また、拡張前の壁溝は北側が大きく蛇行する。拡張後壁高は南側上幅12.9～20.6cm・下幅4.4～11.1cm・深さ4.0～4.5cm、西側上幅9.2～15.5cm・下幅3.4～9.3cm・深さ13.1～14.4cmを測る。拡張間は北西側上幅12.4～15.8cm、下幅2.4～7.5cmを測り、深さは不明である。南側は上幅11.3～22.8cm、下幅3.3～8.9cm、深さ7.0～8.2cmを測る。床面：耕作による攪乱が著しい。炉：炉1～3まで検出された。炉1は住居中央よりやや北に位置し、74.6×35.4cmの被熱範囲が確認できる。



第76图 177号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)



第77图 177号住居跡出土遺物2 (1/4・1/3)



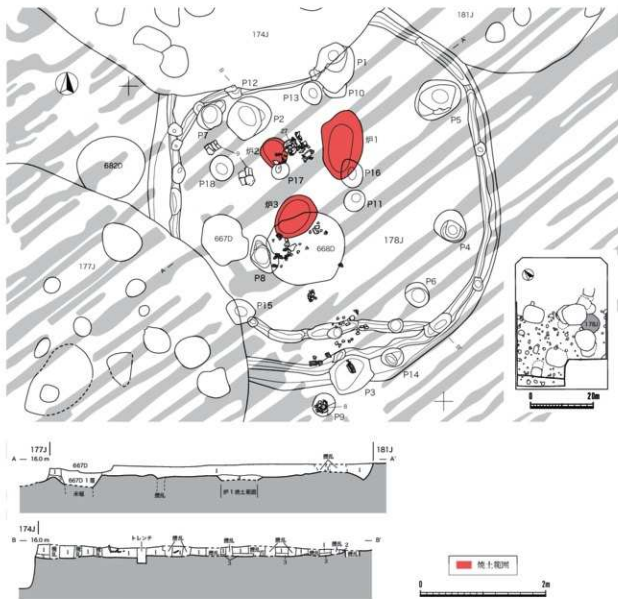
第78図 177号住居跡出土遺物3(1/3・2/3)

110.0×63.9 cm、深さ 17.0 cmの楕円形の掘り込みを持つ地床炉である。炉2は住居中心よりやや西に位置し、深鉢形土器を埋設する。51.1×43.5 cm、深さ 25.6 cmの不整形形の掘り込みを持つ埋裏炉である。炉3は住居中心よりやや南側に位置する。63.1×35.3 cm、深さ 16.6 cmの不整形形の掘り込みを持つ地床炉である。柱穴：P1～2、P4～7、P15が主柱穴と思われる。P9は単独ピットの可能性が高い。〔覆土〕4層。

〔遺物〕炉2に土器が埋設されていたほか、覆土中から比較的多量に出土した。出土位置が判明している土器・粘土塊は315点であり、うち阿玉台式14点、勝坂式48点、曾利式1点、加曾利E式161点、連弧文2点、粘土塊1点である。出土した石器の総点数は23点、1,167.7gで、器種の内訳は、楔形石器1点、不規則剥離のある剥片2点(剥片石器系石材)、剥片2点(剥片石器系石材1点、打製石斧系石材1点)、調整剥片5点(剥片石器系石材)、打製石斧4点、磨製石斧1点、敲石4点、片岩製石器4点、石材の内訳は、黒曜石9点、ホルンフェルス5点、砂岩4点、凝灰岩1点、砂質片岩1点、緑泥片岩1点、結晶片岩2点である。

〔時期〕加曾利E1式期。

〔備考〕炉2からは炉体土器が出土しているが、破片資料での出土であり、また、破片数も少量だったため復元および図化し得なかった。住居南側のP9には深鉢形土器(第87図8)が埋設されていたが、



- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 径2～3mmのローム粒を多量。径1～2mmの焼土粒を多量。径3～5mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～2mmのローム粒を少量。径1～2mmの焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 径1～3mmのローム粒を多量。径2～3mmの焼土粒を少量。径2～3mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 黒褐色土 (10YR3/1) R1。径2～5mmのロームブロックを多量。径2～7mmの焼土粒を多量。径3～5mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。

第79図 178号住居跡1 (1/60)

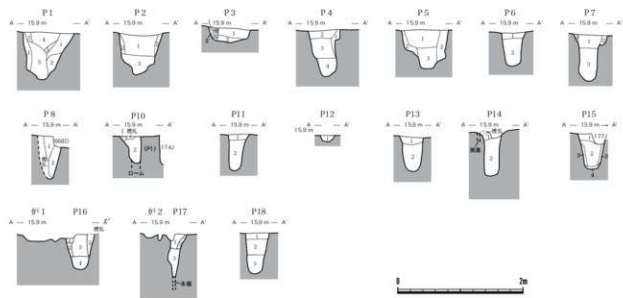


178号住居跡全景 (南より)



178号住居跡全景 (西より)





- P1**
- 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を多量、径20~50mmのロームブロックを多量含む。径2~3mmの焼土粒を微量。径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。
  - 褐色土 (10YR4/4) 径2~3mmのローム粒を多量、径20~50mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性強い。
  - 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を多量、径20mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
  - 黒褐色土 (10YR3/1) 径2~3mmのローム粒を多量、径2~3mmの焼土粒を少量。径2~3mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 黒褐色土 (10YR2/2) 径2~3mmのローム粒を多量、径2~3mmの焼土粒を少量。径2~3mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P2・P5・P7**
- 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量、径2~3mmの焼土粒を少量、径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性強い。
  - 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまりあり、粘性強い。
  - 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性強い。
- P3・P6・P10・P11・P13・P14**
- 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを微量、径2~3mmの焼土粒を少量、径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径1~2mmの焼土粒を微量、径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。
- P4**
- 黒褐色土 (10YR2/2) 径2~3mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを微量、径2~3mmの焼土粒を少量含む。しまり・粘性あり。
  - 黒褐色土 (10YR2/1) 径2~5mmのローム粒を多量、径2~5mmの焼土粒を微量、径2~5mmのローム粒を多量。しまり・粘性あり。
  - 黒褐色土 (10YR2/2) 径2~5mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを微量、径2~5mmの焼土粒を微量。径2~5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。
  - 黒褐色土 (10YR2/2) 径1~3mmのローム粒を多量、径1~3mmの焼土粒を微量、径1~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- P8**
- 黒褐色土 (10YR2/2) P17の2層と同層。
  - 黒褐色土 (10YR3/1) 径2~5mmのローム粒を多量、径2~5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- P12**
- 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~5mmのローム粒を多量、径2~6mmの焼土粒を多量、径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。
- P15**
- 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径1~2mmの焼土粒を微量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
  - 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径1~3mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
  - 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
- P16**
- 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを少量、径3~5mmの焼土粒を多量、径5mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
  - 褐色土 (10YR4/4) 径1~2mmのローム粒を多量、径2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを微量、径2~3mmの焼土粒を少量、径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 暗褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を多量、径20mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
- P17**
- 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~5mmのローム粒を多量、径2~3mmの焼土粒を少量、径1~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 褐色土 (10YR4/4) 径1~2mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
  - 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまりあり、粘性強い。
- P18**
- 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~2mmのローム粒を多量、径2~3mmの焼土粒を微量、径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 暗褐色土 (10YR3/1) 径1~2mmのローム粒を少量、径2~3mmの焼土粒を微量、径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を多量含む。しまりあり、粘性強い。

第80図 178号住居跡2 (1/60)



178号住居跡Aセクション南側（東より）



178号住居跡Aセクション北側（東より）



178号住居跡Bセクション東側（南より）



178号住居跡Bセクション西側（南より）



178号住居跡が1 全景（西より）



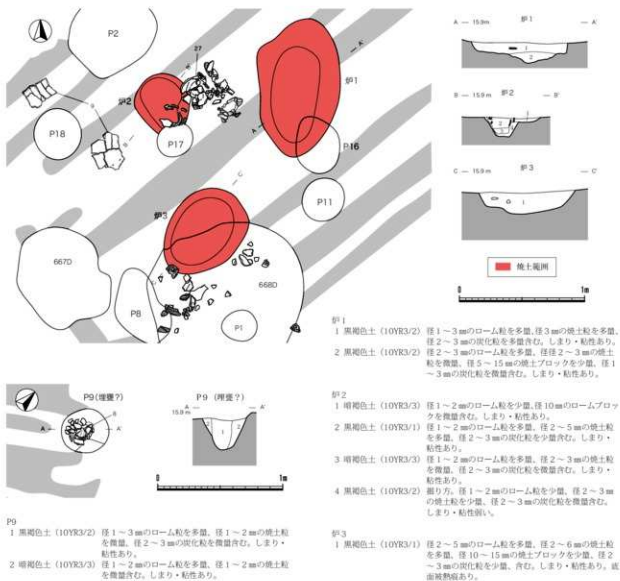
178号住居跡が1 Aセクション（西より）



178号住居跡が2 全景（東より）



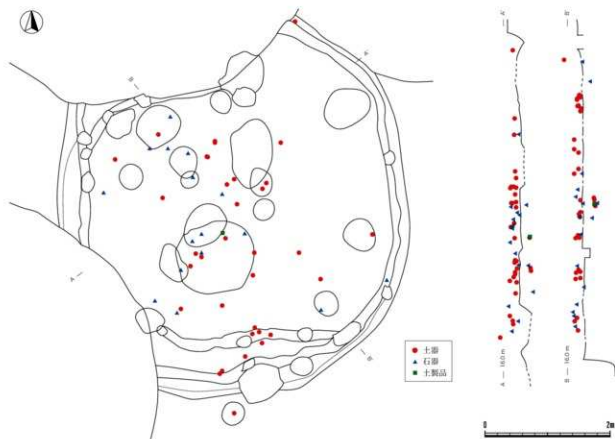
178号住居跡が2 Aセクション（東より）



178号住居跡炉2が体土器出土状態



178号住居跡炉3全景(東より)



第82図 178号住居跡遺物出土状態 (1 / 60)



178号住居跡遺物出土状態(東より)



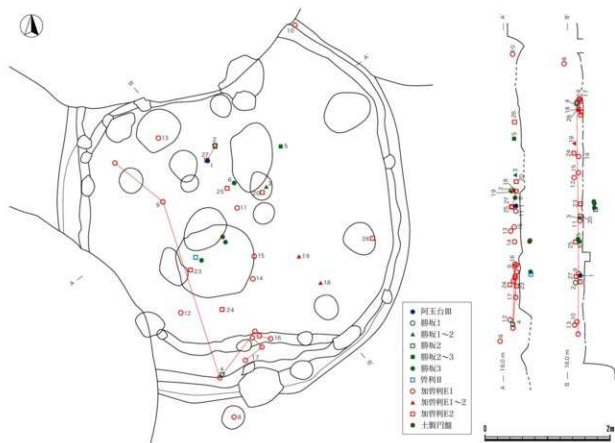
178号住居跡遺物出土状態



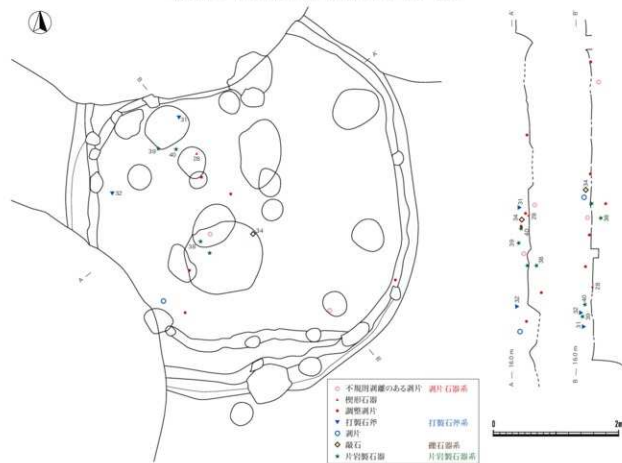
178号住居跡遺物出土状態



178号住居跡遺物出土状態



第83図 178号住居跡石器出土状態 (1 / 60)

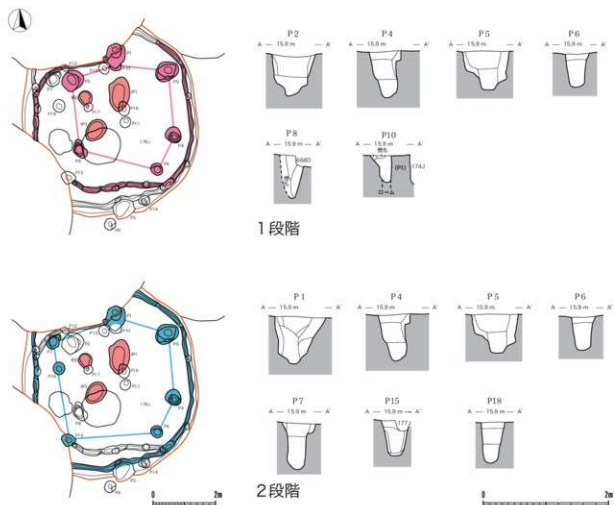


第84図 178号住居跡石器出土状態 (1 / 60)

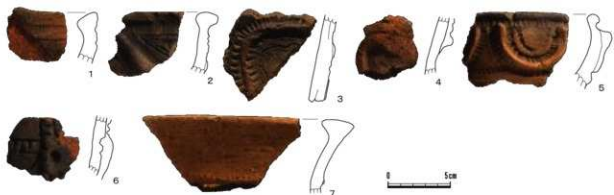
これはピット・遺物を含め178号住居跡に伴わない可能性がある。

**遺物** (第86～90図、第29・30・48・49表)

阿玉台式(1)、勝坂式(2～6)、曾利式(7)、加曾利E式(8～27)、楔形石器(28)、打製石斧(29～32)、磨製石斧(33)、敲石(34～37)、片岩製石器(38～40)を図示した。



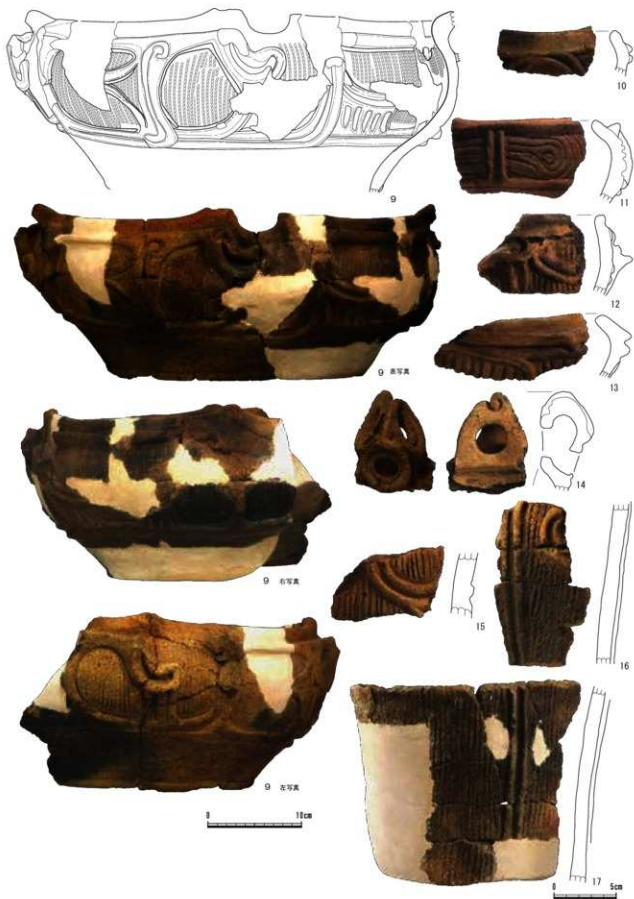
第85図 178号住居跡変遷図(1/120・1/60)



第86図 178号住居跡出土遺物1(1/3)

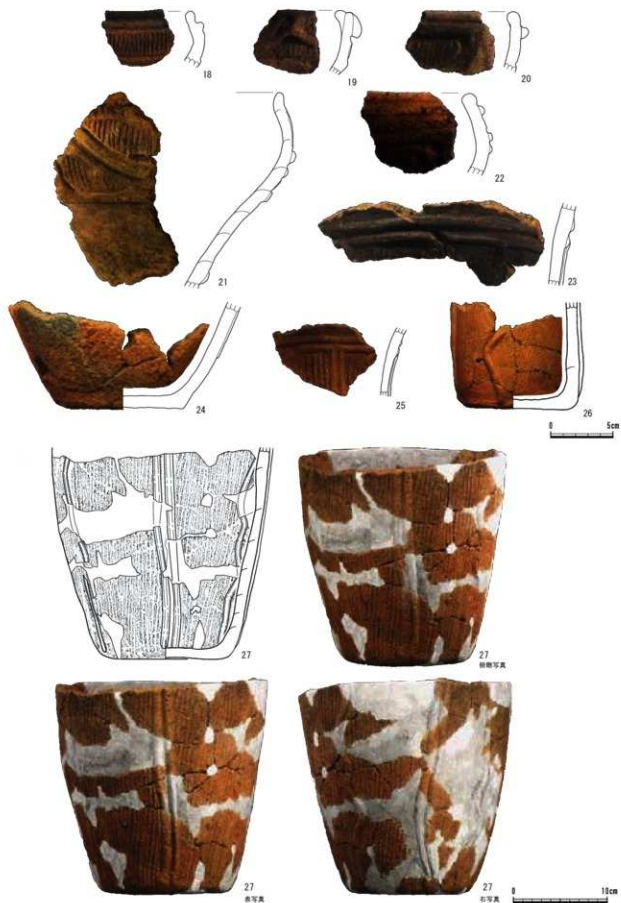


第 87 图 178 号住居跡出土遺物 2 (1/4)

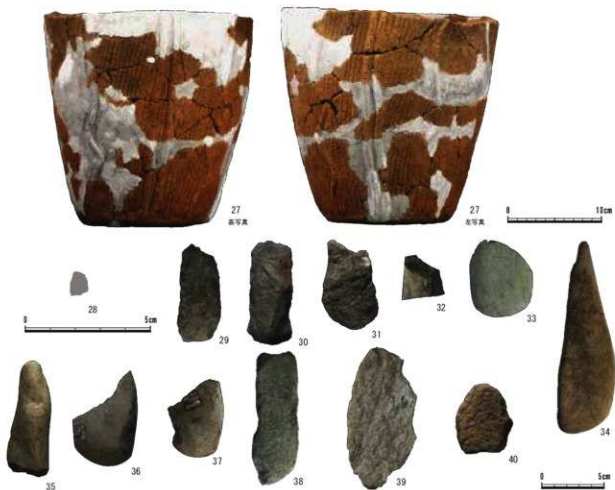


第88図 178号住居跡出土遺物3 (1/4・1/3)





第89图 178号住居跡出土遺物4(1/4・1/3)



第90図 178号住居跡出土遺物5 (1/4・1/3・2/3)

## 179号住居跡

## 遺構 (第91～96図)

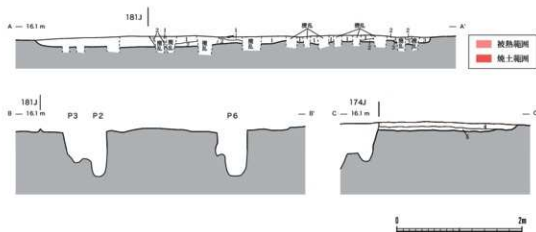
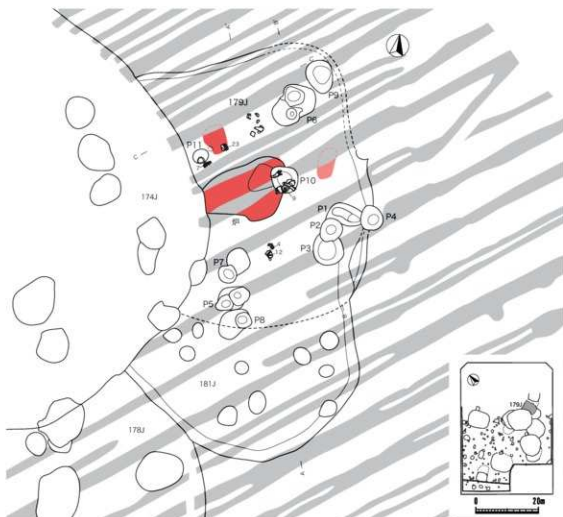
[位置] X=19440,Y=24154。

[住居構造] 174Jに切られ175Jを切る。攪乱が著しく明確ではないが、181Jを切ると思われる。平面形：不明。規模：不明。主軸方位：N-10°-W。壁高：2.3～8.9 cmを測り、25°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：耕作による攪乱が著しい。炉：住居の規模は不明だが、ほぼ中央に位置すると思われる。129.4×66.7 cm、20.0×13.5 cmの被熱範囲が確認できる。125.0×77.4 cm、深さ7.3 cmの不整形の掘り込みをもつ地床炉である。柱穴：P2・5・6が主柱穴と思われる。

[覆土] 5層。

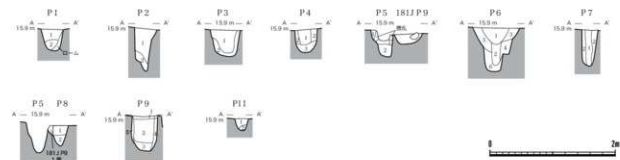
[遺物] 覆土中から比較的多量に出土した。出土位置が判明している土器は107点であり、うち阿玉台式8点、勝坂式8点、曾利式4点、加曾利E式62点である。出土した石器の総点数は25点、1,277.7gで、器種の内訳は、石鏃1点、楔形石器1点、不規則剥離のある剥片1点(剥片石器系石材)、剥片4点(剥片石器系石材)、調整剥片2点(剥片石器系石材)、打製石斧6点、磨石2点、敲石4点、軽石1点、片岩製石器3点、石材の内訳は、黒曜石9点、ホルンフェルス3点、砂岩6点、片状砂岩1点、凝灰岩1点、閃緑岩1点、緑泥片岩1点、結晶片岩2点、安山岩質火山弾1点である。

[時期] 加曾利E1式期。



- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～3mmの焼土粒を微量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。砂の周囲は焼土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～15mmのロームブロックを少量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径1mmの焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～2mmの焼土粒を少量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 褐色土 (10YR4/4) 盛り方分。径1～3mmのローム粒を多量、径1～3mmのロームブロックを多量、径1～3mmの焼土粒を微量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

第91図 179号住居跡1 (1/60)



- P1**  
 1 褐色土 (10YR3/4) 径1~2mmのローム粒を少量、径1~3mmの焼土粒を少量、径1~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
 2 褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- P2**  
 1 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを微量、径1~3mmの焼土粒を微量、径1~2mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- P3**  
 1 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径1~2mmの焼土粒を微量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。P2の1層に似る。  
 2 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
- P4**  
 1 褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径1mmの焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 3 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- P5**  
 1 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~30mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- P6**  
 1 褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~10mmのロームブロックを少量、径1mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
 3 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径1mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性強い。  
 4 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~15mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。  
 5 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。  
 6 黄褐色土 (10YR5/6) ローム、P6参照。
- P7**  
 1 褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~15mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- P8**  
 1 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径1~2mmの焼土粒を少量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。1層よりやや暗い。
- P9**  
 1 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。床?  
 2 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 3 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~15mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。  
 4 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~15mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。  
 5 黄褐色土 (10YR5/6) 径10~30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
- P11**  
 1 褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多量、径1mmの焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。  
 2 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性強い。

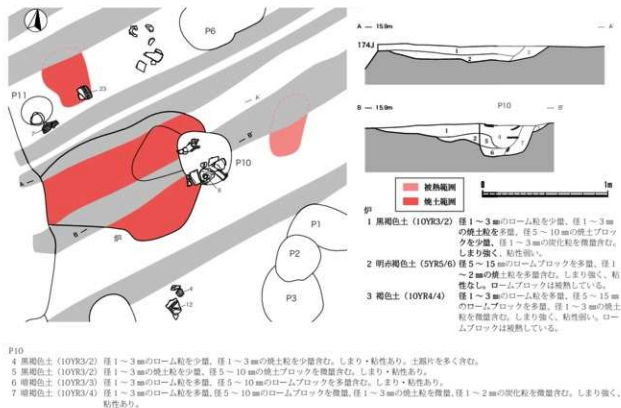
第92図 179号住居跡2 (1/60)



179号住居跡・181号住居跡全景(南より)



179号住居跡・181号住居跡全景(東より)



第93図 179号住居跡炉(1/30)



179号住居跡・181号住居跡Aセクション(南より)



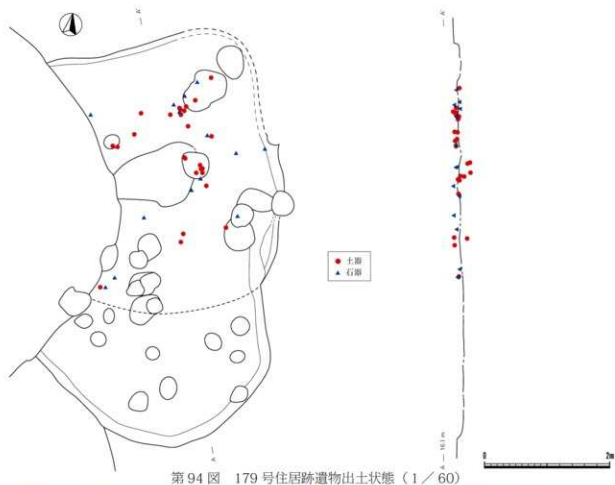
179号住居跡・181号住居跡Bセクション(東より)



179号住居跡炉全景(南より)



179号住居跡被熱範囲全景(東より)



第94図 179号住居跡遺物出土状態(1/60)



179号住居跡・181号住居跡遺物出土状態(南より)



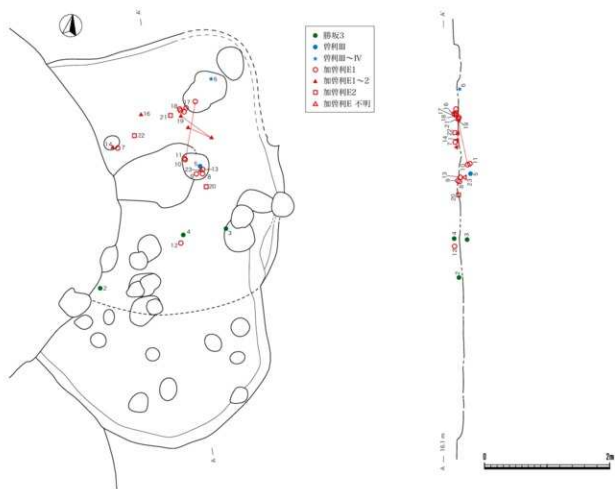
179号住居跡・181号住居跡遺物出土状態(東より)



179号住居跡・181号住居跡遺物出土状態



179号住居跡P10遺物出土状態(西より)



第95図 179号住居跡土器出土状態(1/60)



179号住居跡遺物出土状態(南より)

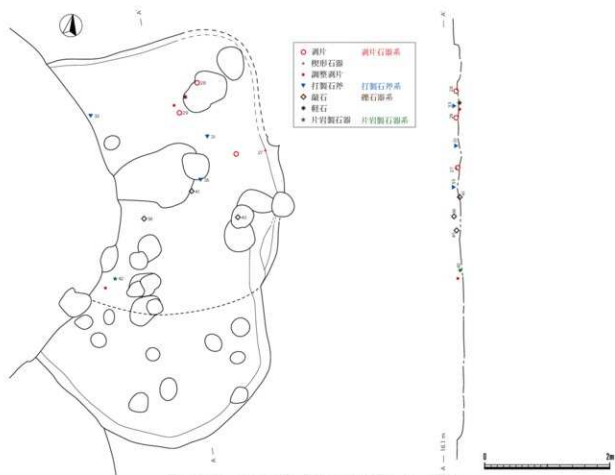


179号住居跡遺物出土状態(西より)

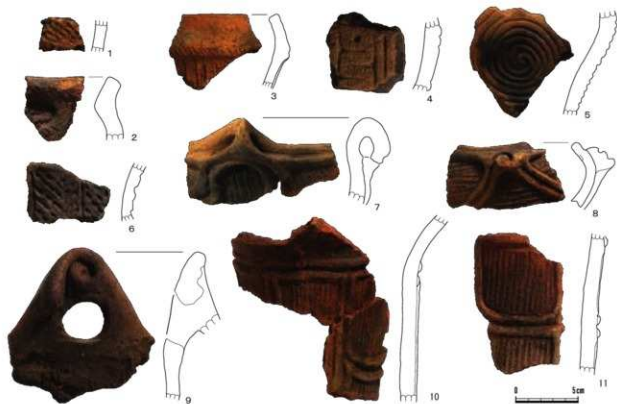
[備考] 炉の北側に不明×35.3cmの焼土範囲、東側に不明×25.1cmの被熱範囲が認められる。

**遺物** (第97・98図、第31・32・43・49表)

黒浜式(1)、勝坂式(2~4)、曾利式(5~6)、加曾利E式(7~24)、土器片錘(25)、石鏃(26)、楔形石器(27)、剥片(剥片石器系:28~29)、打製石斧(30~35)、磨石類(36~37)、敲石(38~41)、片岩製石器(42)を図示した。

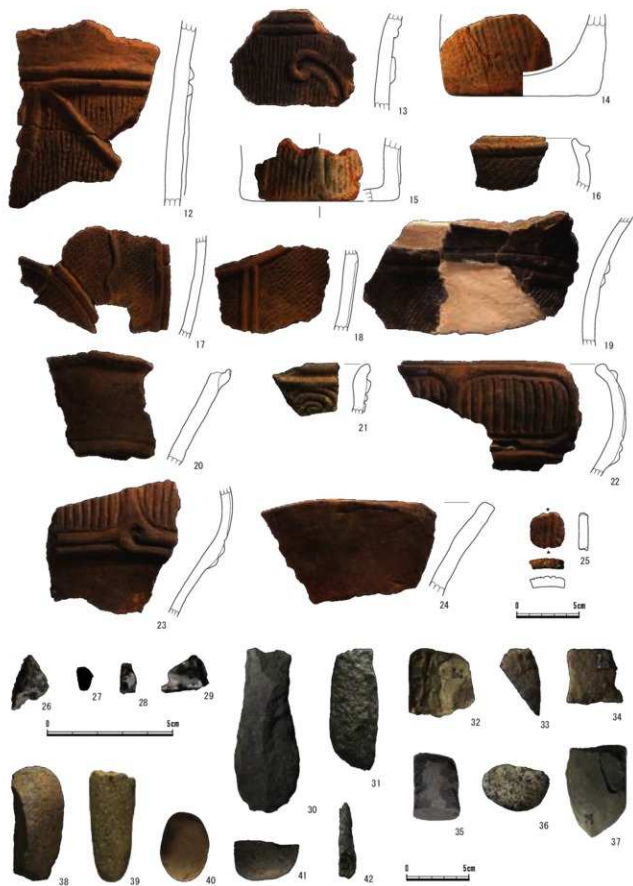


第96图 179号住居跡石器出土状態 (1/60)



第97图 179号住居跡出土遺物 1 (1/3)





第98图 179号住居跡出土遺物2 (1/3・2/3)

## 180号住居跡

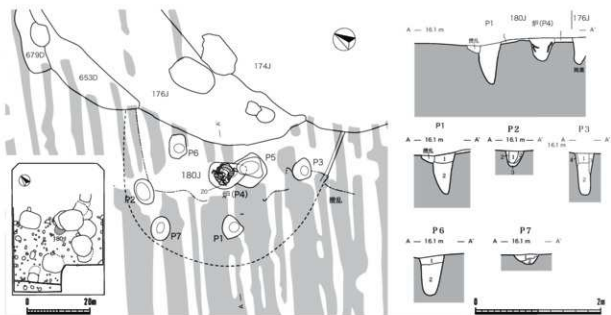
## 遺構 (第99～103図)

[位置] X=19441, Y=24164。

[住居構造] 176J・174J・653 Dに切られる。平面形:不明。規模:不明。主軸方位: N-60°-E。壁高:検出されなかった。壁溝:検出されなかった。床面:耕作による攪乱が著しい。炉:攪乱により住居の構造がはっきりしないが、住居のほぼ中央と思われる位置に深鉢形土器の上半部(20)を埋設した埋裏炉(P4)が検出された。深さ25cmを測る。土器を設置した後、土器の下部からピットの下端にかけて2cmの土を貼り内部の使用面を構築したと推測される。外側については土器上部とピットの上端の間に土を貼り、礫を設置している。なお、周囲から焼土粒が検出されている。柱穴:P1・3・6以外の支柱穴は確認できなかった。

[覆土] 1層。

[遺物] 住居のほぼ中央に位置するP4に土器が埋設されていたほか、覆土中から少量出土した。出土位置が判明している土器・粘土塊は52点であり、うち阿玉台式18点、勝坂式19点、加曾利E式1点、粘土塊1点である。出土した石器の総点数は4点、818.7gで、器種の内訳は、打製石斧1点、



1 暗赤褐色土 (5YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

## P1

- 1 暗赤褐色土 (5YR3/3) 径1～2mmのローム粒を少量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。高い。
- 2 暗赤褐色土 (5YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

## P2

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 径10～20mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。ロームブロック。

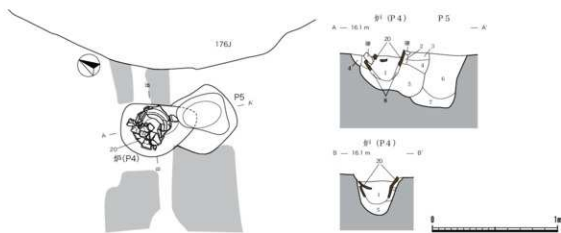
## P3

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を微量、径5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 黄褐色土 (10YR5/6) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～20mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

## P6・P7

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量、径1～2mmの焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第99図 180号住居跡(1/60)



伊 (P4)・P5

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) P4 層土。径1～2mmのローム粒を微量。径1～3mmの焼土粒を少量。径10mmの焼土ブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) P4 層土。径1～2mmのローム粒を多量。径1～2mmの焼土粒を少量。径1mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) P4 層土。径1～3mmのローム粒を多量。径1～2mmの焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 褐色土 (10YR4/4) P4 層土。径1～3mmのローム粒を多量。径5～10mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) P4 層土。径1～3mmのローム粒を多量。径10～30mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) P5 層土。径1～3mmのローム粒を少量。径5～10mmのロームブロックを微量。径1mmの焼土粒を微量。径1～2mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) P5 層土。径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 8 暗褐色土 (10YR3/4) P4 層土。埋藏面り方。径1～2mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。7層に近接。

第100図 180号住居跡炉 (P4) (1/30)



180号住居跡全景 (南より)



180号住居跡全景 (東より)



180号住居跡炉 (P4)・P5 遺物出土状態 (南より)



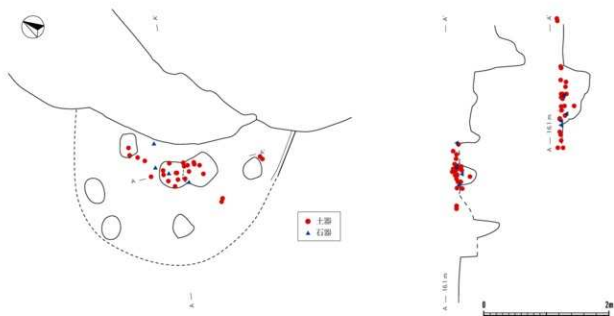
180号住居跡炉 (P4)・5 全景 (南より)



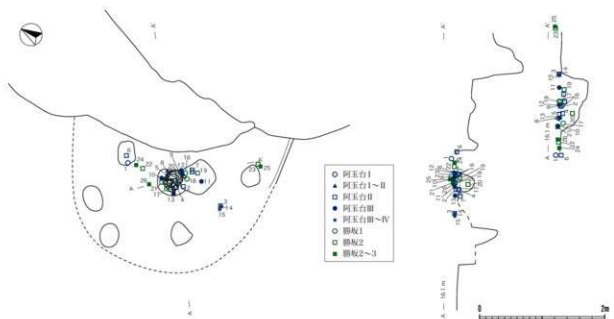
180号住居跡跡 (P4)・P5 Aセクション (南より)



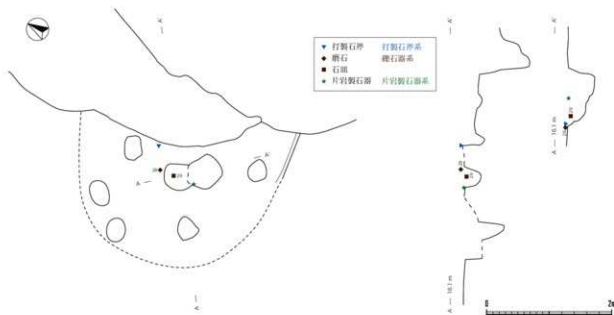
180号住居跡遺物出土状態 (南より)



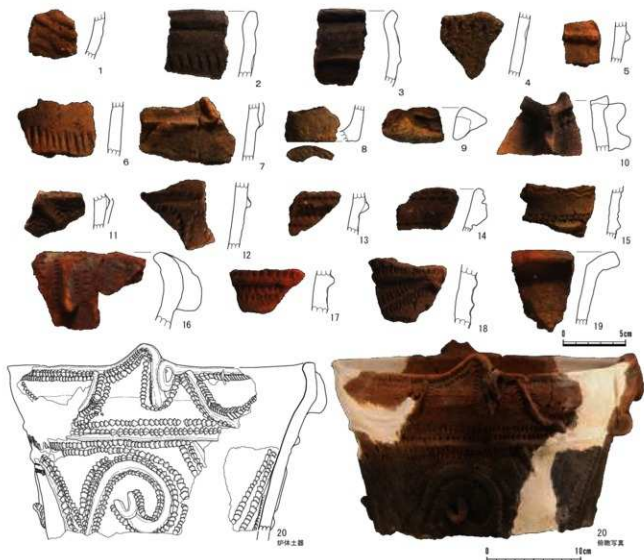
第101図 180号住居跡遺物出土状態 (1/60)



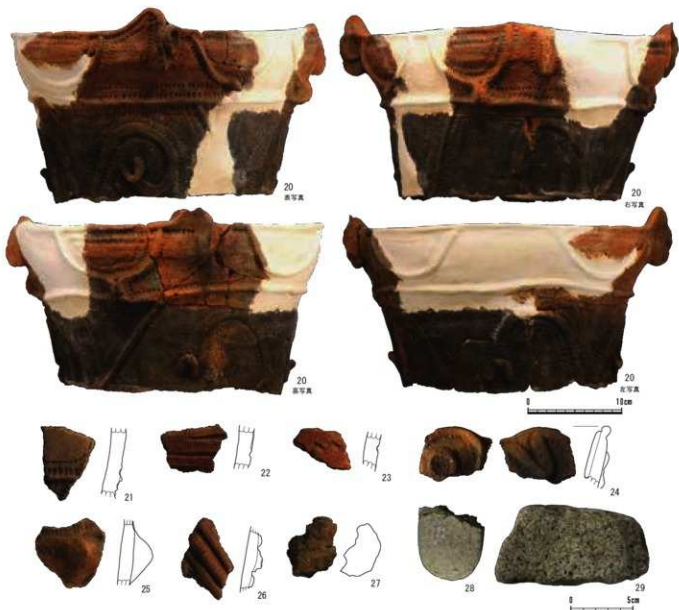
第102図 180号住居跡土器出土状態 (1/60)



第103图 180号住居跡石器出土状態(1/60)



第104图 180号住居跡出土遺物1(1/4・1/3)



第105図 180号住居跡出土遺物2 (1/4・1/3)

磨石1点、石皿1点、片岩製石器1点、石材の内訳は、砂岩2点、安山岩1点、砂質片岩1点である。

〔時期〕阿玉台～勝坂2時期。

〔遺物〕(第104・105図、第33・34・43・49表)

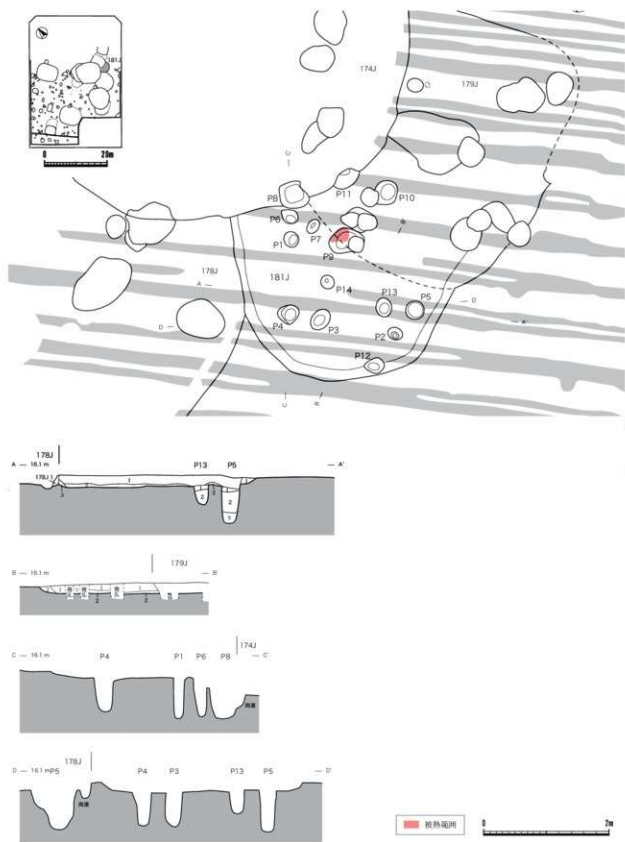
阿玉台式(1～15)、勝板式(16～26)、粘土塊(27)、磨石(28)、石皿(29)を図示した。20はP4の埋裏で残存高19.8cm、口縁部径23.0cmを測る。

### 181号住居跡

〔遺構〕(第106～110図)

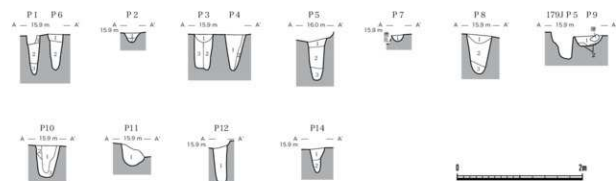
〔位置〕X=19443,Y=24154。

〔住居構造〕174J・179J・178Jに切られる。平面形：不整形円形。規模：不明。主軸方位：N-45°-W。壁高：6.7～12.8cmを測り、30°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：耕作による攪乱が著しい。柱穴：P4・5・8・10・11が主柱穴と思われる。



- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3 mmのローム粒を多量、径1 mmの粘土粒を微量、径1 mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径1～3 mmのローム粒を多量、径5～10 mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 径1～3 mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。

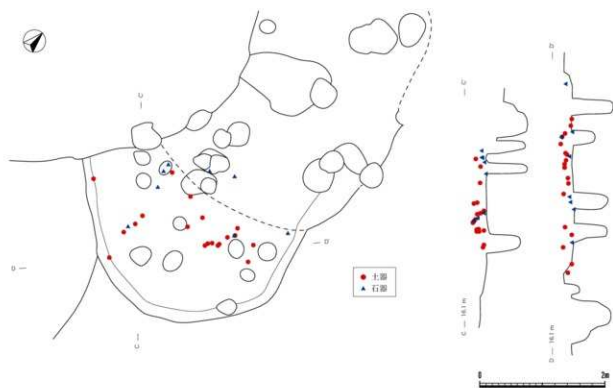
第106図 181号住居跡1 (1/60)



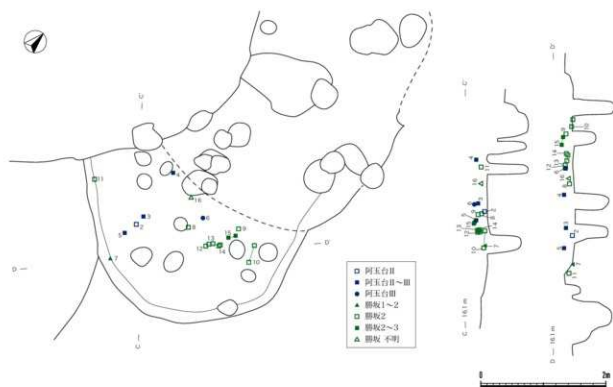
- P1**
- 1 褐色土 (10YR3/4) 径20～50mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。粘床か？
  - 2 褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
  - 3 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- P2**
- 1 褐色土 (10YR4/6) 径1～3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 2 黄褐色土 (10YR5/6) 径1～3mmのローム粒を多量。径10～20mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。
- P3**
- 1 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量。径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
  - 3 褐色土 (10YR4/6) 径1～3mmのローム粒を多量。径5～10mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
- P4**
- 1 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量。径1mmの焼土粒を微量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量。径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
- P5**
- 1 褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR3/3) 径1～2mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 3 褐色土 (10YR3/4) 径1～2mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- P6**
- 1 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を少量。径5～15mmのロームブロックを少量。径10～30mmの褐色土ブロックを多量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- P7**
- 1 褐色土 (10YR4/4) P3の1層と同等。
- P8**
- 1 褐色土 (10YR3/3) 径1～2mmのローム粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量。径5～10mmのロームブロックを少量。径1～3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 3 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性強い。
- P9**
- 1 褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を多量。径1～2mmの焼土粒を微量。径1～2mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量。径1～2mmの焼土粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
- P10**
- 1 褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量。径1mmの焼土粒を微量。径1mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
  - 2 黄褐色土 (10YR4/3) 径1～3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
  - 3 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
- P11**
- 1 径1～3mmのローム粒を少量。径5～20mmのロームブロックを多量。径1mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- P12**
- 1 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- P13**
- 1 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量。径5～15mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
- P14**
- 1 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量。径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
  - 2 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。

第107図 181号住居跡2 (1/60)

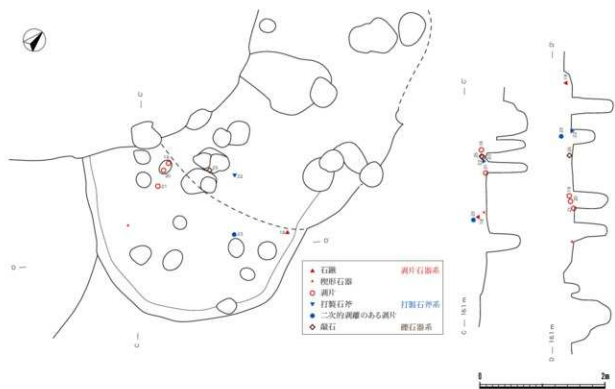




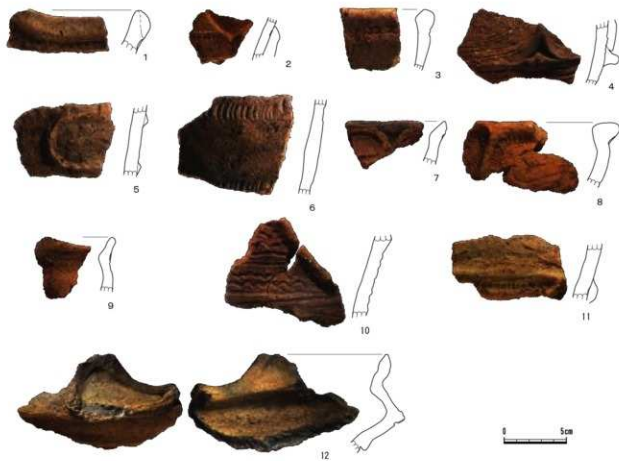
第108图 181号住居跡遺物出土状態(1/60)



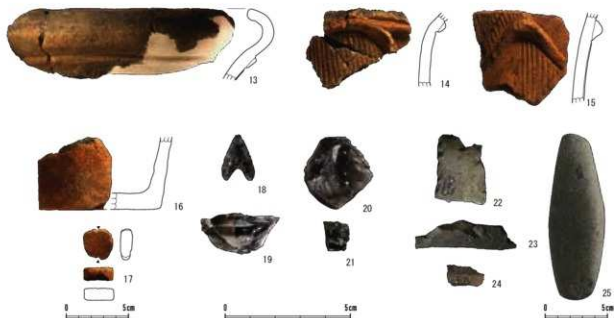
第109图 181号住居跡土器出土状態(1/60)



第110図 181号住居跡石器出土状態(1/60)



第111図 181号住居跡出土遺物1(1/3)



第112図 181号住居跡出土遺物2(2/3・1/3)

〔覆 土〕3層。

〔遺 物〕覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は81点であり、うち阿玉台式28点、勝坂式37点、加曾利E式3点である。出土した石器の総点数は9点、436.6gで、器種の内訳は、石鏃1点、楔形石器1点、二次的剥離のある剥片1点(打製石斧系石材)、剥片3点(剥片石器系石材)、調整剥片1点(打製石斧系石材)、打製石斧1点、敲石1点、石材の内訳は、黒曜石5点、ホルンフェルス2点、砂岩2点である。

〔時 期〕阿玉台Ⅱ式期。

〔備 考〕攪乱により住居の規模は明確ではないが、住居のほぼ中央に位置すると思われるP9内に34.5×21.8cmの被熱範囲が認められる。181号住居跡の地床炉の可能性がある。

〔遺 物〕(第111・112図、第35・36・43・49表)

阿玉台式(1~6)、勝坂式(7~16)、土器片鏃(17)、石鏃(18)、剥片(19~21)、打製石斧(22)、二次的剥離のある剥片(23)、調整剥片(24)、敲石(25)を図示した。

### 182号住居跡

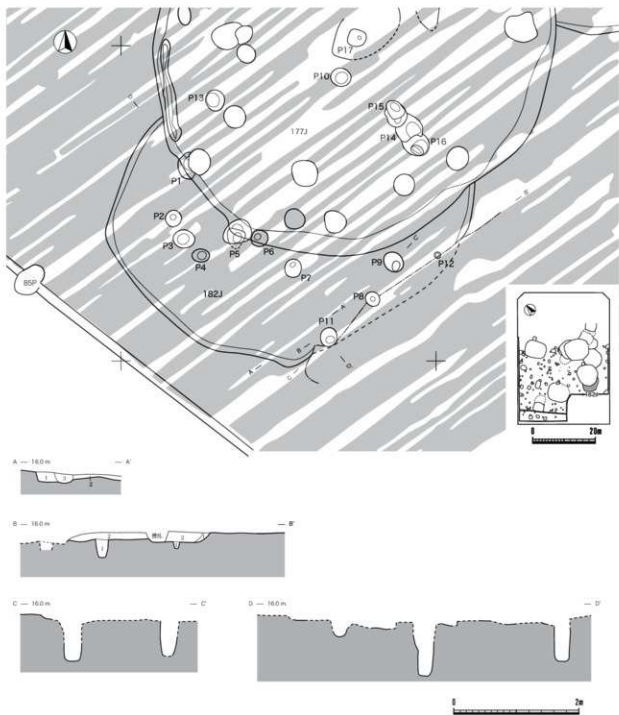
〔遺 構〕(第113~115図)

〔位 置〕X=19454,Y=24163。

〔住居構造〕177に切られる。平面形：不整形円形。規模：不明。主軸方位：N-E。壁高：8.0~13.6cmを測り、60°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：耕作による攪乱が著しい。柱穴：P3・9・10・11・13・14・15・16が主柱穴と思われる。

〔覆 土〕3層。

〔遺 物〕覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は4点であり、うち阿玉台式1点、曾利式2点、加曾利E式1点である。出土した石器の総点数は2点、259.4gで、器種の内訳は、打製石斧1点、敲石1点、石材の内訳は、ホルンフェルス2点である。



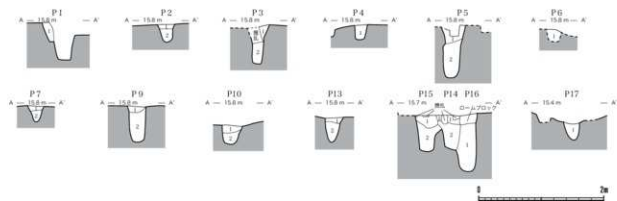
- 1 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量。径2mmの焼土粒を少量。径2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
 2 黒褐色土 (10YR2/2) 径2～5mmのローム粒を多量。径1～3mmの焼土粒を少量。径2～5mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 3 黒褐色土 (10YR3/1) 径1～3mmのローム粒を多量。径2mmの焼土粒を少量。径2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第113図 182号住居跡1 (1/60)

〔時期〕 加曾利E 1～2式期。

遺物 (第116図、第37・49表)

曾利式(1)、加曾利E式(2～7)打製石斧(8)、敲石(9)を図示した。



## P1・P4・P6・P8・P12

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を少量、径15~20mmのロームブロックを微量、径3mmの炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性強い。

## P2・P3・P5・P7・P9・P10

1 黒褐色土 (10YR2/2) 径2~3mmのローム粒を少量、径1~2mmの焼土粒を微量、径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
2 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を少量、径1mmの焼土粒を微量、径1mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

## P13

1 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径1mmの焼土粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量、径1mmの焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。

## P14・P15

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~7mmのロームブロックを微量、径2~5mmの焼土粒を少量、径2~5mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
2 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~3mmのローム粒を少量、径2~3mmの焼土粒を微量、径2~5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性強い。

## P16

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を少量、径2~3mmの焼土粒を少量、径2~5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

## P17

1 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を少量、径3~5mmの焼土粒を微量、径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

第114図 182号住居跡2 (1/60)



182号住居跡全景 (南より)



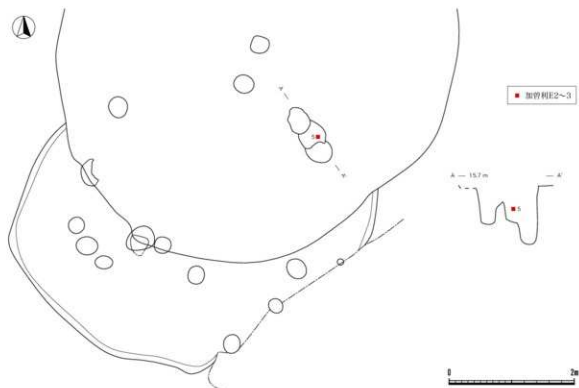
182号住居跡全景 (西より)



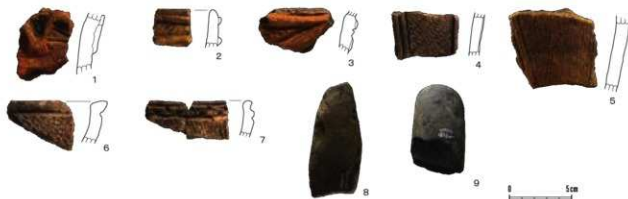
182号住居跡A・Bセクション (東より)



182号住居跡P14~16全景 (南より)



第115図 182号住居跡土器出土状態(1/60)



第116図 182号住居跡出土遺物(1/3)

### (3) 土坑

#### 650号土坑

**遺 構** (第117図)

[位 置] X=19451, Y=24184。

[構 造] 41Pを切る。平面形: 楕円形。規模: 1.3×1.14m・深さ 37cm前後を測る。坑底は播鉢状で、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位: N-48°-E。

[覆 土] 2層。

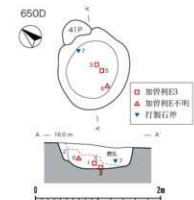
[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は13点であり、うち加曾利E式6点である。石器は3点で、器種の内訳は剥片1点(剥片石器系石材)、碎片1点(打製石斧系石材)、

打製石斧1点、石材の内訳は、黒曜石1点、ホルンフェルス2点である。

[時期] 加曾利E3式期。

[遺物] (第118図、第38・49表)

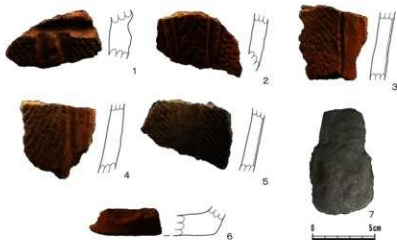
加曾利E式(1~6)、打製石斧(7)を図示した。



650D

- 1 黒曜色土(10YR3/1) 径2~3mmのローム粒を多量、径2mmの黒色粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
2 黒曜色土(10YR3/2) 径2mmのローム粒を微量含む。しまり・粘性強い。

第117図 650号土坑(1/60)



第118図 650号土坑出土遺物(1/3)



650号土坑全景(東より)



650号土坑セクション(東より)

651号土坑

[遺構] (第119図)

[位置] X=19450,Y=24182。

[構造] 平面形: 楕円形。規模: 1.19×0.86m・深さ15cm前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は25°前後の角度で立ち上がる。長軸方位: N-18°-W。

[覆土] 1層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

[遺物] (第120図、第38表)

加曾利E式(1)を図示した。



第119図 651号土坑 (1/60)

第120図 651号土坑  
出土遺物 (1/3)

651号土坑全景 (南より)



651号土坑セクション (南より)

## 652号土坑

遺 構 (第121図)

[位 置] X=-19452, Y=-24181。

[構 造] ピットと重複するが前後関係は不明である。平面形：不整形円形。規模：1.23×0.92 cm・深さ15 cm前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は25°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-18°-E。

[覆 土] 2層。

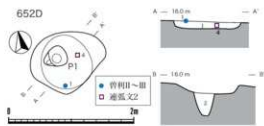
[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は12点であり、うち曽利式4点、加曾利E式1点、連弧文7点である。

[時 期] 加曾利E 2～3式期。

[備 考] 652Dのやや西寄りに37×31 cm、深さ22 cmのピットが検出されている。

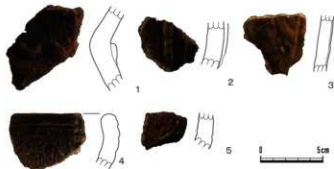
遺 物 (第122図、第38表)

曽利式(1)、加曾利E式(2～3)、連弧文(4～5)を図示した。



652D  
1 黒褐色土(10YR3/2) 径2～3mmのローム粒を多量、径7mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。  
2 黒褐色土(10YR3/2) 径2～3mmのローム粒を少量、径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

第121図 652号土坑 (1/60)



第122図 652号土坑出土遺物 (1/3)





652号土坑全景(東より)



652号土坑セクション(東より)

## 654号土坑

遺構(第123図)

[位置] X=19447, Y=24151。

[構造] 平面形: 楕円形? 規模: 1.58×不明m・深さ39cm前後を測る。坑底は起伏があり、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位: N-46°-E。

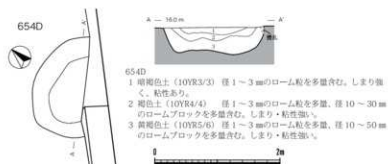
[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 阿玉台式期。

遺物(第124図、第39表)

阿玉台式(1)を図示した。



第123図 654号土坑(1/60)



第124図 654号土坑出土遺物(1/3)



654号土坑全景(西より)



654号土坑セクション(西より)

## 655号土坑

**遺構** (第125図)

[位置] X=19448, Y=24152。

[構造] 平面形：楕円形？規模：1.05×不明m・  
深さ19cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は40°前後  
の角度で立ち上がる。長軸方位：N-50°-E。

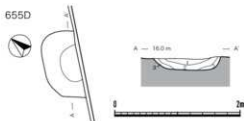
[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

**遺物** (第126図、第39・43表)

加曾利E式(1)、土製円盤(2)を図示した。



655D

- 1 褐色土(10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 褐色土(10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径10~30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
- 3 黄褐色土(10YR5/6) 径1~3mmのローム粒を多量。径10~50mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

第125図 655号土坑(1/60)



第126図 655号土坑出土遺物(1/3)



655号土坑全景(西より)



655号土坑セクション(西より)

## 656号土坑

**遺構** (第127図)

[位置] X=19446, Y=24151.5。

[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：0.66×0.46m・  
深さ19cm前後を測る。坑底は擂鉢状で、壁は50°前後  
の角度で立ち上がる。長軸方位：N-31°-W。

[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

**遺物** (第128図、第39表)

加曾利E式(1)を図示した。



656D

- 1 褐色土(10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多量。径10~30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
- 2 黄褐色土(10YR5/6) 径1~3mmのローム粒を多量。径10~50mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

第127図 656号土坑(1/60)



第128図 656号土坑出土遺物(1/3)



656号土坑全景（東より）



656号土坑セクション（東より）

## 657号土坑

## 遺構（第129図）

〔位置〕X=-19450.1,Y=-24154。

〔構造〕平面形：楕円形。規模：不明×0.86m・深さ21cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は80°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-42°-W。

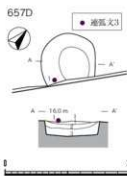
〔覆土〕3層。

〔遺物〕覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は4点であり、うち連弧文2点である。

〔時期〕加曽利E式期。

## 遺物（第130図、第39表）

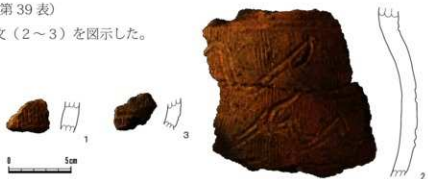
加曽利E式（1）、連弧文（2～3）を図示した。



第129図 657号土坑（1/60）

657D

- 1 暗褐色土（10YR3/3）径1～3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 褐色土（10YR4/4）径1～3mmのローム粒を多量、径10～30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
- 3 黄褐色土（10YR5/6）径1～3mmのローム粒を多量、径10～50mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。



第130図 657号土坑出土遺物（1/3）



657号土坑全景（東より）



657号土坑セクション（東より）

## 659号土坑

## 遺構 (第131図)

[位置] X=19430,Y=24167。

[構造] 566Yに切られる。平面形：隅丸長方形。規模：不明×1.07m・深さ21cm前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は30°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-50°-E。

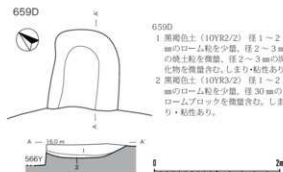
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。石器は黒曜石製の楔形石器1点である。

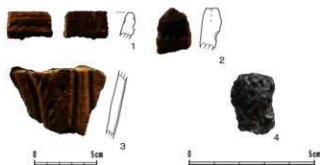
[時期] 中期。

## 遺物 (第132図、第39・49表)

阿玉台式(1~2)、加曾利E式(3)、楔形石器(4)を図示した。



第131図 659号土坑(1/60)



第132図 659号土坑出土遺物(1/3・2/3)



659号土坑全景(東より)



659号土坑セクション(西より)

## 660号土坑

## 遺構 (第133図)

[位置] X=19431,Y=24173。

[構造] 669Dを切っている。平面形：円形。規模：1.25×1.16m・深さ31cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は70°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-37°-E。

[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は1点であり、うち加曾利E式1点である。石器は閃緑岩製の石皿1点である。

[時期] 中期。

## 遺物 (第135図、第39・49表)

阿玉台式(1)、勝坂式(2)、加曾利E式(3~4)、石皿(5)を图示した。

## 669号土坑

## 遺構 (第133図)

[位置] X=19431.5, Y=24173。

[構造] 660Dに切られる。平面形：楕円形。規模：0.88×0.41m・深さ16cm前後を測る。坑底は凹凸があり、壁は70°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-54°-E。

[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

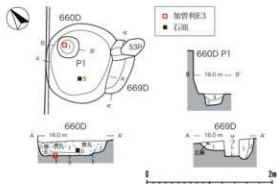
## 遺物 (第134図、第39表)

加曾利E式(1)を图示した。



第134図 660号土坑出土遺物(1/3)

## 660D-669D



## 660D

- 黒褐色土(10YR3/1) 径2~3mmのローム粒を多数、径2~3mmの焼土粒を少量、径2~3mmの炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
- 暗褐色土(10YR3/3) 径1~2mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 黒褐色土(10YR2/2) 径2~3mmのローム粒を多数、径2~3mmの焼土粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 黒褐色土(5YR2/1) 径2~3mmのローム粒を多数、径2~3mmの焼土粒を少量、径2~3mmの炭化物を微量含む。しまりあり、粘性強。
- 黒褐色土(5YR2/1) 径2~3mmのローム粒を多数、径5~10mmのロームブロックを少量含む。しまりあり、粘性強い。

## 669D

- 黒褐色土(10YR2/2) 径1~2mmのローム粒を多数、径5mmのロームブロックを微量、径3mmの焼土粒を少量、径1~2mmの炭化物を少量含む。しまり・粘性あり。
- 褐色土(10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多数、径5~20mmのロームブロックを多数含む。しまり・粘性あり。

第133図 660・669号土坑(1/60)



第135図 669号土坑出土遺物(1/3)



660号土坑全景(南より)



660号土坑セクション(南より)



660号土坑P1セクション(南より)



669号土坑セクション(西より)

## 665号土坑

遺構(第136図)

[位置] X=-19437, Y=-24165。

[構造] 平面形: 楕円形。規模: 1.56×1.17m・深さ20cm前後を測る。坑底は播鉢状で、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位: N-38°-W。

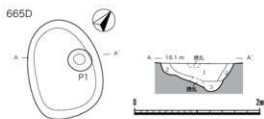
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は1点であり、うち加曾利E式1点である。

[時期] 加曾利E式期。

遺物(第137図、第39表)

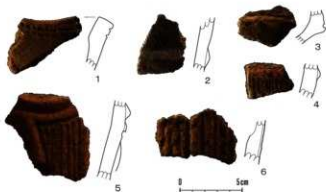
阿玉台式(1)、勝坂式(2)、加曾利E式(3~6)を图示した。



665D

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径2~3mmの焼土粒を少量、径3mmの炭化物を少量含む。しまり・粘性あり。  
2 暗褐色土(10YR3/3) 径1~2mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。  
3 黒褐色土(10YR2/2) 径1~2mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

第136図 665号土坑(1/60)



第137図 665号土坑出土遺物(1/3)



665号土坑全景(南より)



665号土坑セクション(東より)

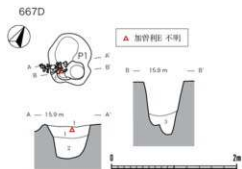
## 667号土坑

## 遺構 (第138図)

[位置] X=-19447.5, Y=-24158.5。  
 [構造] 178Jを切る。平面形：不整形。規模：0.79×0.67m・深さ56cm前後を測る。坑底は楕円状で、壁は80°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-29°-W。  
 [覆土] 3層。  
 [遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は3点であり、うち加曽利E式1点である。  
 [時期] 加曽利E式期。  
 [備考] 667Dの東側に不整形のピットがあり、最深部の深さは80.5cmを測る。また、土坑内には集石が確認される。

## 遺物 (第139図、第39表)

加曽利E式(1~2)を図示した。



667D

- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを数個、径2~3mmの焼土粒を少量、径2~3mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。  
 2 黒色土 (10YR2/1) 径2~5mmのローム粒を多量、径10mmのロームブロックを数個、径2~3mmの焼土粒を少量、径2~3mmの炭化粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。  
 3 暗褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒・径20~30mmのロームブロックを多量、径3~5mmの炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。

第138図 667号土坑(1/60)



第139図 667号土坑出土遺物(1/3)



667号土坑全景(西より)



667号土坑セクション(西より)



667号土坑P1セクション(西より)



667号土坑遺物出土状態(西より)

## 668号土坑

## 遺構 (第140図)

[位置] X=19448,Y=24157。

[構造] 178]の床下から検出される。平面形:不整形円形。規模:1.47×1.18m・深さ15cm前後を測る。坑底は起伏があり、壁は50°前後の角度で立ち上がる。長軸方位:N-53°-E。

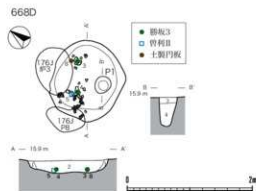
[覆土] 4層。

[遺物] 覆土中から比較的多く出土した。出土位置が判明している土器・土製品は17点であり、うち阿玉台式1点、勝坂式3点、曾利式6点、加曾利E式3点、土製円盤1点である。

[時期] 勝坂3式期。

## 遺物 (第141図、第39・43表)

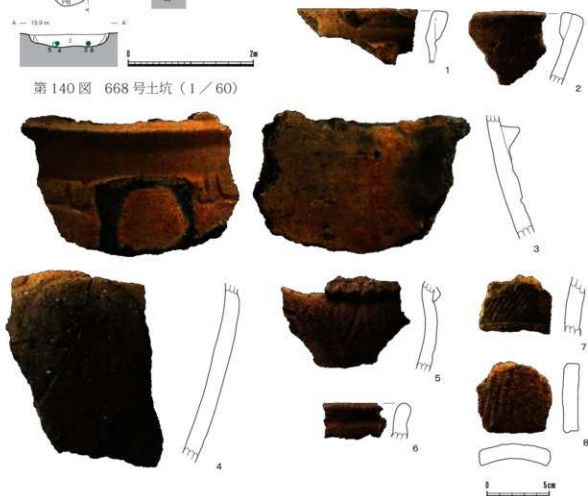
勝坂式(1~4)、曾利式(5)、加曾利E式(6)、連弧文(7)、土製円盤(8)を図示する。



第140図 668号土坑(1/60)

668D

- 1 褐色土(10YR4/4) 径1~2mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を多量。径20~30mmのロームブロックを少量。径2~3mmの粘土粒を微量。径2~3mmの炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 径2~3mmのローム粒を多量。径20mmのロームブロックを少量。径1~2mmの粘土粒・炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) 径1~2mmのローム粒を多量。径1~2mmの粘土粒・炭化物を微量含む。しまりあり・粘性強。



第141図 668号土坑出土遺物(1/3)





668号土坑全景（東より）



668号土坑セクション（東より）



668号土坑P1全景（東より）



668号土坑遺物出土状態（東より）

## 670号土坑

遺構（第142図）

[位置] X=19432, Y=24173.

[構造] 671D、50Pを切り、566Yに切られる。

攪乱による破壊が著しく構造が明確ではない。平面形：不明。規模：不明×不明m・深さ23cm前後を測る。長軸方位：N-58°-W。

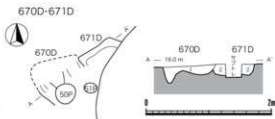
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

遺物（第143図、第39表）

加曾利E式（1）を図示した。



670D・671D

- 1 黒褐色土（10YR3/1）径1～3mmのローム粒を少量、径5～20mmのロームブロックを微量、径3～5mmの焼土粒を少量、径3～5mmの炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土（10YR3/2）径1～2mmのローム粒を少量、径1～2mmの焼土粒を少量、径1～2mmの炭化物を少量含む。しまり強く、粘性あり。

第142図 670・671号土坑（1/60）



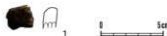
第143図 670号土坑出土遺物（1/3）

## 671号土坑

遺構（第142図）

[位置] X=19431.5, Y=24172.5.

[構造] 670D、566Yに切られる。平面形：隅丸長方形。規模：0.71×不明m・深さ14cm前後



第144図 671号土坑出土遺物（1/3）

を測る。坑底はやや起伏があり、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-57°-E。

〔覆 土〕2層。

〔遺 物〕覆土中から僅かに出土した。

〔時 期〕加曾利E式期。

〔遺 物〕(第144図、第40表)

加曾利E式(1)を図示した。



670号土坑(左)・671号土坑(右)全景(東より)



670号土坑セクション(東より)



671号土坑セクション(東より)

### 672号土坑

〔遺 構〕(第145図)

〔位 置〕X=-19435,Y=-24176。

〔構 造〕ピットと重複するが、前後関係は不明である。平面形：楕円形。規模：2.08×1.47m・深さ23cm前後を測る。坑底は起伏があり、壁は40°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-24°-W。

〔覆 土〕2層。

〔遺 物〕覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は3点であり、うち曾利式1点である。

〔時 期〕加曾利E式期。

〔備 考〕672D北側に25.4×24.5cm深さ32cm前後のピットが位置する。

〔遺 物〕(第146図、第40表)

加曾利E式(1~3)を図示した。



第146図 672号土坑出土遺物(1/3)

第145図 672号土坑(1/60)



672号土坑全景（北より）



672号土坑セクション（北より）

## 673号土坑

遺構（第147図）

[位置] X=19441, Y=24177。

[構造] P81を切り、677Dに切られる。平面形：不整形円形。規模：0.7×0.63m・深さ26cm前後を測る。坑底は僅かに凹凸があり、壁は70°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-59°-W。

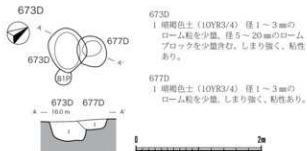
[覆土] 1層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 中期。

遺物（第148図、第40表）

阿玉台式（1）を図示した。



第147図 673号土坑（1/60）



第148図 673号土坑出土遺物（1/3）



673号土坑（左）・677号土坑（右）全景（東より）



673号土坑（左）・677号土坑（右）セクション（東より）

## 674号土坑

遺構（第149図）

[位置] X=19442, Y=24174。

[構造] 693Dに切られる。平面形：隅丸長方形。規模：0.9×0.54m・深さ18cm前後を測る。坑

底は西側が大きく隆起し、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-22°-W。

[覆土] 1層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

[遺物] (第150図、第40表)

連弧文(1)を図示した。

### 693号土坑

[遺構] (第149図)

[位置] X=19447, Y=24175。

[構造] 竪穴状遺構で、674Dを切る。平面形：隅丸長方形。規模：2.53×1.48m・深さ22cm前後を測る。坑底は平坦で壁は50°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-55°-E。

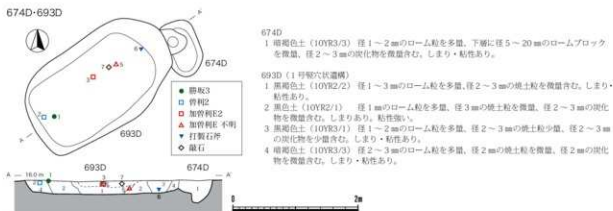
[覆土] 4層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は12点であり、うち勝坂式1点、曾利式1点、加曾利E式4点である。石器は3点で、器種の内訳は打製石斧1点、敲石2点、石材の内訳は、ホルンフェルス1点、砂岩2点である。

[時期] 中期。

[遺物] (第151・152図、第41・49表)

勝坂式(1)、曾利式(2)、加曾利E式(3~5)、打製石斧(7)、敲石(6、8)を図示する。



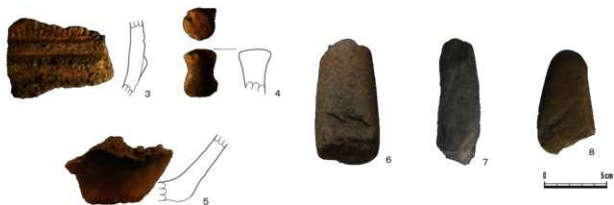
第149図 674・693号土坑(1/60)



第150図 674号土坑出土遺物(1/3)



第151図 693号土坑出土遺物1(1/3)



第152図 693号土坑出土遺物2 (1/3)



693号土坑(左)・674号土坑(右)全景(東より)

693号土坑(左)・674号土坑(右)  
セクション(東より)

## 675号土坑

遺構 (第153図)

[位置] X=19439, Y=24176。

[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：1.14×0.52m・深さ19cm前後を測る。坑底は凹凸があり、壁は80°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-52°-E。

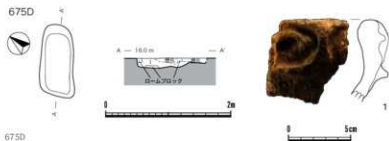
[覆土] 1層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曽利E2時期。

遺物 (第154図、第40表)

加曽利E式(1)を図示した。

675D  
1 赤褐色土(10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。  
しまり・粘性あり。

第153図 675号土坑 (1/60)

第154図 675号土坑  
出土遺物 (1/3)



675号土坑全景（東より）



675号土坑セクション（東より）

## 676号土坑

## 遺構（第155図）

〔位置〕 X=19441, Y=24178。

〔構造〕 平面形：円形。規模：1.19×1.08m・深さ14cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は40°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-7°-E。

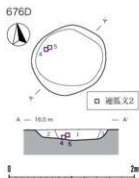
〔覆土〕 3層。

〔遺物〕 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は4点であり、うち勝坂式1点、連弧文2点である。

〔時期〕 加曾利E時期。

## 遺物（第156図、第40表）

勝坂式（1）、加曾利E式（2）、連弧文（3～5）を図示した。



676D

- 1 黒褐色土（10YR3/1）径1～3mmのローム粒を多量、径3～5mmの焼土粒少量、径2～5mmの炭化物を少量含む。しまり・粘性あり。  
 2 黒褐色土（10YR3/2）径2～3mmのローム粒を多量、径2～3mmの焼土粒微量、径2～3mmの炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。  
 3 暗褐色土（10YR3/4）径2～3mmのローム粒を多量、径2～3mmの焼土粒微量含む。しまり・粘性あり。

第155図 676号土坑（1/60）



第156図 676号土坑出土遺物（1/3）



676号土坑全景（東より）

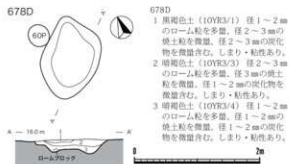


676号土坑セクション（東より）

## 678号土坑

**遺構** (第157図)**位置** X=19440, Y=24180。**構造** 平面形：不整形。規模：1.3×0.93m・深さ15cm前後を測る。坑底は起伏があり、壁は40°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-22°-E。**覆土** 3層。**遺物** 覆土中から僅かに出土した。**時期** 加曾利E3式期。**遺物** (第158図、第40表)

加曾利E式(1~2)を図示した。



第157図 678号土坑(1/60)



第158図 678号土坑出土遺物(1/3)



678号土坑セクション(東より)

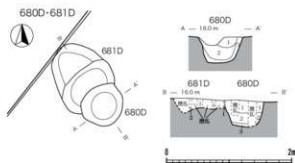


680号土坑(右)・681号土坑(左)全景(南より)

## 680号土坑

**遺構** (第159図)**位置** X=19442, Y=24181.5。**構造** 681Dを切る。平面形：不整形円形。規模：0.7×0.64m・深さ39cm前後を測る。坑底は楕円状で、壁は70°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-26°-E。**覆土** 3層。**遺物** 覆土中から僅かに出土した。**時期** 中期。**遺物** (第160図、第40表)

阿玉台式(1)、加曾利E式(2)を図示した。



680D  
 1 黒褐色土(10YR2/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径1~2mmの焼土粒を微量、径1~3mmの炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。  
 2 黒色土(10YR2/1) 径1~3mmのローム粒を多量、径10~20mmのロームブロックを少量、径1~2mmの炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。  
 3 褐色土(10YR3/1) 径1~2mmのローム粒を多量、径30mmのロームブロックを少量、径1~2mmの炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。

681D  
 1 黒褐色土(10YR2/2) 径1~2mmのローム粒を多量、径2~3mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。  
 2 暗褐色土(10YR3/3) 径1~2mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。

第159図 680・681号土坑(1/60)

## 681号土坑

**遺構** (第159図)

[位置] X=19441,Y=24182。

[構造] 680Dに切られる。平面形：不整楕円形。規模：不明×0.92m・深さ12cm前後を測る。坑底は起伏があり、壁は70°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-34°-W。

[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E式期。

**遺物** (第161図、第40表)

勝坂式(1)、加曾利E式(2・3)を図示した。



第160図 680号土坑出土遺物(1/3)



第161図 681号土坑出土遺物(1/3)



680号土坑セクション(南より)



681号土坑セクション(南より)

## 682号土坑

**遺構** (第162図)

[位置] X=19446,Y=24160。

[構造] 177Jに切られる。平面形：円形。規模：1.07×1.02m・深さ21cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は50°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-54°-E。

[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から比較的多く出土した。出土位置が判明している土器・土製品は11点であり、うち阿玉台式1点、勝坂式4点、曾利式2点、加曾利E式1点、土製円盤1点である。石器は凝灰岩製の打製石斧1点である。

[時期] 中期。

**遺物** (第163図、第40・43・49表)

阿玉台式(1)、勝坂式(2~5)、曾利式(6・7)、加曾利E式(8)、土製円盤(9)、打製石斧(10)を図示した。

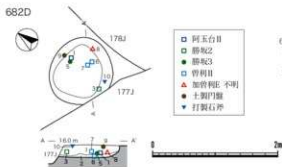




682号土坑全景（西より）

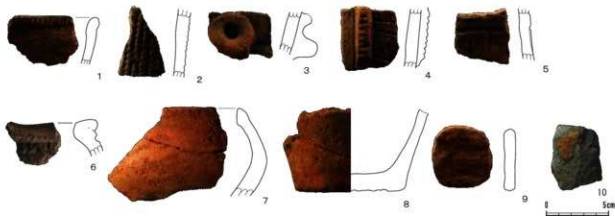


682号土坑セクション（西より）



- 682D
- 1 暗褐色土（10YR3/3） 径1～3mmのローム粒を少量、径1～2mmの焼土粒・径5mmの炭化物を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 暗褐色土（10YR3/4） 径1～3mmのローム粒・径5～15mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

第162図 682号土坑（1/60）



第163図 682号土坑出土遺物（1/3）

## 684号土坑

遺構（第164図）

[位置] X=-19445, Y=-24165。

[構造] 平面形：円形。規模：1.04×0.95m・深さ16cm前後を測る。坑底は僅かに凹凸があり、壁は40°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-6°-W。

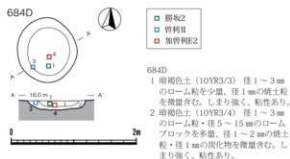
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は10点であり、うち阿玉台式1点、勝坂式1点、曾利式1点、加曾利E式4点である。石器は緑泥片岩製の片岩製石器1点である。

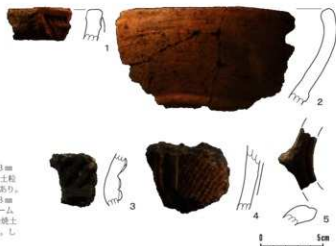
[時期] 中期。

## 遺物 (第165図、第40表)

勝坂式(1)、曾利式(2~3)、  
加曾利E式(4~5)を図示した。



第164図 684号土坑(1/60)



第165図 684号土坑出土遺物(1/3)



684号土坑全景(西より)



684号土坑セクション(西より)

## 686号土坑

## 遺構 (第166図)

[位置] X=19448.5, Y=24168.

[構造] 東側が一部攪乱により破壊されている。平面形：不整形円形。規模：0.81×0.77m・深さ29cm前後を測る。坑底は起伏があり、壁は80°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-2°-E。

[覆土] 5層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は2点であり、うち加曾利E式1点である。

[時期] 加曾利E式期。

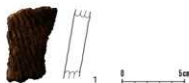
## 遺物 (第167図、第40表)

加曾利E式(1)を図示した。



- 686D
- 1 褐色土 (10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を多量、径5mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。  
2 褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を多量、径5~10mmのロームブロックを微量含む。しまり強く、粘性あり。  
3 褐色土 (10YR3/3) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しまり強く、粘性あり。  
4 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒・径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。  
5 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒・径5~10mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。

第166図 686号土坑(1/60)



第167図 686号土坑出土遺物(1/3)



686号土坑全景（東より）



686号土坑セクション（東より）

## 687号土坑

**遺構**（第168図）

〔位置〕X=19448,Y=24165.5。

〔構造〕平面形：楕円形。規模：0.75×0.58m・深さ10cm前後を測る。坑底は僅かに起伏があり、壁は40°前後の角度で立ち上がる。長軸方位：N-51°-E。

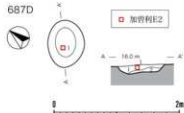
〔覆土〕2層。

〔遺物〕覆土中から僅かに出土した。出土位置が判明している土器は1点であり、うち加曾利E式1点である。

〔時期〕加曾利E2式期。

**遺物**（第169図、第41表）

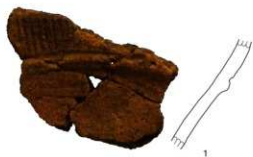
加曾利E式（1）を図示した。



第168図 687号土坑（1/60）

687D

- 1 褐色土 (10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を多数、径1mmの焼土粒・炭化物を散在含む、しまり強く、粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 径1~3mmのローム粒・径5~20mmのロームブロックを多数含む、しまり強く、粘性あり。



第169図 687号土坑出土遺物（1/3）



687号土坑全景（東より）



687号土坑セクション（東より）

## 690号土坑

遺構 (第170図)

[位置] X=19446,Y=24170。

[構造] 567Y、2号炉跡に切られる。平面形:不整楕円形。規模:1.22×0.92m・深さ37cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位:N-61°-W。

[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 縄文時代。

遺物 (第171図、第49表)

打製石斧(1)を図示した。



第170図 690号土坑(1/60)

第171図 690号土坑出土遺物(1/3)



690号土坑全景(西より)



690号土坑セクション(東より)

## 691号土坑

遺構 (第172図)

[位置] X=19452,Y=24176。

[構造] 平面形:不整楕円形。規模:0.84×0.52m・深さ15cm前後を測る。坑底は平坦で、壁は60°前後の角度で立ち上がる。長軸方位:N-54°-E。

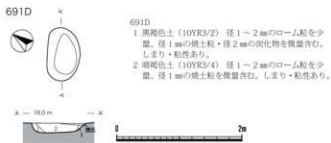
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。石器は緑泥片岩製の片岩製石器1点である。

[時期] 縄文時代中期。

遺物 (第173図、第38表)

勝板式(1)を図示した。



第172図 691号土坑(1/60)



第173図 691号土坑出土遺物(1/3)



691号土坑全景(東より)



691号土坑セクション(西より)

#### (4) 炉跡

##### 1号炉跡

**遺構** (第174図)

**[位置]** X=19433, Y=24172.5。

**[構造]** 566Yに切られる。また、大部分が攪乱であるため規模などは不明である。平面形：不明。

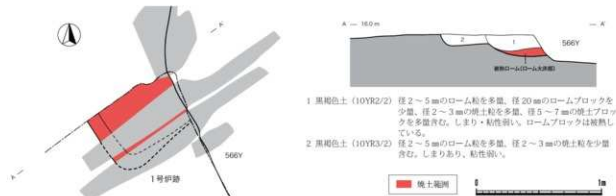
**規模**：不明。深さ：16cm前後。焼土：攪乱により規模は不明だが、一部焼土範囲が確認できる。

**[覆土]** 2層。

**[遺物]** 覆土中から僅かに出土したが、いずれも破片資料のため、図化し得なかった。

**[時期]** 縄文時代中期。

**[所見]** 単独炉跡である。



第174図 1号炉跡(1/30)



1号炉跡全景(西より)



1号炉跡セクション(西より)

## 2号炉跡

遺 構 (第175図)

[位 置] X=19442,Y=24174。

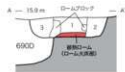
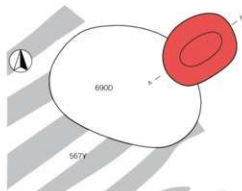
[構 造] 690Dを切る。平面形：楕円形。規模：0.62×0.49m。深さ：15cm前後。焼土：1層の下に火床面が確認できる。

[覆 土] 3層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土したが、いずれも破片資料のため、図化し得なかった。

[時 期] 縄文時代中期。

[所 見] 単独炉跡である。



- 1 黒褐色土(10YR3/2) 径2～5mmのローム粒を少量、径2～5mmの焼土粒を多量、径2～3mmの炭化粒を少量含む。しまりあり、粘性弱。熱を受けてガリガリ。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量、径2～3mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 径1～3mmのローム粒を多量、径3～5mmの焼土粒を少量、径1～3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。



第175図 2号炉跡(1/30)



2号炉跡完掘状況(西より)



2号炉跡セクション(西より)

## (5) ピット

## 43号ピット

遺構 (第176図)

[位置] X=-19454.5, Y=-24157.5。

[構造] 平面形: 不整形円形。規模: 37×32cm・  
深さ68cmを測る。

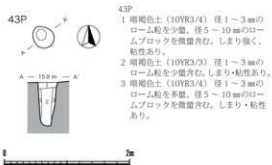
[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 勝坂3式期。

遺物 (第177図、第41表)

勝坂式(1)を図示した。



第176図 43号ピット (1/60)



第177図 43号ピット出土遺物 (1/3)



43号ピット全景 (西から)



43号ピットセクション (西から)

## 55号ピット

遺構 (第178図)

[位置] X=-19436.5, Y=-24178.5。

[構造] 平面形: 隅丸長方形か。規模: 不明  
×38cm・深さ29cmを測る。

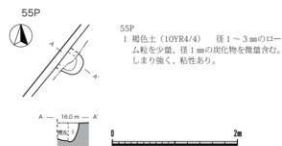
[覆土] 1層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

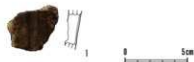
[時期] 加曾利E3式期。

遺物 (第179図、第41表)

加曾利E式(1)を図示した。



第178図 55号ピット (1/60)



第179図 55号ピット出土遺物 (1/3)



55号ピット全景(南から)



55号ピットセクション(南から)

## 56号ピット・57号ピット

遺構(第180図)

[位置] X=19437.5, Y=24179.

[構造] 平面形: 56号ピット、不整形。

57号ピット、楕円形。規模: 56号ピット、39×28 cm・深さ74 cmを測る。57号ピット、36×30 cm、深さ56 cmを測る。

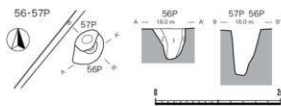
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E3時期。

遺物(第181図、第41・43表)

阿玉台式(1)、勝坂式(2)、土器片錘(3)を図示した。



56P

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 径1~3mmのローム粒を少量含む。しりり強く、粘性あり。  
2 褐色土(10YR4/4) 径1~3mmのローム粒を少量、径5~20mmのロームブロックを少量含む。しりり強く、粘性あり。

第180図 56・57号ピット(1/60)



第181図 56・57号ピット出土遺物(1/3)



56号ピット(上)・57号ピット(下)全景(西から)



56号ピットセクション(西から)

## 69号ピット

遺構(第182図)

[位置] X=19445, Y=24156.5。

[構造] 平面形: 隅丸長方形。規模: 30×25 cm・深さ34 cmを測る。



[覆 土] 3層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 勝坂2式期。

[遺 物] (第183図、第39表)

勝坂式(1)を図示した。



第182図 69号ピット (1/60)



第183図 69号ピット  
出土遺物 (1/3)



68号ピット(左)・69号ピット(右)全景(東より)



69号ピットセクション(東より)

## 71号ピット

[遺 構] (第184図)

[位 置] X=-19442, Y=-24170.3。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：38×36 cm・深さ70 cmを測る。

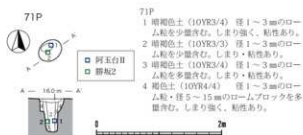
[覆 土] 4層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 勝坂式期。

[遺 物] (第185図、第41表)

阿玉台式(1)、勝坂式(2)を図示した。



第184図 71号ピット (1/60)



第185図 71号ピット出土遺物 (1/3)



71号ピット全景(東から)



71号ピットセクション(東から)

## 87号ピット

遺構(第186図)

[位置] X=-19441.5, Y=-24166.5

[構造] 平面形:不整円形。規模:58×43cm・深さ15cmを測る。

[覆土] 1層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 縄文時代。

遺物(第187図、第49表)

石鉄(1)を図示した。



第186図 87号ピット(1/60)



第187図 87号ピット出土遺物(2/3)



87号ピット全景(東から)



87号ピットセクション(東から)

## 89号ピット

遺構(第188図)

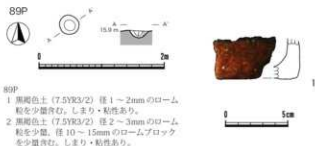
[位置] X=-19444, Y=-24175.5。

[構造] 平面形:円形。規模:31×30cm・深さ13cmを測る。

[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 阿玉台式期。

第188図 89号ピット  
(1/60)第189図 89号ピット  
出土遺物(1/3)

## 遺物 (第189図、第41表)

阿玉台式(1)を図示した。



89号ピット全景(東より)



89号ピットセクション(西から)

## 98号ピット

## 遺構 (第190図)

[位置] X=19451.5, Y=24178.5。

[構造] 平面形: 楕円形。規模: 39×36 cm・  
深さ 30 cmを測る。

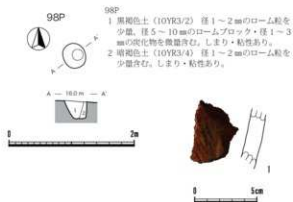
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曾利E 2~3式期。

## 遺物 (第191図、第41表)

加曾利E式(1)を図示した。

第190図 98号ピット 第191図 98号ピット  
(1/60) 出土遺物(1/3)

98号ピット全景(東より)



98号ピットセクション(東より)

## 99号ピット

## 遺構 (第192図)

[位置] X=19450, Y=24176。

[構造] 平面形: 不整形円形。規模: 37×27 cm・  
深さ 35 cmを測る。

第192図 99号ピット(1/60)

[覆 土] 1層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 中期。

[遺 物] (第193図、第43表)

土製円盤(1)を図示した。



第193図 99号ピット出土遺物(1/3)



99号ピット全景(東より)



99号ピットセクション(西より)

## 102号ピット

[遺 構] (第194図)

[位 置] X=19447.5, Y=24176.5。

[構 造] 平面形：円形。規模：30×29 cm・深さ17 cmを測る。

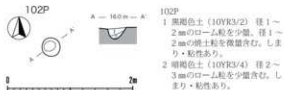
[覆 土] 2層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 加曾利E式期。

[遺 物] (第195図、第41表)

曾利式(1)を図示した。



第194図 102号ピット(1/60)



第195図 102号ピット出土遺物(1/3)



102号ピット全景(東より)



102号ピットセクション(東より)

## 104号ピット

遺構 (第196図)

[位置] X=19446.5, Y=24182.5。

[構造] 平面形: 楕円形。規模: 32×26 cm・深さ 25 cmを測る。

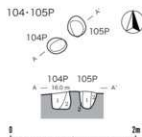
[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曽利E式期。

遺物 (第197図、第41表)

加曽利E式(1)を図示した。



104P・105P

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~2mmのローム粒を少量。径1~2mmの焼土粒・炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1~2mmのローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。

第196図 104・105号ピット (1/60)

## 105号ピット

遺構 (第196図)

[位置] X=19446.5, Y=24182。

[構造] 平面形: 楕円形。規模: 32×28 cm・深さ 26 cmを測る。

[覆土] 2層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。

[時期] 加曽利E 3~4式期。

遺物 (第198図、第41表)

加曽利E式(1)を図示した。

第197図 104号ピット  
出土遺物 (1/3)第198図 105号ピット  
出土遺物 (1/3)

104号ピット(左)・105号ピット(右) 全景(東より)

104号ピット(左)・105号ピット(右)  
セクション(東より)

## 106号ピット

遺構 (第199図)

[位置] X=19445.5, Y=24175。

[構造] 平面形: 不整形。規模: 48×39 cm・深さ 44 cmを測る。

[覆土] 3層。

[遺物] 覆土中から僅かに出土した。



106P

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 径2~3mmのローム粒を少量。径1~2mmの焼土粒を微量。径2~3mmの炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 径2~3mmのローム粒を少量。径1~2mmの焼土粒を微量。径2~3mmの炭化物粒を微量しまり強く、粘性あり。含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を少量。径20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。

第199図 106号ピット (1/60)

[時 期] 加曾利E式期。

[遺 物] (第200図、第49表)

打製石斧(1)を図示した。



第200図 106号ピット出土遺物(1/3)



106号ピット全景(西から)



106号ピットセクション(西から)

### 109号ピット

[遺 構] (第201図)

[位 置] X=19448.5, Y=24178。

[構 造] 平面形:不整円形。規模:47×41 cm・

深さ52 cmを測る。

[覆 土] 2層。

[遺 物] 覆土中から僅かに出土した。

[時 期] 勝坂式期。

[遺 物] (第202図、第41表)

勝坂式(1)を図示した。



第201図 109号  
ピット(1/60)

第202図 109号ピット  
出土遺物(1/3)



109号ピット全景(西から)



109号ピットセクション(西から)

遺構名	位置	時期	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	長軸方位	備考
650D	X= -19451 Y= -24184	加曾利 E 3 式期	楕円形	1.3	1.14	37	N-48°-E	
651D	X= -19450 Y= -24182	加曾利 E 式期	楕円形	1.19	0.86	15	N-18°-W	
652D	X= -19452 Y= -24181	加曾利 E 2 ~ 3 式期	不整形円形	1.23	0.92	15	N-11°-E	
653D	X= -19439 Y= -24163.5	不明	不明	不明	不明	28	N-237°-E	
654D	X= -19447 Y= -24151	阿玉台式期	楕円形か	1.58	不明	39	N-46°-E	
655D	X= -19448 Y= -24152	加曾利 E 式期	楕円形か	1.05	不明	19	N-50°-E	
656D	X= -19446 Y= -24151.5	加曾利 E 式期	隅丸長方形	0.66	0.46	19	N-31°-W	
657D	X= -19450.1 Y= -24154	加曾利 E 式期	楕円形	不明	0.86	21	N-42°-W	
658D	X= -19451.5 Y= -24156	縄文時代	円形	0.66	0.55	15	N-83°-E	
659D	X= -19430 Y= -24167	中期	隅丸長方形	不明	1.07	21	N-50°-E	
660D	X= -19431 Y= -24173	中期	円形	1.25	1.16	31	N-37°-E	
661D	X= -19437 Y= -24164	縄文時代	楕円形	0.73	0.6	17	N-38°-W	
662D	X= -19439 Y= -24168	縄文時代	楕円形	1.04	0.73	16	N-40°-E	
663D	X= -19433.5 Y= -24175	中期	楕円形	1.13	0.67	13	N-86°-W	
664D	X= -19437 Y= -24171	縄文時代	楕円形	0.8	0.54	19	N-46°-E	
665D	X= -19437 Y= -24165	加曾利 E 式期	楕円形	1.56	1.17	20	N-38°-E	
666D	X= -19440.5 Y= -24169	縄文時代	円形	0.68	0.62	13	N-55°-E	
667D	X= -19447.5 Y= -24158.5	加曾利 E 式期	不整形	0.79	0.67	56	N-29°-W	
668D	X= -19448 Y= -24157	勝版 3 期	不整形円形	1.47	1.18	15	N-53°-E	
669D	X= -19431.5 Y= -24173	加曾利 E 式期	楕円形	0.88	0.41	16	N-54°-E	
670D	X= -19432 Y= -24173	加曾利 E 式期	不明	不明	不明	23	N-58°-W	
671D	X= -19431.5 Y= -24172.5	加曾利 E 式期	隅丸長方形	0.71	不明	14	N-57°-E	
672D	X= -19435 Y= -24176	加曾利 E 式期	楕円形	2.08	1.47	23	N-7°-E	
673D	X= -19441 Y= -24177	中期	不整形円形	0.7	0.63	26	N-59°-W	
674D	X= -19442 Y= -24174	加曾利 E 式期	隅丸長方形	0.9	0.54	18	N-22°-W	
675D	X= -19439 Y= -24176	加曾利 E 2 式期	隅丸長方形	1.14	0.52	19	N-52°-E	
676D	X= -19441 Y= -24178	加曾利 E 2 式期	円形	1.19	1.08	14	N-7°-E	
677D	X= -19440.5 Y= -24176.5	縄文時代	円形	0.52	0.47	16	N-77°-E	
678D	X= -19440 Y= -24180	加曾利 E 3 式期	不整形	1.3	0.93	15	N-22°-E	
679D	X= -19438 Y= -24163.5	縄文時代	不整形楕円形か	1.18	不明	19	N-47°-E	
680D	X= -19442 Y= -24181.5	中期	不整形円形	0.7	0.64	39	N-26°-E	
681D	X= -19441 Y= -24182	加曾利 E 式期	不整形円形	不明	0.92	12	N-34°-W	
682D	X= -19446 Y= -24160	中期	円形	1.07	1.02	21	N-54°-E	
683D	X= -19441.5 Y= -24171	縄文時代	楕円形	0.71	0.5	20	N-63°-E	
684D	X= -19445 Y= -24165	中期	円形	1.04	0.95	16	N-6°-W	
685D	X= -19444 Y= -24173.5	縄文時代	不整形円形	0.87	0.73	42	N-60°-E	
686D	X= -19448.5 Y= -24168	加曾利 E 式期	不整形円形	0.81	0.77	29	N-2°-E	
687D	X= -19448 Y= -24165.5	加曾利 E 2 式期	楕円形	0.75	0.58	10	N-51°-E	
688D	X= -19446 Y= -24166	縄文時代	不整形円形か	不明	不明	6	不明	
689D	X= -19446 Y= -24165.5	縄文時代	不整形円形	0.83	0.72	9	N-68°-E	
690D	X= -19446 Y= -24170	縄文時代	不整形楕円形	1.22	0.92	37	N-61°-W	
691D	X= -19452 Y= -24176	加曾利 E 式期	不整形楕円形	0.84	0.52	15	N-54°-E	
692D	X= -19451.5 Y= -24177	縄文時代	不整形楕円形	0.73	0.33	18	N-45°-E	
693D	X= -19447 Y= -24175	中期	隅丸長方形	2.53	1.48	22	N-55°-E	

第5表 土坑一覽表

遺構名	位置	時期	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
37P	X= -19446.8 Y= -24185.3	縄文時代	楕円形	33	23	16	
38P	X= -19446.5 Y= -24184.5	縄文時代	円形	39	37	7	
39P	X= -19448.5 Y= -24182	縄文時代	楕円形	41	33	39	
40P	X= -19454 Y= -24177.5	縄文時代	楕円形	44	36	28	
41P	X= -19448.5 Y= -24183.5	縄文時代中期	楕円形か	不明	50	23	
42P	X= -19446.5 Y= -24181	縄文時代	不整形円形	30	29	17	
43P	X= -19454.5 Y= -24157.5	勝版 3 式期	不整形円形	37	32	68	
44P	X= -19437.5 Y= -24169	縄文時代	楕円形	53	46	77	
45P	X= -19438.8 Y= -24171.5	縄文時代	不整形円形	35	27	25	
46P	X= -19439.3 Y= -24171.5	縄文時代	楕円形	39	37	34	
47P	X= -19438 Y= -24170.5	縄文時代	楕円形	41	36	38	
48P	X= -19439 Y= -24170.5	縄文時代	楕円形	54	40	42	

第6表 ビット一覽表 (1)

遺構名	位置	時期	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
49P	X= -19441 Y= -24170	縄文時代	楕円形	51	41	14	
50P	X= -19432.5 Y= -24173	縄文時代	不整形	34	31	28	
51P	X= -19432.2 Y= -24172.5	縄文時代	楕円形	21	15	29	
52P	X= -19441 Y= -24172.5	縄文時代	不整形	33	18	19	
53P	X= -19431.2 Y= -24172.5	中期	不整形	40	26	49	
54P	X= -19437 Y= -24177.5	縄文時代	不整形	35	30	30	
55P	X= -19436.5 Y= -24178.5	加曾利 E 3 式期	隅丸長方形か	不明	38	29	
56P	X= -19437.5 Y= -24179	中期	不整形	60	46	51	
57P	X= -19437.5 Y= -24179	中期	不整形	39	28	74	
58P	X= -19433 Y= -24174.5	勝坂式期	楕円形	36	30	56	
59P	X= -19433 Y= -24175	加曾利 E 式期	不整形	44	34	38	
60P	X= -19439 Y= -24180.5	縄文時代	円形	35	33	32	
61P	X= -19436.5 Y= -24176	縄文時代	円形	51	47	29	
62P	X= -19442.5 Y= -24180	縄文時代	楕円形	50	39	21	
63P	X= -19436.8 Y= -24166	縄文時代	楕円形	34	27	19	
64P	X= -19438 Y= -24165	勝坂式期	楕円形	48	38	24	
65P	X= -19438.5 Y= -24166	縄文時代	不整形	44	43	77	
66P	X= -19438 Y= -24166.6	縄文時代	楕円形	35	23	21	
67P	X= -19440.5 Y= -24167	縄文時代	隅丸長方形	49	43	17	
68P	X= -19441.5 Y= -24167	縄文時代	不整形	30	25	31	
69P	X= -19441 Y= -24166.5	勝坂 2 式期	隅丸長方形	61	36	34	
70P	X= -19441.5 Y= -24169.5	縄文時代	楕円形	44	36	28	
71P	X= -19442 Y= -24170.3	勝坂式期	楕円形	38	36	70	
72P	X= -19442.8 Y= -24171.2	縄文時代	円形	31	36	40	
73P	X= -19442.5 Y= -24177.5	縄文時代	不整形	30	27	19	
74P	X= -19445 Y= -24177	縄文時代	円形	33	32	23	
75P	X= -19444.5 Y= -24164.5	縄文時代	円形	35	32	32	
76P	X= -19443.5 Y= -24165.3	縄文時代	楕円形	38	29	30	
77P	X= -19443.5 Y= -24173.5	縄文時代	円形か	不明		11	
78P	X= -19446 Y= -24175.5	縄文時代	楕円形	48	34	33	
79P	X= -19443.5 Y= -24170.7	阿玉台式期	円形	37	35	29	
80P	X= -19444 Y= -24171	縄文時代	円形	41	37	56	
81P	X= -19441.2 Y= -24176.5	縄文時代	楕円形か	不明	25	18	
82P	X= -19445.7 Y= -24168.3	縄文時代	楕円形	30	22	17	
83P	X= -19450.5 Y= -24166	縄文時代	楕円形	38	29	19	
84P	X= -19452 Y= -24166.5	縄文時代	円形	41	37	37	
85P	X= -19454.8 Y= -24166.5	縄文時代	不整形	56	38	64	
86P	X= -19446.5 Y= -24163.5	縄文時代	不整形	59	55	22	
87P	X= -19441.5 Y= -24166.5	縄文時代	不整形	58	43	15	
88P	X= -19437 Y= -24174.5	縄文時代	不整形	51	42	20	
89P	X= -19444 Y= -24175.5	阿玉台式期	円形	31	30	13	
90P	X= -19442.5 Y= -24166.5	縄文時代	円形	26	23	12	
91P	X= -19443 Y= -24167	縄文時代	円形	38	37	70	
92P	X= -19443 Y= -24167.5	縄文時代	不整形	36	23	37	
93P	X= -19445 Y= -24181.5	縄文時代	円形	44	43	49	
94P	X= -19443.5 Y= -24181.5	縄文時代	円形	32	29	14	
95P	X= -19444 Y= -24183.5	縄文時代	楕円形	36	32	44	
96P	X= -19446.5 Y= -24182.5	加曾利 E 式期	円形	40	38	44	
97P	X= -19450.3 Y= -24179.5	加曾利 E 式期	円形	38	38	19	
98P	X= -19451.5 Y= -24178.5	加曾利 E 2 ~ 3 式期	楕円形	39	36	30	
99P	X= -19450 Y= -24176	中期	不整形	37	27	35	
100P	X= -19446 Y= -24183	加曾利 E 式期	楕円形か	不明	38	25	
101P	X= -19451.3 Y= -24177.5	縄文時代	楕円形	44	38	52	
102P	X= -19447.5 Y= -24176.5	加曾利 E 式期	円形	30	29	17	
103P	X= -19453.5 Y= -24174.5	縄文時代	不整形	38	31	23	
104P	X= -19446.5 Y= -24182.5	加曾利 E 式期	楕円形	32	26	25	
105P	X= -19446.5 Y= -24182	加曾利 E 3 ~ 4 式期	楕円形	32	28	26	
106P	X= -19445.5 Y= -24175	加曾利 E 式期	不整形	48	39	44	
107P	X= -19447.5 Y= -24174.5	縄文時代	不整形	27	25	32	

第7表 ビット一覧表(2)



遺構名	位置	時期	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	備考
108P	X=-19447.5 Y=-24177.5	縄文時代	不整形円形	37	27	22	
109P	X=-19448.5 Y=-24178	勝飯式期	不整形円形	47	41	52	
110P	X=-19445.5 Y=-24183	縄文時代	不整形円形	43	41	45	
111P	X=-19438.5 Y=-24168	縄文時代	不整形円形	39	36	36	
112P	X=-19433 Y=-24170.5	縄文時代	円形	38	37	20	
113P	X=-19432.5 Y=-24170.3	縄文時代	円形	36	33	26	
114P	X=-19430.3 Y=-24170	縄文時代	円形	39	37	11	
115P	X=-19430 Y=-24170	縄文時代	不整形形	42	37	90	
116P	X=-19449.7 Y=-24139.3	縄文時代	円形	37	34	15	
117P	X=-19448.3 Y=-24174	縄文時代	楕円形	32	27	20	
118P	X=-19447 Y=-24180.5	縄文時代	不整形形	38	34	11	
119P	X=-19479.3 Y=-24179	縄文時代	不整形形	62	31	14	
120P	X=-19450 Y=-24179.8	縄文時代	不整形円形	35	31	79	
121P	X=-19448 Y=-24178.5	縄文時代	不整形形	24	21	23	
122P	X=-19446.8 Y=-24179	縄文時代	楕円形	49	30	6	
123P	X=-19445.3 Y=-24179.5	縄文時代	不整形円形	25	24	32	

第8表 ビット一覧表(3)

調査番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底部	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 把手特徴	胴部・底部・ 脚部・底文	胴部・底部・ 脚部・底文	外面色調	内面色調	備考
第11図1	樽短3	深鉢	胴部	—	—	—	三角押文、爪形文が施される。	褐色	にぶい黄褐色	
第11図2	樽短3	深鉢	胴部	—	—	単筋斜縄文LR	連続爪形文が施される。	褐色	にぶい黄褐色	
第11図3	加曾利E1	深鉢	口縁部 →胴部	庶糸文L	隆帯が「ㄱ」字状に附けられる。	—	—	明黄褐色～にぶい黄褐色	—	
第11図4	加曾利E1	深鉢	口縁部 →胴部	庶糸文L	隆帯によって区画を作る。	—	—	黒褐色	—	
第11図5	加曾利E1	深鉢	口縁部	庶糸文L	隆帯で渦巻文を附けられる。	—	—	褐色	褐色	
第11図6	加曾利E1 →2	深鉢	胴部 →底部	—	—	庶糸文L	隆帯が附けられる。	にぶい黄褐色	—	
第11図7	加曾利E1 →2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文L	沈線で渦巻文を描かれる。	褐色	—	
第12図8	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	庶糸文L	隆帯が附けられる。	褐色	—	
第12図9	加曾利E1 →2	深鉢	口縁部	単筋斜縄文LR	隆帯が附けられる。	—	—	暗褐色	暗灰黄色	
第12図10	曲底文	深鉢	胴部	—	—	単筋斜縄文LR	沈線が横位に走る。	暗褐色	暗灰黄色	

第9表 90号住居跡出土土器一覧

調査番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底文	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 把手特徴	胴部・底部・ 脚部・底文	胴部・底部・ 脚部・底文	外面色調	内面色調	備考
第30図1	五葉付 1→2	深鉢	胴部	—	—	沈線	2列の三角文が施される。	にぶい褐色	—	
第30図2	阿玉台I	深鉢	口縁部	—	内面に2列の角押文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第30図3	阿玉台I	深鉢	胴部	—	粘土を附けし、縁に削みが施される。	—	—	にぶい褐色	—	
第30図4	阿玉台II	深鉢	口縁部	—	隆帯により楕円形の区画を作り、区画内に連続爪形文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第30図5	阿玉台II	深鉢	口縁部	—	口縁部に沿って1列の幅広角押文が施される。	—	—	褐色	—	
第30図6	阿玉台II	深鉢	突起	—	突起から隆帯を垂下させた区画が作られる。区画内は沈線を描き足らせるもの、沈線を描くものがある。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第30図7	阿玉台II	深鉢	口縁部	—	口縁部上面、口縁部上面に2列の角押文が施される。また、外面の角押文の下に隆帯が附けられる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第30図8	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯により区画を作り、角押文が施される。一方の区画にはさらに2列の角押文、もう一方の区画には沈線がそれぞれ施される。	にぶい褐色	—	
第30図9	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を附けし、上面に三角押文が施される。隆帯の下には三角押文が加えられる。	黒褐色	褐色	
第30図10	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を附けし、隆帯に沿って2列の角押文、後続沈線が施される。	にぶい黄褐色	—	

第10表 174号住居跡出土土器一覧(1)

神奈番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底面	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 四手跡部	胴部・底面・ 脚部脚文	胴部・底面・ 脚部脚文	外面色調	内面色調	備考
第30図11	阿玉台Ⅱ ～Ⅲ	深鉢	把手	—	C1字状を呈する把手が 付する。縁に沿って筋みが 施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第30図13	阿玉台Ⅱ ～Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	—	—	灰黄褐色	—	平行比線により区画を作り、押引文が充填される。3本の平行する比線が加えられる。
第30図14	阿玉台Ⅲ	深鉢	口縁部	—	口縁部に単純斜線LRが 縦方向に施される。	—	—	黒褐色	—	
第30図15	阿玉台Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	—	—	灰黄褐色	—	隆帯を垂下させ、2列の角押文が施される。角押文の中心に比線が加えられる。
第30図16	帯板1	深鉢	胴部	—	—	—	—	褐色	—	隆帯を斜めし三角形の区画を作り幅広角押文が施される。区画内には波状比線を引き、下部に比線が施される。三角形の区画内には縦位の比線を集合させる。
第30図17	帯板1～ 2	深鉢	口縁部	—	口縁部下に連続爪形文と2 本の波状比線が施される。	—	—	黒褐色	—	
第30図18	帯板2	深鉢	口縁部	—	口縁部に無文帯を掛け、平 行比線により半円形の区画 が作られる。区画内は連続 爪形文で充填し、波状比線 が施される。	—	—	黒褐色	褐色	
第30図19	帯板2	深鉢	口縁部	—	無文帯を掛け、下部に区画 が作られる。隆帯上には連 続爪形文が加えられ、区 画に沿って三角押引が通 る。区画内には波状の三角 押引、半円形の刺突文が加 えられる。	—	—	灰黄褐色	—	
第30図21	帯板2	深鉢	口縁部	—	隆帯で三角形の区画を作 り、隆帯に沿って幅広角押 文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第30図22	帯板2	深鉢	口縁部	—	内面に円形の凹みを作る。 外面には隆帯による区画を 作り、隆帯に沿って幅広角 押文が施される。更に斜行 比線、三角押文を加える部 分がみられる。口縁部の波 状部分の中央に円形刺突が 加えられる。また、口縁部 と隆帯上に角押文が施され る。	—	—	にぶい褐色	—	
第30図23	帯板2	深鉢	口縁部	—	全面に赤彩が施される。	—	—	にぶい褐色	—	
第30図24	帯板2	深鉢	口縁部	—	口縁に沿って三角押文が施 される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第30図25	帯板2	深鉢	口縁部	—	先端を内側に折り返して成 形される。	—	—	灰黄褐色	—	
第30図26	帯板2	深鉢	胴部	—	—	断面文か	—	黒褐色	—	隆帯によって区画を作り、隆帯上には連続する凹みが施される。区画内に3文文、刺突が加えられる。
第30図27	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	—	にぶい黄褐色	—	隆帯によって三角形の区画を作り、隆帯上には角押文が加えられる。区画内には比線が充填される。
第30図28	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	—	褐色	—	隆帯によって三角形の区画が作られる。隆帯上に斜め、比線が施される。区画内には比線により文様が施される。
第30図29	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	—	にぶい黄褐色	—	隆帯によって区画を作り、連続爪形文が施される。区画内には隆帯に沿って連続爪形文と波状比線が施される。
第30図30	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	—	にぶい黄褐色	—	隆帯によって区画が作られる。隆帯上には幅広角押文、交互刺突を施し、隆帯の断面にも一部三角押文が加えられる。
第30図31	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	—	灰黄褐色	—	隆帯によって区画を作り、隆帯上に連続爪形文が施される。区画内には比線が施される。角押文が加えられる。
第30図32	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	—	にぶい黄褐色	—	隆帯によって区画を作り、平行比線、幅広角押文が施される。幅広角押文に隣接して波状比線を引き、

第11表 174号住居跡出土土器一覧(2)

神奈川番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底面	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 把手位置	胴部・底面・ 器蓋位置	胴部・底面・ 器蓋位置	外面色調	内面色調	備考
第30図33	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって三角形の区画が作り、隆帯上には加えられ、区画によって文様が異なる。	ぶい・黄褐色	—	
第30図34	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	3重の沈線を通して三角形の区画が作られる。内側の区画を連続的相文で充填し、中央に三文文が施される。	ぶい・褐色	—	
第30図35	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯で段状の文様が施される。内側には三角相文を施し、外側には幅広角相文を施す。その外側に沈線と幅広角相文が施される。	褐色	褐色	
第30図40	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	横帯と縦帯の隆帯を施し、隆帯に沿って角相文が加えられる。また、隆帯に沿って段状沈線がみえる。	ぶい・黄褐色	黒褐色	
第30図41	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を垂下させ、平行沈線を引き、平行沈線に沿って2本の連続的相文が施される。	ぶい・黄褐色	—	
第31図42	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	2条一対の沈線で段状の文様が施される。	灰褐色	ぶい・褐色	
第31図43	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線で区画を作り、区画内に円形の隆帯を貼付し中央に刺突文が施される。	黄灰色	—	
第31図44	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線によって区画を作り、区画内は斜位の沈線が充填される。	灰褐色	—	
第31図45	帯板2	深鉢	突起	—	2つの孔が開く指輪状に成形される。	—	—	ぶい・褐色	—	
第31図46	帯板2	深鉢	底部付足	—	—	—	三角相文の内側に刺突文を施し区画が作られる。区画内には区画に沿って角相文がみられる。	褐色	—	
第31図47	帯板2～3	深鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	褐色	—	
第31図48	帯板2～3	深鉢	口縁部	—	口縁部下部に沈線が走る。	—	—	灰黄褐色	—	
第31図49	帯板2～3	深鉢	口縁部	—	口縁部の外側に隆帯を貼付し加えられ、隆帯によって連続する三角形の区画を作り、区画に沿って外側に沈線を通して。区画内には連続的相文を施し、中央に三文文が加えられる。また、区画内には沈線を充填させる。	—	—	ぶい・赤褐色	—	
第31図50	帯板2～3	深鉢	口縁部	—	隆帯によって三角形の区画を作り、隆帯上に加えられる。区画内は斜位の沈線が施される。また、区画外には三角相文を施す部分と沈線で区画を置き区画内に横位の沈線を引き部分がある。	—	—	ぶい・赤褐色	—	
第31図51	帯板2～3	深鉢	口縁部	—	隆帯によって平行形の区画を作り、隆帯上に矢羽根状刺突文が加えられる。区画内には幅広角相文を施し、その上に三文文上に三角相文が加えられる。	—	—	ぶい・褐色	—	
第31図52	帯板2～3	深鉢	口縁部	—	段状口縁部の頂部から隆帯が垂下し、隆帯上に角相文が施される。	—	—	ぶい・黄褐色	—	
第31図53	帯板2～3	深鉢	把手	—	形状は丸みを帯び、上部は段状に同様の文様が施される。両面に同様の文様が施される。突起の中央に沈線を引き、上部に連続する加えられ。	—	—	灰黄褐色	—	
第31図55	帯板2～3	深鉢	突起	—	「C」字状を呈し、加えられる。	—	—	赤褐色	—	
第31図56	帯板2～3	深鉢	把手	—	「フ」字状に成形される。両面に同様の文様が施される。突起の中央に沈線を引き、上部に連続する加えられ。	—	—	ぶい・褐色	—	
第31図57	帯板2～3	深鉢	把手	—	「フ」字状に成形する。表面に1条、裏面に2本の沈線を引き、縁付足に加えられ。	—	—	ぶい・黄褐色	—	
第31図58	帯板2～3	深鉢	口縁部	—	孔を圍む楕円状の突起が口縁部に貼付される。隆帯上に加えられる。	—	—	ぶい・黄褐色	—	

第12表 174号住居跡出土土器一覽(3)

神前番号	型式	階層	部位	口縁部・頸部・ 肩部地文	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 取手残痕	胴部・底面・ 脚部地文	胴部・底面・ 脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第31図59	帯板2～3	深鉢	胴部	—	—	沈線	隆帯を彫付し、先部を渦巻状にする。隆帯上には幅広い角押文が施される。	にぶい褐色	—	
第31図60	帯板2～3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作られ、交互刺突、角押文が施される。	にぶい黄褐色	—	
第31図61	帯板2～3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯をつつ字状に彫付し、両側に角押文を施す。内側には連続爪形文が加えられる。	にぶい褐色	—	
第31図62	帯板2～3	浅鉢	口縁部	—	—	—	上部と下部に幅広い角押文を1列施し、間に交互刺突が加えられる。	にぶい褐色	—	
第31図63	帯板2～3	浅鉢	口縁部	—	ミニチュアの浅鉢であろうか。口縁部の直下に交互刺突を施し、その下部に角押文が施される。	—	—	にぶい赤褐色	—	
第31図64	帯板3	深鉢	口縁部	—	口縁部の折り返した部分に沈線を施し、間に筋目が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第31図65	帯板3	深鉢	口縁部	—	隆帯によって区画を作り、隆帯上に筋目が加えられる。区画内は縦位の沈線が施される。	—	—	灰黄褐色	—	
第31図66	帯板3	深鉢	口縁部	単筋斜線文Ⅰ	口縁部に円形の文様を連続してが施される。中央は凸状に膨らむ。	—	—	灰黄褐色	—	
第31図70	帯板3	深鉢	口縁部	—	隆帯を巡らせ、隆帯上に交互刺突が施される。また、赤彩が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第31図71	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって四角形の区画を作り、隆帯上に筋目を施す。区画内は沈線が施される。	灰黄褐色	—	
第31図72	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作り、区画内は沈線が施される。	にぶい黄褐色	—	
第31図73	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を彫付し、隆帯上に連続爪形文が加えられる。また、隆帯の下部に沈線で「W」字状の文様が施される。	灰黄褐色	—	
第31図76	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって、楕円形の区画が作られる。曲線部分を強調して彫付され、区画内には縦位の沈線が施される。	黒褐色	—	
第31図77	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を巡らせ、その上に隆帯を楕円状に彫付し区画が作られる。区画内は沈線が施される。	にぶい黄褐色	—	
第32図78	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を彫付し、その下部に突起状の隆帯が彫付される。隆帯上には筋目が加えられる。	灰黄褐色	—	
第32図79	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を彫付し、隆帯上に矢引粗刺突文が施される。	にぶい褐色	—	
第32図80	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって三角形の区画が作られる。隆帯上に矢引粗刺突文が加えられる。	にぶい黄褐色	—	
第32図81	帯板3	深鉢	胴部	—	—	単筋斜線文Ⅱ	隆帯と沈線によって区画を作り、隆帯に沿って平行沈線を引き区画内は角押文が施される。	にぶい黄褐色	—	
第32図82	帯板3	深鉢	胴部	—	—	断布文Ⅰ	隆帯によって区画を作り、隆帯上に幅広い角押文が加えられる。区画内には三角押文が施される。	にぶい赤褐色	—	土器片断
第32図83	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	縦位の沈線を引き、上に沈線で渦巻文を加える。渦巻文の一部に三角押文が施される。	にぶい赤褐色	—	
第32図84	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作り、隆帯上に押痕を加える。区画内に三叉文状の文様が施される。	にぶい褐色	—	
第32図85	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線によって区画が作られる。区画内は幅広い角押文が施される。	にぶい褐色	—	
第32図86	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作り、区画内に沈線で円形の文様が施される。円形の文様の中央に筋目が加えられる。	黒褐色	黒褐色	

第13表 174号住居跡出土土器一覽(4)

神奈川番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・ 把手地文	胴部・腹部・ 脚部地文	胴部・腹部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第32図87	磨板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって三角形の区画を作り、区画に沿って連続的な突起を巡らせる。区画内には連続的な突起を備え、隆帯上には突起が加えられる。	黄褐色	—	
第32図88	磨板3	深鉢	把手	—	2つの孔が開けられ隆帯状に成形される。2つの孔に沿って沈線が引かれ、更に沈線の外縁に角押文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第32図89	磨板4	深鉢	口縁部	—	口縁に沿って隆帯が彫付される。また、隆帯によって区画が作られる。	—	—	黄褐色	—	
第32図90	磨板4	深鉢	口縁部	—	口縁部が幅広く成形される。	—	—	褐色	—	
第32図91	磨板4	深鉢	口縁部	無彫刻縄文	口縁部に無文部分を設け、下部に縦状沈線と沈線が施される。	—	—	灰黄褐色	—	
第32図92	磨板4	深鉢	口縁部	—	口縁部に沿って隆帯を彫付し、柄み加えられる。隆帯の下部に平行沈線を垂下させる。また隆帯の突起部は突起状の突起が施される。	—	—	褐色	—	
第32図93	磨板4	浅鉢	胴部	—	—	—	隆帯を彫付し、柄みが施される。	褐色	—	
第32図94	磨板4	香炉 形土器	把手	—	中央に円形の孔が開こうか。表面には隆帯で波状に成形し、裏側は縁に隆帯が彫付される。	—	—	にぶい赤褐色	—	
第32図95	磨板4	深鉢	底部	—	—	—	ミニチュアの底部である。平底で内側は黒いのが彩も残る。	灰黄褐色	—	
第32図96	磨板4	深鉢	底部	—	—	—	ミニチュアの平底の底部である。	灰褐色	—	
第32図97	磨板4	深鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。内側に点紋が施される。	にぶい黄褐色	—	
第32図98	磨板1～ 日	深鉢	胴部	—	—	無彫文	上部に隆帯を彫付し、交互突起を備える。下部には平行沈線が引かれる。	にぶい褐色	—	
第32図99	磨板1～ 日	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線によって区画を作り、それぞれの平行沈線に交互突起を備える。区画内には沈線が施される。	にぶい黄褐色	—	
第32図100	磨板1～ 日か	深鉢	胴部	—	—	沈線	隆帯を巡らせ、隆帯の下に沈線が横内形の区画が作られる。	黄褐色	—	
第32図101	磨板II	深鉢	口縁部	—	口縁部は無文で、胴部に隆帯が彫付される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第33図102	磨板II	深鉢	口縁部	—	口縁部付近まで無彫文を備えるが、上から磨いて磨り消し、無文にしている。	無彫文	沈線を巡らせ、そこから2本一対の沈線と1本の能行する沈線が垂下させる。	にぶい黄褐色	—	
第33図103	磨板II	深鉢	口縁部 — 胴部	—	伊2の器体土器である。無文を設ける。口縁部との間に縦状の隆帯が彫付される。	無彫文	2本一対の隆帯と縦状の隆帯を1組とし、垂下させる。また、2本一対の隆帯の下部には粘土粒が彫付される。文様の単位は7単位確認できる。	にぶい褐色	—	
第33図104	磨板II	深鉢	口縁部	—	大きく開く無文の口縁である。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第33図105	磨板II	深鉢	口縁部	—	下部に縦状の隆帯が彫付される。	—	—	黄褐色	—	
第33図107	磨板II	深鉢	口縁部	無彫文	口縁部は無文で、口縁部下に隆帯が巡る。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第33図108	磨板II	深鉢	口縁部	無彫刻縄文	口縁部は無文で、胴部から沈線が垂下するが、その上に平行沈線が巡る。隆帯上には角押文が加えられる。	—	—	灰褐色	—	
第34図109	磨板II	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線を巡らせ、平行沈線上に能行する隆帯が彫付される。	灰黄褐色	—	
第34図110	磨板II	深鉢	口縁部	無彫刻縄文	—	—	—	にぶい黄褐色	—	
第34図111	磨板II	深鉢	胴部	—	隆帯によって区画が作られる。隆帯で「凸」字状や角押文を作出する。右から左下へ斜行する沈線と左上から右下へ斜行する隆帯が彫付される。その下部に2本の横位の隆帯が巡る。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第34図112	磨板II	深鉢	胴部	—	隆帯によって区画を作る。右上から左下へ斜行する沈線と左上から右下へ斜行する隆帯が彫付される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第34図113	磨板II	深鉢	口縁部	—	左上から斜行する沈線が施され、その上に右上から隆帯が彫付される。	—	—	にぶい黄褐色	—	

第14表 174号住居跡出土土器一覽(5)

検出番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・腹部	口縁部・頸部・ 肩部・腹部・突起・ 把手残骸	胴部・底部・ 脚部脚文	胴部・底部・ 脚部脚文	胴部・底部・ 脚部脚文	外面色調	内面色調	備考
第34図114	曹II	深鉢	口縁部 →胴部	—	—	沈線、部外文	横文帯を引けた下部に「99」字状に粘土帯を貼付し、空白部分には縦位の沈線を充填する。「99」字状の下部には2本一対の隆帯を面状に貼付する。渦巻状の隆帯は2本の横位の隆帯で覆われる。また貼付する隆帯を垂下させる。	—	—	—	—
第34図115	曹II	深鉢	胴部	—	—	沈線	2本の蛇行する隆帯の上に隆帯が施される。	黒褐色	褐色	—	—
第34図117	曹II	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を放射状に貼付する。隆帯の下の一部分に凸凹が施される。	褐色	—	—	—
第34図118	曹II	深鉢	胴部	—	—	縞線条線	蛇行する隆帯が貼付される。	—	—	—	—
第34図119	曹II	深鉢	胴部	—	—	—	放射状の隆帯が貼付される。	—	—	—	—
第34図121	曹II	深鉢	胴部	—	—	—	沈線	—	—	—	—
第34図122	曹II	深鉢	胴部	—	—	沈線	隆帯を貼付し、縦位の蛇行する隆帯を加える。	—	—	—	—
第34図123	曹II	深鉢	胴部	—	—	沈線	平行沈線を施し、放射状の隆帯を貼付する。放射状の隆帯から蛇行する隆帯を垂下させる。	黒褐色	—	—	—
第34図124	曹II	深鉢	胴部	—	—	縞線条線	蛇行する隆帯を垂下させる。	—	—	—	—
第34図126	曹II	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を巡らせ、隆帯上に円形凸凹が施される。	—	—	—	—
第34図127	曹II	深鉢	胴部	—	—	平行沈線	2本の隆帯を巡らせ、隆帯上に交互凸凹が施される。	黒褐色	—	—	—
第34図129	曹II	深鉢	胴部	—	—	—	横位、斜位に平行沈線を引き、一部を伸付文で引かれる。	—	—	—	—
第34図130	曹II	深鉢	胴部	—	—	平行沈線	隆帯を渦巻状に貼付し、隆帯の中央に沈線が施される。	—	—	—	—
第35図131	曹II →曹I	深鉢	口縁部	—	—	—	平行沈線によって垂弧文が施される。山状の部分と各状の部分に口縁部から蛇行する隆帯を垂下させる。また、胴部との境には横位の蛇行する隆帯が貼付される。平行沈線を胴部に施し、その上に2本一対の粘土帯が貼付される。文様は単位は3単位以上と考えられる。	—	—	—	—
第35図132	曹II →曹I	深鉢	口縁部	—	—	—	平行沈線によって垂弧文が施される。垂弧文の中心部と凹部を部分から蛇行する隆帯が垂下される。	—	—	—	—
第35図133	曹II →曹I	深鉢	口縁部	—	—	—	平行沈線によって垂弧文が施される。垂弧文の中心部から蛇行する隆帯を垂下させる。	—	—	—	—
第35図134	曹II →曹I	深鉢	口縁部	—	—	—	平行沈線で垂弧文を施し、その上に放射状の隆帯を垂下させる。	—	—	—	—
第35図135	曹II →曹I	深鉢	口縁部	—	—	—	沈線で垂弧文を描き、口縁部の内側にも外面と同じ方向に沈線を引く。	—	—	—	—
第35図136	曹II →曹I	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部から口縁部に向かって沈線が斜位に施される。	—	—	—	—
第35図137	曹II →曹I	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線で垂弧文を施し、その上に放射状隆帯が貼付される。	—	—	—	—
第35図138	曹II →曹I	深鉢	胴部	—	—	平行沈線	2本一対の3cm程度の隆帯と蛇行する隆帯を交互に貼付する。	—	—	—	—
第35図141	曹II →曹I	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線を施し、その上に2.0cm程度の粘土帯が貼付される。	—	—	—	—
第35図142	曹II →曹I	深鉢	胴部	縞線条線8条・ 1.8cm	—	—	0.8cm程度の粘土帯を面状に貼付する。	—	—	—	—
第35図143	曹II →曹I	深鉢	胴部	—	—	縞線条線	1.0cm程度の粘土帯が貼付される。	—	—	—	—
第35図145	曹II →曹I	深鉢	胴部	—	—	縞線条線	放射状の隆帯を垂下させ、斜位粘土帯が貼付される。	—	—	—	—
第35図146	曹II →曹I	深鉢	胴部	—	—	—	放射状の隆帯が施る。また、隆帯を垂下させ、隆帯上に円形凸凹が加えられる。隆帯の間には沈線で垂弧文様の文様が施される。	—	—	—	—

第15表 174号住居跡出土土器一覽(6)

神奈川番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底面	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 把手特徴	胴部・底面・ 脚部・脚文	胴部・底面・ 脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第36図147	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	単脚斜縄文Ⅰ	隆帯を彫りし、隆帯の上 部から横位の波状の隆帯 を巡らせる。	灰黄褐色	—	
第36図148	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	平行沈線	2本一対の隆帯を縦位に 彫付する。	にぶい黄褐色	黒褐色	
第36図150	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	縞縞条線	隆帯によって三角形状の 区画を作り、区画内に隆 帯が彫付される。	にぶい赤褐色	—	
第36図151	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	複脚斜縄文Ⅰ	1本の波状の隆帯が垂下 する。	灰黄褐色	—	
第36図152	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	平行沈線	彫付する沈線を1本垂下 させる。	にぶい褐色	黒褐色	
第36図153	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	平行沈線	彫付する沈線を垂下させ る。	褐色	灰褐色	
第36図154	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部～ 脚部	—	斜行文が強く、横位の 隆帯を巡らせ、交互突起が 強くなる。	平行沈線	彫付する隆帯を垂下させ る。また、直径0.7cm程 度の粘土粒が2つ彫付さ れる。	にぶい黄褐色	—	
第36図155	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	平行沈線	1本の彫付する沈線を垂下 させる。	褐色	黒褐色	
第36図156	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	沈線	全体に沈線が彫される。	にぶい褐色	—	
第36図157	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	沈線	彫付する隆帯を垂下させ る。	にぶい赤褐色	—	
第36図158	管形Ⅱ Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	平行沈線	彫付する隆帯と直線的な 隆帯を交互に垂下させる。	浅黄褐色	—	
第36図159	管形Ⅲ	深鉢	口縁部	—	沈線で両唇文が彫される。	—	—	灰黄褐色	—	
第36図160	管形Ⅲ	深鉢	口縁部	—	口縁部の内側から斜行文が 彫られ、胴部まで続く。胴 部に横位の波状の隆帯が彫 付される。	平行沈線	—	灰黄褐色	—	
第36図161	管形Ⅲ	深鉢	口縁部 ～胴部	—	口縁部の内側から外側へ口 縁部全体に斜行文が彫され る。横位の波状の隆帯が2 本彫る。	平行沈線	波状の隆帯が垂下する。	にぶい赤褐色	—	
第36図162	管形Ⅲ	深鉢	口縁部	—	口縁部の内側に沈線が引か れる。隆帯によって区画と 両唇文が作られる。下部の 隆帯が両唇文を作り、両唇 文を繋ぐように上部の隆 帯が彫付される。区画内は 左上からの斜位の沈線が充 填される。	—	沈線を垂下させ、沈線に 向かって「V」字状の文 様を縦位に連続して描く。 また、彫付する隆帯を垂 下させる。	灰黄褐色	—	
第37図163	管形Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	縞縞条線 9条・ 20cm	隆帯による円形の文様、 「し」字状に彫付された隆 帯から彫付する隆帯が垂 下する。	にぶい褐色	—	
第37図164	管形Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	平行沈線・沈線	沈線、平行沈線の端に波 状の隆帯が彫付される。	灰黄褐色	—	
第37図165	管形Ⅲ一 片	深鉢	胴部	—	—	—	円形突起文が彫される。	灰黄褐色	—	
第37図166	管形カ	有孔 蹄付?	蹄部?	—	三角形に成形された粘土帯 に孔開けられる。有孔蹄付 土器の蹄であろうか。	—	—	黒褐色	—	
第37図167	管形カ	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線斜縄文を強く、上 部に平行沈線による両唇 文、押引文が加えられる。 また下部には平行沈線を 横位に巡らせ、その上に 放射状の隆帯を彫付する。	にぶい黄褐色	—	
第37図168	管形カ	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線によって楕円形 の区画を作り、区画内、 区画外共に平行沈線が充 填される。	にぶい褐色	にぶい黄褐色	
第37図169	管形カ	深鉢	胴部	単脚斜縄文Ⅰ	—	—	楕円形の粘土帯を彫り、上 部の隆帯を放射状に成形す る。また、胴部に隆帯が加 えられる。	にぶい黄褐色	—	
第37図170	管形カ	深鉢	口縁部	—	無文帯を設ける。横位の沈 線が引かれ、2条一対の沈 線で文様が描かれる。	帯車文Ⅰ	—	にぶい黄褐色	—	
第37図171	管形カ	深鉢	胴部	—	—	縞縞条線	沈線によって両唇文の文 様が描かれる。	にぶい黄褐色	—	
第37図172	管形カ	深鉢	胴部	—	—	—	沈線によって区画を作り、 区画内を弧状の沈線で充 填する。	にぶい褐色	—	
第37図173	管形カ	深鉢	胴部	—	—	縞縞条線	隆帯を彫付し、隆帯の上 には円形突起文が彫される。 0.7cm程の間隔で沈線を横 位に引く。	褐色	—	
第37図174	管形カ	深鉢	胴部	—	—	縞縞条線	隆帯を彫付し、隆帯の上 には円形突起文が彫される。 0.7cm程の間隔で沈線を横 位に引く。	褐色	—	

第16表 174号住居跡出土土器一覽(7)

検出番号	型式	階種	部位	口縁部・肩部・ 胴部底文	口縁部・肩部・突起・ 取手特徴	胴部・底面・ 胴部底文	胴部・底面・ 器蓋特徴	外面色調	内面色調	備考
第37図175	管利カ	深鉢	胴部	—	—	縹色条線	隆帯が縦位に貼付され、隆帯から横位の文線が引かれる。	にぶい褐色	にぶい褐色	
第38図176	加管利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤文し	隆帯を貼付し、隆帯上に連続する帯みが増えらる。	にぶい黄褐色	—	
第38図177	加管利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤斜線文	隆帯を貼付し、隆帯上に斜めの帯みが増えらる。	にぶい黄褐色	—	
第38図178	加管利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤文し	隆帯を貼付し、隆帯上に連続する帯みが増えらる。	にぶい赤褐色	—	
第38図179	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤文し	—	—	—	にぶい褐色	—	
第38図180	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤文し	—	—	—	にぶい黄褐色	—	
第38図181	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤文し	隆帯によって長方形の区画が作られる。区画内は黒赤文で充填される。	—	—	黄褐色	—	
第38図182	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤文し	隆帯によって、区画と渦巻文が作られる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第38図183	加管利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤文し	隆帯によって区画を作り、区画内に貼付する隆帯が貼付される。	褐色	—	
第38図184	加管利E1	深鉢	口縁部 →胴部	黒赤文し	底位の平行する隆帯が貼付される。胴部は無文である。	—	—	褐色	—	
第38図185	加管利E1	深鉢	口縁部 →胴部	黒赤文し	2本の隆帯で区画を作り、更に区画内に半円状の区画、楕円形の区画を作り、区画内は無文で充填される。胴部は無文である。文様の単位は6単位以上と考えられる。	黒赤文し	2本一対の隆帯と貼付する隆帯を1期として垂下させる。	黄褐色	—	
第38図186	加管利E1	深鉢	口縁部	—	隆帯によって区画と渦巻文が作られる。	—	—	褐色	—	
第38図187	加管利E1	深鉢	口縁部	—	隆帯を貼付し、渦巻文が作られる。	—	—	にぶい褐色	—	
第38図188	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤文R	隆帯を貼付し、渦巻文が作られる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第38図189	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤文し	隆帯によって、区画と渦巻文が作られる。	—	—	灰褐色	—	
第39図190	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤斜線文R	隆帯によって区画を作り、区画の端と中央に渦巻文が作られる。区画内は黒文で充填される。また、口縁部の内側に渦巻文と文線が増えらる。	—	—	褐色	—	
第39図191	加管利E1	深鉢	口縁部	—	横位の平行する隆帯と口縁部から貼付された縦位の隆帯によって区画が作られる。区画内は隆帯と渦巻文の文線が増えらる。	—	—	黄褐色	—	
第39図192	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤文R	2本の横位に並ぶ隆帯の間に半円状の隆帯を貼付け、楕円形の区画が作られる。区画内は黒赤文で充填される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第39図193	加管利E1	深鉢	口縁部	—	隆帯によって区画が作られる。区画内には隆帯を円形に貼付し、隣接して長方形の区画を貼付される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第39図194	加管利E1	深鉢	口縁部	前々段多条R	横位の文線を並らせ、隆帯が貼付される。	—	—	黒褐色	—	
第39図195	加管利E1	深鉢	胴部	黒赤文し	横位の隆帯を並らせ、そこから隆帯を垂下させる。	—	—	黄褐色	—	
第39図196	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤文R	横位の隆帯が並ぶ。	—	—	黒褐色	—	
第39図197	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤斜線文LR	隆帯を貼付し、縦長い楕円形の区画が作られる。	—	—	黄褐色	—	
第39図198	加管利E1	深鉢	口縁部	前々段多条R	口縁部直下に隆帯が貼付される。	—	—	明褐色	—	
第39図199	加管利E1	深鉢	口縁部	黒赤斜線文LR	形状不明であろうか。	—	—	にぶい赤褐色	—	
第40図201	加管利E1	器台	器底	—	—	—	—	にぶい褐色	—	
第40図202	加管利E1	器台	取手	—	円形の孔が掘けられる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第40図203	加管利E1	深鉢	口縁部	—	口縁部から横位の突起が作り出されようか。	—	—	にぶい褐色	—	
第40図204	加管利E1	深鉢	突起	—	高さ1.3cm程で円筒状に成形される。上部は深く窪んでいる。外側には隆帯と渦巻文が増えらる。	—	—	黄褐色	—	
第40図205	加管利E1	深鉢	口縁部	—	隆帯によって渦巻文が増えらる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第40図206	加管利E1	浅鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって、楕円形の区画を作り、区画の端に渦巻文が増えらる。黒赤文しが充填される。	褐色	—	

第17表 174号住居跡出土土器一覽(8)



神奈川番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・腹部	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 把手特徴	胴部・底面・ 脚部形状	胴部・底面・ 脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第40図207	加曾利E1	浅鉢	胴部	—	—	単脚斜縄文LR	隆帯によって楕円形の区画を作り、区画内は縄文が充填される。区画の縁に沈線で円形の文様が付される。	にぶい黄褐色	黒色	
第40図208	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	単脚斜縄文R	2本の隆帯を斜付け、区画が作られるようか。	にぶい褐色	—	
第40図209	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	標赤文L	隆帯によって楕円形の区画が作られる。	灰褐色	—	
第40図210	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	標赤文L	隆帯によって扇巻状の文様が斜付される。	褐色	にぶい黄褐色	
第40図211	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	無脚斜縄文R	意図的な隆帯と彫りつける隆帯を垂下させる。	褐色	黒褐色	
第40図212	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	無脚斜縄文L	隆帯を斜付けし、隆帯上にも胴部と同様の縄文が施される。	灰褐色	褐色	
第40図213	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	無脚斜縄文R	隆帯によって、区画が作られる。隆帯上には幅広角形文を加え、区画内は沈線による扇巻状の文様が施される。	にぶい黄褐色	—	
第40図215	加曾利E1	深鉢	口縁部	—	底部分の内側に扇巻文が施される。	—	—	にぶい褐色	—	
第40図216	加曾利E1	浅鉢	胴部	—	—	—	内側に扇巻文の赤彩が施される。	にぶい褐色	—	
第40図217	加曾利E1 ~2	深鉢	口縁部	標赤文L	隆帯によって区画を作り、区画内は標赤文が充填される。また、隆帯で区画内に扇巻文が作られる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第40図218	加曾利E1 ~2	浅鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画と扇巻文が施される。区画内は藍色の沈線が充填される。	にぶい褐色	黒褐色	
第40図219	加曾利E1 ~2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画と扇巻文を作出し、区画内は沈線が充填される。	にぶい褐色	—	
第40図220	加曾利E1 ~2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯により区画を作り、区画の縁に隆帯で扇巻文が加えられる。	にぶい黄褐色	—	
第41図221	加曾利E1 ~2	深鉢	胴部	—	—	標赤文L	2本の隆帯で扇巻文を作り、扇巻文に繋がる沈線の上に円形角状文が加えられる。	にぶい褐色	黒褐色	
第41図222	加曾利E1 ~2	浅鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作り、隆帯上に赤彩が加えられる。区画内には沈線が充填し、区画の隆帯に沿って沈線を引き。	明黄褐色	黒褐色	
第41図223	加曾利E1 ~2	浅鉢	胴部	—	連続した形みが施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第41図224	加曾利E1 ~2	浅鉢	胴部	—	沈線によって楕円形の文様が施される。下部部に短い沈線による扇形状の文様を横風に連続して加えられる。	—	—	にぶい褐色	—	
第41図225	加曾利E1 ~2	浅鉢	胴部	—	—	—	沈線によって楕円形の区画が施される。	灰黄褐色	—	
第41図227	加曾利E1 ~2	深鉢	胴部	—	—	単脚斜縄文R	2本の隆帯が通る。1本の隆帯を弧状に斜付けし、そこから短い隆帯を4本垂下させる。	黒褐色	にぶい褐色	
第41図228	加曾利E1 ~2	深鉢	口縁部	標赤文R	—	—	—	灰褐色	—	
第41図229	加曾利E1 ~2	深鉢	口縁部	0段多色斜行 縄文LR	口縁部付近に隆帯を巡らせ、その下に波状沈線が施される。	—	—	黒褐色	—	
第41図230	加曾利E2	口縁部 ~胴部	単脚斜縄文LR	隆帯によって区画を作り、区画内は縄文が充填される。また、隆帯で扇巻状の文様が斜付される。	—	単脚斜縄文LR	3条一組の沈線と1条の彫りつける沈線を1組として垂下させる。文様の単位は4単位以上と考えられる。	灰黄褐色	—	
第42図231	加曾利E2	深鉢	口縁部	単脚斜縄文R	隆帯によって区画を作り、区画内は沈線が充填される。長方形の区画外には縄文が充填される。区画の縁に隆帯で扇巻文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第42図232	加曾利E2	深鉢	口縁部	単脚斜縄文R	隆帯によって区画を作り、2本一組の弧状の隆帯が斜付けされる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第42図233	加曾利E2	深鉢	口縁部	単脚斜縄文R	隆帯によって区画を作り、区画内は縄文が充填される。また、区画の縁に隆帯で扇巻文が施される。	—	—	灰黄褐色	にぶい黄褐色	
第42図234	加曾利E2	深鉢	口縁部	単脚斜縄文R	隆帯によって区画と扇巻文が作られる。区画内は縄文が充填される。	—	—	灰黄褐色	—	

第18表 174号住居跡出土土器一覽(9)

検出番号	型式	階層	部位	口縁部・頸部・ 胴部底文	口縁部・頸部・胴部・突起・ 足手取縁	胴部・底面・ 胴部底文	胴部・底面・ 唇部特徴	外面色調	内面色調	備考
第42図240	加曾利E2	深鉢	口縁部	単筋斜線文L	隆帯によって楕円形の区画を作り、区画内は横文が充填される。	-	-	にぶい黄褐色	-	
第42図241	加曾利E2	深鉢	口縁部	単筋斜線文L	口縁部下に隆帯を削付し、隆帯による渦巻文が加えられる。	-	-	褐色	-	
第42図242	加曾利E2	深鉢	口縁部	単筋斜線文LX	隆帯によって楕円形の区画が隆帯される。	-	-	黒褐色	にぶい褐色	
第42図243	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	隆帯によって区画を作り、区画内に渦巻文が隆帯される。	-	-	褐色	-	
第42図244	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	隆帯を削付し、渦巻文が隆帯される。	-	-	褐色	-	
第42図245	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	沈殿によって渦巻文が隆帯される。	-	-	にぶい黄褐色	-	
第42図246	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文L	隆帯によって区画を作り、渦巻文が隆帯される。区画内は横糸文が充填される。	-	-	褐色	-	
第42図247	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文L	隆帯によって区画を作り、区画内は横糸文が充填される。	-	-	灰褐色	-	
第42図248	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文L	口縁部上部に横位の隆帯を、また、2本一対の隆帯が弧状に削付される。	-	-	にぶい黄褐色	-	
第42図254	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文L	隆帯によって区画を作り、区画内に2本一対の隆帯が「 $\cap$ 」字状に削付される。区画内は横糸文が充填される。	-	-	にぶい黄褐色	-	
第42図255	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文か	隆帯によって区画が作られる。	-	-	灰黄褐色	-	
第42図256	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈殿	2本一対の隆帯を弧状に削付し、区画が作られる。区画内は沈殿が充填される。	-	-	にぶい褐色	-	
第42図257	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈殿	隆帯によって区画を作り、区画の端に渦巻文が隆帯される。区画内は沈殿が充填される。	-	-	褐色	-	
第42図258	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈殿	隆帯によって楕円形の区画を作り、区画内は沈殿が充填される。また、区画の下部に隆帯が隆帯する。	-	-	灰黄褐色	-	
第42図259	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文R	隆帯によって区画を作り、渦巻文が隆帯される。	-	-	黒褐色	にぶい褐色	
第42図262	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文R	横位の隆帯を2本削付し、帯は横糸文が充填される。	-	-	にぶい黄褐色	-	
第42図263	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文L	隆帯によって長方形の区画を作り、区画の端に渦巻文が隆帯される。	-	-	黒褐色	-	
第42図264	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	隆帯によって区画を作り、区画内に渦巻文を隆帯し、沈殿が充填される。	-	-	黒褐色	-	
第42図265	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈殿	2本一対の弧状の隆帯によって区画を作り、区画内は沈殿が充填される。	-	-	黒褐色	-	
第42図266	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈殿	隆帯によって区画を作り、沈殿が隆帯される。	-	-	褐色	-	
第42図268	加曾利E2	深鉢	口縁部	沈殿	2本の隆帯が弧状に削付される。	-	-	にぶい黄褐色	-	
第42図269	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文L	隆帯によって区画と渦巻文が隆帯される。	-	-	にぶい黄褐色	-	
第42図270	加曾利E2	深鉢	口縁部	付近	沈殿で渦巻状の文様が描かれる。外面に帯に帯土を削り、渦巻状の文様の中心部が凸状に膨らむように成形される。	-	-	にぶい黄褐色	-	
第42図271	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	外面に粘土を削付け厚さを増し、その上に沈殿で渦巻状の文様が描かれる。	-	-	にぶい黄褐色	-	
第42図272	加曾利E2	深鉢	口縁部	-	隆帯によって楕円形の区画が作られる。	-	-	灰黄褐色	-	
第43図273	加曾利E2	深鉢	口縁部	横糸文L	「8」字状に削付された隆帯から、2本の隆帯が垂下される。	-	-	灰黄褐色	-	
第43図274	加曾利E2	深鉢	胴部	単筋斜線文L	隆帯によって区画を作り、区画内には横文を充填し、渦巻文が隆帯される。	-	-	にぶい褐色	黒色	
第43図275	加曾利E2	深鉢	胴部	-	-	横糸文L	蛇行する隆帯によって区画を作り、区画内に渦巻文が隆帯される。渦巻文の横に3本の沈殿が引かれる。	にぶい褐色	灰褐色	
第43図276	加曾利E2	深鉢	胴部	-	-	-	隆帯によって渦巻文が隆帯される。	灰黄色	黄灰色	

第19表 174号住居跡出土土器一覧(10)

神岡番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底面	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 取手特徴	胴部・底面・ 器底形状	胴部・底面・ 器底特徴	外面色調	内面色調	備考
第 43 図 277	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を肩倉根に貼付し、 一部に包み加えられる。 隆帯を垂下させる。	灰黄褐色	—	
第 43 図 278	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	隆帯によって区画が作られる。 区画内に前巻文を施し、 縦位の矢線が充填される。	—	—	褐色	—	
第 43 図 279	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	沈線	隆帯によって区画と前巻 文が作られる。区画内 には沈線が充填される。	褐色	—	
第 43 図 280	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって前巻文が盛 られる。	にぶい黄褐色	褐色	
第 43 図 281	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	—	同心円状に沈線が引か れる。	にぶい黄褐色	—	
第 43 図 282	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	2本一対の隆帯と蛇行する 隆帯を1組として垂下さ せる。文様の単位は4単 位以上と彫が得られる。	灰黄褐色	—	
第 44 図 283	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	2本一対の沈線ですく「く」字 形の文様が盛られる。	黒褐色	—	
第 44 図 284	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	蛇行する隆帯を垂下させ る。	にぶい黄褐色	—	
第 44 図 285	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	平行沈線を引き、その下 から蛇行する平行沈線が 盛られる。	にぶい黄褐色	—	
第 44 図 286	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	平行沈線によって区画を 作り、区画内は縄文が充 填される。	にぶい褐色	—	
第 44 図 287	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	縦位の隆帯と蛇行する隆 帯が交互に垂下する。	にぶい褐色	黒褐色	
第 44 図 288	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	2本の隆帯を垂下させる。	にぶい褐色	—	
第 44 図 289	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	隆帯によって円形の文様 を作り、隆帯を垂下させ る。	灰黄褐色	—	
第 44 図 291	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 I	2本一対の隆帯を並らせ、 区画が作られる。区画内 には庶糸文が充填される。	にぶい黄褐色	—	
第 44 図 292	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 I	隆帯を横位に貼付し、そ こから蛇行する隆帯を垂 下させる。	にぶい褐色	黒褐色	
第 44 図 293	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 I	2本一対の隆帯を横位に 並らせ、そこから2本一 対の隆帯と蛇行する隆帯 を交互に垂下させる。	にぶい黄褐色	—	
第 44 図 294	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 I	1本の沈線によって横位 部の区画が盛られる。	にぶい黄褐色	—	
第 44 図 296	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 I	隆帯が横位に並る。隆帯 によって区画を作る。区 画内には庶糸文が充填さ れる。	黒褐色	—	
第 44 図 297	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 I	3本一組の隆帯が横位に 並る。	にぶい褐色	—	
第 44 図 298	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 I	2本一対の垂下する沈線 と1本の蛇行する沈線と 1組として縦位に並る。文 様の単位は5単位以上と 彫られる。	にぶい赤褐色	—	
第 44 図 299	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 R	2本一対の沈線を蛇行し ながら垂下させる。	にぶい褐色	—	
第 44 図 300	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 R	2本一対の沈線と蛇行する 沈線を交互に垂下させる。	褐色	黒褐色	
第 44 図 301	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 I	2本一対の沈線と蛇行す る沈線を垂下させる。	黒褐色	にぶい褐色	
第 44 図 302	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	帯幅条線 7 条 以上・1.5 cm	2本一対の隆帯が並り、そ こから縦位の隆帯を垂下 させる。	灰黄褐色	—	
第 44 図 303	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	庶糸文 I	横位の隆帯を2本並らせ、 そこから隆帯を垂下させる。	灰黄褐色	にぶい褐色	
第 44 図 304	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	条線	2本の隆帯が弧状に貼付 される。	褐色	—	
第 44 図 305	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	帯幅条線	2本の平行する隆帯を垂 下させる。	褐色	にぶい褐色	
第 44 図 307	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	前々段反器 取上	2本一対の垂下する沈線 と蛇行する沈線を交互に 引く。	にぶい褐色	—	
第 44 図 308	加曾利 E2	深鉢	底部 付否	—	—	単節斜縄文 I 区	平行沈線を垂下させ、区 画が作られる。	にぶい黄褐色	—	
第 44 図 309	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	平行沈線を垂下させ、区 画が作られる。	灰黄褐色	—	
第 45 図 310	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	2本一対の隆帯を垂下さ せる。	にぶい黄褐色	—	
第 45 図 311	加曾利 E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 I 区	2本一対の隆帯を垂下さ せる。	にぶい褐色	—	

第 20 表 174 号住居跡出土土器一覽 (11)

検出番号	型式	階種	部位	口縁部・頸部・ 肩部断面	口縁部・頸部・突起・ 把手特徴	胴部・底部・ 脚部断面	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第45図312	加賀利E2	深鉢	底部	—	—	灰黒斜縄文LR	2本の平行沈線を書き下させる。	にぶい赤褐色	灰黄褐色	
第45図313	加賀利E2	深鉢	底部	—	—	単節斜縄文LR	配行する隆帯を1本書き下させる。	褐色	黒褐色	
第45図315	加賀利E2	深鉢	底部	—	—	単節斜縄文LR	平行沈線を書き下させる。	にぶい赤褐色	—	
第45図316	加賀利E2	深鉢	胴部～ 底部	—	—	単節斜縄文脚	2条一対の沈線を書き下させる。	褐色	—	
第45図317	加賀利E2	深鉢	底部	—	—	帯幅条線	1本の隆帯を書き下させる。	褐色	—	
第45図318	加賀利E2	深鉢	底部	—	—	帯幅条線7条・ 1.5cm	1本の隆帯を書き下させる。	にぶい褐色	灰黄褐色	
第45図319	加賀利E2	深鉢	底部付近	—	—	帯幅条線7条・ 1.5cm	2条一対の沈線を書き下させる。	にぶい褐色	—	
第45図321	加賀利E2	深鉢	底部付近	—	—	帯糸文L	1本の隆帯を書き下させる。	にぶい赤褐色	灰褐色	
第45図322	加賀利E2	深鉢	底部	—	—	帯幅条線6条・ 1.1cm	—	にぶい褐色	黒褐色	
第45図323	加賀利E2	深鉢	底部	—	—	—	2条一対の沈線を書き下させる。	にぶい赤褐色	—	
第45図324	加賀利E2	深鉢	底部	—	—	帯幅条線5条・ 0.9cm	—	明赤褐色	暗褐色	
第45図325	加賀利E2	浅鉢	胴部	—	沈線によって楕円形の区画を作り、区画内は縄文が充填される。区画の横には縦位の沈線が加えられる。	—	—	にぶい赤褐色	—	
第45図327	加賀利E2	浅鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	隆帯で筒倉文を飾り、沈線で楕円形の区画を作る。区画内は縄文が充填される。	褐色	にぶい黄褐色	
第45図328	加賀利E2	浅鉢	口縁部	—	口縁部は無文で直下に横位の隆帯を巡らせ、隆帯で筒倉文が飾られる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第45図329	加賀利E2	浅鉢	胴部	—	沈線で区画を作り、区画内は縦位の沈線が充填される。また、区画の下部に隆帯を配し沈線で筒倉状の文様がかかる。	—	—	にぶい褐色	黒褐色	
第45図330	加賀利E2	浅鉢	口縁部	—	隆帯によって区画が作られる。下端部の隆帯は突起に繋がっており、突起の上面に沈線で筒倉文が加えられる。	帯糸文L	—	にぶい黄褐色	—	
第45図331	加賀利E2	浅鉢	口縁部	—	口縁部の中心に内側の汎が深く把手が陥付されようか、把手部分に沈線で筒倉文が飾られる。	帯糸文L	2条一対の沈線が縦位に引かれる。	灰黄褐色	—	
第46図332	加賀利E2	深鉢	口縁部	—	口縁部下に沈線を1条描らせる。	—	—	にぶい赤褐色	—	
第46図333	加賀利E2	浅鉢	口縁部	—	—	—	—	にぶい赤褐色	黒褐色	
第46図334	加賀利E2	深鉢	口縁部	帯糸文R	3条の沈線を描らせ、下部に沈線で楕円形の区画が作られる。区画内は帯糸文が充填される。	—	—	にぶい赤褐色	—	
第46図335	加賀利E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文RL・LR	沈線を描らせ、腹に内側朝突起が飾られる。また、2条一対の沈線が書き下される。	—	—	黄灰色	—	
第46図338	加賀利E2	深鉢	口縁部	—	—	—	—	にぶい黄褐色	—	
第46図339	加賀利E2	深鉢	口縁部～ 胴部	—	幅の広い無文帯にする。	単節斜縄文 斜	無文帯との間に平行沈線を描らせ、そこから沈線の平行沈線と配行する平行沈線を書き下させる。	灰黄褐色	—	
第46図340	加賀利E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文 脚	平行沈線を描らせ、そこから平行沈線と配行する平行沈線を書き下させる。	灰黄褐色	—	
第46図341	加賀利E2	深鉢	胴部	—	—	帯幅条線10条 以上	2本一対の隆帯と配行する隆帯を1組として書き下させる。文様の単位は8単位縮減できる。	にぶい赤褐色	—	
第47図342	加賀利E2	深鉢	胴部	—	—	帯幅条線	2条一対の配行する沈線と3条一対の沈線を書き下させる。	にぶい褐色	灰黄褐色	
第47図343	加賀利E2	深鉢	胴部	—	—	帯幅条線	縦位の沈線を引き、その上に沈線で筒倉状の文様がかかる。	褐色	灰黄褐色	
第47図344	加賀利E2	深鉢	胴部	—	—	沈線	2本一対の隆帯を書き下させ、隆帯上に浮帯を加える。	褐色	にぶい黄褐色	
第47図345	加賀利E2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって楕円形の区画が作られる。隆帯上に柄みを加えるもの、隆帯に沿って内側に沈線を描らせるものがみられる。	にぶい赤褐色	—	
第47図346	加賀利E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	2条の沈線を書き下させ、沈線の間の縄文を飾り消す。	にぶい黄褐色	—	
第47図347	加賀利E2	深鉢	底部	—	—	単節斜縄文 縦	漸消懸垂文が飾られる。	にぶい赤褐色	—	

第21表 174号住居跡出土土器一覽(12)

神前番号	型式	器種	部位	口縁部・肩部・ 肩胛部地文	口縁部・肩部・ 腹部・突起・ 把手地文	胴部・ 腹部・ 底部地文	胴部・ 腹部・ 器蓋地文	外面色調	内面色調	備考
第 47 図 348	加曾利 E2 ~3	浅鉢	口縁部 ~胴部	—	—	—	—	にぶい褐色	—	
第 47 図 349	加曾利 E3	深鉢	口縁部	単原料縄文 LR	上部を隆帯、下部を浅帯で 楕円形の区画が作られる。 上部の隆帯で区画内に渦巻 文を伴出し、区画内は縄文が 存在する。楕円区画の下 から 2 条の浅帯が垂下する。	—	—	褐色	—	
第 48 図 350	加曾利 E3	深鉢	口縁部	—	隆帯によって楕円形の区画 が作られる。区画内を 2 条 一対の浅帯が 2 重に走る。	—	—	にぶい褐色	—	
第 48 図 351	加曾利 E3	深鉢	口縁部	単原料縄文 皿	上部に隆文帯を刻ける。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第 48 図 352	加曾利 E3	浅鉢	台付 脚部	—	—	—	平底の隆帯が彫付される。	灰黄褐色	黒褐色	
第 48 図 353	加曾利 E3 ~4	深鉢	口縁部	単原料縄文 LR	—	—	—	にぶい赤褐色	—	
第 48 図 354	加曾利 E3 ~4	深鉢	口縁部	単原料縄文 LR	—	—	—	褐色	—	
第 48 図 355	加曾利 E3 ~4	深鉢	口縁部	単原料縄文 RL	—	—	—	褐色	—	
第 48 図 356	加曾利 E3 ~4	深鉢	口縁部	単原料縄文 RL	横位の浅帯が走る。	—	—	にぶい褐色	—	
第 48 図 357	加曾利 E3 ~4	深鉢	口縁部	単原料縄文 LR	平行浅帯を垂下させる。	—	—	にぶい赤褐色	—	
第 48 図 358	加曾利 E3 ~4	深鉢	口縁部	縹色条線 6 条・ 1.3cm	—	—	—	褐色	—	
第 48 図 360	加曾利 E3 ~4	深鉢	口縁部	—	2 列の円形刺突文が施さ れる。	—	—	褐色	—	
第 48 図 361	加曾利 E3 ~4	浅鉢	胴部	—	隆帯が「フ」字形に彫付さ れる。赤彩が施される。	—	—	にぶい黄褐色	褐色	
第 48 図 362	加曾利 E3 ~4	深鉢	胴部	—	縹色条線か 2 条一対の「U」字形の浅 帯が施される。	—	—	褐色	灰黄褐色	
第 48 図 363	加曾利 E4	深鉢	口縁部	縹色条線	横位の浅帯が走る。	—	—	灰黄褐色	—	
第 48 図 364	加曾利 E か	深鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	黒色	—	
第 48 図 365	加曾利 E か	深鉢	把手	—	横位の把手が彫付される。 赤彩が施される。	—	—	にぶい褐色	—	
第 48 図 366	加曾利 E か	深鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第 48 図 368	加曾利 E か	浅鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	にぶい氷褐色	—	
第 48 図 369	加曾利 E か	深鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	褐色	褐色	
第 48 図 370	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	黒褐色	
第 48 図 371	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	—	
第 48 図 372	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	外面に渦巻状の文様が赤 彩で描かれようか。	にぶい黄褐色	—	
第 48 図 373	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	—	
第 48 図 374	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	—	
第 49 図 375	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	—	
第 49 図 376	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	—	
第 49 図 377	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	黄褐色	にぶい黄褐色	
第 49 図 378	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	—	
第 49 図 379	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	—	
第 49 図 380	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	灰黄褐色	—	
第 49 図 381	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	黒褐色	—	
第 49 図 382	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	黄褐色	
第 49 図 383	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい褐色	—	
第 49 図 384	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	—	
第 49 図 385	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	にぶい黄褐色	—	
第 49 図 386	加曾利 E か	浅鉢	胴部	—	—	—	赤彩が施される。	黒褐色	—	
第 49 図 388	加曾利 E か	浅鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	にぶい黄褐色	—	
第 49 図 389	加曾利 E か	浅鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	褐色	—	

第 22 表 174 号住居跡出土土器一覽 (13)

検出番号	型式	階層	部位	口縁部・頸部・ 肩部断面	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 取手特徴	胴部・底部・ 脚部断面	胴部・底部・ 脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第49図392	知管片E か	深鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	褐色	—	
第49図393	知管片E か	深鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	にぶい黄褐色	黒褐色	
第49図394	遊弧文1	深鉢	口縁部	単節科縄文L	2条の沈線が通る。	—	—	—	—	
第49図395	遊弧文1	深鉢	口縁部	単節科縄文L	口縁部下に平行沈線を引き、その下に平行沈線で仮状の沈線が通る。	—	—	褐色	—	
第49図396	遊弧文1	深鉢	口縁部	標系文L	口縁部に沿って沈線が通される。口縁部の仮状部分で上部の沈線は遊弧文を描く。また、2条一対の沈線で遊弧文が通される。	—	—	灰黄褐色	—	
第49図397	遊弧文1	深鉢	胴部	—	—	反照科行縄文L	沈線により、円形、仮状の沈線を描き、4本の沈線を垂下させる。	にぶい黄褐色	—	
第49図398	遊弧文1	深鉢	胴部	—	—	単節科縄文L	3条の沈線で仮状の沈線が通る。	褐色	黒褐色	
第49図399	遊弧文1 か	深鉢	口縁部	前今持多条L	横位の平行沈線が通る。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第49図401	遊弧文1 か	深鉢	胴部	—	—	標系文L	仮状の沈線を引き、沈線の交点に円を描く。中央に円形断面文が通る。	にぶい褐色	灰黄褐色	
第49図402	遊弧文1 -2	深鉢	口縁部 -胴部	単節科縄文L	口縁部上部に平行沈線が通る。また、その下部に3条一対の沈線で遊弧文が描かれる。沈線の単位は6単位確認できる。	—	3条一対の沈線が横位に通る。	黒褐色	—	
第49図403	遊弧文2	深鉢	口縁部	単節科縄文L	口縁部に平行な3条の沈線が通る。	—	—	暗赤褐色	—	
第49図404	遊弧文2	深鉢	口縁部	単節科縄文L	横位の平行沈線を3重に描らせる。	—	—	暗灰色	にぶい褐色	
第50図405	遊弧文2	深鉢	口縁部	無節科縄文L	口縁部上部に2条の沈線を描かせ、その下部に沈線で楕円形の沈線が通る。また、3条一対の沈線で遊弧文が描かれる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第50図406	遊弧文2	深鉢	口縁部	単節科縄文L	口縁部付近に平行沈線を描し、間に交互斜交文が加えられる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第50図407	遊弧文2	深鉢	口縁部	単節科縄文L	口縁部付近に円形断面文が2重が通る。	—	—	黒褐色	—	
第50図409	遊弧文2	深鉢	胴部	—	—	単節科縄文L	3条一対の沈線で遊弧文が通る。	にぶい黄褐色	—	
第50図410	遊弧文2	深鉢	口縁部 -胴部	標系文L	3条一対の沈線を口縁部上部に描らせる。その下部に2条一対の沈線で遊弧文が描かれる。沈線の単位は3単位以上と考えられる。	—	3条一対の沈線で遊弧文を描し、下の1条は遊弧文の仮頂部で両側文を描く。	黒褐色	—	
第50図411	遊弧文2	深鉢	胴部	—	—	標系文L	2条一対の沈線で遊弧文が2重が通る。	暗赤褐色	—	
第50図412	遊弧文2	深鉢	胴部	—	—	標系文L	2条一対の沈線で遊弧文を描き、その下部に2本の沈線を描らせる。	灰黄褐色	—	
第50図413	遊弧文2	深鉢	口縁部	標系文L	口縁部付近に沈線を描らせ、3条の沈線で遊弧文が通る。	—	—	灰黄褐色	—	
第50図414	遊弧文2	深鉢	口縁部	標系文L	口縁部下に口縁部に平行な2条の沈線が引かれる。	—	—	褐色	—	
第50図415	遊弧文2	深鉢	口縁部	標系文L	口縁部直下に2条一対の沈線が通る。沈線の間に円形断面の断面文が加えられる。2条一対の沈線により遊弧文が通る。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第50図416	遊弧文2	深鉢	口縁部	標系文L	口縁部直下に2条の沈線を引き、沈線1は断面文が通される。断面文の下部に沈線による遊弧文が通る。	—	—	灰褐色	—	
第50図417	遊弧文2	深鉢	口縁部 -胴部	標準条線 14 条以上・2.8 cm	口縁部上部に円形断面文が通る。また、5条一対の沈線によって遊弧文が通る。遊弧文の仮頂部の下に3条または2条の沈線で1単位の遊弧文を重ねる部分もある。胴部に直線の沈線と幅が広い沈線を交互に5条横位に通らせる。沈線の単位は6単位確認できる。	標準条線 14 条以上・2.8 cm	胴部の沈線から2条一対の沈線の間に仮状の沈線を描いた沈線を垂下させる。沈線の単位は6単位確認できる。	にぶい黄褐色	—	
第52図418	遊弧文2	深鉢	口縁部	標準条線	口縁部直下に2条の沈線を描し、沈線の下部に2条の沈線で遊弧文が通る。	—	—	褐色	—	
第52図419	遊弧文2	深鉢	口縁部	標準条線	口縁部下に3条の沈線を引き、また、沈線により遊弧文が通る。	—	—	にぶい黄褐色	—	

第23表 174号住居跡出土土器一覽(14)

神前番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部地文	口縁部・頸部・肩部・突起・ 器手残部	胴部・腹部・ 器底地文	胴部・腹部・器底特徴	外面色調	内面色調	備考
第52 80 420	透気文2	深鉢	口縁部	縹色条線8条・ 1.4cm	口縁部上部に2条の沈線が 通る。4条一組の透気文が 描かれ、胴部に3条の沈線 が通る。	—	—	褐色	—	
第52 80 423	透気文2	深鉢	口縁部	縹色条線	口縁部上部に沈線を通ら せ、その下部に2条一組の 沈線で透気文が描かれる。	—	—	灰黄褐色	—	
第52 80 424	透気文2	深鉢	口縁部 →胴部	縹赤文L	口縁部上部に2条一組の沈 線が通る。胴部に3条一組 の沈線が通る。	—	2条一組の沈線で透気文 が描かれる。	黒褐色	—	
第52 80 425	透気文2	深鉢	口縁部	縹色条線か	口縁部上部に沈線を通ら せ、胴に交互斜交文が加え られる。その下部に3条一 組の沈線で透気文が描さ れる。	—	—	にぶい褐色	—	
第52 80 426	透気文2	深鉢	口縁部	縹赤文L	沈線を通らせ、胴に交互 斜交文が通る。その下には 沈線で透気文が描かれる。	—	—	黒褐色	暗褐色	
第52 80 427	透気文2	深鉢	口縁部	縹色条線か	平行沈線を通らせ、胴に交 互斜交文が通る。	—	—	灰黄褐色	—	
第52 80 428	透気文2	深鉢	口縁部	縹色条線7条・ 1.3cm	口縁部付近に沈線を引き、 沈線状に円形斜交文が通さ れる。また、2条一組の沈 線で透気文が描かれる。	—	—	褐色	—	
第52 80 429	透気文2	深鉢	胴部	—	—	縹赤文L	沈線で3条の透気文が描 かれる。透気文の下部に 沈線が通る。	にぶい褐色	—	
第52 80 430	透気文2	深鉢	胴部	—	—	縹赤文L	3条の沈線で透気文が描 かれる。	にぶい褐色	黒褐色	
第52 80 431	透気文2	深鉢	胴部	—	—	縹赤文L	沈線によって透気文が描 かれる。また、その下にも 透気文の一部が確認でき る。	黒褐色	—	
第52 80 432	透気文2	深鉢	胴部	—	—	縹赤文R	平行沈線によって3条の 透気文が描かれる。	にぶい黄褐色	—	
第52 80 433	透気文2	深鉢	胴部	—	—	縹赤文L	2条一組の沈線で透気文 を描き、波頭部から斜行 する沈線が通下する。	にぶい褐色	黒褐色	
第53 80 434	透気文2	深鉢	胴部	—	—	縹赤文L	地文の上に幅2.2cm、8 条の縹色条線が通る。ま た、斜行する沈線が加え られる。	にぶい褐色	—	
第53 80 435	透気文2	深鉢	胴部	—	—	縹色条線9条・ 1.6cm	沈線を通らせ、沈線1に さらに波状沈線を通す。	にぶい黄褐色	—	
第53 80 436	透気文2	深鉢	胴部	—	—	縹色条線7条・ 1.5cm	2条の沈線が通る。	にぶい赤褐色	—	
第53 80 437	透気文2 →3	深鉢	口縁部	単斜線織文L	口縁部上部に2条の沈線が 通る。2条の沈線で透気文 を描き、その下部に沈線が 通る。	—	—	灰黄褐色	—	
第53 80 438	透気文2 →3	深鉢	胴部→ 胴部	—	上部に1条以上、下部に3 条一組の沈線を横位に通る。	縹赤文L	3条一組の沈線を縦状に 通す。	灰黄褐色	—	
第54 80 439	透気文2 →3	深鉢	胴部	—	—	縹色条線6条 以上・1.1cm	胴部に2条一組の沈線 が通る。そこから沈線が 通下される。また、横位 の沈線の上部にはLRと思 われる縄文がみられる。	灰黄褐色	—	
第54 80 440	透気文2 →3	深鉢	胴部	—	—	縹色条線7条・ 1.4cm	くびれ部に3条の沈線が 通る。	褐色	—	
第54 80 441	透気文3	深鉢	口縁部	縹色条線9条・ 1.7cm	口縁部下部に2条の沈線が 通る。	—	—	暗褐色	—	
第54 80 442	透気文3	深鉢	口縁部	縹色条線7条・ 1.4cm	口縁部上部に2条の沈線を通 らせ、そこから平行沈線 を通下させる。平行沈線 の間は4条1組の透気文が 描かれる。	—	—	にぶい褐色	—	
第54 80 443	透気文3	深鉢	口縁部	縹色条線8条・ 1.6cm	2条一組の沈線で透気文を 描き、その下部に沈線が通 る。	—	—	灰黄褐色	—	
第54 80 444	透気文3	深鉢	口縁部	縹赤文R	—	—	—	黒褐色	—	
第54 80 445	透気文3	深鉢	口縁部	縹色条線6条・ 1.2cm	沈線より透気文が描かれ ような形	—	—	黒褐色	—	
第54 80 446	透気文3	深鉢	口縁部	羽状織文L	2条一組の沈線により透気 文が描かれる。	—	—	黒褐色	—	
第54 80 447	透気文3	深鉢	胴部	—	—	縹赤文L	2条一組の沈線による透 気文が通る。	にぶい褐色	—	
第54 80 448	透気文3	深鉢	口縁部	縹色条線9条・ 1.6cm	口縁部付近に沈線が通る。 平行形の粘土を貼付し、そ こから透気文が通下する。 陶器の間には平行沈線で透 気文が描かれる。	—	—	にぶい黄褐色	—	

第24表 174号住居跡出土土器一覽(15)

神岡番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部施文	口縁部・頸部・肩部・突起・ 把手施文	胴部・腹部・ 膝部施文	胴部・腹部・膝部特徴	外面色調	内面色調	備考
第54図449	遊気文3	深鉢	胴部	—	—	帯縹赤線9美・ 1.6cm	平行形の粘土を彫付し、 そこから隆帯を垂下させる。 隆帯の間には平行比線で 遊気文が施される。	にぶい黄褐色	—	—
第54図450	遊気文3	深鉢	胴部	—	—	帯縹赤線9美・ 1.6cm	隆帯を垂下させ、隆帯の 間には平行比線で遊気文 が施される。	にぶい褐色	黒褐色	—
第54図451	布名守か	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文1周	比線により区画を作り、 区画内は縄文が充填される。	黄灰色	浅黄褐色	—

第25表 174号住居跡出土土器一覧(16)

神岡番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部施文	口縁部・頸部・肩部・突起・ 把手施文	胴部・腹部・ 膝部施文	胴部・腹部・膝部特徴	外面色調	内面色調	備考
第69図1	阿玉台1	深鉢	口縁部	—	1割のにより「日」字状の 文様が施される。	—	—	褐色	—	—
第69図2	阿玉台1 ~B	深鉢	口縁部	—	ヒゲ状文様が見られる。	—	—	褐色	—	—
第69図3	阿玉台1 ~IV	深鉢	口縁部	—	口縁部直下に2割の三角押 引文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	—
第69図4	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯の両側に幅広押引文 が施される。	にぶい赤褐色	—	—
第69図5	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯に沿って両側に幅広 角押文が施される。また、 隆帯が集まる部分 に円形の粘土が彫付される。	褐色	白	—
第69図6	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯・比線により区画さ れ、区画内には幅広押引 文、三叉文が施される。	明赤褐色	—	—
第69図7	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	三角形の区画を作り区画 内を比線で充填、隆帯上 には縦柵状の文様が施さ れる。	褐色	—	—
第69図8	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	角押文による放射状の文様 が施される。	黒褐色	にぶい黄褐色	—
第69図9	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	植杖の把手が彫付され、 両側から円形の穴があけ られる。	黒褐色	—	—
第69図10	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯により区画を作り、 区画内に彫付する隆帯が 彫付される。	黄褐色	—	—
第69図11	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	単節斜縄文1周	褐色	—	—
第69図12	帯板2	深鉢	底部	—	—	—	三二チユアの土器の底部 であろうか。	褐色	—	—
第69図13	帯板1	深鉢	口縁部	—	無文の口縁部である。	—	—	にぶい黄褐色	黒色	—
第69図14	加曾利E1 ~2	深鉢	胴部	—	—	—	2本一對の隆帯が横位に 彫付される。	にぶい褐色	—	—
第69図15	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	—	単節斜縄文1周	黒褐色	浅黄褐色	—
第69図16	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯が平行に彫付される。	明黄褐色	—	—
第69図17	加曾利E2	深鉢	底部	—	—	—	—	にぶい黄褐色	黒	—
第69図18	加曾利E か	浅鉢	口縁部	—	全面に赤彩が施される。	—	—	黄灰色	—	—
第69図19	加曾利E か	浅鉢	胴部	—	一部に赤彩が施される。	—	—	黄い黄褐色~黄 灰色	—	—
第69図20	加曾利E か	深鉢	底部	—	—	—	—	明褐色	黒色	—

第26表 176号住居跡出土土器一覧



神奈川番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底面	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 把手	胴部・底面・ 脚部	胴部・底面・ 脚部	外面色調	内面色調	備考
第76図1	河玉台皿 Ⅰ	深鉢	口縁部	—	上面に角押文が施される。	—	—	褐色	—	
第76図2	帯板2	深鉢	口縁部	—	隆帯を縦位に貼付し、胴部から腹状に転行しながら垂下させる。唇も、交互斜突が加えられる。	—	—	淡黄褐色	—	
第76図3	帯板2～ 3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯上に押引文が施される。	にぶい褐色	—	
第76図4	帯板か	浅鉢	口縁部 ～胴部	—	—	—	2個もしくは4個1単位の突起が付される。	褐色	—	
第76図5	帯板3	深鉢	口縁部 ～胴部	—	口縁部に沿って隆帯を巡らせ、腹面に隆帯と化縁で編文が施される。また、口縁部はれ上からの斜位の波線が充填される。一部文様が異なる。	—	2本一対の隆帯によって三角形の区画を作り、編文が施される。また、区画内は波線で充填される。	褐色～赤色	—	
第76図6	曾利Ⅰ～ Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	—	化縁を地文とし隆帯が貼付される。	にぶい黄色～黒色	—	
第76図7	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部は無文で外側に大きく広がる。	—	—	暗灰色	—	
第76図8	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部は無文で外側に広がる。	—	—	にぶい黄色	—	
第76図9	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	化縁により口縁部の内側から垂文文が施される。	—	—	褐色～黒色	—	
第76図10	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	平行沈線により、口縁部の内側から垂文文を施される。	—	—	にぶい黄色	—	
第76図11	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	平行沈線により、口縁部の内側から垂文文を施される。	—	—	暗褐色	—	
第76図12	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	化縁により垂文文を描き、口縁部から腹状の隆帯を垂下させる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第76図13	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	化縁により、口縁部の内側から垂文文が施される。また、口縁部の上面、腹面に腹状の隆帯が貼付される。	—	—	黒褐色	—	
第76図14	曾利Ⅱ～ Ⅲ	深鉢	口縁部	—	口縁部に突起が貼付される。口縁部の文様は化縁による垂文文にならうか。	—	—	赤褐色	—	
第76図15	加曾利E1 ～2	深鉢	胴部	単節科縄文LR	口縁部以下に僅かに編文帯を認め、隆帯により三角形の文様が貼付される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第76図16	加曾利E1 ～2	深鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	灰黄色	—	
第76図17	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	黒赤文L	1本隆帯が貼付される。	明黄褐色	—	
第77図18	加曾利E2	底部付 豆	—	—	—	黒赤文L	1本隆帯が貼付される。	明黄褐色	オリーブ黒色	
第77図19	加曾利E2	深鉢	口縁部	複節科縄文LR	腹面の複節科縄文を地文とし、隆帯で編文が貼付される。	—	—	暗灰色	にぶい黄褐色	
第77図20	加曾利E2	深鉢	口縁部	黒赤文かL	化縁で同心円状の文様が描かれる。	—	—	にぶい褐色～暗灰色	—	
第77図21	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	単節科縄文LR	2本の隆帯が平行に貼付される。	淡黄色	—	
第77図22	加曾利E2	底部付 豆	—	—	—	単節科縄文LR	2本の隆帯が平行に貼付される。	淡黄色	—	
第77図23	加曾利E2 ～3	深鉢	口縁部 ～胴部	縞帯条線	伊2の即体土器で上半部が埋没されていた。12cm幅の縞帯条線が全体に施される。	—	—	褐色	—	伊体土器
第77図24	加曾利E2 ～3	深鉢	胴部	—	—	縞帯条線	縞帯条線を地文とし隆帯が貼付される。	明褐色	—	
第77図25	加曾利E2 ～3	深鉢	胴部	—	—	—	縦位の隆帯が走り、その下部に弧状の波線が加えられる。	淡黄色	—	
第77図26	加曾利E2 ～3	浅鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第77図27	加曾利E3	深鉢	口縁部	単節科縄文LR	区画内が単節科縄文で充填される。左側区画は斜行、右区画は縦に施される。	—	—	黒褐色	にぶい褐色	
第77図28	加曾利E3	深鉢	口縁部	単節科縄文LR	横の区画内が縄文で充填される。	—	—	暗赤褐色	—	
第77図29	加曾利E3	深鉢	口縁部	単節科縄文LR	口縁部に沿って1本の波線を描き、その下部に化縁で二重の円、もしくは縞帯条線の文様が施される。	—	—	黒褐色	—	
第77図30	加曾利E4	深鉢	口縁部	複節科縄文LR	区画内が複節科縄文で充填される。	—	—	淡黄褐色	—	
第77図31	加曾利E4	深鉢	把手	—	横位に貼付され、縄文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第77図32	加曾利E	浅鉢か 底部	—	—	—	—	—	暗灰黄色	—	
第77図33	瀬灰文2	深鉢	口縁部	黒赤文L	口縁部下の3本の平行沈線のうち上面2本の上下それぞれ内側が施される。3本の波線が垂下する。	—	—	暗灰色	—	

第27表 177号住居跡出土土器一覽(1)

神前番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 胴部・底面	口縁部・頸部・胴部・突起・ 器手取部	胴部・底面・ 器部断面	胴部・底面・器部特徴	外面色調	内面色調	備考
第77図34	透気文2	深鉢	口縁部	縞縞条線	口縁部直下に平行な2本の 比線が引かれ、比線の間に 円形突起が施される。2条 一対の比線により透気文が 描かれる。	-	-	黄褐色	-	
第77図35	透気文2	深鉢	胴部	単節斜縄文L	口縁部直下に円形突起が施 される。その下に比線が引 かれ、下の1条上に円形突 起が施される。	-	-	黒褐色	-	
第77図36	透気文2	深鉢	口縁部	単節斜縄文が	口縁部上部に2条の比線を 描かせ、その下部に1条の 比線や透気文が描かれる。	-	-	灰黄褐色	-	
第77図37	透気文2	深鉢	口縁部	縞縞条線	口縁部直下に口縁部と平行 な比線が2条引かれる。	-	-	明黄褐色～黒褐 色	-	
第77図38	透気文2	深鉢	口縁部	縞縞条線	口縁部直下に僅かな無文帯 があり、その下部に口縁部 に平行な1条の比線が引か れる。	-	-	明褐色	-	
第78図39	透気文2	深鉢	胴部	-	-	単節斜縄文LR	胴部の3条の比線が走り、 その下部に1条の比線に よる透気文が描かれる。	褐色	-	
第78図40	透気文2	深鉢	胴部	-	-	縞縞条線	横位の3条の比線が引か れる。	にぶい黄褐色	-	
第78図41	透気文2	深鉢	胴部	-	-	縞縞条線	横位の3条の比線が走り、 その下部に透気文が描か れる。	赤赤褐色	-	
第78図42	透気文2	深鉢	胴部	-	-	縞縞条線	1.0cm幅の縞縞条線が施さ れる。	暗褐色	-	

第28表 177号住居跡出土土器一覽(2)

神前番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 胴部・底面	口縁部・頸部・胴部・突起・ 器手取部	胴部・底面・ 器部断面	胴部・底面・器部特徴	外面色調	内面色調	備考
第86図1	阿玉台皿	深鉢	口縁部	-	口縁部に押引文、三角押 引文が施される。	-	-	明褐色～黄灰色	にぶい黄褐色	
第86図2	撻飯1	深鉢	口縁部	-	隆帯によって三角形の区 画を作り幅広押引文が施さ れる。区画内は三角押引文、 放射状線が加えられる。	-	-	黄灰色	-	
第86図3	撻飯1～ 2	深鉢	胴部	-	-	-	隆帯によって区画を作り、 隆帯の高部に幅広押引文 が施される。	黒褐色	-	
第86図4	撻飯2	深鉢	胴部	-	-	-	隆帯によって区画を作る。 隆帯上、さらに隆帯にそ って連続押引文が充填さ れる。	にぶい赤褐色	-	
第86図5	撻飯2～ 3	深鉢	口縁部	-	口縁部直下に幅広押引文が 施される。半円状の隆帯が 貼付され、隆帯に沿って幅 広押引文が走る。	-	-	褐色	-	
第86図6	撻飯3	深鉢	胴部	-	-	-	深く引かれた平行状線に 交互斜交、隆帯に交互斜 交が施される。円形の粘 土を貼付し縁に形みが加 えられる。	黒褐色	-	
第86図7	魯利II	深鉢	口縁部	-	口縁部と頸部の境目付近を 隆帯に盛り上げ、その上に 形みが加えられる。	-	-	明黄褐色	-	
第87図8	加魯利E	深鉢	口縁部 ～底面	-	隆帯で3単位の楕円形の区 画が作られる。	単節斜縄文LR	LRの単節斜縄文を地文と する。	褐色	-	
第88図9	加魯利E	深鉢	口縁部 ～胴部	縞縞文L	口縁部は放射状になる部分と 円形部に含む部分が一対に なろうか、隆帯によって区 画が作られ、また、撻飯状 の文様や隆帯を縦帯に貼付 する区画もみられる。頸部は 無文帯になる。	-	-	明褐色	-	
第88図10	加魯利E	深鉢	口縁部	縞縞文L	無文帯の下部に隆帯によっ て区画を作り、「9」字状 の2本の隆帯が貼付されよ うか。	-	-	にぶい黄褐色	-	
第88図11	加魯利E	深鉢	口縁部	-	隆帯によって区画が作られ る。区画の中に往々に通き 居の文様が描かれるが、外 側にいくにつれて「フ」字 状を呈する。	-	-	縞縞褐色	-	
第88図12	加魯利E	深鉢	口縁部	縞縞文L	隆帯によって区画が作られ る。区画の端に隆帯で通き 居を貼付し、通き居から2 本の隆帯が垂下する。	-	-	灰黄褐色	-	

第29表 178号住居跡出土土器一覽(1)

神奈番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底面	口縁部・頸部・肩部・突起・ 取手特徴	胴部・底面・ 脚部底面	胴部・底面・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第88図13	加曾利E1	深鉢	口縁部	—	—	—	返しを削り付けた。隆帯を削り付けた。隆帯によって区画を作り、区画内に縦位の沈線が充填される。	にぶい黄褐色	—	
第88図14	加曾利E1	深鉢	取手	—	—	—	—	明黄褐色	—	
第88図15	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤文L	2本の隆帯が弧状に削り付けられ、そこから1本の隆帯が垂下する。	明黄褐色	—	
第88図16	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤文L	平行な2本の隆帯と2本の隆帯による肩帯が削り付けられる。	褐色	—	
第88図17	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤文L	平行な2本の隆帯と削り付ける1本の隆帯が垂下される。	にぶい黄褐色	—	
第89図18	加曾利E1 ~2	深鉢	口縁部	黒赤文R	—	—	隆帯によって半円形の区画を作り、区画内は黒赤文が充填される。	赤褐色	—	
第89図19	加曾利E1 ~2	深鉢	口縁部	黒赤文L	—	—	隆帯によって半円形の区画が作られようか。隆帯の頂点で黒赤文が充填される。	黒褐色	—	
第89図20	加曾利E2	深鉢	口縁部	黒赤文L	—	—	口縁部直下に隆帯によって区画が作られる。	黒褐色	—	
第89図21	加曾利E1	深鉢	口縁部 ~底面	黒赤文R	—	—	隆帯によって区画を作り、区画内を黒赤文が充填される。隆帯が弧状、もしくは「S」字状に削り付けられる。	10YR3/3	—	
第89図22	加曾利E2	深鉢	口縁部	直線段反黒 L,R	—	—	2本の隆帯が削り付けられ、中央に円形の突起を施した文様が施される。円形の文様からは2本の隆帯がのびようか。	明褐色~黒褐色	—	
第89図23	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	黒赤文L	横位の隆帯を削り付け、そこから1本の隆帯が垂下される。	黒褐色	—	
第89図24	加曾利E2	深鉢	胴部~ 底面	—	—	単節斜縄文L,R	1本の隆帯、1本の削り付ける隆帯、2本の隆帯がそれぞれ垂下する。	明赤褐色	—	
第89図25	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	黒赤文L	2本の隆帯が横位に並び、そこから2本の平行な隆帯と1本の削り付ける隆帯が垂下する。	褐色	黒褐色	
第89図26	加曾利E2	深鉢	胴部~ 底面	—	—	黒赤文L	2本の平行な隆帯と削り付ける隆帯が交互に並び、その間に1本の隆帯が垂下する。	明赤褐色	黒色	
第89図27	加曾利E2	深鉢	胴部~ 底面	—	—	黒赤文L	2本の直線的な隆帯と削り付ける隆帯が交互に並び、これらの間に文がはさまり4単位確認できる。	明黄褐色	—	

第30表 178号住居跡出土土器一覽(2)

神奈番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底面	口縁部・頸部・肩部・突起・ 取手特徴	胴部・底面・ 脚部底面	胴部・底面・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第97図1	黒山	深鉢	胴部	—	—	黒節斜縄文L	内側に化粧土が施される。	にぶい黄褐色	—	
第97図2	巻坂3	深鉢	口縁部	単節斜縄文L,R	—	—	口縁部から隆帯上に文様が施される。区画内は隆帯によって三角押文を施し、内側に三角押文が充填される。	黒褐色	褐色	
第97図3	巻坂3	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部下に黒文部分を除ける。隆帯上に連続する筋目が施され、直下に縦位の沈線が削り付けられる。	褐色	—	
第97図4	巻坂3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作り、条線が充填される。「つ、こ」字状の沈線を組み合わせた文様が削り付けられる。	にぶい黄褐色	—	
第97図5	曾利Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	—	沈線で反時計回りの渦巻文が削り付けられる。	明褐色~暗褐色	—	
第97図6	曾利Ⅲ~ Ⅳ	深鉢	胴部	—	—	—	縦の沈線で区画が作られ、区画内に刺突文を「V」字状に充填される。	黄灰色	—	
第97図7	加曾利E1	深鉢	口縁部	黒赤文L	—	—	縦位の筋子が削り付けられる。隆帯により黒赤文、あるいは区画が作られようか。	黒褐色	—	
第97図8	加曾利E1	深鉢	口縁部	黒赤文L	—	—	隆帯によって区画を作り、隆帯の接する頂点部に黒赤文が削り付けられる。	褐色	—	

第31表 179号住居跡出土土器一覽(1)

検出番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 胴部地文	口縁部・頸部・胴部・突起・ 把手特徴	胴部・底部・ 脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第97図9	加曾利I	深鉢	把手	—	山状の凸で、中央に直径3.3cm程の孔が開く。胴上部から隆帯の幅が、比喩で渦文が描かれる。	—	—	黒褐色	—	
第97図10	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤文R	横位の隆帯の下部に、長方形状の区画が縦方向に作られる。	赤褐色～黒褐色	—	
第97図11	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤文R	長方形状の区画が縦方向に作られる。	赤褐色～黒褐色	—	
第98図12	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤文L	横位の隆帯を彫付し、そこから隆帯を垂下させる。	暗褐色	—	
第98図13	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	黒赤文L	横位の隆帯の下部に隆帯で渦文が彫付される。	黒褐色	明褐色	
第98図14	加曾利E1 -2	深鉢	底部	—	—	黒赤文L	斜行する隆帯と直線的な隆帯が底部付近まで垂下される。	褐色	黒褐色	
第98図15	加曾利E2	深鉢	底部	—	—	黒赤文R	2本一対の隆帯を垂下させる。	にぶい黄褐色	黒褐色色	
第98図16	加曾利E1 -2	深鉢	口縁部	単節斜線文LR	口縁部直下に僅かな無文部分があり、その下部に横位の隆帯が彫付される。	—	—	黒褐色	—	
第98図17	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	単節斜線文LR	2本1組の弧状の隆帯と直線的な隆帯が彫付され、斜行する隆帯が垂下する。	にぶい黄褐色	明褐色	
第98図18	加曾利E1	深鉢	胴部	—	—	単節斜線文LR	弧状に彫付された隆帯から2本の隆帯を垂下させる。	褐色	—	
第98図19	加曾利E1 -2	深鉢	胴部	—	—	単節斜線文LR	2本の隆帯を横位に彫付し、そこから隆帯を垂下させる。	黒褐色	—	
第98図20	加曾利E1 -2	深鉢	胴部	—	—	—	—	灰黄褐色	—	
第98図21	加曾利E2	深鉢	口縁部	—	横位の隆帯がきれ彫付、その下部に隆帯で渦文が描かれる。	—	—	灰黄褐色	—	
第98図22	加曾利E2	深鉢	口縁部	—	隆帯によって区画を作り、区画内は平行比喩が充填される。	—	—	暗褐色	—	
第98図23	加曾利E2	深鉢	胴部	—	隆帯によって区画を作り、平行比喩が充填される。隆帯の頂点部で渦文が作られる。	—	—	暗褐色	—	
第98図24	加曾利E か	深鉢	口縁部	—	大きく開く無文の口縁部である。	—	—	暗褐色	—	

第32表 179号住居跡出土土器一覽(2)

検出番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 胴部地文	口縁部・頸部・胴部・突起・ 把手特徴	胴部・底部・ 脚部地文	胴部・底部・脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第104図1	阿玉台I	深鉢	胴部	—	—	—	ヒダ状部が隆される。	中褐色	—	
第104図2	阿玉台II	深鉢	口縁部	—	口縁部下部に連続的彫文が隆される。	—	—	黒褐色	—	
第104図3	阿玉台II	深鉢	口縁部	—	口縁部下部に幅広い彫文が隆され、その下に隆帯で区画が作られようか。区画内には幅広い角神文が写る。	—	—	褐色	—	
第104図4	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	1列の連続した帯みが隆される。	にぶい黄褐色	—	
第104図5	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	1本の隆帯が彫付される。	にぶい褐色	—	
第104図6	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	1列の連続した帯みが隆される。	褐色	—	
第104図7	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって三角形と思われる区画が作られる。	にぶい黄褐色	—	
第104図8	阿玉台I -IIか	深鉢	底部	—	—	—	—	灰褐色	—	
第104図9	阿玉台III	深鉢	突起	—	—	—	隆帯が「C」字状に彫付される。	にぶい黄褐色	—	
第104図10	阿玉台III	深鉢	口縁部	—	口縁部に隆帯を彫付し、下部には2列の三角神文が隆される。「C」字状の突起が作られる。	—	—	黒褐色	—	
第104図11	阿玉台III	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を彫付し、両側に押引文が2列が隆される。	にぶい黄褐色	—	
第104図12	阿玉台III	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を彫付し、片側に幅広い角神文が隆される。隣接して幅広い角神文で区画が作られる。	にぶい黄褐色	—	
第104図13	阿玉台III	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を彫付し、両側に角神文が隆される。	褐色	—	

第33表 180号住居跡出土土器一覽(1)

神図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底面	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 把手特徴	胴部・底面・ 脚部底面	胴部・底面・ 脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第104図14	阿玉台皿 Ⅳ	深鉢	口縁部	—	口縁部内面に2列の角押文、口縁部直下に1列の角押文が施される。	—	—	褐色	—	
第104図15	阿玉台皿 Ⅳ	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作り、両側に2列の連続刺形文が施される。また、区画内には蛇行する沈線が引かれる。	にぶい黄褐色	—	
第104図16	甗飯1	深鉢	胴部	—	口縁部付近の突起の両側に2列の連続刺形文を施し、口縁部直下にも2列の連続刺形文が施される。	—	—	赤褐色	—	
第104図17	甗飯1	深鉢	胴部	—	—	—	1本の隆帯を貼付し、両側に連続刺形文が施される。	赤褐色	—	
第104図18	甗飯1	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯の一端が接するようにつけられ、隆帯の両側に連続刺形文が施される。	暗褐色	—	
第104図19	甗飯2	深鉢	口縁部	—	「く」字状に口縁部が外面に突出する。	—	—	明赤褐色	—	
第104図20	甗飯2	深鉢	口縁部 →胴部	—	器体土器であらうか、隆帯によって平均状の区画を作り、隆帯に沿って1列ないし2列の三角押印文が施される。口縁部を4等分した内の3カ所に突起が貼付される。また胴部との境には1本の隆帯を斜めに貼付し、隆帯の上側に2列、下側に1列の三角押印文が施される。	—	両指状の隆帯、直線的な隆帯が貼付され、隆帯に沿って1列ないし2列の三角押印文が施される。両指状の隆帯の先端には「U」字状もしくは「V」字状の粘土帯が貼付される。	赤褐色	—	
第105図21	甗飯2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作り、両側に幅広角押文が施される。区画内に三角押文が施される。	灰黄褐色	—	
第105図22	甗飯2	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線により区画され、連続刺形文が充填される。	赤褐色	—	
第105図23	甗飯2	深鉢	胴部	—	—	—	角押文が縦状に施される。	赤褐色	—	
第105図24	甗飯2～ 3	深鉢	口縁部	—	両面に文様がつけられる。内側は蛇行する隆帯が貼付され、隆帯に沿って三角押印文が施される。外側は口縁部に沿って貼付された隆帯により区画が作られ、内側に三角押印文が加えられる。	—	—	黒褐色	—	
第105図25	甗飯2～ 3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯により三角形の区画が作られ、隆帯の両側に連続刺形文が施される。	褐色	—	
第105図26	甗飯2～ 3	深鉢	胴部	—	—	—	3本の平行沈線が引かれ、隆帯状になった部分に連続刺形文が施される。	褐色	—	

第34表 180号住居跡出土土器一覽(2)

神図番号	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底面	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 把手特徴	胴部・底面・ 脚部底面	胴部・底面・ 脚部特徴	外面色調	内面色調	備考
第111図1	阿玉台皿	深鉢	口縁部	—	口縁部から外面に貼付された隆帯に沿って幅広角押文が施される。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第111図2	阿玉台皿	深鉢	胴部	—	—	—	三文文状に隆帯を貼付し、隆帯の間に幅広角押文が施される。	褐色	—	
第111図3	阿玉台皿 Ⅰ	深鉢	口縁部	—	2列の連続する刺形文で楕円形の区画が作られる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第111図4	阿玉台皿 Ⅰ	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を三文文状に貼付し、沈線、または2列の連続刺形文が施される。	にぶい黄褐色	—	
第111図5	阿玉台皿 Ⅰ	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯により楕円形の区画が作られる。	灰黄褐色	—	
第111図6	阿玉台皿	深鉢	胴部	—	—	—	連続刺形文を2列施される。	灰黄褐色	—	
第111図7	甗飯1～ 2	深鉢	口縁部	—	隆帯を楕円状に貼付し区画が作られる。区画内は隆帯に沿って角押文を施される。	—	—	にぶい褐色	—	
第111図8	甗飯2	深鉢	口縁部	—	隆帯により楕円形の区画を作り、連続刺形文、平行沈線を施らせる。区画中央付近には三文文が施される。	—	—	褐色	—	
第111図9	甗飯2	深鉢	口縁部	—	幅広角押文と反状沈線によって区画が作られようか。	—	—	褐色	—	
第111図10	甗飯2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって幅広角押文が施される。胴部には沈線2条と反状沈線2本が交互に引かれる。	褐色	—	

第35表 181号住居跡出土土器一覽(1)

検出番号	型式	器種	部位	口縁部・胴部・ 底部地文	口縁部・胴部・底部・突起・ 取手特徴	胴部・底部・ 底部地文	胴部・底部・器部特徴	外面色調	内面色調	備考
第111図11	巻版2	深鉢	胴部	—	—	—	—	—	—	
第111図12	巻版2	深鉢	口縁部	—	口縁部縁に沿って隆体が貼付され区画が作られる。隆体上には透刻的縄文が施される。	—	—	—	—	
第112図13	巻版2	深鉢	口縁部	—	口縁部は強く内湾し、腹文部分の下部には隆帯が貼付される。	—	—	—	—	
第112図14	巻版2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作り、平行沈線が充填される。	—	—	
第112図15	巻版2～3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作り、あるいは四角形の区画を作り、平行沈線が充填される。隆帯の頂点部分に削みが見られる。	—	—	
第112図16	巻版か	深鉢	底部	—	—	—	—	—	—	

第36表 181号住居跡出土土器一覽(2)

検出番号	型式	器種	部位	口縁部・胴部・ 底部地文	口縁部・胴部・底部・突起・ 取手特徴	胴部・底部・ 底部地文	胴部・底部・器部特徴	外面色調	内面色調	備考
第116図1	管利II	深鉢	胴部	—	—	—	短行した隆帯を貼付し、隆帯の内側に横文の沈線が充填される。	褐色	—	—
第116図2	加管利E2	深鉢	口縁部	単節斜縄文L	—	—	隆帯によって区画を作り、区画内は縄文が充填される。	—	—	—
第116図3	加管利E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文L	隆帯によって区画を作り、区画内は縄文で充填される。	—	—	—
第116図4	加管利E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文L	平行沈線を垂下させる。	—	—	—
第116図5	加管利E2 →3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文L	2本の平行な沈線を垂下する。	—	—	—
第116図6	透気文2	深鉢	口縁部	単節斜縄文L	—	—	口縁部を貫き直した部分に沈線を巡らせる。	—	—	—
第116図7	透気文2	深鉢	口縁部	単節文L	—	—	口縁部上部に2条一対の沈線を巡らせ、沈線の間に交互刺突が加えられる。	—	—	—

第37表 182号住居跡出土土器一覽

検出番号	遺構名	型式	器種	部位	口縁部・胴部・ 底部地文	口縁部・胴部・底部・突起・ 取手特徴	胴部・底部・ 底部地文	胴部・底部・器部特徴	外面色調	内面色調	備考
第118図1	6500	加管利E2	深鉢	胴部	—	—	複節斜縄文L	1条の沈線を横位に巡らせ、そこから2条一対の沈線を垂下させる。	—	—	—
第118図2	6500	加管利E2 →3	深鉢	胴部	—	—	複節斜縄文L	2条一対の沈線を垂下させ、一部別の縄文を貼り出す。	—	—	—
第118図3	6500	加管利E3	深鉢	胴部	—	—	無節斜縄文L	2条の沈線を垂下させ沈線の間の縄文を貼り出す。	—	—	—
第118図4	6500	加管利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文L	沈線を垂下させ、縄文を貼り出す。	—	—	—
第118図5	6500	加管利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	2条の沈線を垂下させ沈線の間の縄文を貼り出す。	—	—	—
第118図6	6500	加管利E か	深鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	—	—	—
第120図1	651D	加管利E	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文	短行する隆帯を垂下させる。	—	—	—
第122図1	6520	管利III	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文	1本の縦位の隆帯が横位に当たる。	—	—	—
第122図2	6520	加管利E2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文	2本一対の隆帯を垂下させる。	—	—	—
第122図3	6520	加管利E3	深鉢	胴部	—	—	—	沈線を垂下させ、腹を貼り出す。	—	—	—
第122図4	6520	透気文2	深鉢	口縁部	単節斜縄文	口縁部付近に2条一対の沈線を巡らせ、その下部に沈線で透気文が描かれる。	—	—	—	—	—
第122図5	6520	透気文2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文	2条一対の沈線で透気文が描かれる。	—	—	—

第38表 土坑・ピット出土土器一覽(1)

器種番号	器種名	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 肩部・底面	口縁部・頸部・ 肩部・突起・ 底面	頸部・底面・ 肩部・底面	頸部・底面・ 肩部・底面	外面色調	内面色調	備考
第124図1	654D	阿玉台Ⅱ ～Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	—	—	褐色	—	隆帯を削りし、隆帯の両端に短直角押文が加えられる。
第126図1	655D	加曾利Ⅱ か	深鉢	口縁部	彫文Ⅰ	ミニチュアの口縁部であろうか。口縁部上部に浅い無文帯を施す。	—	—	—	—	にぶい褐色
第128図1	656D	加曾利Ⅱ か	深鉢	口縁部 ～底面	磨擦条線	ミニチュアであろうか。	磨擦条線	—	—	—	にぶい褐色
第130図1	657D	加曾利Ⅱ か	深鉢	胴部	—	—	彫文Ⅰ	—	—	—	褐色
第130図2	657D	造弧文Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	磨擦条線	—	—	—	にぶい褐色
第130図3	657D	造弧文Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	磨擦条線	—	—	—	褐色
											くびれ部に沈線が通る。頸部に2条一対の沈線で造弧文を描くが、一部造弧文の両端部が長く伸び半円形の文様を描く。
第132図1	659D	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部上部に角押文を施し、下部に反状の沈線を加える。また、口縁部の内側にも1列の角押文が施される。	—	—	—	—	にぶい黄褐色
第132図2	659D	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	—	—	—	—	黒褐色
第132図3	659D	加曾利Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	単彫斜縄文Ⅱ	—	—	—	にぶい黄褐色
第134図1	660D	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	—	—	—	—	三文字状の文様になろうか。
第134図2	660D	磨擦Ⅲ	深鉢	口縁部	—	上面を平らに成形し、内側に三角形に盛り出す。また、外側に先端を折り返した様に成形される。	—	—	—	—	にぶい赤褐色
第134図3	660D	加曾利Ⅱ	深鉢	突起	—	四角形を呈し、上面は平らで内側に成形される。上面に沈線で磨擦文が施される。	—	—	—	—	灰黄褐色
第134図4	660D	加曾利Ⅱ か	浅鉢	口縁部	—	赤彩を施される。	—	—	—	—	灰黄褐色
第137図1	665D	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部上部に2列の角押文を施す。	—	—	—	—	にぶい黄褐色
第137図2	665D	磨擦Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	単彫斜縄文Ⅱ	—	—	—	磨擦を1本横道に施らせる。隆帯の上から磨擦文が施される。
第137図3	665D	加曾利Ⅱ ～2	浅鉢	胴部	—	横位の沈線が引かれる。	—	—	—	—	にぶい黄褐色
第137図4	665D	加曾利Ⅱ ～2	深鉢	胴部	—	—	彫文Ⅰ	—	—	—	隆帯を横位に施させる。
第137図5	665D	加曾利Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	彫文Ⅰ	—	—	—	2条一対の隆帯を弧状に彫付し、そこから隆帯を垂下させる。
第137図6	665D	加曾利Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	沈線か	—	—	—	2条一対の隆帯を垂下させる。
第139図1	667D	加曾利Ⅱ か	深鉢	胴部	—	—	—	—	—	—	褐色
第139図2	667D	加曾利Ⅱ か	深鉢	胴部	—	—	—	—	—	—	黒色
第139図3	667D	加曾利Ⅱ か	深鉢	胴部	—	—	彫文Ⅰ	—	—	—	灰褐色
第141図1	668D	磨擦Ⅲ	深鉢	胴部	—	上面を平らに成形する。	—	—	—	—	にぶい黄褐色
第141図2	668D	磨擦Ⅲ	深鉢	胴部	—	上面を平らに成形し、先端を内側へ折り返す。	—	—	—	—	灰黄褐色
第141図3	668D	磨擦Ⅲ	有孔 磨付	胴部	—	—	—	—	—	—	胴部分の下部に2条一対の沈線を描かせ、沈線の間に「U」字状の沈線と「O」字状の沈線を組み合わせた文様を施す。また、円形の孔が開いた装飾がとれたと思われる痕が残る。
第141図4	668D	磨擦Ⅲ	有孔 磨付	胴部	—	—	—	—	—	—	2条一対の沈線によって解する程度の彫行する文様を描く。
第141図5	668D	磨利Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	単彫斜縄文Ⅱ	—	—	—	隆帯を横位に彫付し、隆帯上に交互突起を加える。沈線で三角形状の文様を描き、内面は磨擦文になろうか。沈線の下部は縄文を磨り削っている。
第141図6	668D	加曾利Ⅱ	深鉢	胴部	—	口縁部によってやや凹みがある。	—	—	—	—	暗褐色
第141図7	668D	造弧文Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	単彫斜縄文Ⅱ	—	—	—	横位の沈線が通る。
第135図1	669D	加曾利Ⅲ	深鉢	胴部	—	—	単彫斜縄文Ⅱ	—	—	—	沈線を垂下させ、胴の縄文を磨り消す。
第143図1	670D	加曾利Ⅱ か	深鉢	胴部	—	—	単彫斜縄文Ⅱ	—	—	—	黒褐色

第39表 土坑・ピット出土土器一覽(2)

発掘番号	遺構名	型式	階層	部位	口縁部・頸部・ 胴部絶文	口縁部・頸部・胴部・突起・ 底子特徴	胴部・底部・ 胴部絶文	胴部・底部・胴部特徴	外面色調	内面色調	備考
第144図1	671D	加曽利Ⅰ か	不明	不明	—	—	単部斜縄文か	—	灰褐色	—	
第146図1	672D	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	無文の大きく開く口縁部である。	—	—	にぶい黄褐色	黒色	
第146図2	672D	加曽利E2	深鉢	胴部	—	—	断系文か	2本一対の隆帯を横位に並らせ、そこから隆帯を垂下させる。	褐色	—	
第146図3	672D	加曽利E2	深鉢	胴部	—	—	断系文L	2本一対の沈線を垂下させる。	褐色	—	
第148図1	673D	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を貼付し、その上に隆帯によって扇形の区画が作られる。区画内は縦位の沈線が施される。	明褐色	—	
第150図1	674D	遮弧文2	深鉢	胴部	—	—	—	2本一対の沈線が横位に並る。	にぶい赤褐色	—	
第154図1	675D	加曽利E2 —3	深鉢	口縁部 →胴部	—	隆帯によって断文が施される。	単部斜縄文か	—	灰黄褐色	—	
第156図1	676D	帯板か	有孔 器付	口縁部	—	口縁部の下部に0.6cm程度の孔が開けられる。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第156図2	676D	加曽利E2 —3	深鉢	胴部	—	—	帯板条線	蛇行する隆帯を垂下させる。	にぶい黄褐色	—	
第156図3	676D	遮弧文2	深鉢	胴部	—	—	断系文L	2本の沈線を横位に並らせ、その上部に沈線で遮弧文が描かれる。	灰褐色	—	
第156図4	676D	遮弧文2	深鉢	胴部	—	—	断系文L	3本一対の沈線で帯板の文様を施す。そこから沈線を垂下させる。	明赤褐色	にぶい黄褐色	
第156図5	676D	遮弧文2	深鉢	胴部	—	—	断系文L	3本一対の沈線で遮弧文が描かれる。	黒褐色	—	
第158図1	678D	加曽利E3 —4	深鉢	口縁部	単部斜縄文L	口縁部に無文を施すが、上部に1本の沈線が並る。	—	—	にぶい黄褐色	—	
第158図2	678D	加曽利E3 —4	深鉢	胴部	—	—	帯板条線	帯板条線で蛇行する文様を描く。	にぶい黄褐色	—	
第160図1	680D	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	—	扇形文様の包みを横位に施す。	黒褐色	—	
第160図2	680D	加曽利E3	深鉢	胴部	—	—	無部斜縄文L	沈線を縦位に引き、間の縄文を斜行直す。	にぶい黄褐色	—	
第161図1	681D	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線によって区画を作り、区画内に三角形の文様を施す。	褐色	—	
第161図2	681D	加曽利E2 —3	深鉢	胴部	—	—	—	沈線によって断文を作出する。	灰黄褐色	—	
第161図3	681D	加曽利E3	深鉢	胴部	—	—	単部斜縄文か	沈線によって区画を作り、また、沈線を垂下させる。	にぶい褐色	—	
第163図1	682D	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部上部に包みが施される。	—	—	灰黄褐色	—	
第163図2	682D	帯板1— 2	深鉢	胴部	—	—	—	三角押文を縦位に施す。	黒褐色	—	
第163図3	682D	帯板2	深鉢	胴部	—	中心に孔の開いた円形の粘土を貼付する。	—	—	黒褐色	—	
第163図4	682D	帯板2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を縦位に貼付し、隆帯上に包みが加えられる。褐色の沈線を引き、間に別縦位の沈線を施す。また、下部に縦位の三角押文を加える。	灰褐色	黒褐色	
第163図5	682D	帯板3	深鉢	胴部	—	—	—	沈線を並らせ、その下部に沈線を交互に施す。	灰黄褐色	—	
第163図6	682D	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部上部に交互突起を施す。	—	—	黒褐色	—	
第163図7	682D	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部は三角形に成形され、口縁部は無文である。	—	—	明赤褐色	—	
第163図8	682D	加曽利E か	深鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	にぶい褐色	黒褐色	
第165図1	684D	帯板2	深鉢	口縁部	—	隆帯によって区画を作り、隆帯に沿って幅広角押文が施される。その内部にも押印文が加えられる。	—	—	にぶい赤褐色	—	
第165図2	684D	曾利Ⅱ	深鉢	口縁部	—	口縁部と胴部の境に横位の隆帯が並る。	—	—	褐色	—	
第165図3	684D	曾利Ⅱ	深鉢	胴部	—	—	—	互上から斜位に沈線を引き、その上に2本一対の隆帯を並る。さらにその上に互上から斜位に隆帯が貼付される。	黒色	—	
第165図4	684D	加曽利E2	深鉢	胴部	—	—	単部斜縄文LR	2本一対の隆帯を垂下させる。	にぶい黄褐色	黒褐色	
第165図5	684D	加曽利E2	深鉢	把手	—	三又文状でそれぞれの中央に沈線が引かれる。	—	—	灰黄褐色	—	
第167図1	686D	加曽利E か	深鉢	胴部	—	—	単部斜縄文LR	—	にぶい褐色	黒色	

第40表 土坑・ピット出土土器一覧(3)



神宮番号	遺構名	型式	器種	部位	口縁部・頸部・ 胴部底文	口縁部・頸部・胴部・突起・ 底子特徴	胴部・底部・ 胴部底文	胴部・底部・胴部特徴	外面色調	内面色調	備考
第169図1	687D	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	歴史文L	隆帯を横位に附付し、 区画を作る。	にぶい・黄褐色	—	
第173図1	691D	熊取か	深鉢	胴部	—	—	—	—	にぶい・赤褐色	—	
第151図1	693D	熊取3	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を横位に附付し、 隆帯上には刻み が加えられる。隆帯に よって作られた区画内 には波線が充填される。	黒褐色	—	
第151図2	693D	曾利II	深鉢	胴部	—	—	—	縦位の平行波線を横合 させ、上部に縦位の平 行波線が認められる。 また、縦位の平行波線 上には波線の隆帯が 見付される。	灰黄褐色	—	
第152図3	693D	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	歴史文Lしか	隆帯を横位に附付し、 区画を作る。	にぶい・黄褐色	—	
第152図4	693D	加曾利E か	深鉢	突起	—	直径2.6cm、高さ3.7cmを 有する円形に成形される。	—	—	にぶい・黄褐色	—	
第152図5	693D	加曾利E か	深鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	にぶい・褐色	—	
第177図1	43P	熊取3	深鉢	胴部	—	—	—	縦位の隆帯を附付し、 隆帯に沿って押引文が 施される。	にぶい・黄褐色	—	
第179図1	55P	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	単線斜線文か	縦位の波線を垂下させる。 横位の隆帯が附付され る。	褐色	黒褐色	
第181図1	56P・ 57P	阿玉台II	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を附付し、隆帯上 に刻み加えられる。 また、隆帯に沿って 上部に1列の角押文、 下部に2列の三角押文 が施される。	にぶい・褐色	—	
第183図1	69P	熊取2	深鉢	胴部	—	隆帯を二文文状に附付し、 隆帯に沿って1列の三角押文 と1列の角押文が施される。	—	—	にぶい・黄褐色	—	
第185図1	71P	阿玉台II	深鉢	口縁部	—	山形に成形される。	—	—	黒色	—	
第185図2	71P	熊取2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって区画を作 り、隆帯の外側に沿っ て角押文が施される。	にぶい・褐色	灰褐色	
第189図1	89P	阿玉台	深鉢	底部	—	—	—	平底の底部である。	にぶい・赤褐色	—	
第191図1	98P	加曾利E2 -3	深鉢	胴部	—	—	縞線染織	斜行する隆帯を附付す る。	にぶい・赤褐色	—	
第195図1	102P	曾利か	深鉢	胴部	—	—	—	波線で「X」字状の文 様が描かれる。また、 縦位の波線もみられる。	にぶい・赤褐色	—	
第197図1	104P	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	縞線染織	2条一列の波線を垂下 させる。	にぶい・褐色	黒褐色	
第198図1	105P	加曾利E3 -4	深鉢	口縁部	—	無文帯を設け、口縁部下 部に縦位の波線が認め られる。	—	—	褐色	—	
第202図1	109P	熊取2	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を附付し、隆帯に 沿って角押文が施され る。	褐色	—	

第41表 土坑・ピット出土土器一覽(4)

神宮番号	遺構名	器種	形状	長さ	幅	高さ	外面色調	内面色調	備考
第12図11	90J	土製円筒	円形	4.2cm	4.1cm	24.2g	にぶい・黄褐色	黒褐色	
第55図452	174J	土製片鉢	陶丸長方形	9.1cm	6.6cm	93.5g	にぶい・黄褐色	褐色	
第55図453	174J	土製片鉢	陶丸長方形	8.1cm	5.8cm	77.1g	にぶい・黄褐色	—	
第55図454	174J	土製片鉢	楕円形	5.3cm	4.0cm	23.0g	にぶい・赤褐色	—	
第55図455	174J	土製片鉢	楕円形	4.5cm	3.3cm	17.7g	にぶい・黄褐色	—	
第55図456	174J	土製片鉢	四角形	4.9cm	4.0cm	20.1g	にぶい・黄褐色	黒褐色	
第55図457	174J	土製片鉢	楕円形	4.4cm	3.4cm	16.3g	にぶい・黄褐色	—	
第55図458	174J	土製片鉢	不整形円形	3.6cm	3.3cm	15.6g	にぶい・褐色	褐色	
第55図459	174J	土製片鉢	不整形円形	4.2cm	3.5cm	19.5g	にぶい・黄褐色	—	
第55図460	174J	土製片鉢	楕円形か	(3.6cm)	3.4cm	15.4g	灰黄褐色	—	
第55図461	174J	土製片鉢	不整形円形	3.1cm	3.0cm	12.6g	にぶい・黄褐色	—	
第55図462	174J	土製片鉢	不整形円形	3.9cm	3.1cm	20.8g	にぶい・黄褐色	—	
第55図463	174J	土製片鉢	四角形	3.7cm	3.7cm	13.4g	にぶい・褐色	—	
第55図464	174J	土製片鉢	楕円形	3.7cm	3.1cm	11.4g	にぶい・黄褐色	—	
第55図465	174J	土製片鉢	楕円形	3.9cm	3.1cm	14.8g	灰黄褐色	—	
第55図466	174J	土製片鉢	四角形	5.3cm	5.1cm	42.1g	褐色	—	
第55図467	174J	土製片鉢	四角形	4.7cm	4.2cm	29.2g	にぶい・黄褐色	灰黄褐色	
第55図468	174J	土製片鉢	—	4.7cm	(2.4cm)	14.8g	灰黄褐色	—	
第55図469	174J	土製片鉢	不整形円形	3.7cm	3.2cm	14.0g	にぶい・黄褐色	—	
第55図470	174J	土製片鉢	不整形円形	3.6cm	3.5cm	19.8g	にぶい・褐色	黒褐色	
第55図471	174J	土製片鉢	不整形円形	3.7cm	3.6cm	17.9g	にぶい・黄褐色	—	
第55図472	174J	土製片鉢	不整形円形	3.6cm	3.4cm	11.5g	褐色	—	
第55図473	174J	土製片鉢	不整形円形	3.1cm	3.1cm	11.4g	褐色	黒褐色	

第42表 出土土製品一覽(1)

調査番号	遺物名	器種	形状	長さ	幅	高さ	外面色調	内面色調	備考
第55回474	174J	土製内甕	不整円形	3.0cm	2.5cm	13.6g	にんじやう色	—	—
第55回475	174J	土製内甕	円形	3.0cm	2.6cm	9.9g	にんじやう色	灰褐色	—
第55回476	174J	土製内甕	不整形	6.5cm	5.0cm	33.4g	にんじやう色	にんじやう色	—
第55回477	174J	土製内甕	不整形	5.3cm	4.0cm	23.0g	灰褐色	—	—
第55回478	174J	土製内甕	—	5.8cm	(3.5)cm	20.9g	にんじやう色	—	—
第55回479	174J	土製内甕	楕円形	(3.6)cm	3.8cm	20.5g	褐色	灰褐色	—
第55回480	174J	土製内甕	不整円形	3.8cm	3.4cm	19.3g	灰褐色	—	—
第55回481	174J	土製内甕	楕円形	5.3cm	(3.0)cm	21.7g	にんじやう色	—	—
第55回482	174J	土製内甕	不整円形	4.0cm	3.8cm	16.6g	にんじやう色	—	—
第55回483	174J	土製内甕	不整円形	4.3cm	3.6cm	16.2g	にんじやう色	灰褐色	—
第55回484	174J	土製内甕	不整円形	3.8cm	3.6cm	15.8g	にんじやう色	—	—
第55回485	174J	土製内甕	楕円形	3.8cm	3.2cm	13.5g	にんじやう色	—	—
第55回486	174J	土製内甕	不整円形	3.4cm	3.6cm	11.0g	にんじやう色	—	—
第55回487	174J	土製内甕	不整円形	3.5cm	2.8cm	12.8g	にんじやう色	黒褐色	—
第55回488	174J	土製内甕	—	4.2cm	(2.3)cm	11.0g	にんじやう色	—	—
第55回489	174J	土製内甕	楕円形	(2.8)cm	3.7cm	9.6g	黄褐色	灰褐色	—
第55回490	174J	土製内甕	不整円形	3.3cm	2.8cm	10.7g	にんじやう色	—	—
第55回491	174J	土製内甕	不整円形	3.6cm	3.1cm	15.4g	灰褐色	—	—
第55回492	174J	土製内甕	不整円形	3.1cm	2.7cm	9.0g	褐色	灰褐色	—
第55回493	174J	土製内甕	楕円形	(3.2)cm	2.8cm	11.3g	褐色	黒褐色	—
第55回494	174J	土製内甕	不整円形	3.2cm	2.6cm	6.6g	にんじやう色	—	—
第55回495	174J	土製内甕	楕円形	2.7cm	2.4cm	10.5g	にんじやう色	—	—
第55回496	174J	土製内甕	不整円形	3.0cm	3.0cm	8.7g	灰褐色	—	—
第55回497	174J	土製内甕	不整円形	3.0cm	(2.1)cm	6.2g	にんじやう色	—	—
第55回498	174J	土製内甕	—	3.1cm	(2.4)cm	7.9g	黒褐色	—	—
第55回499	174J	土製内甕	楕円形	3.0cm	2.9cm	8.3g	にんじやう色	—	—
第55回500	174J	土製内甕	円形	2.3cm	2.3cm	5.2g	にんじやう色	—	—
第55回501	174J	土製内甕	楕円形	(2.9)cm	2.5cm	5.0g	にんじやう色	—	—
第55回502	174J	不明土製品	「コ」字状	(3.5)cm	1.7cm	9.0g	にんじやう色	—	—
第55回503	174J	不明土製品	「コ」字状	2.0cm	0.8cm	1.6g	にんじやう色	—	—
第69回21	176P19	土製片鉢	楕円長方形	4.4cm	3.0cm	22.5g	明土褐色	黒色	—
第69回22	176P19	土製片鉢	楕円長方形	2.9cm	2.1cm	7.8g	灰褐色	黒色	—
第78回43	177J	土製片鉢	不整円形	3.3cm	2.7cm	11.6g	にんじやう色	にんじやう色	—
第98回25	179J	土製片鉢	円形	2.9cm	2.8cm	7.9g	黄褐色	灰褐色	—
第105回27	180J	粘土器	不整形	—	—	42.5g	にんじやう色	灰褐色	—
第112回117	181J	土製内甕	不整円形	2.4cm	2.4cm	42.5g	にんじやう色	灰褐色	—
第128回2	655D	土製内甕	不整円形	4.5cm	4.4cm	23.2g	にんじやう色	—	—
第141回8	668D	土製内甕	不整円形	5.8cm	5.3cm	45.3g	にんじやう色	黒褐色	—
第163回9	682D	土製内甕	円形	5.0cm	4.7cm	26.9g	にんじやう色	—	—
第181回3	56P・57P	土製片鉢	楕円形	4.3cm	2.8cm	15.6g	にんじやう色	—	—
第193回1	99P	土製内甕	不整円形	3.9cm	3.4cm	15.5g	にんじやう色	黒褐色	—

第43表 出土製品一覧(2)

調査番号	遺物名	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第12回12	90J	打製石斧	燧石	61.2	44.4	15.1	50.3	打製石斧系	—
第12回13	90J	打製石斧	ホルンフェルス	50.0	56.0	21.2	66.7	打製石斧系	—
第12回14	90J	石皿	灰山石	159.3	110.5	46.2	1098.3	礫石器系	扁平石皿 / 縁殺打(破損部)
第56回504	174J	石鏝	ガラス質黒色安山岩	28.5	15.0	3.7	1.1	割片石器系	無平凹基
第56回505	174J	石鏝	黒曜石	8.5	6.8	2.1	0.1	割片石器系	劈部
第56回506	174J	石鏝未製品	黒曜石	15.8	16.2	4.5	1.2	割片石器系	—
第56回507	174J	チャート	チャート	39.9	41.7	11.8	17.1	割片石器系	—
第56回508	174J	楔形石器	チャート	47.5	45.2	17.6	34.2	割片石器系	エッジ×エッジ
第56回509	174J	楔形石器	黒曜石	16.8	14.0	6.1	1.1	割片石器系	エッジ×エッジ
第56回510	174J	楔形石器	黒曜石	15.7	8.6	7.9	0.8	割片石器系	エッジ×エッジ
第56回511	174J	楔形石器	黒曜石	10.6	6.8	5.0	0.4	割片石器系	平削×エッジ
第56回512	174J	楔形石器	黒曜石	15.8	6.1	3.6	0.4	割片石器系	エッジ×エッジ
第56回513	174J	楔形石器	黒曜石	22.3	13.8	12.6	3.4	割片石器系	平削×エッジ
第56回514	174J	楔形石器	黒曜石	20.3	10.5	8.5	1.5	割片石器系	エッジ×エッジ
第56回515	174J	楔形石器	黒曜石	13.7	9.6	6.3	0.5	割片石器系	エッジ×エッジ
第56回516	174J	楔形石器	黒曜石	16.9	26.9	10.6	3.1	割片石器系	エッジ×エッジ
第56回517	174J	楔形石器	黒曜石	15.3	9.1	6.1	0.5	割片石器系	—
第56回518	174J	楔形石器	黒曜石	20.5	9.7	7.2	1.1	割片石器系	平×エッジ
第56回519	174J	両端削片	黒曜石	16.8	11.0	3.1	0.5	割片石器系	—
第56回520	174J	二次的剥離のある割片	黒曜石	14.2	15.9	4.7	1.1	割片石器系	—
第56回521	174J	二次的剥離のある割片	黒曜石	15.5	15.8	4.9	1.2	割片石器系	—
第56回522	174J	二次的剥離のある割片	チャート	29.7	40.8	7.6	8.8	割片石器系	—
第56回523	174J	二次的剥離のある割片	チャート	27.1	27.3	8.3	7.6	割片石器系	スクレイパー状

第44表 出土石器一覧(1)

調査番号	遺構名	説明	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第56回524	174J	不規則形のある割片	黒曜石	17.5	19.0	6.9	1.7	割片石器類	
第56回525	174J	不規則形のある割片	黒曜石	39.3	10.3	6.7	2.5	割片石器類	
第56回526	174J	不規則形のある割片	黒曜石	14.2	15.6	3.0	0.5	割片石器類	
第56回527	174J	不規則形のある割片	燧石質頁岩	27.6	39.6	6.3	5.8	割片石器類	
第56回528	174J	割片	チャート	34.7	24.2	7.3	6.6	割片石器類	
第56回529	174J	割片	チャート	35.8	51.1	10.4	13.8	割片石器類	
第56回530	174J	石核	黒曜石	24.3	25.0	11.6	4.7	割片石器類	
第56回531	174J	石核	チャート	55.8	45.2	28.0	56.4	割片石器類	
第56回532	174J	石核	チャート	45.7	60.6	19.0	42.5	割片石器類	
第56回533	174J	打製石片	燧石質頁岩	119.2	43.8	17.1	131.0	打製石片類	割片素材
第56回534	174J	打製石片	ホルンフェルス	80.5	32.4	9.5	24.0	打製石片類	形不明 (側面磨削付)
第56回535	174J	打製石片	砂岩	84.0	47.1	17.5	77.0	打製石片類	形不明
第56回536	174J	打製石片	砂岩	108.0	51.6	17.1	131.7	打製石片類	形不明
第56回537	174J	打製石片	砂岩	86.4	30.8	12.4	45.4	打製石片類	形不明
第56回538	174J	打製石片	砂岩	108.0	41.9	19.3	93.8	打製石片類	形不明
第56回539	174J	打製石片	ホルンフェルス	99.2	41.5	19.4	97.5	打製石片類	形不明
第56回540	174J	打製石片	ホルンフェルス	87.9	45.1	19.2	102.8	打製石片類	形不明
第56回541	174J	打製石片	ホルンフェルス	113.4	50.5	24.5	152.5	打製石片類	形不明
第56回542	174J	打製石片	ホルンフェルス	97.7	46.9	15.2	79.1	打製石片類	形不明
第56回543	174J	打製石片	ホルンフェルス	69.7	33.6	10.7	34.0	打製石片類	形不明
第56回544	174J	打製石片	ホルンフェルス	76.1	43.4	19.4	78.5	打製石片類	形不明
第56回545	174J	打製石片	砂岩	83.7	55.3	16.4	98.0	打製石片類	形不明
第56回546	174J	打製石片	ホルンフェルス	76.6	37.3	16.6	43.7	打製石片類	形不明
第56回547	174J	打製石片	ホルンフェルス	108.9	46.2	18.4	120.1	打製石片類	形不明
第56回548	174J	打製石片	ホルンフェルス	112.3	41.0	22.0	112.7	打製石片類	形不明
第56回549	174J	打製石片	砂岩	114.3	49.3	21.2	138.8	打製石片類	形不明
第56回550	174J	打製石片	砂岩	89.8	45.8	18.5	82.2	打製石片類	形不明
第56回551	174J	打製石片	ホルンフェルス	91.8	41.8	14.0	66.7	打製石片類	形不明
第56回552	174J	打製石片	砂岩	98.0	46.6	23.9	144.4	打製石片類	形不明
第56回553	174J	打製石片	ホルンフェルス	103.4	36.8	22.4	98.5	打製石片類	形不明
第56回554	174J	打製石片	ホルンフェルス	85.5	42.7	12.6	51.2	打製石片類	形不明
第56回555	174J	打製石片	砂岩	109.3	59.7	17.5	133.8	打製石片類	形不明
第56回556	174J	打製石片	砂岩	107.9	45.7	26.0	126.4	打製石片類	形不明
第57回557	174J	打製石片	ホルンフェルス	125.0	51.1	17.9	129.4	打製石片類	形不明
第57回558	174J	打製石片	ホルンフェルス	101.4	47.2	12.8	81.3	打製石片類	形不明
第57回559	174J	打製石片	ホルンフェルス	93.7	45.2	22.3	100.6	打製石片類	形不明
第57回560	174J	打製石片	砂岩	105.3	63.6	18.0	98.8	打製石片類	形不明
第57回561	174J	打製石片	ホルンフェルス	98.8	48.5	10.4	56.1	打製石片類	形不明
第57回562	174J	打製石片	砂岩	94.0	54.8	17.0	110.1	打製石片類	形不明
第57回563	174J	打製石片	砂岩	88.5	57.3	23.2	109.3	打製石片類	形不明
第57回564	174J	打製石片	ホルンフェルス	93.9	49.8	13.2	68.3	打製石片類	形不明
第57回565	174J	打製石片	砂岩	85.4	57.0	23.9	146.6	打製石片類	形不明
第57回566	174J	打製石片	砂岩	99.5	65.7	26.8	186.2	打製石片類	形不明
第57回567	174J	打製石片	砂岩	94.6	63.0	17.9	103.0	打製石片類	形不明
第57回568	174J	打製石片	砂岩	79.4	44.9	14.5	50.7	打製石片類	両側面磨削
第57回569	174J	打製石片	砂岩	71.4	57.7	10.5	53.9	打製石片類	形不明
第57回570	174J	打製石片	砂岩	87.2	48.7	18.9	99.4	打製石片類	不整型
第57回571	174J	打製石片	砂岩	103.2	49.4	20.5	95.8	打製石片類	形不明
第57回572	174J	打製石片	燧石質頁岩	76.8	37.5	11.9	33.6	打製石片類	形不明
第57回573	174J	打製石片	ホルンフェルス	61.1	50.7	13.7	55.7	打製石片類	形不明
第57回574	174J	打製石片	砂岩	59.7	49.8	18.3	54.0	打製石片類	形不明
第57回575	174J	打製石片	砂岩	53.2	47.9	18.9	60.3	打製石片類	形不明
第57回576	174J	打製石片	ホルンフェルス	46.7	39.4	13.1	28.1	打製石片類	形不明
第57回577	174J	打製石片	砂岩	47.0	45.9	19.3	35.0	打製石片類	形不明
第57回578	174J	打製石片	砂岩	30.3	40.7	10.7	18.8	打製石片類	破片
第57回579	174J	打製石片	砂岩	43.2	40.4	15.0	35.5	打製石片類	形不明
第57回580	174J	打製石片	砂岩	46.2	41.0	18.5	47.6	打製石片類	形不明
第57回581	174J	打製石片	砂岩	44.1	26.9	11.4	17.4	打製石片類	形不明 (小型)
第57回582	174J	打製石片	砂岩	64.9	32.7	13.9	41.0	打製石片類	形不明 (破片)
第57回583	174J	打製石片	砂岩	52.2	35.5	14.5	28.4	打製石片類	形不明
第57回584	174J	打製石片	砂岩	61.8	42.7	17.1	41.1	打製石片類	形不明
第57回585	174J	打製石片	砂岩	51.9	50.3	17.1	57.1	打製石片類	形不明
第57回586	174J	打製石片	砂岩	79.2	44.7	19.2	60.7	打製石片類	形不明
第57回587	174J	打製石片	砂岩	48.9	35.1	18.4	35.8	打製石片類	形不明
第57回588	174J	打製石片	砂岩	53.9	46.2	17.5	43.3	打製石片類	形不明
第57回589	174J	打製石片	砂岩	64.0	44.3	18.7	56.6	打製石片類	片縁磨削
第57回590	174J	打製石片	砂岩	45.6	74.4	18.0	83.1	打製石片類	破片
第57回591	174J	打製石片	砂岩	53.1	53.0	16.0	51.2	打製石片類	形不明
第57回592	174J	打製石片	ホルンフェルス	40.9	57.2	13.8	34.2	打製石片類	破片
第57回593	174J	打製石片	砂岩	44.0	59.3	15.2	36.0	打製石片類	形不明
第57回594	174J	打製石片	砂岩	38.1	50.0	15.0	36.9	打製石片類	形不明

第45表 出土石器一覧(2)

調査番号	遺構名	階層	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第57層595	174J	打製石片	砂岩	30.3	47.3	12.6	19.3	打製石片系	破片
第57層596	174J	打製石片	砂岩	82.2	51.9	14.7	78.9	打製石片系	短槍形
第57層597	174J	打製石片	砂岩	90.5	62.4	16.4	131.3	打製石片系	短槍形
第57層598	174J	打製石片	凝灰岩	69.8	42.9	16.9	62.7	打製石片系	短槍形
第57層599	174J	打製石片	ホルンフェルス	77.2	35.2	12.4	66.7	打製石片系	短槍形
第57層600	174J	打製石片	ホルンフェルス	53.7	55.7	14.8	45.2	打製石片系	形態不明
第57層601	174J	打製石片	砂岩	74.4	47.5	18.3	99.8	打製石片系	短槍形
第57層602	174J	打製石片	ホルンフェルス	63.2	39.4	22.4	53.7	打製石片系	短槍形
第57層603	174J	打製石片	砂岩	66.9	71.6	17.0	93.7	打製石片系	短槍形
第57層604	174J	打製石片	砂岩	79.1	66.0	23.3	147.9	打製石片系	短槍形
第57層605	174J	打製石片	ホルンフェルス	59.7	45.6	12.4	39.9	打製石片系	不整形(短槍)
第57層606	174J	打製石片	砂岩	49.9	42.7	16.1	47.1	打製石片系	短槍形
第57層607	174J	打製石片	砂岩	42.5	43.5	16.3	31.6	打製石片系	短槍形
第57層608	174J	打製石片	砂岩	38.6	46.9	19.6	31.3	打製石片系	形態不明
第57層609	174J	打製石片	砂岩	39.0	44.3	14.5	29.4	打製石片系	形態不明
第57層610	174J	打製石片	砂岩	26.8	35.0	9.8	9.6	打製石片系	小型打製石片:破片
第57層611	174J	打製石片	砂岩	17.1	61.9	11.6	13.2	打製石片系	破片
第58層612	174J	模刻形石片	頁岩	53.3	93.1	13.8	67.5	打製石片系	
第58層613	174J	模刻形石片	ホルンフェルス	42.3	59.1	7.9	26.3	打製石片系	
第58層614	174J	模刻形石片	砂岩	54.1	87.6	13.9	68.0	打製石片系	
第58層615	174J	二次的剥離のある割片	砂岩	62.4	48.4	14.1	54.9	打製石片系	スクレイパー状
第58層616	174J	二次的剥離のある割片	ホルンフェルス	60.5	52.7	17.8	69.6	打製石片系	
第58層617	174J	二次的剥離のある割片	ホルンフェルス	101.5	73.4	57.4	353.3	打製石片系	
第58層618	174J	二次的剥離のある割片	砂岩	59.5	36.6	22.0	39.8	打製石片系	
第58層619	174J	二次的剥離のある割片	ホルンフェルス	84.1	63.8	20.8	125.8	打製石片系	
第58層620	174J	二次的剥離のある割片	ホルンフェルス	38.3	49.1	16.6	33.8	打製石片系	
第58層621	174J	二次的剥離のある割片	砂岩	80.2	39.5	25.6	66.2	打製石片系	側縁角縁起行
第58層622	174J	二次的剥離のある割片	ホルンフェルス	79.7	57.0	24.9	101.2	打製石片系	
第58層623	174J	不規則剥離のある割片	ホルンフェルス	51.2	78.5	10.7	42.3	打製石片系	
第58層624	174J	二次的剥離のある割片	ホルンフェルス	49.9	66.0	9.6	31.2	打製石片系	
第58層625	174J	割片	ホルンフェルス	68.0	73.8	18.2	86.0	打製石片系	
第58層626	174J	割片	ホルンフェルス	59.6	67.4	13.1	26.3	打製石片系	
第58層627	174J	不規則剥離のある割片	ホルンフェルス	51.7	48.6	13.6	39.8	打製石片系	
第58層628	174J	割片	砂岩	45.8	62.9	12.5	35.2	打製石片系	
第58層629	174J	割片	砂岩	22.7	51.7	8.7	9.7	打製石片系	
第58層630	174J	磨製石片	緑色岩	97.4	46.2	26.0	169.1	磨製石片系	不整形
第58層631	174J	磨製石片	砂岩	49.6	51.5	28.4	92.4	磨製石片系	丸棒状(折れ面に若干の稜縁起)
第58層632	174J	磨製割片	ホルンフェルス	37.6	44.1	7.0	12.1	磨製石片系	磨製石片部両生
第58層633	174J	割片	凝灰岩/頁岩	27.3	55.2	6.5	10.7	磨製石片系	磨製石片両生剥片
第58層634	174J	磨製石片	砂岩	25.9	38.3	31.8	30.9	磨製石片系	基部割片(丸棒状)
第58層635	174J	砂片	凝灰岩	44.1	33.2	10.2	13.2	磨製石片系	磨製石片部(基部不明)
第58層636	174J	砂片	凝灰岩	37.7	16.2	33.6	19.7	磨製石片系	磨製石片部(丸棒状)
第58層637	174J	磨石	凹山岩	58.8	50.2	23.5	114.7	磨石系	石磨状(溝手)
第58層638	174J	磨石	凹山岩	61.9	80.6	33.1	216.8	磨石系	石磨状(溝手)
第58層639	174J	磨石	凹山岩	49.3	82.9	50.8	21.8	磨石系	溝手・割縁
第58層640	174J	磨石	砂岩	64.3	59.7	30.7	173.7	磨石系	石磨状
第58層641	174J	磨石	ハンレイ岩	28.1	67.1	36.8	90.5	磨石系	石磨状
第58層642	174J	磨石	凹山岩	30.1	96.7	23.5	22.3	磨石系	形態不明
第58層643	174J	磨石	凹山岩	55.3	39.8	44.4	113.3	磨石系	
第58層644	174J	磨石	凹山岩	40.7	50.3	38.6	111.6	磨石系	凹付(複数/両面)
第58層645	174J	磨石	砂岩	153.7	63.2	46.8	479.8	磨石系	端縁起行(両面)
第58層646	174J	磨石	砂岩	135.0	50.5	35.8	343.7	磨石系	側縁起行(特殊磨石)
第58層647	174J	磨石	凝灰岩	118.2	45.2	30.5	220.5	磨石系	側縁起行(部分)=横置き
第58層648	174J	磨石	凝灰岩	163.0	48.7	20.7	190.3	磨石系	側縁起行:右,側縁起行:左
第58層649	174J	磨石	砂岩	146.5	45.6	28.4	285.5	磨石系	側縁起行(細かい)
第58層650	174J	磨石	砂岩	127.2	41.3	32.2	272.8	磨石系	側縁起行+端縁起行
第58層651	174J	磨石	砂岩	129.4	38.0	26.5	169.0	磨石系	側縁起行:粗い縁起(側縁起を伴う)
第58層652	174J	磨石	凝灰岩片	114.6	32.9	26.1	112.0	磨石系	側縁起行+上下端縁起+側縁起,磨製石片部起
第58層653	174J	磨石	砂岩	120.2	53.2	24.2	177.9	磨石系	側縁起行(縁起行)+端縁起行
第58層654	174J	磨石	砂岩	126.8	62.1	23.4	228.4	磨石系	側縁起行(両面)
第58層655	174J	磨石	砂岩	123.4	74.4	31.2	354.0	磨石系	側縁起行
第58層656	174J	磨石	砂岩	136.6	62.6	37.9	491.5	磨石系	側縁起行(特殊磨石状)

第46表 出土石器一覧(3)

調査番号	遺構名	時期	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第58図657	174J	麻石	砂岩	87.1	50.2	40.0	203.7	礫石系	側面敲打・端面敲打
第58図658	174J	麻石	砂岩	96.2	52.8	32.1	224.6	礫石系	側面敲打・側敲打
第58図659	174J	麻石	ホルンフェルス	126.9	63.8	35.3	518.7	礫石系	側面敲打・端面敲打・側敲打 (短辺)
第59図660	174J	麻石	ホルンフェルス	113.7	59.2	29.3	258.5	礫石系	側面敲打(特殊磨石状)
第59図661	174J	麻石	砂岩	121.1	42.4	23.0	201.4	礫石系	側面敲打(特殊磨石状)
第59図662	174J	麻石	片状砂岩	128.9	58.1	31.8	234.6	礫石系	両側面敲打・側敲打(打製石斧未製品か)
第59図663	174J	麻石	ホルンフェルス	86.5	60.9	23.6	136.6	礫石系	側面敲打(打製石斧未製品か)
第59図664	174J	麻石	砂岩	109.7	47.7	25.6	177.2	礫石系	側面敲打(部分)
第59図665	174J	麻石	砂岩	110.8	54.6	24.3	167.0	礫石系	側敲打(短辺面)
第59図666	174J	麻石	砂岩	54.9	52.1	21.1	65.5	礫石系	側面敲打
第59図667	174J	麻石	砂岩	84.0	44.6	23.2	145.6	礫石系	側面敲打(側)
第59図668	174J	麻石	砂岩	70.3	41.5	23.7	102.4	礫石系	側面敲打
第59図669	174J	麻石	砂岩	70.2	48.8	26.3	171.7	礫石系	側面敲打(特殊状)
第59図670	174J	麻石	チャート	49.8	64.0	36.9	145.1	礫石系	側面敲打・端面敲打
第59図671	174J	麻石	砂岩	100.6	89.2	38.2	447.7	礫石系	側面敲打(特殊)・側敲打(折れ)
第59図672	174J	麻石	砂岩	30.4	49.2	19.3	24.5	礫石系	側面敲打
第59図673	174J	麻石	凝灰岩	53.8	36.1	17.3	44.6	礫石系	側面敲打(側)・側面(棒うち)
第59図674	174J	麻石	砂岩	49.1	48.5	28.9	107.0	礫石系	側面敲打(特殊磨石状)
第59図675	174J	麻石	砂岩	37.7	38.9	22.8	55.4	礫石系	側面敲打(特殊磨石状)
第59図676	174J	麻石	チャート	107.8	46.5	46.6	323.0	礫石系	端面敲打・スタンプ状
第59図677	174J	麻石	砂岩	99.7	40.9	35.6	223.6	礫石系	側面敲打(SM)・端面敲打(スタンプ状)・側敲打(折れ)
第59図678	174J	麻石	砂岩	58.4	25.1	21.9	41.9	礫石系	端面敲打(側)・側面敲打(取手)
第59図679	174J	麻石	砂岩	78.8	38.8	41.9	163.5	礫石系	側敲打(折れ)・スタンプ状
第59図680	174J	麻石	凝灰岩	72.0	42.8	32.7	170.8	礫石系	側面敲打(特殊)
第59図681	174J	麻石	砂岩	71.2	44.9	26.0	110.4	礫石系	側面敲打
第59図682	174J	麻石	砂岩	101.4	32.4	27.0	110.5	礫石系	側面敲打(短辺)
第59図683	174J	麻石	砂岩	96.4	31.1	27.5	92.9	礫石系	側面敲打・端面敲打
第59図684	174J	麻石	砂岩	89.6	55.8	22.6	149.8	礫石系	側面敲打
第59図685	174J	麻石	砂岩	66.4	42.8	30.1	122.4	礫石系	側面敲打(特殊状)
第59図686	174J	麻石	砂岩	69.4	44.1	31.1	139.0	礫石系	側面敲打
第59図687	174J	麻石	砂岩	82.0	43.4	26.7	98.8	礫石系	側面敲打(部分)
第59図688	174J	麻石	砂岩	104.6	31.0	31.3	119.4	礫石系	側面敲打(側)
第59図689	174J	麻石	砂岩	100.4	42.0	35.5	184.6	礫石系	側敲打・折れ面
第59図690	174J	麻石	砂岩	79.9	39.7	31.2	125.5	礫石系	端面敲打
第59図691	174J	麻石	砂岩	74.6	34.4	24.9	65.8	礫石系	端面敲打・側敲打(折れ)
第59図692	174J	麻石	砂岩	71.0	46.9	36.4	132.9	礫石系	端面敲打(香澤)
第59図693	174J	麻石	砂岩	44.7	36.1	28.0	47.7	礫石系	側敲打
第59図694	174J	麻石	砂岩	53.6	34.4	33.2	93.3	礫石系	側面敲打
第59図695	174J	麻石	砂岩	53.2	25.7	21.8	41.6	礫石系	側面敲打
第59図696	174J	麻石	チャート	59.7	42.0	38.4	102.4	礫石系	端面敲打
第59図697	174J	麻石	砂岩	61.0	26.2	29.0	54.9	礫石系	端面敲打
第59図698	174J	麻石	砂岩	72.0	46.8	36.5	136.7	礫石系	側面敲打・側敲打(短辺面)
第59図699	174J	麻石	砂岩	68.3	39.0	41.6	86.1	礫石系	端面敲打
第59図700	174J	麻石	砂岩	50.0	63.6	23.9	102.9	礫石系	端面敲打・側敲打(折れ面)
第59図701	174J	麻石	ホルンフェルス	85.7	68.6	31.3	298.6	礫石系	端面・スタンプ状・側面敲打 ・全面磨光
第59図702	174J	麻石	砂岩	100.2	56.2	24.1	188.0	礫石系	側面敲打・側敲打
第59図703	174J	麻石	砂岩	72.2	49.9	30.3	124.5	礫石系	側面敲打(特殊磨石状)
第59図704	174J	麻石	砂岩	79.4	51.6	28.6	149.1	礫石系	側面敲打
第59図705	174J	麻石	砂岩	62.9	36.6	15.2	33.6	礫石系	側面敲打(短辺)
第59図706	174J	麻石	火山岩	67.7	60.8	44.9	219.2	礫石系	側敲打(折れ面)
第59図707	174J	麻石	チャート	92.2	51.3	30.4	184.5	礫石系	端面敲打・側面敲打・側敲打 (折れ)
第59図708	174J	麻石	砂岩	94.9	52.1	32.3	197.1	礫石系	側面敲打
第60図709	174J	麻石	砂岩	82.3	57.8	24.2	84.6	礫石系	側面敲打
第60図710	174J	麻石	砂岩	63.7	54.5	44.5	195.7	礫石系	側面敲打・側敲打(折れ)
第60図711	174J	麻石	砂岩	118.2	86.9	31.5	351.4	礫石系	側面敲打・端面敲打
第60図712	174J	麻石	砂岩	141.3	86.5	43.6	587.2	礫石系	側敲打(短辺面)
第60図713	174J	麻石	砂岩	106.9	83.3	75.6	710.8	礫石系	側敲打
第60図714	174J	麻石	砂岩	101.1	48.4	33.4	228.9	礫石系	側面敲打/側敲打
第60図715	174J	麻石	砂岩	54.3	27.9	26.5	41.5	礫石系	側敲打(折れ)・側面
第60図716	174J	麻石	砂岩	57.3	54.8	19.1	94.9	礫石系	側面敲打(磨製石斧転用)
第60図717	174J	麻石	凝灰岩	60.6	38.1	30.2	106.0	礫石系	側面敲打(側)・磨製石斧転用
第60図718	174J	麻石	砂岩	48.9	48.8	33.2	129.7	礫石系	側敲打(折れ面)・磨製石斧転用
第60図719	174J	麻石	凝灰岩	69.9	45.7	33.4	127.4	礫石系	端面(スタンプ状)・側面(磨製石斧転用)
第60図720	174J	麻石	砂岩	96.6	37.4	27.0	158.1	礫石系	孔縁状磨製石斧転用; 側面敲打(側)・磨製石斧転用
第60図721	174J	麻石	凝灰岩	127.4	53.0	22.7	199.7	礫石系	表面(広い凹状)

第47表 出土石器一覽(4)

調査番号	遺構名	種類	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第60図722	174)	磁石	砂岩	41.1	42.2	24.3	51.6	礫石器具	両面
第60図723	174)	石皿	斑岩	234.1	199.3	51.2	3843.3	礫石器具	扁平石片 / 表面に凹み(多孔)
第60図724	174)	石皿	火山岩	54.2	49.5	50.2	94.4	礫石器具	扁平(多孔質)
第60図725	174)	石皿	火山岩	51.1	47.6	40.7	77.0	礫石器具	扁平(多孔質)
第60図726	174)	磨石	火山岩質丸山層	82.6	58.3	65.0	49.4	礫石器具	中央やや凹み
第60図727	174)	磨石	輝石(流紋岩?)	48.9	37.5	51.8	13.4	礫石器具	
第60図728	174)	凹石	砂岩	62.1	53.5	24.7	101.7	礫石器具	表面(平ら面)に広く浅く(横状凹)
第60図729	174)	磨石	輝石	76.8	53.7	19.0	94.3	礫石器具	石皿状
第60図730	174)	凹石	結晶片岩	54.2	56.4	17.6	65.2	片岩製石器	片岩製石器
第60図731	174)	片岩製石器	緑泥片岩	98.3	41.8	17.0	104.0	片岩製石器	打製石片状; 磨石の一部に両縁とも浅く
第60図732	174)	片岩製石器	結晶片岩	64.3	39.0	12.5	36.7	片岩製石器	打製石片状
第60図733	174)	片岩製石器	結晶片岩	67.1	38.7	13.9	57.2	片岩製石器	磨石状; 側面に磨石痕に似る痕跡
第60図734	174)	片岩製石器	緑泥片岩	242.9	95.5	26.9	737.6	片岩製石器	磨石状
第60図735	174)	片岩製石器	結晶片岩	183.4	95.5	23.9	695.2	片岩製石器	磨石状
第60図736	174)	石皿	結晶片岩	82.1	104.9	27.4	362.3	片岩製石器	裏: 凹、裏: 砥
第60図737	174)	片岩製石器	結晶片岩	91.2	37.4	9.1	42.7	片岩製石器	打製石片状
第60図738	174)	片岩製石器	結晶片岩	95.2	34.9	15.2	116.0	片岩製石器	打製石片状
第60図739	174)	片岩製石器	結晶片岩	113.3	36.4	15.8	65.1	片岩製石器	側面磨石状; 棒状
第69図23	176)	磨石	黒曜石	11.5	14.8	4.5	0.8	割片石器	
第69図24	176)	不明物(磨石の突起部分)	チャート	48.0	32.2	10.0	12.3	割片石器	
第69図25	176)	打製石片	ホルンフェルス	97.0	45.1	22.7	105.8	打製石片	
第69図26	176)	打製石片	砂岩	87.0	33.4	14.7	55.7	打製石片	短冊形
第69図27	176)	打製石片	砂岩	93.7	69.4	15.8	111.5	打製石片	扇形
第69図28	176)	打製石片	砂岩	60.2	38.2	14.0	33.7	打製石片	
第69図29	176)	打製石片	ホルンフェルス	34.2	30.8	10.9	12.2	打製石片	形不明(製片)
第69図30	176)	打製石片	ホルンフェルス	43.1	50.4	25.0	42.1	打製石片	形不明(製片)
第69図31	176)	横刃形石器	砂岩	80.0	103.8	24.7	201.4	打製石片	
第69図32	176)	磨製石片	凝灰岩	68.3	38.5	32.1	74.1	磨製石片	端部を磨石 / 若干の横磨打(磨石面)
第69図33	176)	磨石	砂岩	154.2	80.2	33.9	644.1	礫石器具	側面磨打 / 端部部分磨打
第69図34	176)	磨石	砂岩	124.4	55.0	25.5	156.6	礫石器具	側面磨打 / 内側 / 打製石片未製品(?) / 端部磨打
第69図35	176)	磨石	砂質片岩	109.1	54.8	28.4	191.0	礫石器具	側面磨打 / 側縁磨打 / 端部磨打
第69図36	176)	磨石	砂岩	87.7	68.1	15.9	147.7	礫石器具	側縁磨打 / 端部磨打
第69図37	176)	磨石	砂岩	71.9	53.1	29.5	153.5	礫石器具	部分磨打
第69図38	176)	磨石	砂岩	53.8	42.7	32.3	78.4	礫石器具	扁平
第69図39	176)	片岩製石器	緑泥片岩	72.0	34.6	14.6	50.5	片岩製石器	打製石片状
第69図40	176)	凹石	結晶片岩	124.5	97.8	29.1	418.9	片岩製石器	内側凹み / 凹石
第78図44	177)	磨石	チャート	29.0	21.2	8.5	6.9	割片石器	石皿未製品か
第78図45	177)	打製石片	ホルンフェルス	108.2	42.2	10.9	54.4	打製石片	
第78図46	177)	打製石片	砂岩	95.2	53.9	15.2	75.6	打製石片	
第78図47	177)	打製石片	ホルンフェルス	91.9	48.3	12.9	69.0	打製石片	扇形
第78図48	177)	打製石片	砂岩	83.0	54.4	18.3	96.2	打製石片	
第78図49	177)	打製石片	結晶片岩	81.4	35.4	7.4	32.9	打製石片	短冊形
第78図50	177)	打製石片	ホルンフェルス	73.7	22.7	8.2	20.5	打製石片	小型
第78図51	177)	打製石片	砂岩	50.4	41.5	21.5	51.7	打製石片	形不明
第78図52	177)	打製石片	ホルンフェルス	28.4	30.9	16.1	27.2	打製石片	形不明
第78図53	177)	打製石片調整製片	砂岩	19.0	44.4	6.2	4.9	打製石片	
第78図54	177)	打製石片調整製片	砂岩	29.1	25.5	7.7	4.9	打製石片	
第78図55	177)	打製石片調整製片	砂岩	62.7	38.1	10.2	26.6	打製石片	
第78図56	177)	磨石	砂岩	100.8	47.6	23.7	138.8	礫石器具	側面磨打
第78図57	177)	磨製石片	凝灰岩	113.0	44.0	39.4	233.9	磨製石片	
第78図58	177)	磨石	砂岩	109.3	30.6	45.3	187.1	礫石器具	横磨打 / 縦磨打
第78図59	177)	磨石	砂岩	82.3	39.9	31.2	131.6	礫石器具	端部磨打 / 横磨打
第78図60	177)	磨石	砂岩	79.3	36.1	36.9	124.3	礫石器具	横磨打 / 端部磨打
第78図61	177)	磨石	砂岩	63.7	46.4	26.0	186.3	礫石器具	側面磨打
第78図62	177)	石皿	砂岩	109.4	110.5	81.9	738.0	礫石器具	
第78図63	177)	石皿	砂岩	53.4	40.2	55.5	157.9	礫石器具	
第90図28	178)	磨石	黒曜石	11.0	9.0	2.7	0.2	割片石器	
第90図29	178)	打製石片	ホルンフェルス	82.5	36.9	14.2	54.5	打製石片	短冊形
第90図30	178)	打製石片	ホルンフェルス	86.7	37.7	20.8	70.6	打製石片	短冊形
第90図31	178)	打製石片	ホルンフェルス	79.5	48.5	21.9	77.9	打製石片	
第90図32	178)	打製石片	ホルンフェルス	37.9	37.3	12.4	20.9	打製石片	
第90図33	178)	磨製石片	凝灰岩	61.2	49.6	24.6	80.1	磨製石片	刃部片
第90図34	178)	磨石	砂岩	158.6	47.0	30.4	210.4	礫石器具	側面磨打
第90図35	178)	磨石	砂岩	103.7	39.6	26.3	123.8	礫石器具	横磨打(磨石、磨石面)
第90図36	178)	磨石	砂岩	78.9	54.8	27.4	139.4	礫石器具	側面磨打(特殊磨石状)
第90図37	178)	磨石	砂岩	60.0	45.3	27.9	92.8	礫石器具	側面磨打 / 横磨打

第48表 出土石器一覧(5)

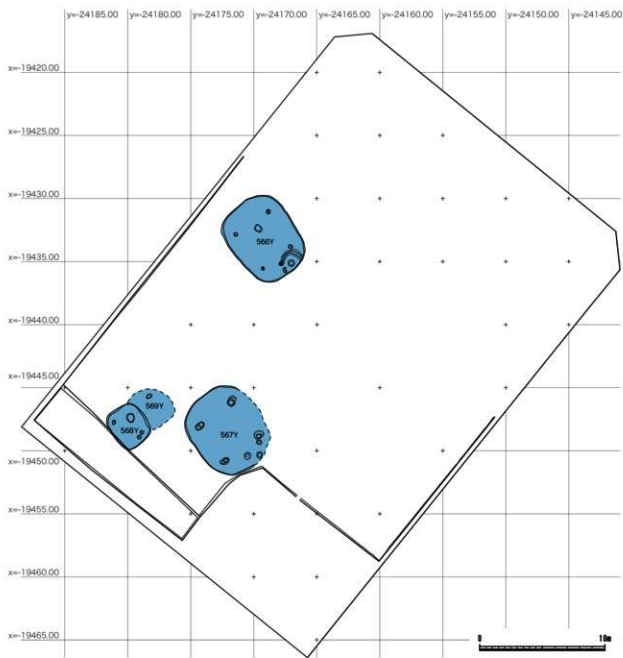
調査番号	遺構名	種類	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第 90 図 38	178J	片岩製石器	緑泥片岩	111.3	38.6	15.2	11.0	片岩製石器系	打製石斧状
第 90 図 39	178J	片岩製石器	結晶片岩	115.4	58.3	11.1	84.5	片岩製石器系	板状
第 90 図 40	178J	片岩製石器	砂質片岩	60.2	49.0	17.4	65.0	片岩製石器系	打製石斧状
第 98 図 26	179J	石類	黒曜石	21.8	15.5	5.7	1.3	割片石器系	
第 98 図 27	179J	礫形石器	黒曜石	11.0	7.5	3.2	0.3	割片石器系	
第 98 図 28	179J	割片	黒曜石	14.5	7.7	4.7	0.4	割片石器系	
第 98 図 29	179J	割片	黒曜石	16.5	22.3	5.3	1.3	割片石器系	
第 98 図 30	179J	打製石斧	ホルンフェルス	138.2	55.3	18.6	165.9	打製石器系	
第 98 図 31	179J	打製石斧	凝灰岩	99.7	40.2	16.9	96.1	打製石器系	断面が全面敲打(磨製石斧と製品の転用か)
第 98 図 32	179J	打製石斧	片岩砂岩	57.7	55.5	21.7	89.7	打製石器系	形不明
第 98 図 33	179J	打製石斧	砂岩	57.9	37.0	17.9	35.8	打製石器系	
第 98 図 34	179J	打製石斧	ホルンフェルス	49.8	48.8	13.1	48.6	打製石器系	形不明
第 98 図 35	179J	打製石斧	砂岩	58.4	41.1	24.3	78.5	打製石器系	
第 98 図 36	179J	磨石類	閃緑岩	34.9	51.4	40.7	72.0	磨石器系	石鏃状
第 98 図 37	179J	磨石類	ホルンフェルス	75.3	49.1	27.0	128.9	磨石器系	特殊磨石状
第 98 図 38	179J	磨石	砂岩	96.4	46.6	42.1	213.4	磨石器系	側面敲打 / 端部敲打
第 98 図 39	179J	磨石	砂岩	93.6	38.4	25.6	124.9	磨石器系	側面敲打 + 端部敲打 + 縁敲打(縁追加)
第 98 図 40	179J	磨石	砂岩	59.2	42.1	22.0	71.2	磨石器系	側面敲打(側)
第 98 図 41	179J	磨石	砂岩	33.5	51.8	36.2	70.9	磨石器系	端部敲打 / 側面敲打
第 98 図 42	179J	片岩製石器	緑泥片岩	66.1	15.7	7.8	8.0	片岩製石器系	板状
第 105 図 28	180J	磨石	砂岩	60.3	52.7	39.8	163.7	磨石器系	石鏃状
第 105 図 29	180J	石皿	火山岩	65.2	122.6	45.2	575.6	磨石器系	扁平石皿 / 縁辺敲打(縁追加)
第 112 図 18	181J	石類	黒曜石	21.4	15.6	3.3	0.8	割片石器系	無形片基
第 112 図 19	181J	割片	黒曜石	14.9	28.0	5.9	2.1	割片石器系	
第 112 図 20	181J	割片	黒曜石	32.4	30.8	5.3	3.5	割片石器系	
第 112 図 21	181J	割片	黒曜石	13.8	11.3	5.9	1.0	割片石器系	
第 112 図 22	181J	打製石斧	ホルンフェルス	59.4	44.4	7.0	23.9	打製石器系	
第 112 図 23	181J	二次的破壊のある割片	ホルンフェルス	22.6	86.3	13.9	33.2	打製石器系	
第 112 図 24	181J	調整割片	砂岩	19.5	34.1	9.1	4.9	打製石器系	
第 112 図 25	181J	磨石	砂岩	137.7	47.1	35.6	365.9	磨石器系	端部敲打 + 側面敲打(順)
第 116 図 8	182J	打製石斧	ホルンフェルス	97.0	44.3	25.4	147.6	打製石器系	凹形 / 両側面敲打
第 116 図 9	182J	磨石	ホルンフェルス	74.2	45.3	30.8	111.8	磨石器系	縁敲打(側部、縁追加)
第 118 図 7	650D	打製石斧	ホルンフェルス	85.2	50.8	13.0	60.5	打製石器系	
第 132 図 4	650D	礫形石器	黒曜石	27.1	19.7	10.5	4.8	割片石器系	エッジ × エッジ
第 135 図 5	660D	石皿	閃緑岩	63.1	43.6	54.8	176.2	磨石器系	
第 163 図 10	682D	打製石斧	凝灰岩	56.3	43.6	20.4	71.4	打製石器系	
第 171 図 1	690D	打製石斧	ホルンフェルス	67.2	42.8	12.9	39.3	打製石器系	
第 152 図 6	693D	磨石	砂岩	105.7	53.6	21.5	188.3	磨石器系	磨製石斧転用 / 端部敲打
第 152 図 7	693D	打製石斧	ホルンフェルス	105.5	36.6	11.3	55.4	打製石器系	
第 152 図 8	693D	磨石	砂岩	87.9	48.7	16.0	87.2	磨石器系	側面敲打(側部)
第 187 図 1	87P	石類	黒曜石	15.9	12.7	2.6	0.4	割片石器系	無形片基
第 200 図 1	106P	打製石斧	ホルンフェルス	61.6	48.7	16.8	59.1	打製石器系	

第 49 表 出土石器一覽(6)

## 第2節 弥生時代後期から古墳時代前期

### (1) 概要

弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は住居跡4軒が検出された。住居跡は縄文集落の西側に分布している。出土遺物から、いずれも弥生時代後期から古墳時代前期に帰属すると思われる。最も遺存の良い566号住居跡は、床面の一部から被熱痕、また床面直上からは炭化材が検出されていることから焼失住居と思われる。出土位置が判明している土器は72点であり、壺26点、甕41点、高坏4点、広口壺1点である。



第203図 弥生時代後期から古墳時代前期遺構分布図（1/300）



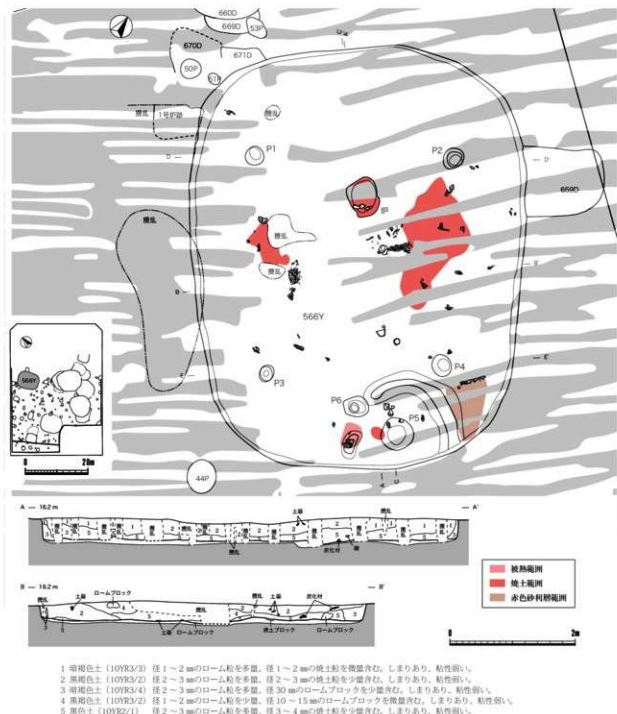
## (2) 住居跡

## 566号住居跡

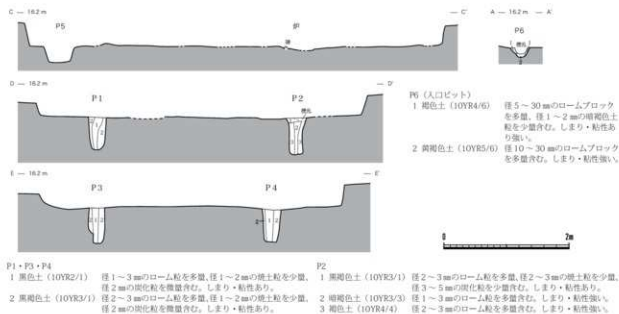
遺構 (第204～207図)

[位置] X=-19433, Y=-24169.

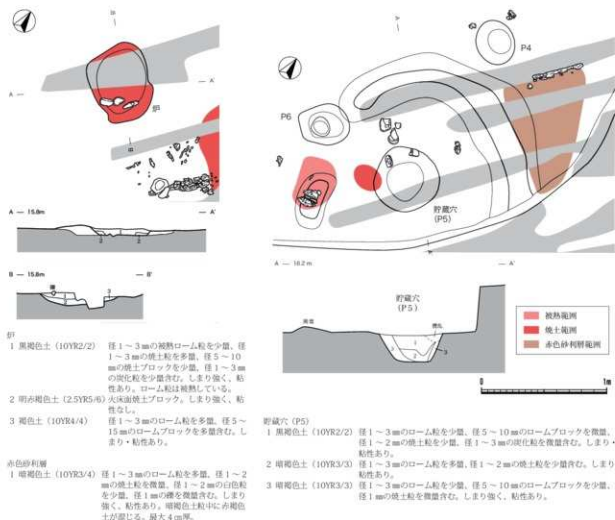
[構造] 659D・671D・1号炉跡を切る。住居床面に焼土範囲が確認され、炭化材が多く出土していることから、焼失住居の可能性が高い。平面形：隅丸長方形。規模：6.71×5.31m。主軸方位：N-



第204図 566号住居跡1 (1/60)



第205図 566号住居跡2 (1/60)



第206図 566号住居跡炉・貯蔵穴 (1/30)

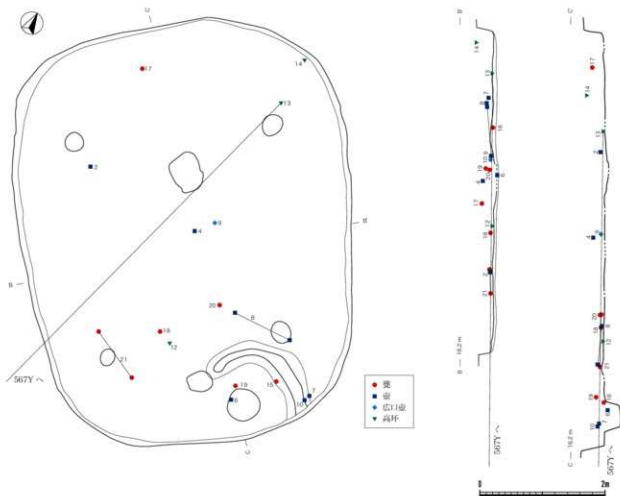
30°-W。壁高:21.0~34.4 cmを測り、90°前後の角度で立ち上がる。壁溝:検出されなかった。床面:攪乱が著しいが、住居中央部を中心に硬化面が認められ、東寄り、西寄りにそれぞれ213.5×112.2 cm、不明×43.4 cmの不整形の焼土範囲、また、住居南東側に不明×59.9 cmの赤色砂利層がある。住居掘り方は22.0~37.4 cm、貼床の厚さは1.4~8.4 cmを測る。炉:住居中央よりやや北寄りに位置する。不明×40.1 cmの被熱範囲が確認できる。62.7×45.4 cm、深さ5.1~10.0 cmの不整形形の掘り込みを持つ地床炉である。柱穴:P1~4が支柱穴と思われる。貯蔵穴:住居南側の壁際に位置する、P5が



566号住居跡全景(東より)



566号住居跡全景(南より)



第207図 566号住居跡遺物出土状態(1/60)



566号住居跡Aセクション東側(南より)



566号住居跡Aセクション西側(南より)



566号住居跡Bセクション(東より)



566号住居跡検出状況(南より)



566号住居跡が全景(西より)



566号住居跡がAセクション(北より)



566号住居跡がBセクション(南より)



566号住居跡が掘り方全景(西より)



566号住居跡が掘り方Aセクション（南より）



566号住居跡が掘り方Bセクション（南より）



566号住居跡遺物出土状態（東より）



566号住居跡掘り方全景（東より）



566号住居跡掘り方Aセクション西側（南より）



566号住居跡掘り方Aセクション東側（南より）



566号住居跡掘り方Bセクション南側（東より）



566号住居跡掘り方Bセクション北側（東より）



566号住居跡赤色砂利層



566号住居跡赤色砂利層



566号住居跡焼土範囲1 (南より)



566号住居跡焼土範囲2 (南より)



566号住居跡焼土範囲3 (南より)



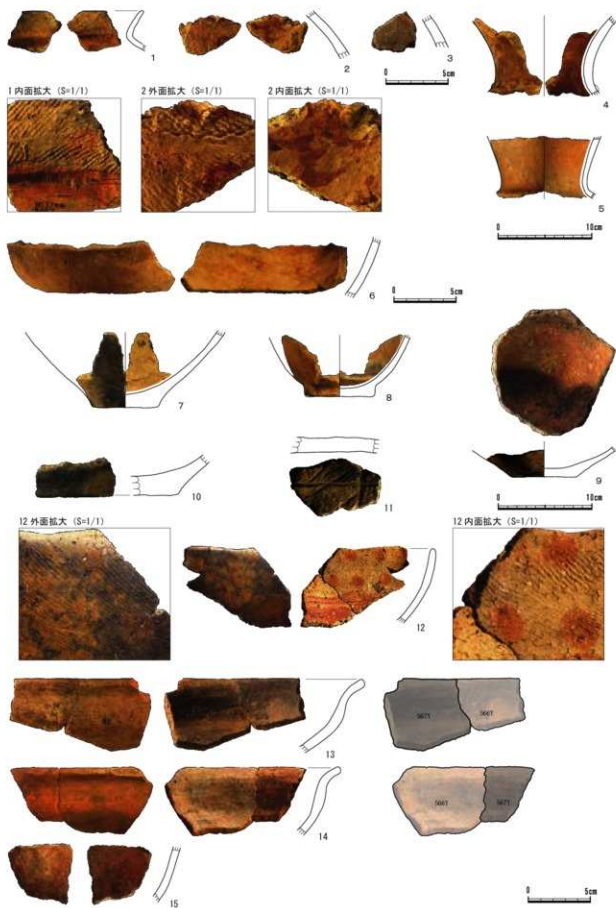
566号住居跡焼土範囲3 (南より)



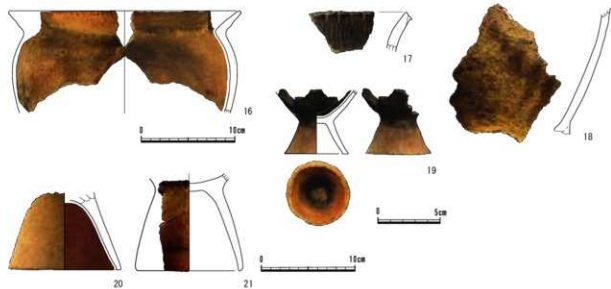
566号住居跡貯蔵穴 (P 5) セクション (南より)



566号住居跡貯蔵穴 (P 5) 遺物出土状態 (北より)



第208图 566号住居跡出土土器1 (1/4・1/3)



第209図 566号住居跡出土土器2(1/4・1/3)

それにあたる。52.2×50.7 cm、深さ 25.3 cmの掘り込みを持ち、不整形形を呈する。一部途切れるものの、壁際から P5 を囲む様に上幅 23.8 ~ 51.6 cm高さ 0.9 cm ~ 7.0 cmの弧状の凸堤が確認される。また、周堤の一部に 42.1×30.0 cmの被熱範囲が確認された。

〔覆 土〕 5層。

〔遺 物〕 覆土中から多量出土した。

〔時 期〕 弥生時代後期から古墳時代前期。

〔備考〕 P6 は入口ピットにあたる。

遺 物 (第208・209図・第50表)

1 ~ 11 が壺形土器、12 ~ 15 が高杯形土器、16 ~ 21 が甕形土器で、18 ~ 21 は台付甕形土器である。13、14 は 567 号住居跡と遺構間接合している。

### 567号住居跡

遺 構 (第210 ~ 212図)

〔位 置〕 X=19448, Y=-24172。

〔構 造〕 住居東側を欠き、690Dに切られる。

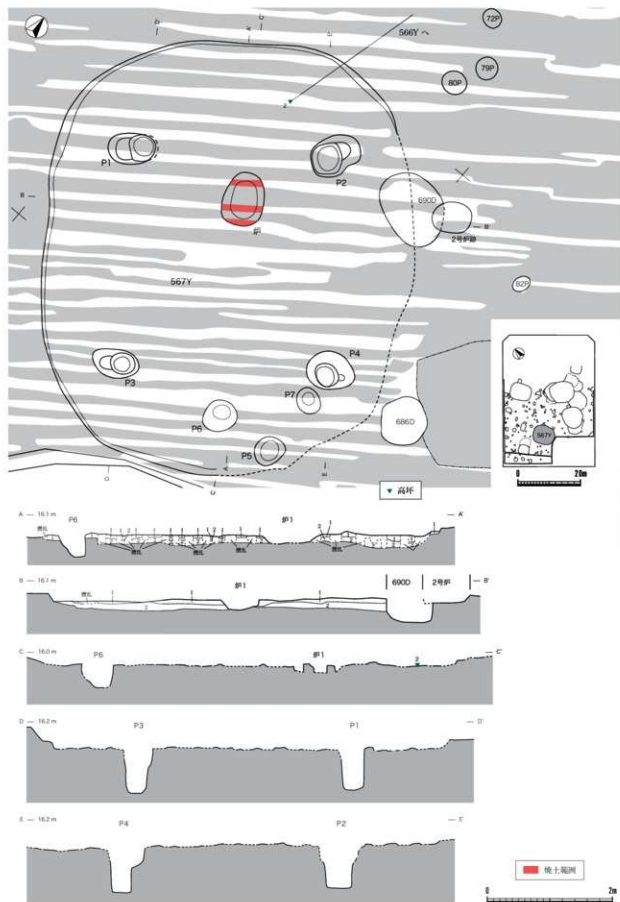
平面形：不整形円形。

規模：6.86×5.63m。主軸方位：N-40°-W。壁高：0.1 ~ 12.8 cmを測り、30°前後の角度で立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：攪乱が著しいが、住居南側のピット付近以外に広く硬化面が確認できる。炉：住居中央よりやや北寄りに位置し、62.8×42.5 cmの被熱範囲が確認できる。粘土板炉の下には、84.9×65.0 cm、深さ 13.6 cmの不整形形の掘り込みを持つ地床炉が認められるが、明確な焼土は検出できなかった。柱穴：P1 ~ 4 が主柱穴と思われる。貯蔵穴：住居南側の壁際に位置する、P5 がそれにあたる。50.0×43.2 cm、深さ 11.5 cmの掘り込みを持ち、不整形形を呈する。

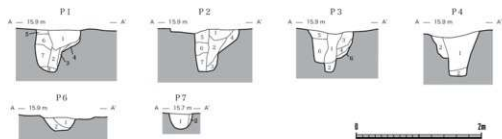
〔覆 土〕 掘り方2層。

〔遺 物〕 覆土中から少量出土した。





第210図 567号住居跡1・遺物出土状態(1/60)



- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 粘状。径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを少量、径1～3mmの焼土粒を少量、径5～20mmの暗褐色土ブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。崩り方。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～40mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり、崩り方。

## P1

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) P2の1層と同等。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) P3の1層と同等。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～30mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 4 褐色土 (10YR4/6) 径1～3mmのローム粒を多量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 床礎残面。
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) P2の5層と同等。
- 7 褐色土 (10YR4/4) P2の6層と同等。
- 8 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック。しまり・粘性あり強い。

## P2

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) P3の1層に似るが径10～50mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) P3の1層と同等。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) P3の5層と同等。しまり強く、粘性あり。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径10～40mmのロームブロックを少量含む。しまりあり。粘性強い。
- 7 褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

## P3

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～3mmのローム粒を少量、径5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり弱く、粘性あり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径10～30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 径1～3mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～3mmのローム粒を少量、径5～30mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～20mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～20mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

## P4

- 1 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～50mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/6) ロームブロックが多量混入。しまり・粘性強い。

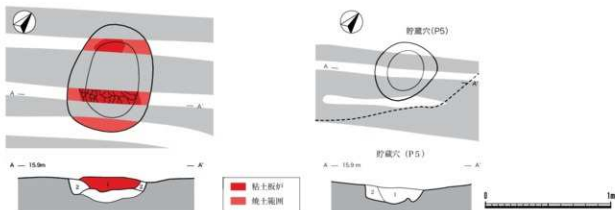
## P6 (人口ピット)

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～30mmのロームブロックを少量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを微量含む。しまり・粘性あり。

## P7

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 径1～2mmのローム粒を多量、径2～3mmの焼土粒を微量、径2～3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 径1～2mmのローム粒を多量含む。しまり・粘性あり。

第211図 567号住居跡2 (1/60)



## 伊

- 1 褐色土 (2.5YR6/8) 径1～2mmの焼土粒を多量含む。しまり・粘性強い。灰白色粘土(粘土板伊)を含む。土層は焼熟している。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量、径5～10mmのロームブロックを微量、径1～2mmの焼土粒を微量含む。しまり強く、粘性弱い。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～50mmのロームブロックを多量、径1～2mmの焼土粒を少量含む。しまり強く、粘性弱い。ロームは焼熟している。伊崩り方。

## 貯蔵穴 (P5)

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 径1～3mmのローム粒を少量、径5～10mmのロームブロックを微量、径1～3mmの炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性あり。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 径1～3mmのローム粒を多量、径5～10mmのロームブロックを多量含む。しまり強く、粘性あり。

第212図 567号住居跡炉・貯蔵穴 (1/30)



567号住居跡全景（東より）



567号住居跡全景（南より）



567号住居跡がセクション（東より）



567号住居跡が掘り方全景（東より）



567号住居跡掘り方Aセクション西側（南より）



567号住居跡掘り方Aセクション東側（南より）



567号住居跡掘り方Bセクション南側（東より）



567号住居跡掘り方Bセクション北側（東より）



567号住居跡掘り方全景（東より）



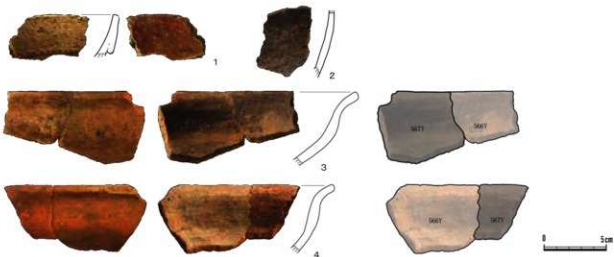
567号住居跡遺物出土状態（東より）



567号住居跡貯蔵穴（P5）セクション（西より）



567号住居跡貯蔵穴（P5）全景（東より）



第213図 567号住居跡出土土器（1/3）

〔時期〕 弥生時代後期から古墳時代前期。

〔備考〕 P6 は入り口ピットにあたる。P7 は床面下のピットである。

遺物（第213図・第51表）

1が壺形土器、2が甕形土器、3（566号住居跡13）、4（566号住居跡14）は、566号住居跡と遺構間接合している高杯形土器である。

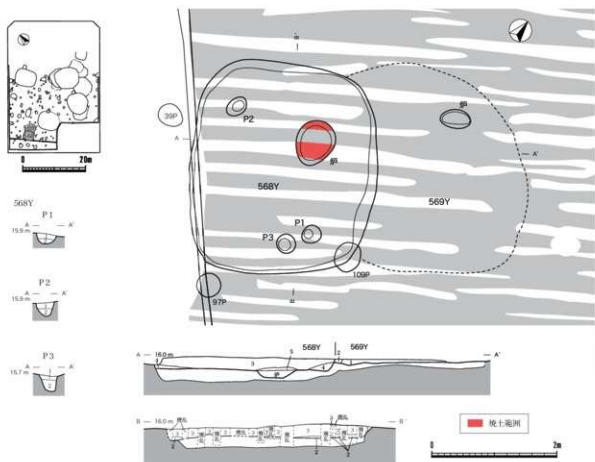
## 568号住居跡

遺構 (第214・215図)

[位置] X=19448, Y=24180。

[構造] 569Dを切る。平面形: 隅丸長方形。規模: 3.34×2.99m。主軸方位: N-40°-W。壁高: 14.7~22.7cmを測り、60°前後の角度で立ち上がる。壁溝: 検出されなかった。床面: 攪乱が著しいが、住居中央部を中心に硬化面が確認できる。炉: 住居中央よりやや北西よりに位置する。73.6×61.4cm、深さ11.6cmの不整形の掘り込みを持つ地床炉である。柱穴: 不規則な配列で主柱穴は確認できなかった。貯蔵穴: 検出されなかった。

[覆土] 5層。



- 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~2mmのローム粒を多量。径5~7mmのロームブロックを少量。径1~3mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~3mmのローム粒を多量。径5~7mmのロームブロックを少量。径2~3mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~3mmのローム粒を多量。径1~3mmの焼土粒を少量。径2~3mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。569Yの掘り方と同様。
- 黒褐色土 (10YR3/2) 径1~3mmのローム粒を多量。径5~10mmのロームブロックを微量。径1~2mmの焼土粒を微量含む。しまり・粘性あり。569Yの掘り方と同様。
- 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~2mmのローム粒を少量。径1~3mmの焼土粒を多量。径1~2mmの炭化粒を微量含む。しまりあり、粘性弱い。砂か?

568Y

P1・P2

- 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~2mmのローム粒を多量。径2~3mmの焼土粒を微量。径3~5mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。
- 黒褐色土 (10YR3/1) 径1~2mmのローム粒を多量。径10~30mmのロームブロックを多量含む。しまり・粘性あり。

P3

- 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~5mmのローム粒を多量。径10mmのロームブロックを少量。径2~3mmの炭化粒を少量含む。しまり・粘性あり。
- 黒褐色土 (10YR3/2) 径2~5mmのローム粒を多量。径2~3mmの炭化粒を微量含む。しまり・粘性あり。

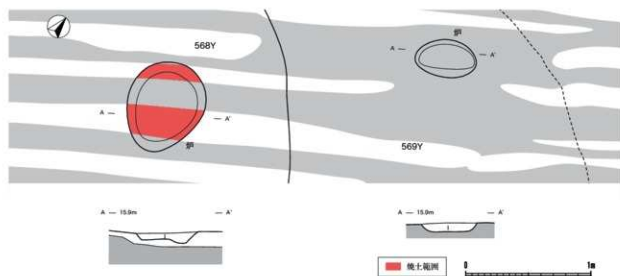
第214図 568・569号住居跡(1/60)

[遺物] 覆土中から少量出土した。

[時期] 弥生時代後期から古墳時代前期。

遺物 (第216図・第52表)

1～6が甕形土器、7～10が甕形土器で、9、10は台付甕形土器である。



568Y

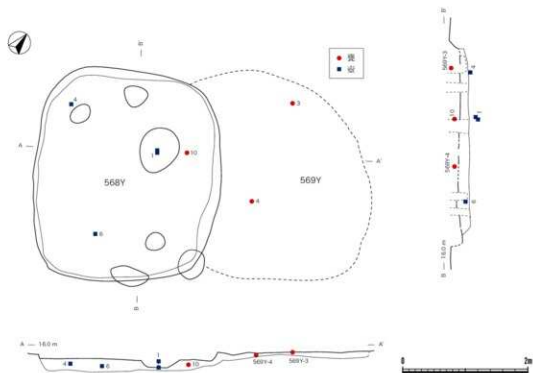
跡

1 黒褐色土 (10YR3/1) 径1～2mのローム粒を多量、径3～5mの焼土粒を多量、径20～30mの焼土ブロックを多量、径1～2mの炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱い。

569Y

跡

1 赤褐色土 (5YR4/8) 径2～3mのローム粒を多量、径2～3mの焼土粒を多量、径10mの焼土ブロックを少量、径2～3mの炭化粒を少量含む。しまり・粘性弱い。



第215図 568・569号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



568 号住居跡全景（東より）



568・569 号住居跡掘り方全景（東より）



568 号住居跡 A セクション（東より）



568 号住居跡 B セクション（北より）



568 号住居跡跡全景（東より）



568 号住居跡跡検出状況（東より）



568 号住居跡跡 A セクション（東より）



568 号住居跡跡掘り方 A セクション（東より）



568号住居跡が掘り方全景（東より）



568号住居跡掘り方Aセクション（東より）



568号住居跡掘り方Bセクション（北より）



569号住居跡Aセクション（東より）



569号住居跡掘り方Aセクション（東より）



569号住居跡がAセクション（西より）



569号住居跡が全景（西より）



569号住居跡が検出状況（南より）



## 569号住居跡

遺構 (第214・215図)

[位置] X=19446, Y=24179。

[構造] 568号住居跡に切られる。平面形：不明。破線は掘り方痕跡の範囲であるが、遺存状況が非常に悪く、本来の住居形状を示すものではない。規模：不明×3.33m。主軸方位：不明。壁溝：検出されなかった。床面：一部貼床は認められるが、攪乱のため明確な硬化面は確認できない。炉：掘り方のみしか確認できなかったが、住居中央より北寄りに位置すると思われる。48.7×29.9cm、深さ5.2cmの楕円形の掘り込みを持つ地床炉である。柱穴：柱穴は確認できなかった。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆土] 4層。

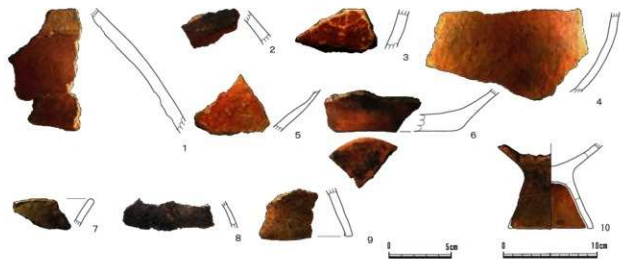
[遺物] 覆土中から少量出土した。

[時期] 弥生時代後期から古墳時代前期。

[備考] 住居、ピット共に掘り方のみで、上端、下端は確認できなかった。

遺物 (第217図・第53表)

1が壺形土器、2～5が甕形土器である。



第216図 568号住居跡出土土器 (1/4・1/3)



第217図 569号住居跡出土土器 (1/3)

跡目番号	跡種	部位	高さ	口径	接合部径	跡部径	底径	残存率	胎土	構成	色調	文様等	備考
第208図1	甕	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	「ク」字状に外縁する口縁部内面と口縁部面に黒部縄文LRが横位に施文された上、底径1cm程度の円形赤彩が施される。縄文施文部分以外は内外共に赤彩が施される	
第208図2	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	内外面とも一部に赤彩が施られ、外面は無部縄文文を2段と5字状部縄文の5が1段施文される。円形赤彩文がみられる	
第208図3	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子を含む	良好	にぶい黄褐色	外面に黒部縄文LRを縦位と横位に施文した羽状縄文が4段以上一部に赤彩がみられる	
第208図4	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	内外面とも胴部の後面部に横ナデが施され、上部部分は縦帯がなされる。後面部に円形赤彩文が6個残存し、その下に黒部縄文LRが横位に施文される	
第208図5	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい褐色	内外面とも縦帯がなされる	
第208図6	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい褐色	外面は横ナデのち横帯、内面は横ナデとされる	
第208図7	甕	胴部～底部	8.22 cm	-	-	-	(7.0) cm	底部1/6	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横ナデのち横帯、内面は横ナデとされる	
第208図8	甕	底部	(6.6) cm	-	-	-	6.8 cm	底部1/1	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横帯、内面は横ナデとされる	
第208図9	止口甕	底部	(2.8) cm	-	-	-	6.9 cm	底部1/1	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横帯、内面は横ナデで、内外面に赤彩が施される	底面付近を中心に発熱による変色が見られる
第208図10	甕	底部	(3.2) cm	-	-	-	(10.0) cm	底部1/4	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横ナデのち横帯、内面は横ナデとされる	
第208図11	甕	底部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	灰黄褐色 / にぶい黄褐色	底面に木痕あり	
第208図12	高杯	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒色 / にぶい黄褐色	内外面とも口縁部には2段の無部縄文Rの下に5字状部縄文が1段施文された上に、2段の円形赤彩文が施される。体部外面は横帯、体部内面は横ナデで赤彩される	
第208図13	高杯	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい褐色	口縁部は「ク」の字状に外縁し、体部は内周しながら大きく開く。内外面とも横ナデのち横帯が施される	567Yと遺構間接合
第208図14	高杯	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい赤褐色	口縁部は「ク」の字状に外縁し、体部は内周しながら大きく開く。内外面とも横ナデのち横帯が施される	567Yと遺構間接合
第208図15	高杯	胴部	-	-	-	-	-	-	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	内外面共にナデのち横帯、赤彩が施される	
第209図16	甕	口縁部	(10.9) cm	(23.7) cm	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	「ク」字状に外縁する口縁部の丸みを帯びた口縁部にハケ具による彫みがある。外面はハケ具による彫みと赤彩の痕跡が認められ、内面は横帯のち横ナデとされる	
第209図17	甕	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒褐色 / にぶい黄褐色	口縁部内面、内面は横帯、外面は横ナデ、口縁部にハケ具による彫みがある	
第209図18	付付甕	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横ナデ、内面は横ナデとされる	
第209図19	付付甕	胴部	(6.2) cm	-	3.2 cm	6.8 cm	-	接続部、胴部1/1	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横ナデ、内面は横ナデとされる	
第209図20	付付甕	胴部	(8.1) cm	-	-	(12.0) cm	-	胴部1/2	白色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	内外面とも横ナデとされる	外面に工具痕あり
第209図21	付付甕	胴部	(10.3) cm	-	3.1 cm	(10.8) cm	-	接続部1/1、胴部1/8	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横のち横ナデ、内面は横ナデとされる	

第50表 566号住居跡出土遺物一覽

跡目番号	跡種	部位	高さ	口径	接合部径	跡部径	底径	残存率	胎土	構成	色調	文様等	備考
第213図1	甕	口縁部	-	-	-	-	-	-	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横ナデのち横帯縄文LRと黒部を横位に施文した羽状縄文、口縁部下部にハケ具による彫みと赤彩の痕跡が認められ、内面は横帯まで赤彩が施される	
第213図2	甕	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子を含む	良好	灰褐色	外面は横ナデ、内面は横ナデとされる	
第213図3	高杯	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい褐色	口縁部は「ク」の字状に外縁し、体部は内周しながら大きく開く。内外面とも横ナデのち横帯が施される	566Yと遺構間接合
第213図4	高杯	口縁部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい赤褐色	口縁部は「ク」の字状に外縁し、体部は内周しながら大きく開く。内外面とも横ナデのち横帯が施される	566Yと遺構間接合

第51表 567号住居跡出土遺物一覽

探検番号	期種	部位	高さ	口径	接合部径	胴部径	底径	残存率	胎土	構成	色調	文様等	備考
第216図1	Ⅱ	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色 / にぶい赤褐色	扉部縦文LRが1段と黒木結束の5字区結部文のZが1段横位に施文され、胴部には縦磨きで赤彩、内面は横ナデされる	
第216図2	Ⅱ	胴部	-	-	-	-	-	-	砂礫を含む	良好	灰褐色 / 明赤褐色	扉部縦文LRが1段と黒木結束の5字区結部文のZが1段横位に施文され、胴部には縦磨きで赤彩、内面は横ナデされる	
第216図3	Ⅱ	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横磨きで赤彩、内面は横ナデされる	
第216図4	Ⅱ	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は右下がりのハケ目のち縦磨きで赤彩され、内面は横ナデされる	
第216図5	Ⅱ	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色 / 黄灰色	外面は赤彩され、ハケ目のち磨き、内面は横ナデされる	
第216図6	Ⅱ	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい赤褐色 / 暗灰黄色	外面は胴部、底面とも磨き、赤彩され、内面は横ナデされる	
第216図7	Ⅲ	口縁部	-	-	-	-	-	-	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	灰黄褐色	内外面とも横ナデされる	
第216図8	Ⅲ	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒色	外面は横ハケ目、内面は横ナデされる	
第216図9	付付	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横ナデ、内面は横ハケ目がなされる	
第216図10	Ⅲ	胴部	(9.0) m	-	4.7 m	(9.0) m	-	接合部径1.1、胴部径1.3	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横ナデ、内面は横ナデされる	

第52表 568号住居跡出土遺物一覽

探検番号	期種	部位	高さ	口径	接合部径	胴部径	底径	残存率	胎土	構成	色調	文様等	備考
第217図1	Ⅱ	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は縦磨き、内面は横ナデされ、外面に赤彩が施される	
第217図2	Ⅲ	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	外面は横ハケ目のち縦磨き、内面は横ナデされる	
第217図3	Ⅲ	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒色 / にぶい黄褐色	外面は横ハケ目、内面は横ナデされる	
第217図4	Ⅲ	胴部	-	-	-	-	-	-	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	褐色	外面は横ハケ目、内面は横ナデされる	
第217図5	Ⅲ	胴部	-	-	-	-	-	-	白色粒子、赤黄褐色粒子を含む	良好	灰褐色	内外面とも横ナデされる	

第53表 569号住居跡出土遺物一覽

### 第3節 遺構外出土遺物

#### (1) 縄文時代遺物 (第218～222図、第54～56・58・59表)

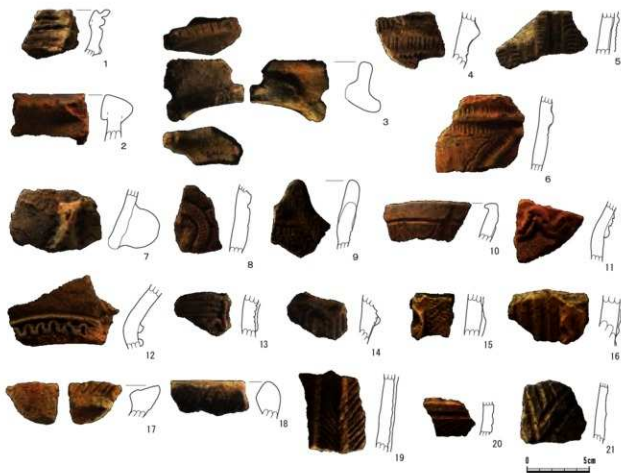
阿玉台式(1～3)、勝坂式(4～11)、曾利式(12～21)、加曾利E式(22～61)、連弧文(62～64)、称名寺式(65～66)、堀之内式(67～70)、土器片錘(71～73)、土製円盤(74～82)、ナイフ形石器(90)、石鏃(91・92)、楔形石器(93・94)、二次的剥離のある剥片(95)、不規則剥離のある剥片(96～98)、剥片(99～108)、打製石斧(109～134・170)、二次的剥離のある剥片(135)、磨製石斧(136・137)、磨石類(138～140)、蔽石(141～158)、石皿(159～161)、碎片(162)、凹石(163)、片岩製石器(164～169・171～174)を図示した。

#### (2) 弥生時代後期から古墳時代前期遺物 (第220図、第57表)

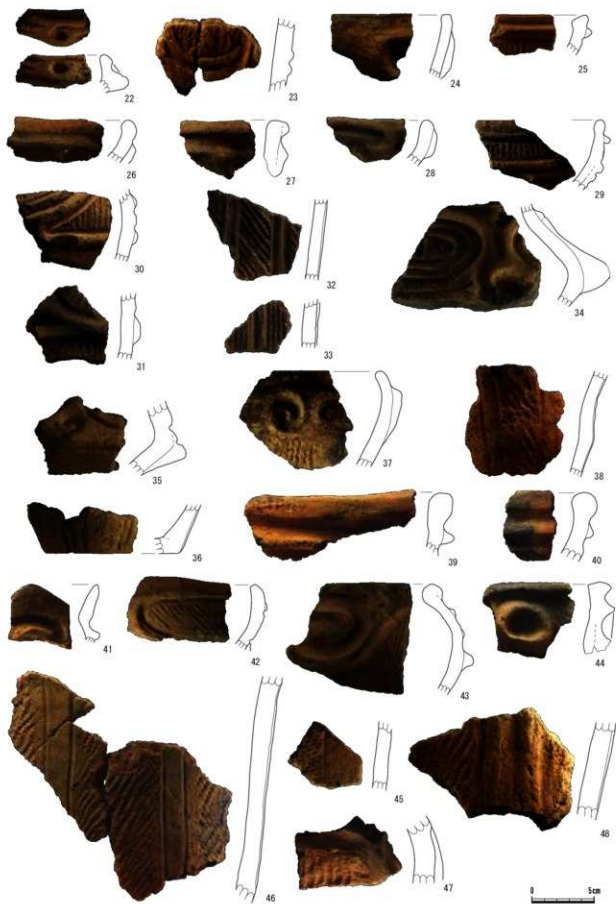
壺形土器(83～88)、鉄滓(89)を図示した。

#### (3) 時期不明遺物 (第222図、第60表)

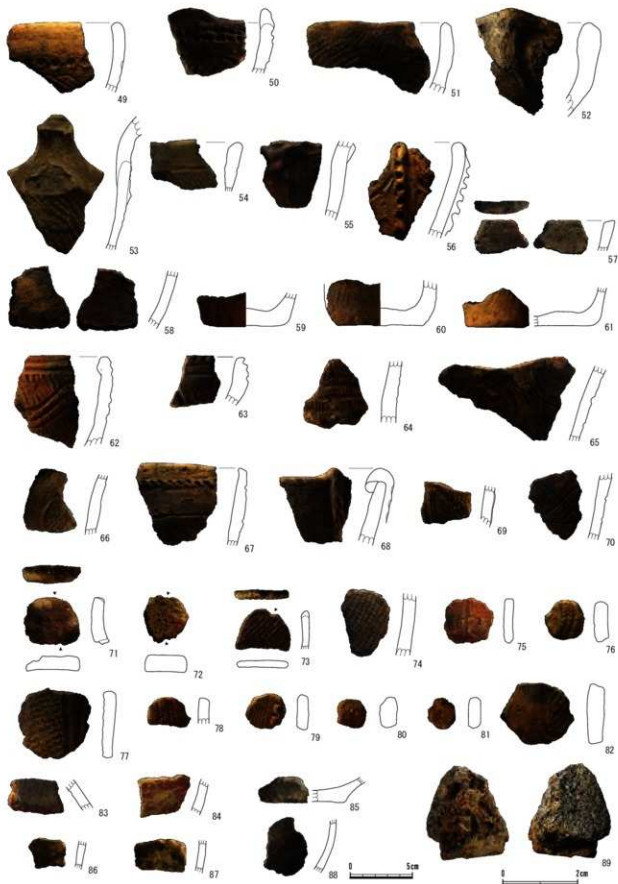
不明金属製品(175)を図示した。



第218図 遺構外出土遺物1(1/3)



第219圖 遺構外出土遺物2 (1/3)



第220図 遺構外出土遺物3 (1/1・1/3)



第221圖 遺構外出土遺物4 (1/2・1/3)



第222図 遺構外出土遺物5 (1/1・1/3)



検出番号	型式	器種	部位	口縁部・胴部・ 肩部・底面	口縁部・胴部・肩部・交配・ 器身特徴	胴部・底面・ 器身特徴	胴部・底面・ 器身特徴	外面色調	内面色調	備考
第218図1	阿玉台I	深鉢	口縁部	—	粘土帯を三角形に貼付し、 刺突文が加えられる。	—	—	にぶい黄褐色	—	—
第218図2	阿玉台II ～I	深鉢	口縁部	—	口縁部に粘土帯をかぶせる様 に貼付される。	—	—	にぶい褐色	—	—
第218図3	阿玉台II ～II	深鉢	把手か	—	粘土帯を垂直に貼付し、1.2cm 程度の孔を穿孔する。	—	—	灰黄褐色	—	—
第218図4	勝飯2	深鉢	胴部	—	—	—	—	にぶい黄褐色	灰褐色	—
第218図5	勝飯2	深鉢	胴部	—	—	—	—	黒褐色	—	—
第218図6	勝飯2	深鉢	胴部	—	—	—	—	にぶい赤褐色	—	—
第218図7	勝飯2	深鉢	把手	—	平円形の粘土が裏面合わせる 形で貼付される。突起の粗化 に引文が施される。	—	—	灰黄褐色	—	—
第218図8	勝飯2～ 3	深鉢	胴部	—	—	—	—	にぶい褐色	黒褐色	—
第218図9	勝飯3	深鉢	口縁部	華彫斜縄文LR	幅広角引文で区画が作られる。 区画内は縄文が充填され、反 状の沈線が引かれる。	—	—	黒褐色	—	—
第218図10	勝飯3	深鉢	口縁部	—	上部に無文帯を設ける。沈線 で「U」字状の文様を描き、 沈線の間に粗かな充塞される。	—	—	褐色	—	—
第218図11	勝飯か?	深鉢	胴部	—	—	器身文L	隆帯を縦状に貼付し、隆帯上 に三角引文が加えられる。	赤褐色	—	—
第218図12	曾利II	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯を巡らせ、それに沿って 反状の隆帯が貼付される。	にぶい黄褐色	—	—
第218図13	曾利II	深鉢	胴部	—	華彫斜縄文	—	平行沈線を引き、その上に反 状の隆帯が貼付される。また、 縦帯には粗線が貼付される。	にぶい黄褐色	—	—
第218図14	曾利II	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線を巻き、その上に反 状の隆帯が貼付される。	灰黄褐色	—	—
第218図15	曾利II	深鉢	胴部	—	—	華彫斜縄文 RL&L	反状の隆帯を縦帯に貼付する。	にぶい黄褐色	灰褐色	—
第218図16	曾利II	深鉢	胴部	—	—	—	沈線が重なり、それと平行に 横行する隆帯が貼付される。	にぶい褐色	にぶい黄褐色	—
第218図17	曾利II	深鉢	口縁部	—	口縁部の内側に斜行の沈線が 引かれる。外側には斜行文、 もしくは重畳文が施されよう か。	—	—	褐色	—	—
第218図18	曾利III	深鉢	口縁部	—	斜行する沈線が引かれる。	—	—	灰黄褐色	—	—
第218図19	曾利III	深鉢	胴部	—	—	—	1本の隆帯を重下させ、隆帯 に沿って沈線で「V」字状 の文様を縦帯に連続して描か れる。	にぶい褐色	—	—
第218図20	曾利III～ IV	深鉢	胴部	—	—	—	隆帯に沿って斜位の沈線が施 される。	にぶい赤褐色	—	—
第218図21	曾利IV	深鉢	胴部	—	—	—	沈線で「V」字状の文様を縦 帯に連続して施される。	灰黄褐色	—	—
第218図22	加曾利E1	深鉢	口縁部	—	口縁部の上部に沈線で尚書文 を施し、沈線が巡る。	—	—	にぶい褐色	—	—
第218図23	加曾利E1 ～2	深鉢	胴部	—	—	器身文L	2本一対の隆帯を重下させ、 また、反状に貼付する。	褐色	—	—
第218図24	加曾利E2	深鉢	口縁部	—	隆帯によって区画が作られる。	—	—	にぶい黄褐色	—	—
第218図25	加曾利E2	深鉢	口縁部	—	1本の隆帯を横帯に施る。	—	—	にぶい褐色	—	—
第219図26	加曾利E2	深鉢	口縁部	—	隆帯によって区画が作られ る。区画の端に尚書文が貼付 されようか。	—	—	にぶい黄褐色	—	—
第219図27	加曾利E2	深鉢	口縁部	—	隆帯によって区画が作られる。	—	—	にぶい褐色	—	—
第219図28	加曾利E2	深鉢	口縁部	華彫斜縄文L	隆帯によって区画と尚書文が 施される。	—	—	灰黄褐色	—	—
第219図29	加曾利E2	深鉢	口縁部	器身文L	隆帯によって区画を作り、区 画内は器身文が充填される。	—	—	灰黄褐色	—	—
第219図30	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	器身文L	隆帯によって区画を作り、区 画内に2本一対の隆帯が弧状 に貼付される。	にぶい黄褐色	—	—
第219図31	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	華彫斜縄文 R&L	隆帯によって楕円形の区画が 作られようか。	灰黄褐色	—	—
第219図32	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	華彫斜縄文 LR	2本一対の沈線を重下する。	灰黄褐色	—	—
第219図33	加曾利E2	深鉢	胴部	—	—	器身文L	2本一対の隆帯を重下させる。	黒褐色	—	—
第219図34	加曾利E2	浅鉢	胴部	—	—	—	隆帯によって楕円形の区画と 尚書文が施される。区画内は 2本の隆帯を巡らせ、中央に は尚書文が加えられる。	にぶい黄褐色	—	—
第219図35	加曾利E2	浅鉢	胴部	—	—	—	隆帯を貼付し、区画と尚書文 が施される。	にぶい黄褐色	—	—

第54表 遺構外出土縄文土器一覧(1)

検出番号	型式	器種	部位	口縁部・底部・ 器底地文	口縁部・胴部・ 器底・文・交り・ 把手特徴	胴部・底部・ 器底地文	胴部・底部・ 器底特徴	外面色調	内面色調	備考
第219図36	加曾利E2	深鉢	底部	—	—	単節斜縄文LR	2条一対の沈線を下下させる。	にぶい・黄褐色	—	
第219図37	加曾利E2 -3	深鉢	口縁部	無文LR	隆帯により楕円形の区画を作り、器底文が充填される。また、区画の端に隆帯で渦巻文が施される。	無文LR	2本の隆帯を下下させ、隆帯の間の器底文を磨り出す。	にぶい・黄褐色	—	
第219図38	加曾利E2 -3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	2条一対の沈線を下下し、沈線の間の器底文を磨り出す。	にぶい・褐色	—	
第219図39	加曾利E3	深鉢	口縁部	—	隆帯に隆帯が施る。	—	—	にぶい・褐色	—	
第219図40	加曾利E3	深鉢	口縁部	単節斜縄文LRか	隆帯を巡らせ、その下部には縄文が充填される。	—	—	にぶい・赤褐色	—	
第219図41	加曾利E3	深鉢	口縁部	—	上部に無文帯を設け、その下部に隆帯で渦巻文が加えられる。	—	—	にぶい・黄褐色	—	
第219図42	加曾利E3	深鉢	口縁部	直前段反照LR	隆帯によって楕円形の区画が作られる。	—	—	にぶい・黄褐色	—	
第219図43	加曾利E3	深鉢	口縁部	単節斜縄文LR	隆帯によって楕円形の区画が作られる。	—	—	にぶい・黄褐色	—	
第219図44	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	—	横色の隆帯を施し、下部に隆帯される帯付される。	にぶい・黄褐色	—	
第219図45	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	2条一対の沈線を下下させ、その間の縄文を磨り出す。	にぶい・黄褐色	—	
第219図46	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	2条一対の沈線を下下させ、沈線の間の縄文を磨り出す。	にぶい・黄褐色	にぶい・赤褐色	
第219図47	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	隆帯によって楕円形の区画を作り、縄文が充填される。	にぶい・赤褐色	—	
第219図48	加曾利E3	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	2本の隆帯を下下させる。	にぶい・黄褐色	—	
第219図49	加曾利E4	深鉢	口縁部	単節斜縄文LR	口縁部に無文帯を設け、その下部に内形刺突文が施る。また、沈線による文帯の内面に縄文が充填される。	—	—	にぶい・黄褐色	—	
第219図50	加曾利E4	深鉢	口縁部	単節斜縄文LR	口縁部上部に2列の内形刺突文を施し、その下部に沈線で楕円形の区画が施される。	—	—	黒褐色	—	
第219図51	加曾利E4	深鉢	口縁部	直前段合照LR・前々段反照LR	1条の沈線で楕円形の区画が施される。	—	—	灰黄褐色	—	
第220図52	加曾利E4	深鉢	口縁部	単節斜縄文LR	隆帯によって区画が作られ、縄文が充填される。	—	—	灰黄褐色	—	
第220図53	加曾利E4	深鉢	口縁部	単節斜縄文LR	横帯の把手が彫付されようか。	—	—	にぶい・黄褐色	—	
第220図54	加曾利E4	深鉢	口縁部	単節斜縄文LR	横い・斜文帯を設け、縄文との間に沈線が施る。	—	—	にぶい・黄褐色	—	
第220図55	加曾利E4	深鉢	口縁部	横帯条線	横帯に施る隆帯を2本合わせ下下し、縦帯に彫付されようか。	—	—	黒褐色	—	
第220図56	加曾利E4か	深鉢	口縁部	—	口縁部から隆帯を下下させ、内形刺突文が加えられる。口縁部付近に1条の沈線で中内形と思われる文帯が施される。	—	—	にぶい・褐色	—	
第220図57	加曾利E5か	深鉢	口縁部	—	赤彩が施される。	—	—	灰黄褐色	—	
第220図58	加曾利E5か	深鉢	胴部	—	赤彩が施される。	—	赤彩が施される。	にぶい・黄褐色	黒褐色	
第220図59	加曾利E5か	深鉢	底部	—	—	—	—	褐色	—	
第220図60	加曾利E5か	深鉢	底部	—	—	—	—	にぶい・褐色	—	
第220図61	加曾利E5か	深鉢	底部	—	—	—	—	にぶい・褐色	—	
第220図62	遊弧文2	深鉢	口縁部	無節斜縄文LR	口縁部付近に沈線を巡らせ、3条一対の沈線で遊弧文が施される。	—	—	にぶい・赤褐色	—	
第220図63	遊弧文2	深鉢	口縁部	単節斜縄文LR	口縁部付近に1列の内形刺突文を施し、沈線を巡らせる。その下部に沈線で遊弧文が施される。	—	—	黒褐色	—	
第220図64	遊弧文2	深鉢	胴部	—	—	横帯条線	沈線で遊弧文を施し、その下部に沈線が施る。	暗褐色	—	
第220図65	称名寺1	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	沈線によって文帯を施し、部分的に縄文が充填される。	黒褐色	にぶい・褐色	
第220図66	称名寺1	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	沈線によって楕円形の区画を作り、縄文が充填される。	にぶい・黄褐色	灰褐色	
第220図67	堀之内1	深鉢	口縁部	—	口縁部上部に内形刺突文を巡らせ、下部には無文帯を設ける。無文帯の下部に沈線が加えられる。	—	—	灰黄褐色	—	
第220図68	堀之内1	深鉢	口縁部	—	口縁部は広い無文帯で、隆帯が施下される。隆帯には斜帯が施される。	—	—	灰黄褐色	—	
第220図69	堀之内1 少	深鉢	胴部	—	—	—	平行沈線を縦帯に引かれる。	にぶい・黄褐色	—	
第220図70	堀之内2	深鉢	胴部	—	—	単節斜縄文LR	沈線で三角形の文帯を施し、沈線によって画された内部に縄文が充填される。	黒褐色	—	

第55表 遺構外出土縄文土器一覧(2)

調査番号	品種	形状	長さ	幅	高さ	外面色調	内面色調	備考
第220係71	土製片蓋	不整形円形	4.7 cm	3.7 cm	19.2g	灰黄褐色	—	
第220係72	土製片蓋	不整形円形	3.6 cm	3.5 cm	18.4g	にぶい黄褐色	—	
第220係73	土製片蓋	楕円形	(3.2) cm	4.1 cm	10.4g	灰黄褐色	—	
第220係74	土製片蓋	円形	3.2 cm	3.2 cm	12.0g	にぶい黄褐色	—	
第220係75	土製片蓋	円形	5.7 cm	5.5 cm	39.7g	にぶい黄褐色	—	
第220係76	土製片蓋	—	3.4 cm	(2.3) cm	7.9g	にぶい褐色	—	
第220係77	土製片蓋	楕円形	3.2 cm	2.9 cm	9.9g	にぶい褐色	—	
第220係78	土製片蓋	円形	2.5 cm	2.2 cm	7.5g	にぶい黄褐色	—	
第220係79	土製片蓋	不整形円形	2.5 cm	2.2 cm	5.4g	灰黄褐色	—	
第220係80	土製片蓋	不整形円形	5.3 cm	4.9 cm	40.9g	にぶい黄褐色	—	
第220係81	土製片蓋	不整形円形	5.3 cm	2.9 cm	26.9g	灰黄褐色	褐色色	
第220係82	土製片蓋	不整形円形	3.8 cm	3.5 cm	12.1g	にぶい赤褐色	灰黄褐色	

第56表 遺構外出土土製品一覧

調査番号	品種	部位	胎土	形状	色調	文様等	備考
第220係83	蓋	胴部	白色粘土、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	黒褐色 / にぶい赤褐色	外面は縦書き、内面は横書き、単行縦文1段の下に横書きの5文字状結文の2が施され、横文施文部分の下に赤点が施される	赤点
第220係84	蓋	胴部	赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	にぶい黄褐色	内外面とも横書きされ、外面に赤点が施される	赤点
第220係85	蓋	底面	白色粘土、赤黄褐色粒子、砂礫を含む	良好	灰褐色 / にぶい黄褐色	底面に木葉模あり	
第220係86	蓋	胴部	赤黄褐色粒子を含む	良好	褐色 / 明黄褐色	内外面とも横書きされる	
第220係87	蓋	胴部	赤黄褐色粒子を含む	良好	褐色 / 明黄褐色	外面は横書き、内面は横書きされる	
第220係88	蓋	胴部	白色粘土、赤黄褐色粒子を含む	良好	黒褐色 / 灰黄褐色	内外面とも横書きされる	
第220係89	底面		長さ2.1cm、幅1.2cm、高さ7.2gで、僅かにガラス状の付着物がみられる				

第57表 遺構外出土弥生時代後期から古墳時代前期遺物一覧

調査番号	品種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第221係90	ナイフ形石箭	黒曜石	21.8	13.8	4.7	1.3	削片石器系	旧石器：遺人
第221係91	石鏃	チャート	20.0	16.4	4.4	1.1	削片石器系	有葉凹基
第221係92	石鏃	黒曜石	13.8	10.2	2.0	0.2	削片石器系	翼部・再生
第221係93	楔形石箭	黒曜石	11.7	8.2	5.2	0.4	削片石器系	
第221係94	楔形石箭	黒曜石	15.7	14.4	2.7	0.5	削片石器系	
第221係95	二次的割端のある削片	チャート	25.0	29.5	9.5	7.4	削片石器系	
第221係96	不規則割端のある削片	黒曜石	30.0	14.6	5.1	1.5	削片石器系	上下に楔形石器の欠割端
第221係97	不規則割端のある削片	黒曜石	18.3	17.2	3.7	0.8	削片石器系	
第221係98	不規則割端のある削片	黒曜石	18.9	11.7	2.6	0.4	削片石器系	
第221係99	削片	チャート	40.3	19.1	9.3	5.1	削片石器系	
第221係100	削片	黒曜石	17.8	13.9	4.8	0.9	削片石器系	
第221係101	削片	黒曜石	17.6	20.5	5.2	1.3	削片石器系	
第221係102	削片	黒曜石	13.1	8.2	6.4	0.7	削片石器系	
第221係103	削片	黒曜石	13.8	19.1	4.4	1.1	削片石器系	
第221係104	削片	黒曜石	8.2	10.3	3.9	0.3	削片石器系	
第221係105	削片	黒曜石	13.2	16.0	3.0	0.7	削片石器系	
第221係106	削片	黒曜石	16.1	14.3	4.4	0.7	削片石器系	
第221係107	削片	チャート	32.1	11.3	7.6	2.5	削片石器系	
第221係108	砕片	チャート	19.7	21.3	12.0	7.6	削片石器系	
第221係109	打製石片	ホルンフェルス	99.0	47.0	16.4	113.3	打製石片系	幅広銀行
第221係110	打製石片	砂岩	101.5	37.8	23.5	127.7	打製石片系	鋸形
第221係111	打製石片	砂質片岩	102.0	38.0	18.6	87.1	打製石片系	
第221係112	打製石片	ホルンフェルス	93.3	38.1	13.3	53.7	打製石片系	鋸形
第221係113	打製石片	砂岩	77.8	58.4	26.4	109.8	打製石片系	打製石片系
第221係114	打製石片	ホルンフェルス	78.4	47.8	22.7	113.0	打製石片系	鋸形
第221係115	打製石片	安山岩	79.1	43.8	17.8	61.9	打製石片系	鋸形
第221係116	打製石片	砂岩	118.6	55.6	13.9	121.1	打製石片系	鋸形
第221係117	打製石片	砂岩	69.7	44.5	14.9	56.4	打製石片系	鋸形
第221係118	打製石片	砂岩	66.9	49.4	24.2	85.0	打製石片系	形態不明
第221係119	打製石片	ホルンフェルス	75.8	55.4	23.9	120.2	打製石片系	
第221係120	打製石片	砂岩	79.9	69.4	17.7	103.0	打製石片系	鋸形
第221係121	打製石片	砂岩	64.4	56.6	12.3	51.8	打製石片系	鋸形
第221係122	打製石片	砂岩	48.1	53.7	16.5	51.1	打製石片系	鋸形
第221係123	打製石片	砂岩	49.8	46.8	10.4	31.2	打製石片系	
第221係124	打製石片	砂岩	64.0	57.5	24.3	79.4	打製石片系	鋸片
第221係125	打製石片	砂岩	50.2	31.7	13.3	22.5	打製石片系	形態不明
第221係126	打製石片	ホルンフェルス	49.0	31.8	16.6	30.4	打製石片系	
第221係127	打製石片	砂岩	54.0	35.6	14.3	36.6	打製石片系	
第221係128	打製石片	砂岩	28.2	26.0	11.3	6.7	打製石片系	形態不明 / 鋸片
第221係129	打製石片	片岩砂岩	49.3	37.5	19.1	47.3	打製石片系	鋸片
第221係130	打製石片	砂岩	33.2	46.7	14.1	25.1	打製石片系	鋸片
第221係131	打製石片	砂岩	58.7	51.6	19.3	46.9	打製石片系	

第58表 遺構外出土石器一覧(1)

調査番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	大分類	備考
第221 図 132	打製石片	砂岩	50.6	27.2	17.6	26.6	打製石片系	形態不明 / 製片・被熱
第221 図 133	打製石片	砂岩	32.2	32.4	17.6	19.6	打製石片系	形態不明 / 製片
第221 図 134	打製石片	砂岩	31.8	50.0	10.6	12.3	打製石片系	形態不明
第221 図 135	二次的剥離のある製片	灰岩	56.2	64.4	14.2	61.1	製片石片系	
第221 図 136	磨製石片	凝灰岩	54.2	24.2	20.3	47.1	磨製石片系	側面磨打
第221 図 137	磨製石片	凝灰岩	51.0	32.5	23.8	45.0	磨製石片系	端面磨打 (側)・側面磨打 (側)
第221 図 138	磨石	砂岩	37.6	77.5	36.3	182.9	磨石系	側面磨打・面取り・被熱
第221 図 139	磨石	閃緑岩	48.7	60.9	37.8	162.9	磨石系	石面不可視性あり
第221 図 140	磨石類	閃緑岩	47.7	23.3	28.4	32.3	磨石系	
第221 図 141	磨石	砂岩	129.7	38.5	31.6	217.9	磨石系	側面磨打・端面磨打
第221 図 142	磨石	砂岩	128.6	45.4	29.8	236.6	磨石系	側面磨打・端面磨打
第221 図 143	磨石	砂岩	88.3	51.3	31.3	154.2	磨石系	側面磨打
第221 図 144	磨石	砂岩	83.8	49.8	37.7	220.7	磨石系	側面磨打・被熱打 (端面側)
第221 図 145	磨石	ホルンフェルス	99.3	85.2	43.7	495.8	磨石系	側面磨打
第221 図 146	磨石	チャート	114.4	58.2	46.9	349.9	磨石系	被熱打 (端面側)・端面磨打
第221 図 147	磨石	チャート	115.4	49.1	25.5	151.0	磨石系	側面磨打
第221 図 148	磨石	火山岩	64.2	48.3	31.4	153.8	磨石系	側面磨打 (右)・特殊磨石状・端面磨打
第221 図 149	磨石	ホルンフェルス	92.7	58.3	30.4	201.7	磨石系	端面磨打・側面磨打
第221 図 150	磨石	火山岩	70.1	44.0	23.8	114.9	磨石系	端面磨打・側面磨打・平面磨打 (スタンブ状)
第221 図 151	磨石	砂岩	92.7	45.0	30.9	162.8	磨石系	端面磨打 / 側面磨打
第222 図 152	磨石	火山岩	82.6	52.8	31.1	154.1	磨石系	特殊磨石
第222 図 153	磨石	砂岩	139.4	51.2	32.4	319.3	磨石系	側面磨打
第222 図 154	磨石	砂岩	89.9	49.7	23.3	187.9	磨石系	側面磨打・被熱打 (端面側)
第222 図 155	磨石	砂岩	89.5	47.9	36.3	202.5	磨石系	側面磨打 / 断面三角形 / 特殊磨石状・端面磨打 (スタンブ状)
第222 図 156	磨石	砂岩	79.5	46.6	30.7	178.0	磨石系	側面磨打・端面磨打 (スタンブ状)
第222 図 157	磨石	ホルンフェルス	73.7	51.8	27.6	116.5	磨石系	側面磨打
第222 図 158	磨石	砂岩	62.2	49.0	36.6	125.3	磨石系	側面磨打 (部分)
第222 図 159	石皿	閃緑岩	243.0	249.5	62.6	5994.4	磨石系	扁平 (平皿)・小さな被熱打
第222 図 160	石皿	砂岩 (被熱)	131.2	112.9	67.1	772.9	磨石系	凹石 (平皿)・凹磨
第222 図 161	石皿	閃緑岩	73.1	84.8	67.1	466.9	磨石系	形態不明
第222 図 162	燧石	燧岩	60.2	88.1	16.6	67.3	磨石系	石面磨打
第222 図 163	凹石	緑泥片岩	121.6	57.6	21.8	227.1	磨石系	片岩製石類。表: 被熱的丸×2。裏: 被熱的丸×1。側面磨打・端面磨打
第222 図 164	片岩製石類	緑泥片岩	121.4	51.5	16.4	135.1	片岩製石類系	
第222 図 165	片岩製石類	緑泥片岩	83.6	57.1	29.6	147.6	片岩製石類系	石塊状
第222 図 166	片岩製石類	緑泥片岩	58.3	27.0	11.0	17.6	片岩製石類系	
第222 図 167	片岩製石類	砂質片岩	53.1	34.1	11.2	27.3	片岩製石類系	
第222 図 168	片岩製石類	緑泥片岩	72.9	63.6	16.2	83.0	片岩製石類系	
第222 図 169	片岩製石類	緑泥片岩	59.2	50.8	9.0	39.6	片岩製石類系	
第222 図 170	打製石片	凝灰岩	60.4	46.0	12.7	39.9	打製石片系	短冊状
第221 図 171	片岩製石類	緑泥片岩	65.7	45.3	13.1	41.2	片岩製石類系	
第221 図 172	片岩製石類	結晶片岩	39.9	39.5	15.6	27.9	片岩製石類系	
第222 図 173	片岩製石類	緑泥片岩	60.7	36.2	8.2	18.0	片岩製石類系	
第222 図 174	片岩製石類	緑泥片岩	85.5	41.8	14.6	64.4	片岩製石類系	

第59表 遺構外出土石器一覽(2)

調査番号	器種	長さ	口径	厚さ	重量	備考
第222 図 175	不明金属製品	2.5 cm	2.1 cm	1.7 cm	3.8g	表面は約0.3 cm程度が削れている。下から0.6 cmの部分に段が設けられ、斜目状の文様が、その文様の上面には縦面に斜行する文様がみえる。また、内側は凹形形状とし、上部へくぼんでいて内凹は深くなるが、底径2 mm程度の幅を葆ちながら先へ狭くと思われる。569Y 内の覆土から出土した。非破壊的蛍光X線分析の結果、検出された元素は Fe (鉄)、Cu (銅)、Sn (錫)、Sb (アンチモン)、Pb (鉛) の5元素である。組成的には鉛が約60%、アンチモンが約35%、錫が約3%、銅は約0.14%であった。Pb-Sb-Sn系の鉛合金と思われる。

第60表 遺構外出土不明金属製品一覽

## 第4章 調査のまとめ

### 第1節 縄文時代中期の住居跡について

本調査では、縄文時代中期の住居跡が10軒検出された。ここでは、それら住居跡の層位的関係を整理するとともに、出土遺物について検討を加え、既存の土器型式編年（黒尾1995、黒尾・小林・中山2004）における時間的位置付けを行う。検出された住居跡の層位的な関係を第223図に、時期ごとの住居跡と遺物を第224図に示した。

#### 1期：阿玉台I b～II式（181J）

181Jは出土遺物が乏しいが、阿玉台I b～II式期の土器片が出土していること、住居の掘り込みが浅く、中央に地床炉を思われる被熱痕跡が確認されていることを考慮し、当該期に比定した。

#### 2期：勝坂2式（180J）

1は炉体土器で、単列もしくは複列の各押文列が沿う断面カマボコ状の隆帯によって、口縁部重三角文や胴部抽象文が描かれている。主文様間の空白部が目立つことや、変形した口縁部重三角文、隆帯脇に沿う角押文の押し手法など、阿玉台式的な要素を看取できる。

#### 3期：加曾利E 1b式期（90J、178J、179J）

90Jは、頸部に無文帯を持ち、口縁部のS字状文の端部が中空の把手を形成する第11図4をはじめ、第11図3、そして既調査分からの出土資料（埼玉県志木市遺跡調査会2009）から当該期とした。

178Jは、床面に近い覆土から、2や3が出土している。2は、頸部に無文帯を持ち、口縁部には燃糸L地文、幅広の隆帯に沈線を施文する描出方法、変形したS字状文、やや立体的な把手を持つ。3は、燃糸L地文に二本一對の直状隆帯や一本の波状隆帯が垂下する。

179Jからは、同心円状文を持つ土器（第97図5）、中空の把手を持つ土器（第97図7・9）、胴部の垂下隆帯が連結するH字状文を持つ土器（第97図10・11）が出土している。

#### 4期：加曾利E 1c期（174J旧）

174Jは5段階の建替が想定されるが、土器型式編年に照らした場合、炉2に埋設された炉体土器（4）や埋裏1（5）、P27出土土器（6）などの床下から出土した土器と、次期で述べる埋裏2や覆土出土土器との時期差を見いだせることから、174J（旧）と（新）を設定した。4は曾利系の土器で、口縁部に無文帯を持ち、胴部には燃糸Lを地文に、頸部の波状隆帯から二本一對の直状隆帯と一本の波状隆帯が交互に垂下する。隆帯は背が低く抑えが甘い。5・6は、加曾利E式土器で、頸部に無文帯を持ち、胴部には直状隆帯と波状隆帯が交互に垂下する。6の口縁部には、隆帯による楕円区画文や突起化した上向きの渦巻文が描かれる。

#### 5期：加曾利E 2c式期（174J新）

174Jの埋裏2（7）や覆土出土の8・9・10などを根拠に当該期を設定した。8は、口縁部に渦巻文を持ち、頸部無文帯は消失、胴部は縄文地文に三本一對の直状沈線や一本の波状沈線が垂下する。その他、7・9・10は連弧文系の土器で、時期の特定が難しいが、波状文化した連弧文（7・9）、間隙が狭い垂下文（10）が当該期の特徴であると判断した。

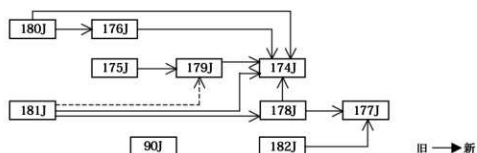
#### 6期：加曾利E 2～3式期（177J）

177Jの炉体土器（11）の類例は菅見に触れず、時期設定は難しいが、波状口縁の波頂部に施された

隆帯による渦巻文や、胴部に施された断面三角形の逆U字状の隆帯、そして主文様間を充填する集合沈線などの特徴から、当該期とした。おそらく曾利系の影響を強く受けた土器であろう。

### その他の時期 (175J、176J、182J)

出土遺物が僅少で時期設定が困難であるが、時期が判明している他住居との層位的関係から、175Jを3期以前、176Jを2～4期、182Jを6期以前と考えることができる。



第223図 住居跡の層位的関係

時期	住居跡	土器
1期 (阿玉台 I b ~ II 式期)	181J	
2期 (勝坂 2 式期)	180J	
3期 (加曾利 E 1 b 式期)	90J 178J 179J	 
4期 (加曾利 E 1 c 式期)	174J (旧)	  
5期 (加曾利 E 2 c 式期)	174J (新)	   
6期 (加曾利 E 2 ~ 3 式期)	177J	

第224図 時期別住居跡・土器一覧

## 第2節 174号住居跡の遺物出土状態について

今回調査した174①地点は耕作による攪乱が著しく、遺構の遺存状態は良いものではなかった。しかし、174号住居跡は壁高が60cm前後と他の住居より床面が低かったため遺存状態が良好であった。また、調査方法でも親指の第一関節程度の土器片も出土位置を記録したことにより、遺物数は6,202点を数え、一括で取り上げた遺物を含めるとコンテナで30箱分となった。174号住居跡の主な層位は1～5層で、4層はローム粒を多量に含む層である。出土遺物はこの4層と2層の境界部分、あるいは2層から多く出土している。

174号住居跡から出土した土器は多くが加曾利E式の土器であり、勝坂式～加曾利E2式までが中心となる。特に加曾利E2式が大部分を占め、その他に阿玉台式、勝坂式、曾利式、連弧文が含まれる。阿玉台式は出土量が少ないが、主に4層に確認できる(第21図)。

勝坂式は遺構全体に広く分布している(第21図)。1層には勝坂1・2式が見られ、2・3層では勝坂2～3式が主体となる。4層でも同様に勝坂2～3式が主体となるが、上部に阿玉台1・2式も見られる。床直には勝坂3式が分布する。

曾利式は遺構全体に広く分布している(第22図)。1層には曾利Ⅱ～Ⅲ式が少量確認できる。2層は曾利Ⅱ・Ⅱ～Ⅲ式が集中している。3層は曾利Ⅱ～Ⅲ式が僅かに確認できる。4層はほぼ曾利Ⅱ～Ⅲ式が占め、床直にも曾利Ⅱ～Ⅲ式が分布する。

加曾利E式は遺構全体に大量に分布している(第23図)。1層は加曾利E2式が多く出土しているが、加曾利E1式もやや多く出土している。2層には1層と同様に加曾利E1式も出土しているが、主体となるのは加曾利E2式である。2層と4層の境界部分にやや集中しているようである。また、加曾利E2～3式も見られる。3・4層でも加曾利E2式が大部分を占め、4・5層の境界部分には治う様に分布している。床直には加曾利E2が多く分布し、貼床下の閉塞されたピットの一部分からは加曾利E1～2・2式の土器片が出土している。

連弧文は遺構全体に広く分布している(第24図)。1層からは連弧文2式が僅かに確認できる。出土した連弧文の多くは2層からの出土である。連弧文の2・2～3式が主体となるが、連弧文1式もみられる。4層は連弧文2式が僅かに出土している。また、連弧文に関しては床直からの明確な検出は確認できなかった。

174号住居跡からは曾利Ⅱ式の炉体土器、加曾利E1・2式、連弧文2～3式の埋葬が出土している。このことから、この住居は主に加曾利E1～2式を中心とした住居である可能性が高いと考えられる。土器は4層と2層の境界部分から上層にかけて集中して出土しているが、加曾利E2式に関しては住居の1層から4層にかけて多量に分布し、更には他型式の出土が少ない4層中及び床直からも比較的多く出土している。1・2層からも加曾利E1・2～3式と共に出土している。また、加曾利E式に他の型式の土器がそれぞれ伴うが、これらの土器も既存の編年に従って出土しているとは限らない。

床直からは主に勝坂3式と加曾利E2式、曾利Ⅱ～Ⅲ式が出土している。4層で勝坂2～3式、曾利Ⅱ～Ⅲ式、加曾利E2式、連弧文2式、3層では勝坂2・2～3式、曾利2～3式、加曾利E2式、連弧文1・1～2式、2層では勝坂2～3式、曾利Ⅱ式、加曾利E2式に加えE1・E3式、連弧文では2・

3式が出土し、1層では勝坂1～2式、曾利Ⅱ～Ⅲ式、加曾利E1・2式、連弧文2式が出土している。勝坂式では上層程古い土器が検出される逆転現象を起こし、加曾利E式を含め他の型式でも古い段階の土器と新しい段階の土器が前後して出土している。この加曾利E1式を含め、編年に沿わない土器は174号住居に由来するものではなく、他住居の覆土の混入など人的な行為を伴うものであったのかもしれない。勝坂式に関しても、174号住居跡は176号住居跡・178号住居跡・179号住居跡・181号住居跡を切っているため、それらの住居から混入した場合、あるいは覆土に受けた攪乱の影響も考えられる。

また、174号住居の土屋根と考えらる4層において、174号住居の廃絶時期を考えた場合に4層中の土器と床直の土器に大きな時期差が見られない。このことから、土屋根が崩落するまでにそれほど長い時間が経過していない可能性が考えられる。一方で、Michael Deal, Melissa B. Hagstrum の「Ceramic Reuse Behavior among the Maya and Wanka Implications for Archaeology」によると、民族事例として藁葺き屋根の漏水を防ぐため、割れた土器を屋根の上にのせるという土器の再利用方法が指摘されている<sup>1)</sup>。このような住居の場合では、住居が廃絶した時に上層の土器が床面の土器と同時期、あるいは古い段階になる可能性がある。

今回の174号住居跡で見られた編年に沿わない土器の出土状態は今後の調査・研究の進展とともに引き続き検討を深めていく必要がある。



第225図 174号住居跡セクション模式図

- 1) 直接的に民族事例イコール考古学的事実とはならないが、現象面を情報化するための観察視点の補助になり得ると考えられる。



## 参考文献

- 今福理恵 2008「勝坂式土器」『総覧 縄文土器』小林達雄
- 神奈川考古同人会 1980『縄文時代中期後半の諸問題 - とくに加曾利E式と曾利式土器との関係について - 土器資料集成図集』神奈川考古 10号 神奈川考古同人会
- 神奈川考古同人会 1980「神奈川県における縄文時代中期後半土器編年試案 第2版」『縄文時代中期後半の諸問題 - とくに加曾利E式と曾利式土器との関係について - 土器資料集成図集』神奈川考古 10号 神奈川考古同人会
- 金子直行 1996「加曾利E式土器」『日本土器事典』大川清・鈴木公雄・工業普通
- 加納 実 2008「堀之内式土器」『総覧 縄文土器』小林達雄
- 黒尾和久 1995「縄文中期集落遺跡の基礎的検討(1)」『論集宇津木台』第1集 宇津木台地区考古学研究会
- 小林達雄 1965「(3) 遺物埋没状態及びそれに派生する問題(土器破壊処分の問題)」『米島貝塚』庄和町文化財調査報告第1集
- 佐々木保俊・関根正明・上田寛・内野美津江・宮川幸佳 2001「第3章 西原大塚遺跡第43地点の調査」『志木市遺跡群 11』志木市の文化財第30集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2000『西原大塚遺跡第45地点発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第6集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 埼玉県志木市遺跡調査会 2009『西原大塚遺跡Ⅰ 西原特定土地地区画整理事業に伴う発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第13集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 埼玉県志木市遺跡調査会 2009『西原大塚遺跡Ⅱ 西原特定土地地区画整理事業に伴う発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第13集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 縄文集落研究グループ・セツルメント研究会 2004『縄文集落研究の新地平3-勝坂から曾利へ-発表要旨』縄文集落研究グループ・セツルメント研究会
- 縄文集落研究グループ・セツルメント研究会 2004『縄文集落研究の新地平3-勝坂から曾利へ-資料集』縄文集落研究グループ・セツルメント研究会
- 中島庄一 2008「称名寺式土器」『総覧 縄文土器』小林達雄
- 永瀬史人 2008「連弧文土器」『総覧 縄文土器』小林達雄
- 中山真治 2005「縄文時代中期の彩色された浅鉢についての覚え書き - 関東地方西南部の中期集落資料を中心に -」『東京考古』23号 東京考古談話会
- 細田 勝 1996「阿玉台式土器」『日本土器事典』大川清・鈴木公雄・工業普通
- Michael Deal・Melissa B.Hagstrum 1995「Ceramic Reuse Behavior among Maya and Wanka Implications for Archaeology」『Expanding Archaeology』University of Utah Press
- 山形真理子 1996「曾利式土器の研究 - 内的展開と外的交渉の歴史 - (上)」『東京大学考古学研究室紀要』14
- 山形真理子 1997「曾利式土器の研究 - 内的展開と外的交渉の歴史 - (下)」『東京大学考古学研究室紀要』15



[付 編]

# 自然科学分析



# 付編 西原大塚遺跡 174 ①地点 174 号住居跡出土骨の同定

パリオ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

西原大塚遺跡（埼玉県志木市幸町に所在）は、柳瀬川を北西に臨む台地上に位置し、これまでの調査により旧石器時代～奈良・平安時代にかけての集落跡として知られている。今回の調査地点は西原大塚遺跡のほぼ中央部に位置し、173 次及ぶ調査で明らかになってきた環状集落の範囲とされている。今回、縄文時代中期とされる大型住居内炉から出土した埋裏内に認められた骨片について検討した。

## 1. 試料

試料は、174 号住居 2 号炉の埋裏内 No.1 として一括された微小、微細な骨片数十片であり、土壌中に骨片が混じる状態にあった。174 号住居跡は、平面楕円形を呈し、内部に 2 基の炉（1 号炉・2 号炉）が検出された。この内、2 号炉は、楕円形を呈する埋裏炉で、深鉢形土器の上半部が埋設されている。

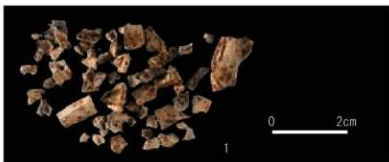
## 2. 分析方法

土壌が乾燥している状態であり、骨が極めて脆いため水洗すると消失する可能性があった。そこで、乾燥した状態のままて試料を 2 mm の篩にかけ、篩上に残った中から骨片を抽出した。抽出した骨片を肉眼および実体顕微鏡にて観察し、種類を同定する。

## 3. 結果および考察

分析試料からは、微細な骨片 61 片、および残渣 17.72 g である。微細な破片が多く、関節部など種類を特定するのに特徴的な部位がみられない。ただし、緻密質の厚さなどからみて哺乳類に由来する可能性がある。縄文時代においては、ニホンジカやイノシシなどが狩猟され、遺跡内から出土する事例が多い。本遺跡も同様であった可能性がある。

また、骨片は、白色～灰白色を呈し、表面にひび割れが生じ、海绵質が粉状になる等、焼骨の特徴を示す。このことから、食料残渣などが廃棄され、骨の状態では焼かれたものと思われる。埋裏炉が廃絶された後、周辺に破棄された焼骨が土壌とともに入り込んだか、意図的に入れられたことなどが考えられる。



出土骨【種類不明焼骨（174 号住居跡：2 号炉埋裏内 No. 1）】



## 報告書抄録

ふりがな	にしほらおおつつかいせきだい174①ちてんまいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ							
書名	西原大塚遺跡第174①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書							
副書名								
シリーズ名	志木市の文化財	巻次	第55集					
編著者	徳留彰紀 尾形剛敏 藤波啓啓 松木綾子							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号 TEL 048 (473) 1111							
発行年月日	平成25 (2013) 年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しほらおおつつか 西原大塚遺跡 (第174①地点)	しほらおおつつか 志木市 幸町 3丁目7204-3の 一部	11228	09-007	35° 82' 50"	139° 56' 23"	20111019 ～ 20120113	627.54	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
しほらおおつつか 西原大塚遺跡 (第174①地点)	集落	縄文時代中期  弥生時代後期から 古墳時代前期	住居跡 10軒 土坑 44基 ピット 87基 炉跡 2基 住居跡 4軒	勝坂式土器、加 曾利 E 1・2 式 土器、石器  壺形土器、甕形 土器・高杯形土 器・金属製品				
要約	<p>西原大塚遺跡は志木市の南西端にあたる幸町3丁目を中心に広がる市域最大規模の遺跡である。柳瀬川を北西に望む台地上に位置し、189地点に及ぶ調査により旧石器時代から縄文、弥生、古墳、奈良・平安時代にかけての集落遺跡として知られている。</p> <p>今回の調査地点は西原大塚遺跡のほぼ中央に位置し、環状集落の範囲にあたる。検出された遺構・遺物は174号住居跡を中心に縄文時代中期の勝坂式～加曾利E式が主体となる。また、調査範囲の西側には弥生時代後期から古墳時代前期の住居が4軒検出されている。</p>							

志木市の文化財 第55集

## 西原大塚遺跡第174①地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 埼玉県志木市教育委員会  
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号

発行日 平成25(2013)年3月31日

印刷 能登印刷株式会社